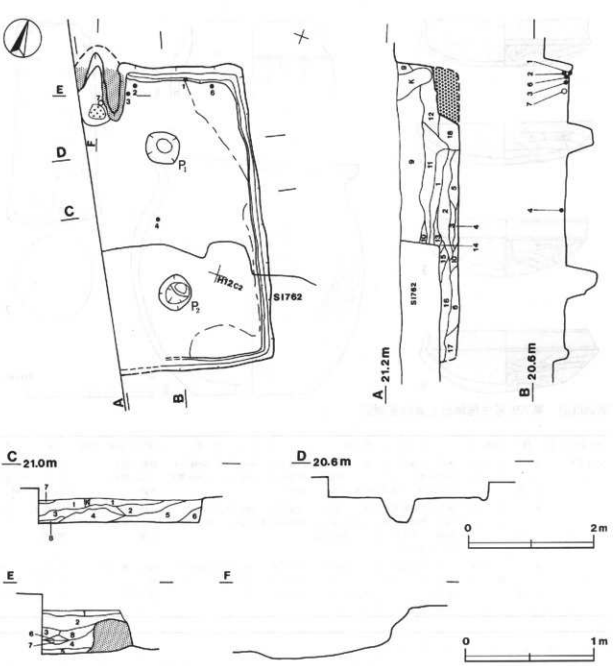
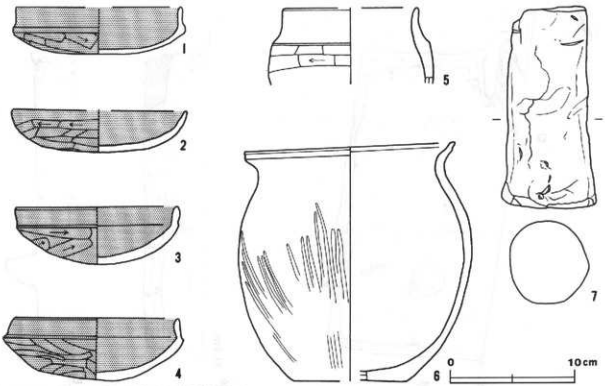


第202図　第735号住居跡実測図

第735号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第203図 1	坏 土師器	A [13.2] B 3.6	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・礫 にぶい橙色 普通	P110010 40% 竈東側床面
2	坏 土師器	A [13.8] B 3.3	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、不明瞭な稜を持ち、口縁部にいたる。	口縁部内・外面、体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P110011 45% PL65 竈東側床面
3	坏 土師器	A 12.8 B 4.6	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面丁寧なナデ、外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・礫・雲母・長石・石英 にぶい橙色 良好 二次焼成	P110012 75% PL65 竈東側床面



第203図　第735号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第203図 4	坏 土師器	A 12.9 B 5.0	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P110013 80% P L.65 中央部東寄り覆土下層
5	甕 土師器	A [10.8] B (6.1)	体部から口縁部にかけての破片。小形。体部は内彎して立ち上がり，頸部との境で段を成す。口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面横方向のヘラ削り。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P110014 10% P L.66 覆土中
6	甕 土師器	A 15.8 B 19.0 C [9.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれる。口縁部は外反し，端部は軽くつまみ上げられている。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面上半部ヘラナデ，下半部縦方向のヘラ磨き。	砂粒・礫・長石・雲母 鈍い褐色 普通	P110015 60% P L.66 北コーナー部床面

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		径 (cm)	長さ(cm)	重量(g)		
第203図7	土製支脚	16.2	5.0～7.5	755.4	竈内覆土下層	D P11002　P L.104

第751号住居跡（第204図）

位置　調査11区の中央部，H12b3区。

重複関係　北コーナー付近を第752号住居に掘り込まれている。

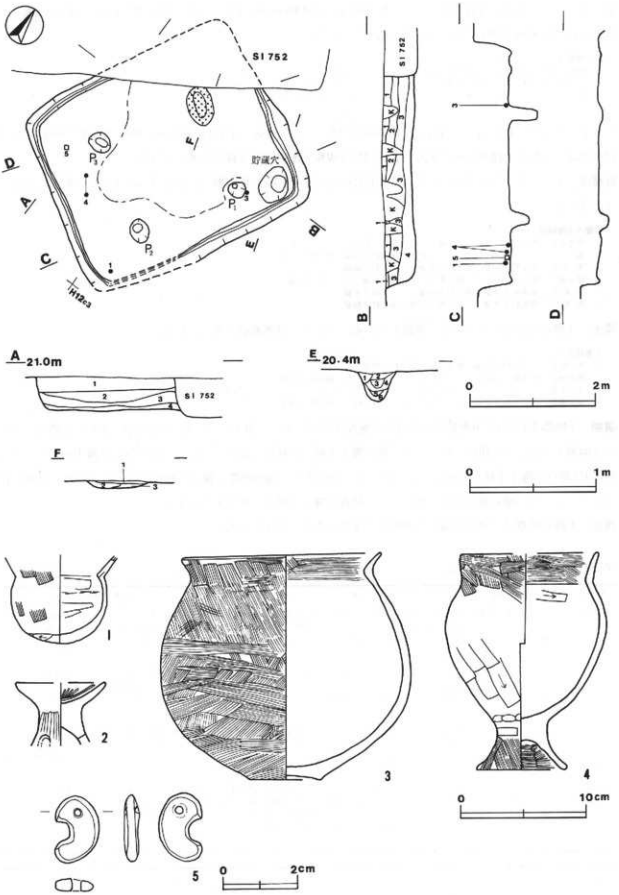
規模と平面形　長軸3.90m，短軸3.40mの長方形である。

主軸方向　N－30°－E

壁　壁高は約50cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　第752号住居に掘り込まれている部分を除き，巡っている。上幅10～15cm，下幅5～10cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，中央付近が踏み固められている。



第204図　第751号住居跡・出土遺物実測図

炉　北コーナー付近に付設されている。長径65cm，短径40cmの楕円形である。中央部は床面から約10cm掘りくぼめられ，炉床面は焼土の大ブロックが広がっている。

炉土層解説
1　極暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子多量，焼土小ブロック中量，焼土中ブロック少量
2　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土中ブロック中量，ローム粒子・焼土小ブロック多量
3　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・炭化粒子中量，焼土粒子少量

ピット　3か所（P1～P3）。P1は径約25cmの円形で，深さ49cm，P2は径約30cmの円形で，深さ30cm，P3は径約40cmの円形で，深さ16cmである。P1～P3は規模と配置から主柱穴と考えられる。

貯蔵穴　東コーナー部に設けられている。長径60cm，短径45cmの楕円形で，深さは51cmである。断面は逆台形をしている。

貯蔵穴土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量
2　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子中量，焼土粒子少量
3　黒 褐 色　炭化粒子中量，焼土粒子少量，ローム粒子微量
4　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量
5　黒 褐 色　炭化粒子多量，焼土粒子中量，ローム粒子少量
6　暗 褐 色　炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量

覆土　4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　極暗褐色　焼土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
3　黒 褐 色　ローム小ブロック・粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　極暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　土師器片136点，須恵器片2点及び石製品1点（勾玉）が出土している。第204図に示した土器はいずれも土師器である。1の坩は，南コーナー部の覆土下層から横位で出土している。2の器台は覆土中から，3の甕はP1地点の覆土下層から出土している。4の台付甕は，南西壁際の覆土下層から土圧でつぶれた状態で出土している。5の滑石製勾玉は，西コーナー付近の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して4世紀前半と考えられる。

第751号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第204図 1	坩 土師器	B（7.0）	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，頸部は「く」の字状に屈曲し，口縁部は外傾する。	口縁部内面ヘラナデ，外面ハケ目調整。体部内面ヘラナデ，外面ハケ目調整。底部ヘラ削り。	砂粒 にぶい橙色 普通	P110017　45% P L 66 南コーナー部覆土下層
2	器台 土師器	A［7.2］ B（5.0）	脚部から器受部にかけての破片。器受部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。脚部には3孔が穿たれている。	器受部内面縦なヘラ磨き，外面ナデ。脚部外面縦方向の雑なヘラ磨き。	砂粒・長石 にぶい赤褐色 普通	P110018　60% P L 66 覆土中
3	甕 上師器	A　15.8 B　18.2 C　5.6	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部は「く」の字状に屈曲し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面ハケ目調整。体部内面ナデ，外面ハケ目調整。	砂粒・雲 にぶい橙色 普通	P110020　80% P L 66 P1地点覆土下層
4	台付甕 土師器	A［11.0］ B　17.1 D　7.2 E　3.5	体部・口縁部一部欠損。小形。脚台部は「ハ」の字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。頸部は「く」の字状に屈曲し，口縁部は外傾する。	口縁部内面，口縁部から頸部外面ハケ目調整。体部内面ヘラナデ，外面ヘラ削り後，ヘラナデ。脚台部内・外面ハケ目調整。	砂粒・雲 にぶい橙色 普通	P110019　70% P L 66 南西壁際覆土下層

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(mm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第204図5	勾玉	1.8	1.2	0.3	0.2	0.95	滑石	西コーナー付近覆土下層	Q11001　P L 105

第752号住居跡（第205図）

位置　調査11区の中央部，H12a2区。

重複関係　第751・778号住居跡を掘り込み，第765号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸6.10m，短軸4.90mの長方形である。

主軸方向　N－43°－W

壁　壁高は約70cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅15～20cm，下幅10～15cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，壁際を除き踏み固められている。特に，南東壁中央部下の出入り口施設に伴うと思われるピットの北側は高まりを成し，著しく硬化している。

竈　北西壁中央部を壁外へ30cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。第765号住居跡との重複により遺存状態は良くないが，袖部が明確に確認できる。焚口部から煙道部までは残っている部分で85cm，両袖部幅は90cmである。火床部は床面よりわずかに高く，焼土粒子が確認できる程度である。煙道はほぼ垂直に立ち上がる。

竈土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
2　にぶい褐色　砂粒多量，ローム粒子少量
3　黒　褐　色　ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　焼土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ローム大ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
6　暗　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　極暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子微量
9　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量

ピット　3か所（P1～P3）。P1及びP2は中央からそれぞれ北東壁寄り，南西壁寄りに位置している。P1は径約60cmの円形で，深さ90cm，P2は径約50cmの円形で，深さ74cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。P3は長径30cm，短径25cmの楕円形，深さ31cmで，位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　西コーナー付近に設けられている。長径90cm，短径80cmの楕円形で，深さは56cmである。底部は平坦で，立ち上がりはほぼ垂直である。

貯蔵穴土層解説
1　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・砂粒少量，焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量
3　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック微量
4　暗褐色　ローム大ブロック・粒子少量，ローム小ブロック微量

覆土　6層からなる。各層にロームブロックが比較的多く含まれていることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
3　にぶい褐色　砂粒多量，ローム粒子少量
4　暗　褐　色　焼土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
5　にぶい褐色　ローム中・小ブロック少量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

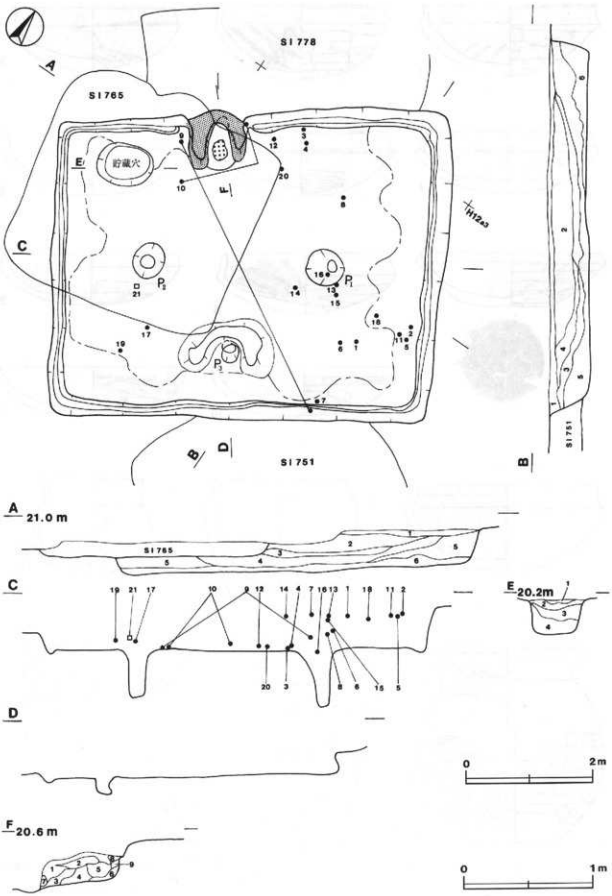
遺物　土師器片697点及び須恵器片26点及び石器1点（砥石）が出土している。第206・207図に示した土器はいずれも土師器である。1・2の坏は東コーナー付近の覆土上層から出土している。3・4の坏は竈北側の覆土下層から，5～7・11の坏は東コーナー付近の覆土上層から，いずれも正位で出土している。8の坏は北コーナー寄りの覆土下層から，9の坏は竈南袖外側から出土したものと南東壁際床面から出土したものとが接合している。10の坏は竈付近出土の2片が接合している。12の坏は竈北袖外側の覆土下層から出土している。13の鉢，14の小形壺，15の甕は東コーナー付近の覆土上層から，16の甕は東コーナー付近の覆土下層から出土して

いる。17・19の甕は南コーナー付近の覆土下層から出土している。18の甕は東コーナー付近の覆土中層から出土している。20のミニチュア土器は，竈手前の床面から横位で出土している。21の砥石は，P2付近の覆土下層から出土している。東コーナー付近の覆土上層から出土している土器は，一括投棄されたものと考えられる。

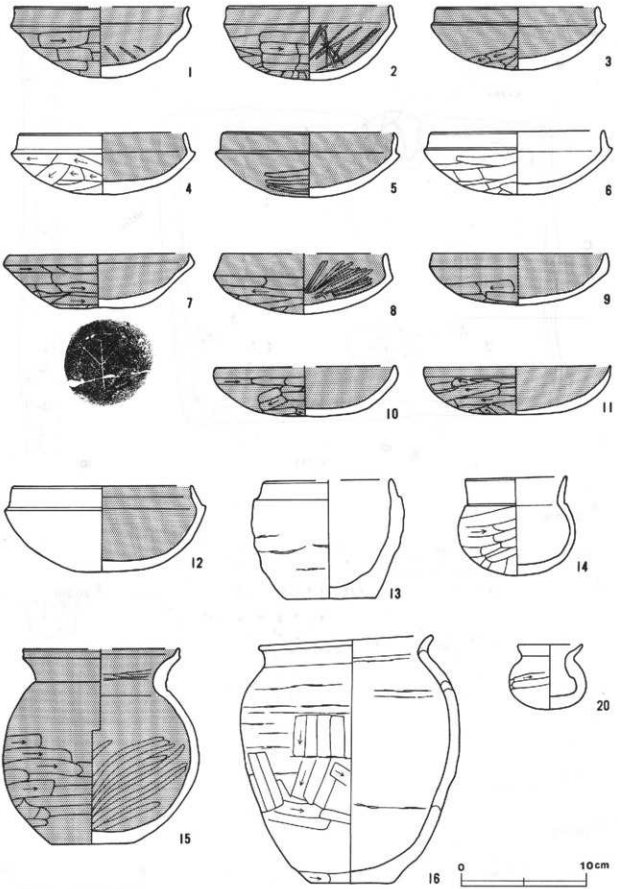
所見　本跡の時期は，出土土器から判断して6世紀後半と考えられる。

第752号住居跡出土遺物観察表

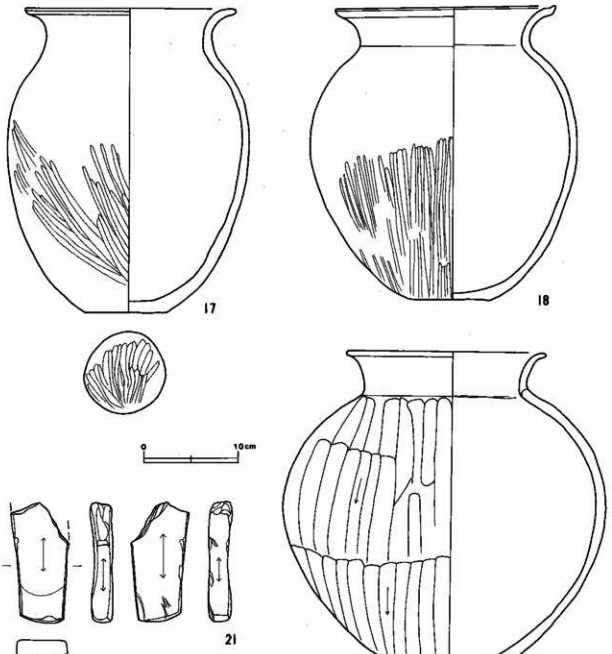
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第206図 1	坏 土師器	A [13.8] B 10.0	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は外反する。器高が高い。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	P110021　90% P L 66　東コーナー 付近覆土上層
2	坏 土師器	A 13.0 B 5.9	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面横ナデ後，雑なヘラ磨き，外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	P110022　95% P L 66　東コーナー 付近覆土上層
3	坏 土師器	A 12.8 B 4.9	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	P110023　95% P L 66 竈北側覆土下層
4	坏 土師器	A 13.0 B 4.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面上半部横ナデ，下半部ヘラナデ，外面ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・礫 にぶい橙色 普通	P110024　90% P L 66 竈北側覆土下層
5	坏 土師器	A 13.4 B 5.1	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，丁寧なヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 にぶい黄橙色 普通	P110025　80% P L 66　東コーナー 付近覆土上層
6	坏 土師器	A 13.6 B 5.0	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	砂粒 にぶい橙色 良好	P110026　90% P L 66　東コーナー 付近覆土上層
7	坏 土師器	A 14.4 B 4.3 C 6.2	完形。平底。体部は外傾して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は短く内傾する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。底部内面ナデ，外面ヘラ削り。丁寧な調整。内・外面黒色処理。	砂粒 にぶい褐色 普通	P110027　100% P L 66　東コーナー 付近覆土上層
8	坏 土師器	A [13.0] B 4.9	体部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面雑なヘラ磨き，外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P110028　60% 北コーナー寄り覆土下層
9	坏 土師器	A 13.8 B 4.1	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は短く厚く，わずかに内彎する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面上半部横ナデ，下半部ナデ，外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	P110029　60% P L 66　竈西側床面と南東壁際床面
10	坏 土師器	A [14.4] B 3.8	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持ち，口縁部にいたる。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒 灰褐色 普通	P110030　60% P L 66　竈付近の床面と覆土下層
11	坏 土師器	A 14.8 B 3.8	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持ち，口縁部にいたる。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。作り丁寧。	砂粒 にぶい橙色 普通	P110031　80% P L 66　東コーナー 付近覆土上層
12	坏 土師器	A 14.0 B 6.8	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。比較的器高が高い。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面黒色処理。	砂粒・白色粒子 にぶい赤橙色 普通	P110032　60% P L 66 竈北袖外側覆土下層
13	鉢 土師器	A [10.2] B 9.4 C 7.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，頸部との境で段を成す。口縁部は内傾する。比較的厚手。	口縁部内・外面ナデ。体部内面丁寧なナデ，外面雑なナデ。体部外面に輪積み痕。	砂粒 にぶい橙色 普通	P110033　45% P L 67　東コーナー 付近覆土上層
14	小形壺 土師器	A 8.0 B 7.7	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，頸部との境で段を成す。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後，ナデ。	砂粒 橙色 普通	P110034　80% P L 67　東コーナー 付近覆土上層



第205図　第752号住居跡実測図



第206図　第752号住居跡出土遺物実測図（1）



第207図　第752号住居跡出土遺物実測図（2）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第206図 15	甕 土師器	A [12.3] B 15.5 C 6.2	底部から口縁部にかけての破片。小形。平底。体部はほぼ球形で，頸部との境で段を成す。口縁部は外反し，肩部は，わずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒 にぶい褐色 普通	P 110035　70% P L67　東コーナー 付近覆土上層
16	甕 土師器	A 13.8 B 18.9 C 6.4	完形。小形。平底。体部は内湾して立ち上がり，頸部でくびれる。口縁部は小さく外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。体部内・外面に輪積み痕。	砂粒・長石・石英 橙色 普通	P 110036　100% P L67　東コーナー 付近覆土下層
第207図 17	甕 土師器	A 22.0 B 31.7 C 8.4	体部一部欠損。平底。体部は内湾して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面縦方向のヘラ磨き。底部外面ヘラ磨き。	砂粒・雲母・長石 にぶい黄橙色 普通	P 110037　60% P L67　南コーナー 付近覆土下層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第207図 18	甕 土師器	A 23.2 B 30.5 C 8.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面縦方向のヘラ磨き。	砂粒・雲母・長石 にぶい赤褐色 普通	P110038 40% P L67 東コーナー付近覆土中層
19	甕 土師器	A 23.2 B 30.5 C 8.0	体部・口縁部一部欠損。平底。体部はほぼ球形で，頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面縦方向のヘラ削り後，ナデ。	雲母・長石・石英 橙色 普通	P110039 75% P L67 南コーナー付近覆土下層
第208図 20	ミニチュア土器 土師器	A 5.0 B 5.1	壺形。口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，頸部は「く」の字状で，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面ヘラ削り後，ナデ。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P110040 90% P L67 竈予前床面

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第207図21	砥石	(9.5)	(4.2)	1.4	(107.3)	凝灰岩	P2付近覆土下層	Q11002 P L106

第758号住居跡（第208図）

位置　調査11区の中央部，G12i3区。

重複関係　第755・756・759・760号住居及び第30号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸7.50m，短軸7.10mの方形である。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は35～50cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅約20cm，下幅約10cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，コーナー部及び壁際を除き踏み固められている。壁際に焼土や炭化材が散在している。

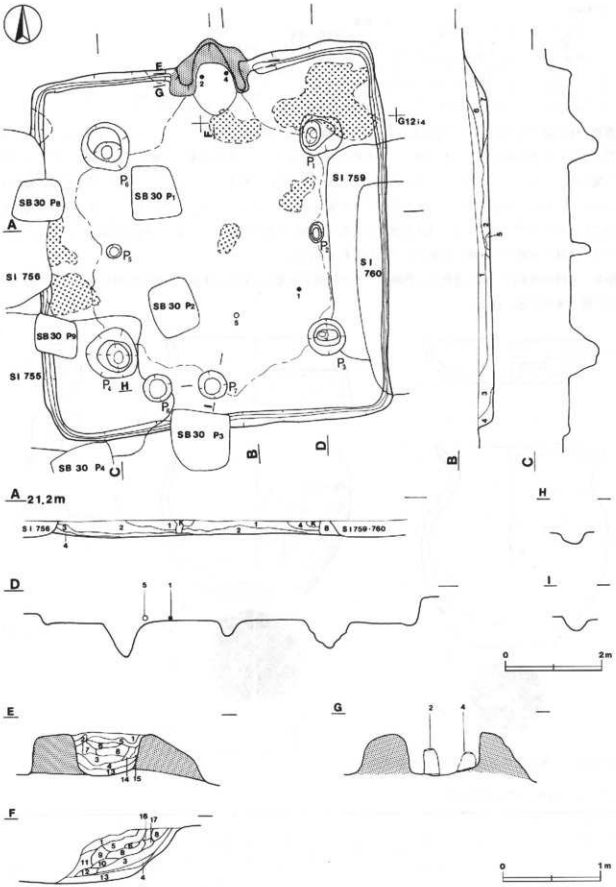
竈　北壁中央部を壁外へ70cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは160cm，両袖部幅は165cmである。天井部は崩落しており，第3・4層がその崩落土と思われる。袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面とほぼ同じ高さで，焼土の中・小ブロックが約20cm堆積している。火床面は，径約70cmの円形に焼土ブロック化している。煙道は，比較的緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1	黒褐色	炭化粒子多量，ローム粒子・焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量
2	赤褐色	粘土粒子多量，焼土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物少量，炭化粒子微量
3	赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子多量，焼土中ブロック中量，炭化物・炭化粒子・砂粒少量
4	にぶい赤褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量
5	にぶい褐色	焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
6	にぶい褐色	ローム小ブロック・粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
7	にぶい褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・粘土小ブロック・砂粒少量
8	にぶい褐色	粘土粒子多量，砂粒中量，ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量
9	褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
10	褐色	ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
11	褐色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
12	赤褐色	焼土粒子多量，ローム粒子・焼土大ブロック・焼土中ブロック中量，粘土粒子・砂粒少量
13	暗赤褐色	炭化粒子多量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・炭化物・砂粒少量
14	暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量，焼土中ブロック・炭化物少量
15	暗赤褐色	焼土小ブロック多量，焼土粒子中量
16	にぶい褐色	粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子中量，砂粒少量
17	にぶい赤褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量

ピット　8か所（P1～P8）。P1・P3・P4及びP6は各コーナー付近に位置し，径80～100cmの円形で，深さは54～70cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。P2及びP5はそれぞれ東壁際中央部と西壁際中央部に位置し，P2は長径45cm，短径35cmの楕円形で深さ37cm，P5は径約30cmの円形で，深さは46cmである。P2及びP5は主柱穴に比べ掘り方が小規模であることから，補助柱穴と考えられる。P7及びP8は，径約55cmの円形で，深さがそれぞれ31cmと38cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　8層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

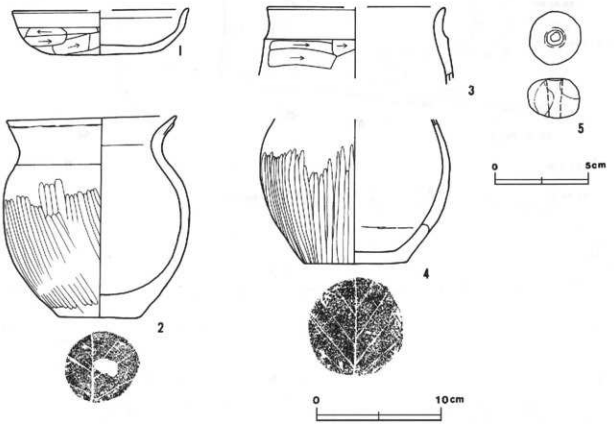


第208図　第758号住居跡実測図

土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量，炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子・炭化物少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
5　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土大ブロック・中ブロック・小ブロック中量，ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量
6　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
7　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
8　褐　色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子・炭化材・炭化物少量

遺物　土師器片1,542点及び須恵器片167点及び土製品1点（球状土錘）が出土している。第209図に示した土器はいずれも土師器である。1の坏は，中央部のやや南東コーナー寄りの覆土下層から出土している。3の甕は覆土中から出土している。2・4の小形甕は，竈内から逆位で出土している。この二つの小形甕は，竈正面からみて左右対に出土していて，体部外面が二次焼成を受けていることから，掛け口を二つ持つ竈の支脚に転用されたものと思われる。5の球状土錘は中央部の床面から出土している。覆土上層から出土した多くの土器片は，本跡が廃絶された後に投棄されたものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土遺物から判断して6世紀後半と考えられる。床面から焼土や炭化材が出土することから焼失家屋と思われる。



第209図　第758号住居跡出土遺物実測図

第758号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第209図 1	坏 土師器	A [14.0] B 3.4 C 8.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持ち，口縁部にいたる。	口縁部内・外面，体部内面ナデ。体部外面ヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	砂粒・長石・礫にぶい赤褐色 良好	P110062　60% PL68　南東コーナー寄りの床面
2	甕 土師器	A 13.6 B 15.2 C 6.4	体部一部欠損。小形。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部から口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面ナデ。体部内面ナデ，外面縦方向のヘラ磨き。底部木葉痕。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P110063　100% PL68 竈内

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第209図 3	甕 土師器	A [14.0] B (6.2)	体部から口縁部にかけての破片。小形。体部は内彎して立ち上がり，頸部との境で段を成す。口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面ヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 石英 にぶい黄橙色 普通	P110064 10% 覆土中
4	甕 土師器	B (11.6) C 8.1	底部から体部にかけての破片。小形。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内面ヘラナデ，体部外面縦方向のヘラ磨き。底部木葉痕。体部内面に輪積み痕が残る。	砂粒・雲母・石英 にぶい橙色 普通	P110128 70% P L68 覆内

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(mm)	重量(g)		
第209図5	球状土錘	2.2	2.1	0.5～0.9	15.7	中央部南壁寄り床面	D P 11005 P L 105

第761号住居跡（第210図）

位置　調査11区の中央部，G11h8区。

重複関係　第764号住居跡を掘り込み，第763号住居及び第４号道路状遺構に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸6.75m，短軸6.55mの方形である。

主軸方向　N－35°－W

壁　壁高は30～60cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

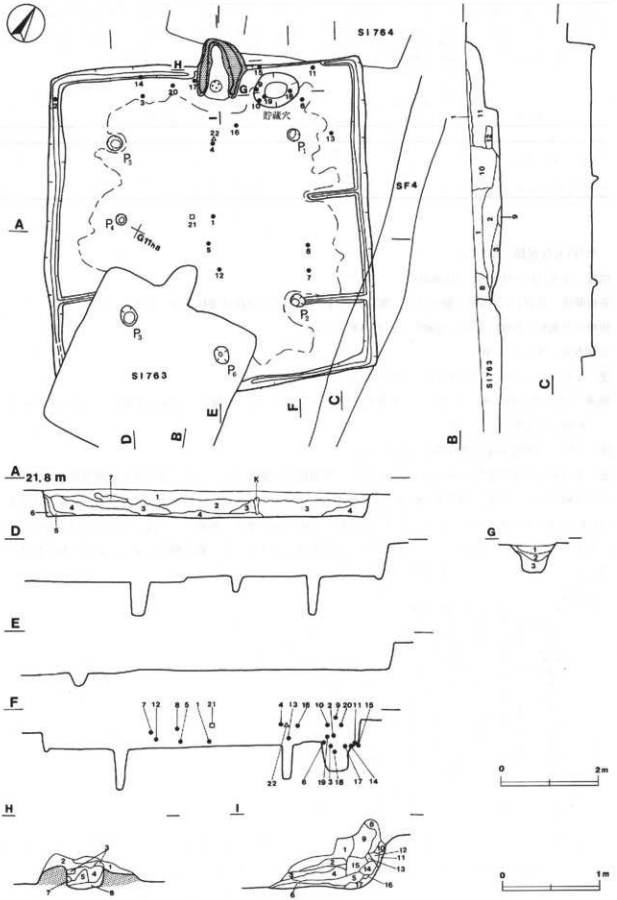
壁溝　第763号住居に掘り込まれている部分を除き，巡っている。上幅15～20cm，下幅10～15cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，壁際を除き踏み固められている。

竈　北西壁中央部を壁外へ60cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは125cm，両袖部幅は90cmである。袖端部は多量の砂を使用し，内面は火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面とほぼ同じ高さで，焼土の大・中ブロック，焼土粒子が約８cmの厚さで堆積している。火床面は径約25cmの円形に焼土の大ブロックが広がっている。煙道は，ほぼ垂直に立ち上がる。竈土層中，第３・４層が粘土粒子を多量に含んでいることから，天井部の崩落土と考えられる。

竈土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・粘土粒子微量
2　暗赤褐色　焼土粒子微量
3　灰褐色　粘土粒子多量，焼土粒子微量
4　暗赤褐色　焼土粒子・粘土粒子中量，焼土小ブロック少量
5　極暗赤褐色　炭化粒子多量，焼土粒子中量，炭化物・粘土粒子微量
6　灰赤褐色　灰中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
7　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
8　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック少量
9　暗赤褐色　焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量，粘土小ブロック少量
10　暗赤褐色　炭化粒子多量，焼土粒子・粘土粒子中量，焼土小ブロック少量
11　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量，砂粒少量
12　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量
13　暗赤褐色　砂粒中量，焼土粒子・粘土粒子少量
14　暗赤褐色　炭化粒子多量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
15　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子中量，粘土粒子・砂粒少量
16　褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
17　赤褐色　焼土小ブロック・粒子多量，焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子中量

ピット　６か所（P1～P6）。P1～P3，P5は各コーナー付近に位置し，径25～30cmの円形で，深さは69～85cmである。P4はP3とP5の中間に位置し，径約25cmの円形で，深さは32cmである。P1～P5は，規模と配置から主柱穴及び補助柱穴と考えられる。P6は南東壁際中央部に位置し，長径40cm，短径30cmの楕円形で，深さは28cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第210図　第761号住居跡実測図

貯蔵穴　竈東側の北西壁寄りに設けられている。長径85cm，短径70cmの楕円形で，深さは60cmである。底部は平坦で，断面は逆台形である。

貯蔵穴土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック・炭化物中量，ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量
2　黒褐色　炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物少量
3　暗褐色　ローム小ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子少量

覆土　12層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

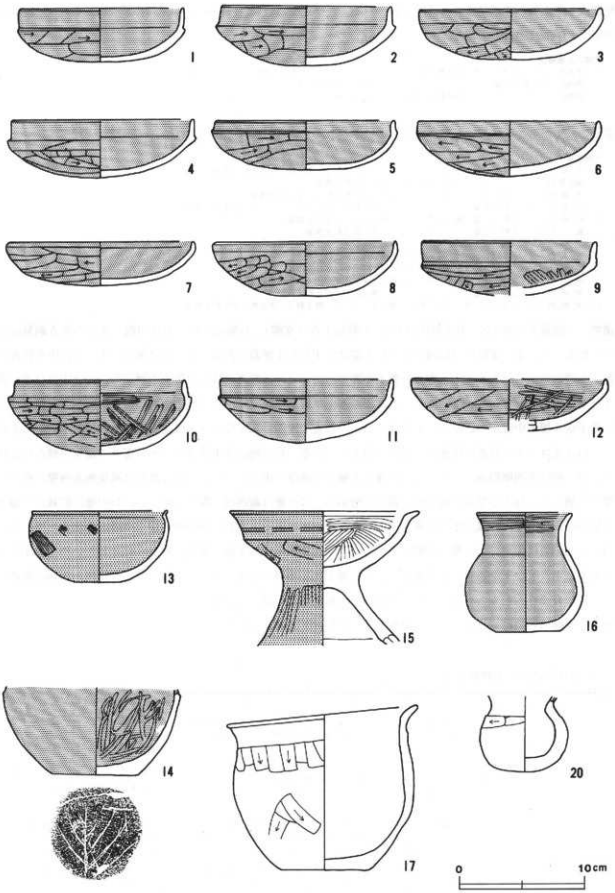
土層解説
1　黒 褐 色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
3　黒 褐 色　ローム中ブロック・小ブロック・粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
5　暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
7　黒 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
9　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，炭化物微量
10　暗 褐 色　ローム中ブロック・小ブロック・粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
11　黒 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
12　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量

遺物　土師器片3,489点，須恵器片114点，土製品1点（支脚），石製品1点（有孔円板）及び不明青銅製品1点が出土している。第211・212図に示した土器はいずれも土師器である。1～12は坏で，1・5は中央付近の覆土下層から，7は東コーナー寄りの覆土中層から，9・10は貯蔵穴付近の覆土中層から，12は中央付近の覆土下層から出土している。2は西コーナー部の覆土下層から正位で，3は竈南西側の覆土下層から正位で，4は竈手前の覆土中層から正位で，6は北コーナー付近の床面から正位で，8は北東壁寄りの覆土中層から正位で，11は北コーナー付近の床面から正位で出土している。13の椀は北東壁北コーナー寄りの覆土下層から正位で，14の椀は北西壁際西コーナー寄りの覆土下層から逆位で出土している。15の高坏は竈東側北西壁に接して覆土下層から，16の小型壺は竈手前の覆土上層から，17の甕は竈西側の覆土下層から，18の甕は貯蔵穴の覆土上層から，19の甕は貯蔵穴地点の覆土下層から，20のミニチュア土器は竈西側の覆土中層から出土している。21の有孔円板は中央付近の覆土中層から，22の不明青銅製品は竈手前の覆土上層から出土している。出土した土器のほとんどは土師器甕の体部細片である。覆土上・中層からまとまって出土した土器片は，本跡が廃絶された後に投棄されたものと思われる。須恵器片は攪乱による混入と思われる。

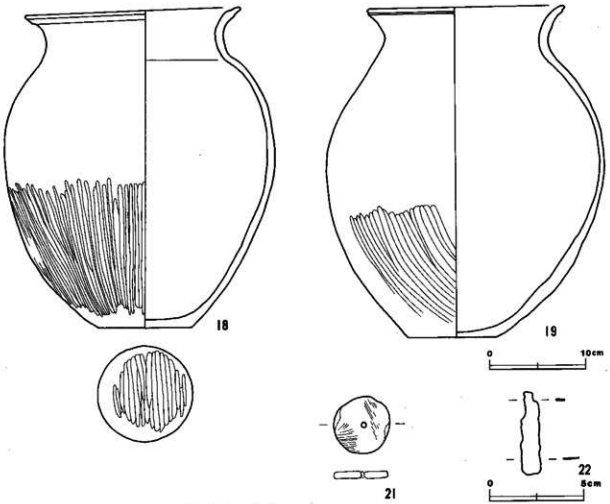
所見　本跡の時期は，出土土器から判断して6世紀後半と考えられる。

第761号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備　考
第211図 1	坏 土 師 器	A 13.1 B 4.2	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P110076　95% P L69 中央付近覆土下層
2	坏 土 師 器	A 13.4 B 4.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通 二次焼成	P110077　90% 西コーナー付近 床面
3	坏 土 師 器	A 14.4 B 4.0	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 灰白色 普通　二次焼成	P110078　95% P L69 竈西側床面
4	坏 土 師 器	A 14.4 B 4.6	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P110079　90% P L69 竈手前覆土中層



第211図　第761号住居跡出土遺物実測図（1）



第212図　第761号住居跡出土遺物実測図（2）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第211図 5	坏 土師器	A 14.4 B 3.9	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい黄橙色 普通	P110080 70% P L69 中央付近覆土下層
6	坏 土師器	A 14.2 B 4.4	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持ち，口縁部にいたる。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい褐色 普通 二次焼成	P110081 80% P L69 竈東側床面
7	坏 土師器	A 14.6 B 4.4	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持ち，口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面多方向のヘラ磨き，外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 にぶい黄橙色 普通 二次焼成	P110082 50% P L69 東コーナー寄り覆土下層
8	坏 土師器	A 14.2 B 4.3	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，小さな稜を持ち，口縁部にいたる。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P110083 60% P L69 北東壁寄り覆土中層
9	坏 土師器	A 13.6 B（4.2）	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面放射状のヘラ磨き，外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 にぶい黄橙色 普通	P110084 55% 貯蔵穴付近覆土中層
10	坏 土師器	A 13.4 B 5.8	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後，丁寧なヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P110085 50% 貯蔵穴付 近覆土上層
11	坏 土師器	A 13.7 B 5.0	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P110086 65% P L69 北コーナー付近床面

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第211図 12	坏 土師器	A [15.4] B (4.0)	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面多方向の誘なへラ磨き，外面ヘラ削り後，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・石英 灰黄褐色 普通　二次焼成	P110087　80% 中央付近覆土下層
13	椀 土師器	A 10.8 B 5.7 C 3.6	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれる。口縁部は小さく，外反する。	口縁部内・外面丁寧なナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ磨き。外面にはハケ目調整痕がわずかに残る。内・外面赤彩。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P110088　60% P L 69 北東壁北コーナー寄り覆土下層
14	椀 土師器	B (6.8) C 6.8	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。比較的厚手。	体部内面雑なヘラ磨き，外面ヘラ削り後，ナデ。底部木葉痕。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P110089　60% P L 69 北西壁際覆土下層
15	高坏 土師器	A 15.0 B (20.5) E (5.4)	脚部一部欠損。脚部は「ハ」の字状に開く。坏部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面多方向のヘラ磨き，外面ヘラ削り後，ナデ。脚部内面ヘラ削り，外面縦方向のヘラ磨き。外面赤彩。	砂粒・長石・礫・白色粒子 にぶい黄橙色 普通	P110090　80% P L 69 敵東壁覆土下層
16	小形壺 土師器	A 7.6 B 9.5 C 5.0	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部で段を成す。口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横方向のヘラ磨き。体部内面ヘラナデ，外面ヘラ削り後，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P110091　90% P L 70 竈手前覆土上層
17	甕 土師器	A 15.2 B 13.0 C 7.0	体部一部欠損。小形。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれる。口縁部は外反し，端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面縦方向のヘラ削り後，ナデ。	砂粒 にぶい褐色 普通	P110092　95% P L 70 竈西側覆土下層
第212図 18	甕 土師器	A 20.2 B 33.4 C 10.0	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部から口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面上半部ヘラ削り後，ナデ，下半部縦方向のヘラ磨き。	砂粒・長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P110093　80% P L 70 貯蔵穴内
19	甕 土師器	A 20.4 B 34.7 C 8.1	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部から口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面上半部ヘラ削り後，ナデ，下半部縦方向のヘラ磨き。	砂粒・長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P110094　70% P L 70　貯蔵穴地点覆土下層
第211図 20	ミニチュア土器 土師器	B (6.0)	壺形。体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれる。	口縁部から頸部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面ヘラ削り後，ナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P110095　80% P L 70 竈西側覆土中層

図版番号	種別	計測値 径(cm)	厚さ(cm)	孔径(mm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第212図21	有孔円板	3.1	0.4	0.2	6.75	滑石	中央付近覆土中層	Q11005　P L 106

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第212図22	不明青銅製品	4.3	0.8	0.1	0.95	竈手前覆土上層	M11005

第764号住居跡（第213図）

位置　調査区の中央部，G11f8区。

重複関係　第754・761号住居，第654・655号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸5.20m，短軸5.00mの方形である。

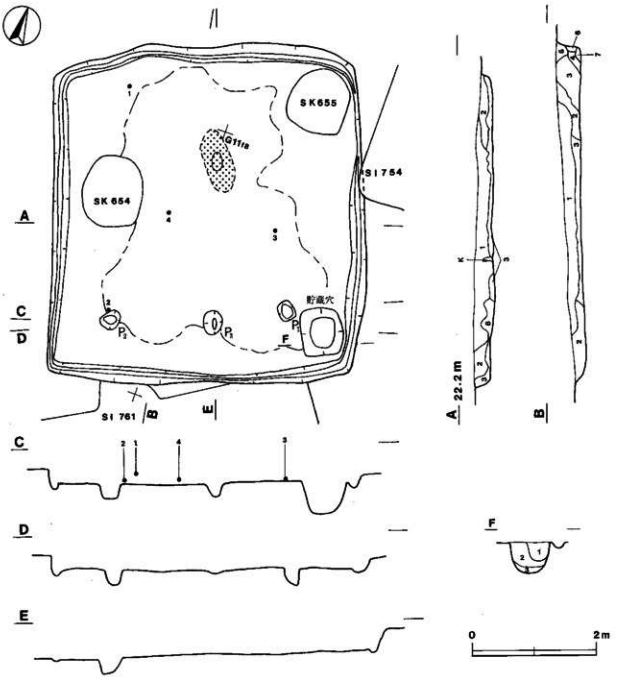
主軸方向　N－18°－W

壁　壁高は10～35cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅10～20cm，下幅5～10cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，壁際を除き踏み固められている。

炉　中央部やや北壁寄りに設けられている。長径100cm，短径45cmの長楕円形に焼土が広がり，中央部はわずかに掘り下げられ，炉床面には硬く締まった焼土の大きなブロックが部分的に確認できた。



第213図　第764号住居跡実測図

ピット　3か所（P1～P3）。P1は南東コーナー付近に位置し，径約25cmの円形で，深さは33cmである。P2は南西コーナー付近に位置し，径約35cmの円形で，深さは23cmである。P1・P2は，規模と配置から主柱穴と考えられる。P3は南壁際中央部に位置し，径約30cmの円形で，深さは25cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　南東コーナー部に設けられている。長軸80cm，短軸70cmの長方形で，深さは50cmである。

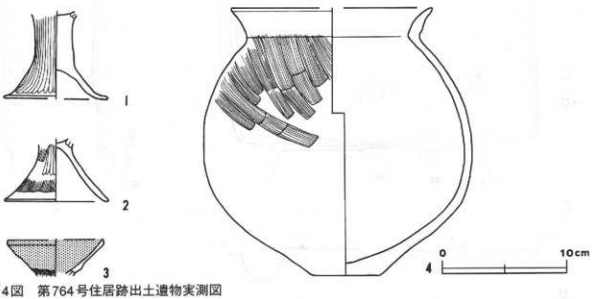
貯蔵穴土層解説
1　褐　色　ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

覆土　8層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　焼土粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック微量
6　褐　色　ローム大ブロック多量
7　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
8　極暗褐色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量

遺物　土師器片20点が出土している。第214図１の高杯脚部は北西コーナー付近の覆土下層から横位で，２の高杯脚部はＰ2地点の覆土下層から，３の器台器受部は中央付近の床面から正位で出土している。４の甕は，中央部の床面から出土した数片が接合したものである。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して４世紀前半と考えられる。



第214図　第764号住居跡出土遺物実測図

第764号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第214図 1	高坏 土師器	B（7.0） D［8.4］	脚部片。脚部はラッパ状に開き，裾部は広がる。	脚部内面横ナデ，外面ハケ目痕を残す縦方向のヘラ磨き。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P110105　50% 北西コーナー付近 覆土下層
2	高坏 土師器	B（7.0） D　8.4	脚部片。脚部は「ハ」の字状に開く。	脚部内面ナデ，外面縦方向のヘラ磨き。内・外面にハケ目痕を残す。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P110106　50% PL70 P2地点覆土下層
3	器台 土師器	A［7.8］ B（2.9）	器受部片。器受部は軽く内彎して立ち上がる。	器受部内・外面横ナデ。脚部との境にハケ目痕が残る。内・外面赤彩。	砂粒・白色粒子 にぶい橙色 普通　二次焼成	P110107　50% 中央付近床面
4	甕 土師器	A［16.0］ B　21.3 C　5.2	底部から口縁部にかけての破片。小形。平底。底部突出気味。体部は球形で，頸部は「く」の字状に屈曲する。口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面ハケ目調整。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	P110108　50% PL70 中央部床面

第766号住居跡（第215図）

位置　調査11区の中央部，G11c8区。

重複関係　第18号地下式壙及び第４号道路状遺構に掘り込まれている。

規模と平面形　一辺８ｍの方形である。北東部が調査区域外へ延びている。

主軸方向　N－20°－W

壁　壁高は20～45cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅約15cm，下幅約５cm，深さ約10cmで，断面はＶ字形をしている。

床　平坦で，壁際を除き踏み固められている。

竈　出土遺物から，北壁に付設されていたと思われるが，調査区域外のため確認できなかった。

ピット　５か所（Ｐ1～Ｐ5）。Ｐ1～Ｐ4は各コーナー付近に位置し，径60～80cmの円形で，深さは48～75cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。また，Ｐ3・Ｐ4からは上幅約25cm，下幅約15cm，深さ約10cmの溝が壁溝まで掘られている。Ｐ5は南壁際中央部に位置し，径約60cmの円形で，深さは30cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　５層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

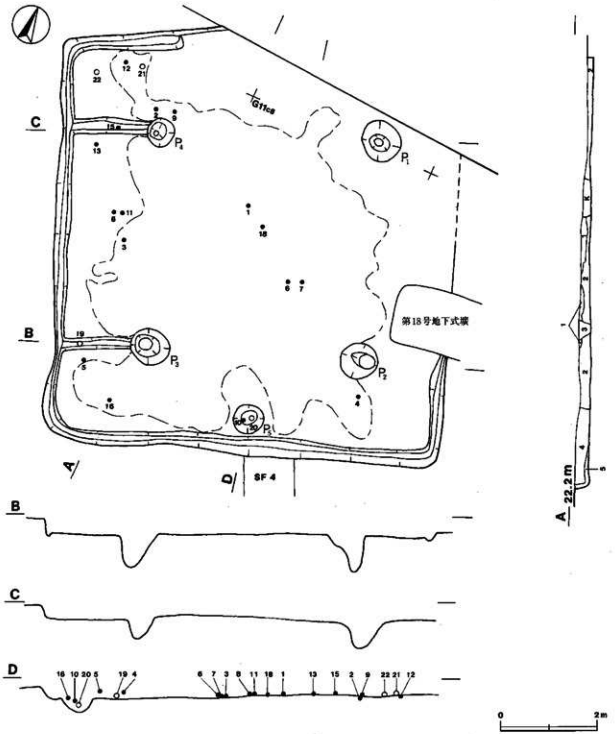
土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
5　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　土師器片1,157点，須恵器片29点及び土製品４点（球状土錘２，支脚２）が出土している。第216・217図に示した土器はいずれも土師器である。１～９は坏で，１は中央付近の床面から正位で，２・３は西壁寄りの床面から正位で，６・７は中央付近の床面から正位で，８は西壁際の覆土下層から正位で，９は北西コーナー付近の床面から正位で出土している。４は南東コーナー付近の覆土下層から，５は南西コーナー付近の覆土下層から出土している。10の椀は，Ｐ5の覆土上層から出土している。11の高坏は，西壁際の床面から正位で出土している。12～16は甕で，12は北西コーナー部の床面から正位で出土している。13は西壁際の床面から出土した数片が接合している。14は覆土中から出土している。15はＰ4と壁溝を結ぶ溝の中から出土している。16は南西コーナー付近の床面から出土している。17の手捏土器は，覆土中から出土している。18のミニチュア土器は，中央付近の床面から正位で出土している。19の球状土錘はＰ3と壁溝を結ぶ溝から，20の球状土錘はＰ5の覆土中から出土している。21・22の土製支脚は，北西コーナー付近の床面から出土している。床面から破損の少ない比較的多くの土器が出土しているが，本跡廃絶時に放棄されたものと考えられる。出土した土器のほとんどは土師器甕の体部細片で，本跡廃絶後に投棄されたものと思われる。須恵器片は攪乱による混入と思われる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して６世紀前半と考えられる。

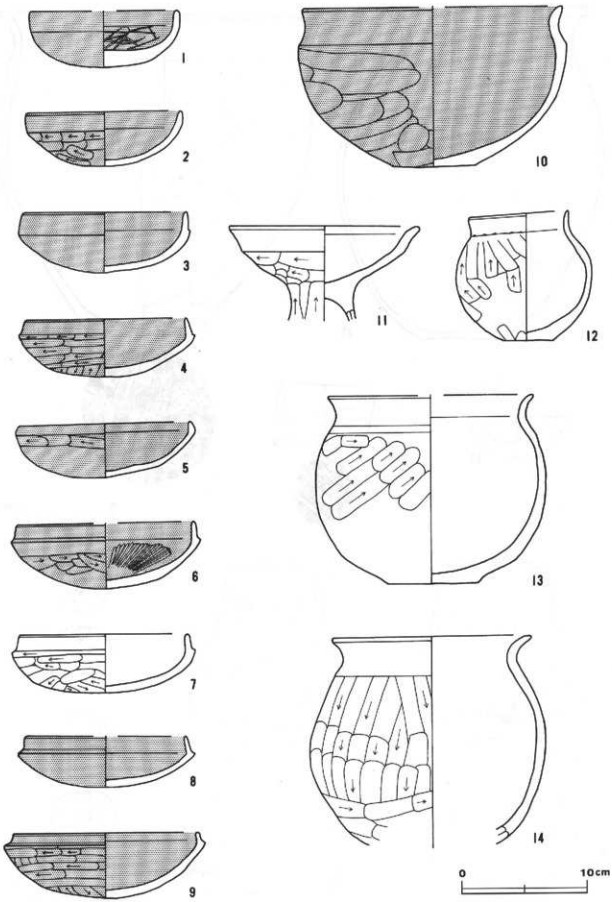
第766号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第216図 1	坏 土師器	A [11.8] B 4.5	底部から口縁部にかけての破片。底部は丸底で厚い。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持ち，口縁部にいたる。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 明褐色 普通	P110110　60% 中央付近床面
2	坏 土師器	A 12.4 B 4.4	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい黄橙色 普通	P110111　98% P L71 西壁寄り床面
3	坏 土師器	A 13.0 B 4.9	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色　普通	P110112　90% P L71 西壁寄り床面
4	坏 土師器	A 12.8 B 4.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持ち，口縁部にいたる。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P110113　70% P L71　南東コーナー付近覆土下層

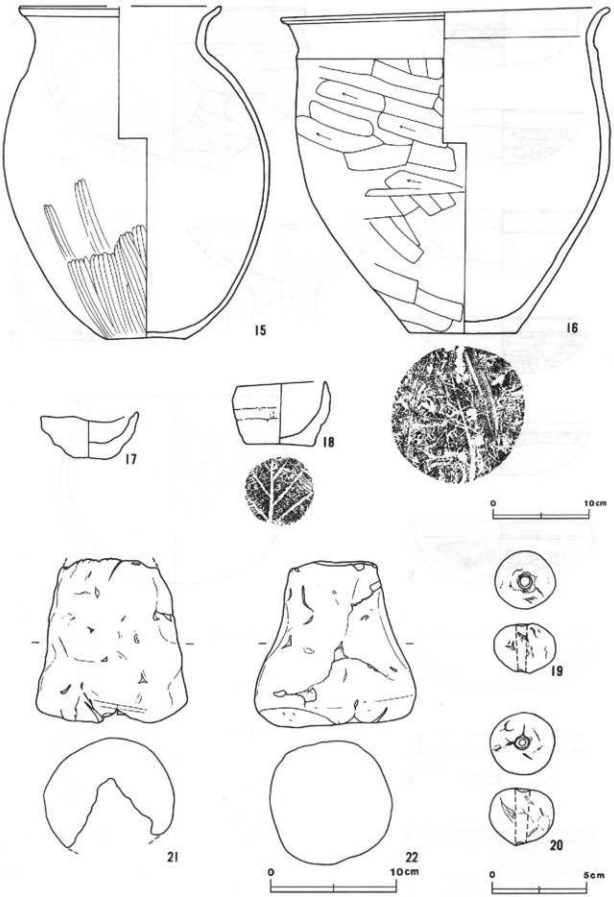


第215図　第766号住居跡実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第216図 5	坏 土師器	A 13.6 B 4.3	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持ち口縁部にいたる。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・礫・白色粒子 にぶい橙色　普通	P110114　80% 南西コーナー付近覆土下層
6	坏 土師器	A [14.1] B 5.3	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面放射状のヘラ磨き，外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・礫 にぶい黄橙色　普通	P110115　50% 中央付近床面
7	坏 土師器	A 13.5 B 4.7	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。丁寧な調整。	砂粒 浅黄橙色 良好	P110116　100% P L.71 中央付近床面



第216図　第766号住居跡出土遺物実測図（1）



第217図　第766号住居跡出土遺物実測図（2）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第216図 8	坏 土師器	A [12.8] B 5.1	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内弯して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面へ？削り後，ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・礫・砂粒 にぶい赤褐色 普通	P110117 50% P L71 西壁際覆土下層
9	坏 土師器	A 14.8 B 5.2	口縁部一部欠損。丸底。体部は内弯して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は小さく，内傾する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面へ？削り後，ヘラナデ。内・外面黒色処理。丁寧な調整。	砂粒・雲母・長石・石英 良好　二次焼成	P110118 90% P L71 北西コーナー付近床面
10	椀 土師器	A 20.4 B 12.7 C 6.6	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内弯して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・石英・礫 にぶい橙色 普通	P110123 50% P L71 P5覆土上層
11	高坏 土師器	A 15.1 B (7.5)	脚部から坏部にかけての破片。坏部は内弯して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。坏部内面ヘラナデ，外面横方向のヘラ削り。脚部外面縦方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英・礫 浅黄橙色 普通	P110119 55% 西壁際床面
12	甕 土師器	A 7.8 B 10.4 C 4.0	完形。小形。平底。体部は内弯して立ち上がり，頸部から口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部と体部の境に輪積み痕が残る。体部内面横方向のヘラナデ，体部外面縦方向のヘラ削り後，ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P110120 100% P L71 北西コーナー部床面
13	甕 土師器	A [16.2] B 15.0 C 7.3	底部から口縁部にかけての破片。小形。平底。体部は球形で，頸部との境で段を成す。口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内面横ナデ。口縁部から頸部外面横ナデ。体部内面広範囲を剥離により調整不明，外面ヘラ削り。	砂粒・雲母・石英・白色粒子 にぶい橙色 普通	P110121 40% 西壁際床面
14	甕 土師器	A 15.7 B (16.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内弯し，頸部から口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，体部外面縦方向のヘラ削り。	砂粒・長石・石英 にぶい橙色 普通	P110122 60% 覆土中
第217図 15	甕 土師器	A [21.0] B 34.9 C 8.8	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内弯して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，体部外面上半部ヘラ削り後，ナデ。下半部縦方向のヘラ磨き。	砂粒・長石・石英 にぶい橙色 普通	P110124 85% P4と竪溝を結ぶ溝中
16	甕 土師器	A 34.2 B 34.3 C 11.2	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内弯して立ち上がり，口縁部との境で段を成す。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面縦方向のヘラ削り後，ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P110125 70% P L71 南西コーナー付近床面
17	手捏土器 土師器	A 7.6 B 3.7 C 3.1	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内弯して立ち上がり，口縁部にいたる。	指頭による雑な調整。	砂粒・長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P110126 80% P L71 覆土中
18	ミニチュア土器 土師器	A 7.2 B 5.2 C 5.4	鉢形。口縁部一部欠損。平底。体部は内弯して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面明瞭な輪積み痕が残る雑なナデ。底部木葉痕。	砂粒・長石 にぶい黄橙色 普通	P110127 95% P L71 中央付近床面

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第217図19	球状土錘	3.2	2.6	0.5～0.7	19.0	P3と竪溝を結ぶ溝中	D P 11007　P L 105
20	球状土錘	3.4	3.1	0.8	25.0	P5覆土中	D P 11008　P L 105
21	土製支脚	8.0～12.1	(13.1)	-	(684.2)	北西コーナー付近床面	D P 11009　P L 104
22	土製支脚	7.0～12.8	13.2	-	1397.2	北西コーナー付近床面	D P 11010　P L 104

第767号住居跡（第218図）

位置　調査11区の中央部，G12i1区。

重複関係　第768号住居跡を掘り込み，第756号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形　一辺4.80mの方形である。

主軸方向　N－0°

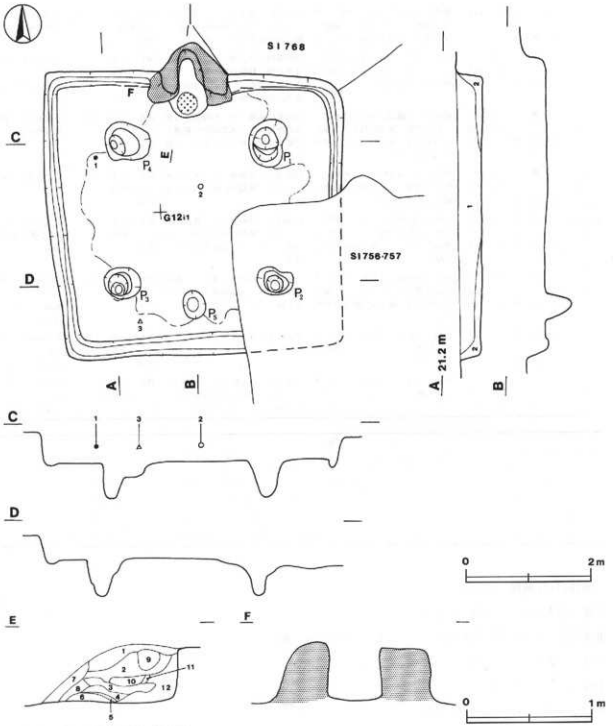
壁　壁高は35～55cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　第756号住居跡と重複している南東コーナー部分を除き，巡っている。上幅15～20cm，下幅10～15cm，

深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，壁際を除き踏み固められている。

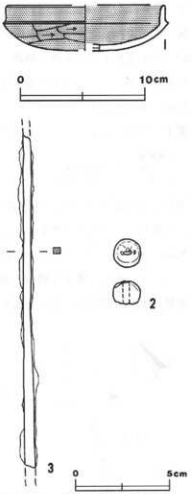
竈　北壁中央部を壁外へ40cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは115cm，両袖部幅は130cmである。袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面とほぼ同じ高さで，焼土の中・小ブロック及び炭化粒子が約5cmの厚さで堆積している。火床面は，径約30cmの円形に焼土のブロックが広がっている。煙道は，ほぼ垂直に立ち上がる。竈土層中，第2・3・8層が粘土粒子や砂粒を多量に含んでいることから，天井部の崩落土と考えられる。



第218図　第767号住居跡実測図

竈土層解説

1 褐　色　粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
2 暗 褐 色　砂粒多量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量
3 暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量
4 暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，焼土中ブロック・焼土小ブロック中量，炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
5 暗 赤 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・砂粒中量，ローム粒子・粘土粒子少量
6 にぶい赤褐色　ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子中量，焼土粒子・砂粒少量
7 暗 赤 褐 色　炭化粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子少量
8 暗 赤 褐 色　砂粒多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量
9 暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量，ローム粒子微量
10 赤　褐　色　焼土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子微量
11 褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
12 褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量



第219図　第767号住居跡出土遺物実測図

ピット　5か所（P1～P5）。P1～P4は各コーナー付近に位置し，長径60～80cm，短径40～60cmの楕円形で，深さは50～59cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は径約40cmの円形で，深さは44cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　2層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒 褐 色　ローム小ブロック・粒子少量
2 極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物　土師器片126点，須恵器片8点，土製品1点（土玉）及び不明鉄製品1点が出土している。第219図1の土師器坏は北西コーナー付近の覆土下層から正位で出土している。2の土玉は中央付近の覆土下層から，3の不明鉄製品は南西コーナー付近の覆土下層から出土している。須恵器片は撹乱による混入と思われる。

所見　本跡の時期は，出土遺物から判断して6世紀後半と考えられる。

第767号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第219図1	坏 土師器	A [13.5] B 3.5	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内弯して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色 普通	P110129　30% P L 71 北西コーナー付近覆土下層

図版番号	種別	計測値 径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第219図2	土玉	1.5	1.3	0.4	2.65	中央付近覆土下層	D P 11011　P L 105

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第219図3	不明鉄製品	(17.6)	0.6	0.3	(13.5)	南西コーナー付近覆土下層	M11007

第768号住居跡（第220図）

位置　調査11区の中央部，G12h1区。

重複関係　第767・769・770・776号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸4.20m，短軸3.70mの長方形である。

主軸方向　N－37°－W

壁　壁高は約30cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　平坦で，壁際を除き踏み固められている。

炉　出土遺物から炉を持つ時期と考えられるが，確認できなかった。

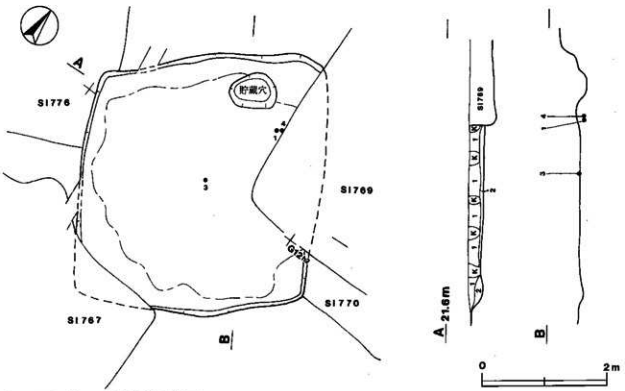
貯蔵穴　北コーナー付近の北西壁際に設けられている。長径75cm，短径55cmの楕円形で，深さは20cmである。断面は逆台形である。

覆土　2層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物　土師器片100点及び須恵器片19点が出土している。須恵器片は甕体部の細片で，重複する第769号住居からの撹乱による混入と思われる。第221図に示した土器はいずれも土師器である。1の坏は北コーナー寄りの床面から出土している。2の坏は覆土中から出土している。3の坩は中央部の覆土下層から逆位で，4の坩は北コーナー寄りの覆土下層から逆位で出土している。

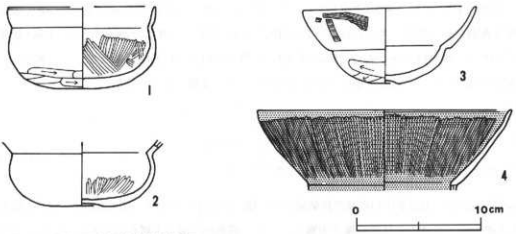
所見　本跡の時期は，出土土器から判断して4世紀前半と考えられる。



第220図　第768号住居跡実測図

第768号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第221図 1	坏 土師器	A [11.8] B 6.6 C 3.8	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，頂部でくびれ，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面丁寧なヘラ磨き，外面上半部丁寧な横ナデ，下半部ヘラ削り後，丁寧なナデ。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P110130 60% PL71 北コーナー寄り 床面
2	坩 土師器	B (5.0) C 3.3	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頂部は「く」の字状に屈曲し，口縁部は外傾する。	体部内面放射状の丁寧なヘラ磨き，外面上半部丁寧な横ナデ，下半部ヘラ削り後，丁寧なナデ。	砂粒・長石 赤褐色 普通	P110131 50% 覆土中



第221図　第768号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器　種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第221図 3	坩 土師器	A 13.8 B 6.2 C 2.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内弯して立ち上がり，頸部でくびれ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面丁寧なナデ，外面にはハケ目調整痕が残る。体部内面ヘラナデ，外面ヘラ削り後，丁寧なナデ。	砂粒・長石・石英にぶい橙色 普通	P110132　90% PL71 中央部覆土下層
4	坩 土師器	A 20.2 B（6.4）	口縁部片。大形。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面縦方向の丁寧なヘラ磨き。内・外面赤彩。	砂粒・長石・礫にぶい黄橙色 普通	P110133　30% PL71 北コーナー寄り覆土下層

第771号住居跡（第222図）

位置　調査11区の中央部，G12g3区。

重複関係　第770号住居，第31号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸5.70m，短軸5.45mの方形である。

主軸方向　N－5°－E

壁　壁高は15～40cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　第770号住居に掘り込まれている北西部を除き，巡っている。上幅約15cm，下幅約5cm，深さ約5cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，中央付近が踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へ30cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは110cm，両袖部幅は95cmである。袖部内面は，赤変硬化している。火床部は床面からわずかに掘りくぼめられ，焼土粒子が5cmほどの厚さで堆積している。煙道は，緩やかな傾斜で立ち上がる。竈土層中，第8・9・12・13・14層が粘土粒子や砂粒が多量に含まれていることから，天井部の崩落土と考えられる。

竈土層解説

1　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
2　褐　色　ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子少量
3　褐　色　ローム粒子・炭化粒子・砂粒中量，焼土粒子・粘土粒子少量
4　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂粒中量，焼土小ブロック・粘土粒子少量
5　褐　色　ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子少量
6　褐　色　ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子中量，焼土粒子・砂粒少量
7　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子少量
8　暗赤褐色　粘土粒子・砂粒多量，炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
9　にぶい赤褐色　粘土粒子・砂粒多量，焼土小ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
10　暗赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子中量
11　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子多量，焼土中ブロック中量，炭化粒子・砂粒少量
12　暗赤褐色　焼土粒子・砂粒多量，焼土中ブロック・炭化粒子・粘土粒子中量
13　暗赤褐色　粘土粒子・砂粒多量，炭化粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
14　にぶい赤褐色　砂粒多量，粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量

ピット　6か所（P1～P6）。P1～P4は各コーナー付近に位置し，径60～80cmの円形で，深さは40～45cmである。規模や配置から主柱穴と考えられる。P5は径約30cmの円形で，深さは28cmである。P6は長径40cm，短径35cmの楕円形で，深さは33cmである。P5・P6は，位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　6層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

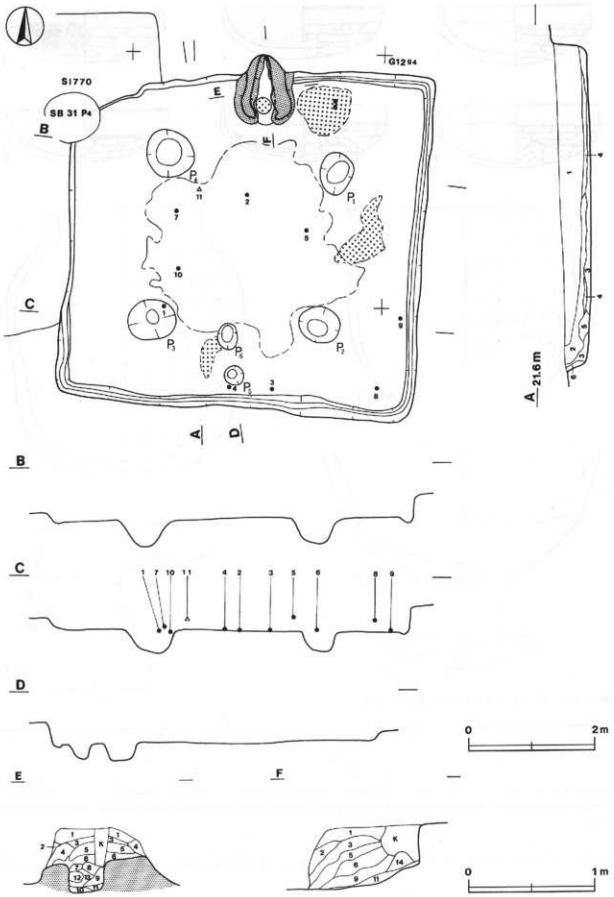
土層解説
1　黒褐色　炭化粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
2　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子少量
3　暗褐色　ローム小ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
4　褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子中量，ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量
5　赤褐色　焼土粒子多量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子中量
6　褐　色　ローム中ブロック・粒子中量，炭化粒子少量

遺物　土師器片329点，須恵器片19点及び鉄製品1点（鎌）が出土している。第223図1～6は土師器坏で，1はP3覆土上層から，5は中央付近の覆土中層から，6は竈東側の覆土下層から出土している。2は中央付近の床面から逆位で，3・4は南壁際中央部の床面から正位で出土している。7～9は土師器甕で，7は中央付近の覆土下層から，9は南東コーナー付近の床面から出土している。8は南東コーナー部の覆土下層から横位で出土している。10の須恵器坏は中央付近の床面から，11の鎌はP4付近の覆土下層から出土している。出土した土器で図示しなかったもののほとんどは土師器甕の体部細片である。須恵器片は攪乱による混入と思われる。

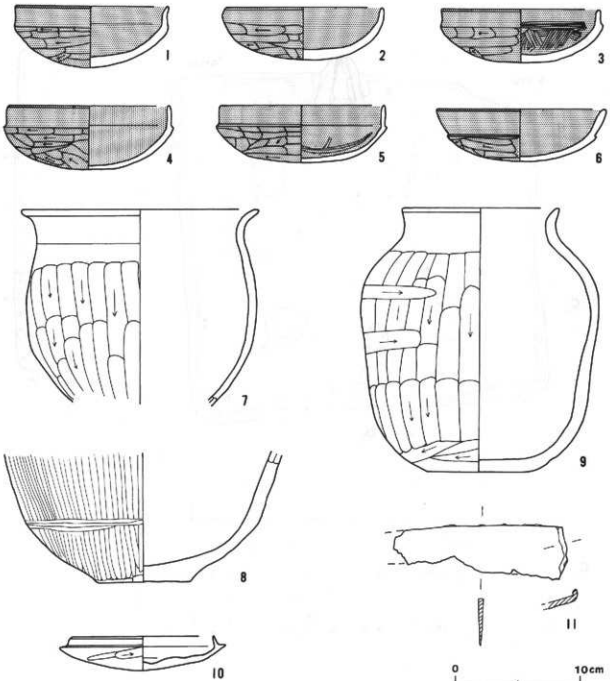
所見　本跡の時期は，出土土器から判断して7世紀前半と考えられる。

第771号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第223図1	坏 土師器	A 12.2 B 4.8	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P110145　70% P3覆土上層
2	坏 土師器	A 12.6 B 4.1	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持ち，口縁部にいたる。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい赤褐色 普通	P110146　90% P L72 中央付近床面
3	坏 土師器	A 12.6 B 4.3	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P110147　95% P L72 南壁際中央部床面
4	坏 土師器	A 13.0 B 5.1	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P110148　90% P L72 南壁際中央部床面
5	坏 土師器	A 13.2 B 4.6	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英 にぶい橙色 普通	P110150　95% P L72 中央付近覆土中層
6	坏 土師器	A 13.3 B 4.2	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。丁寧な調整。	砂粒・雲母・石英 にぶい橙色 普通	P110151　60% P L72 竈東側覆土下層
7	甕 土師器	A 18.8 B (15.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し，頸部でくびれ，口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面縦方向のヘラ削り。丁寧な調整。	砂粒・雲母・長石・曜 にぶい褐色 普通	P110152　80% P L72 中央付近覆土下層
8	甕 土師器	B (10.3) C 7.4	底部から体部にかけての破片。平底。底部突出気味。体部は内彎して立ち上がる。	体部内面ヘラナデ，外面縦方向のヘラ磨き。底部二方向のヘラ削り。	砂粒・曜 にぶい橙色 良好	P110153　30% 南東コーナー部覆土下層
9	甕 土師器	A 12.4 B 21.0 C 8.4	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。体部の張り出しが弱くずん胴である。頸部から口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面縦方向のヘラ削り後，ナデ，下端横方向のヘラ削り後，ナデ。丁寧な調整。	砂粒・長石・白色粒子 明赤褐色 普通	P110154　50% P L72 南東コーナー付近床面



第222図　第771号住居跡実測図



第223図　第771号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第223図 10	坏 須恵器	A 11.4 B 2.6	完形。丸底。器高が低い。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部外面に自然釉。	砂粒・長石・黒色粒子 灰色　普通	P110135　100% PL72 中央付近床面

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第223図11	鍔	(13.8)	4.3	0.4	(61.9)	P4付近覆土下層	M11008　PL109

第772号住居跡（第224・225図）

位置　調査11区の中央部，G12f3区。

重複関係　第773号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.60m，短軸3.20mの長方形である。

主軸方向　N－50°－W

壁　壁高は40～65cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　平坦で，壁際を除き踏み固められている。

炉　北コーナー付近に付設している。第773号住居に東部を掘り込まれているため全体は確認できないが，径約45cmの円形と推定される。

炉土層解説
1　にぶい赤褐色　焼土粒子・炭化物中量，ローム小ブロック・粒子微量
2　赤　褐　色　焼土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　赤　褐　色　焼土粒子多量，ローム小ブロック・粒子微量
4　にぶい赤褐色　焼土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

ピット　2か所（P1・P2）。P1は北コーナー付近に位置し，長径30cm，短径20cmの楕円形で，深さは20cmである。P2は南コーナー付近に位置し，径35cmの円形で，深さは27cmである。P1・P2は規模と配置から主柱穴と考えられる。

貯蔵穴　東コーナー部に設けられている。長径55cm，短径40cmの楕円形で，深さは57cmである。断面はU字形をしている。

貯蔵穴土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量

覆土　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

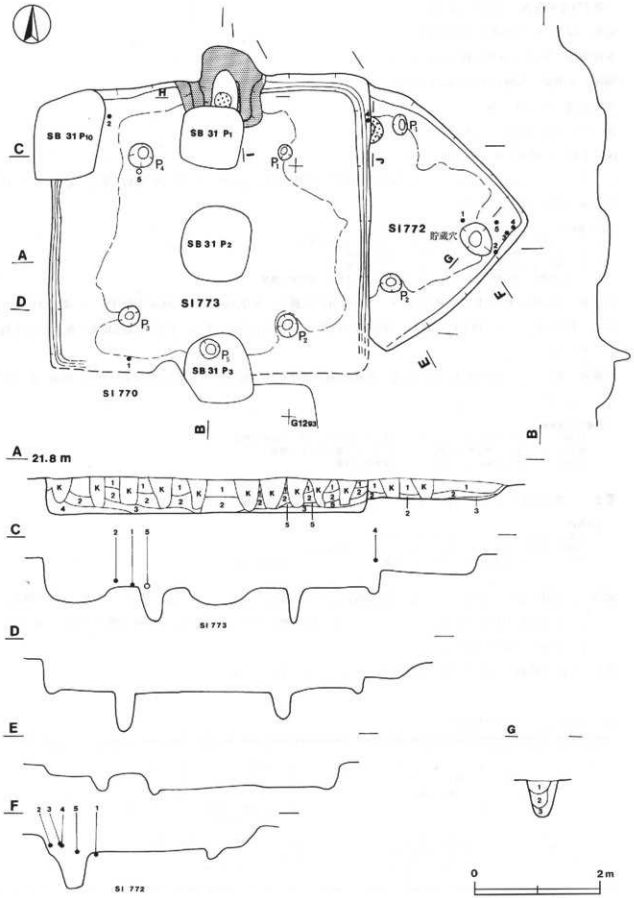
土層解説
1　暗褐色　炭化粒子中量，ローム小ブロック・粒子少量
2　黒褐色　炭化粒子中量，ローム中ブロック・小ブロック・粒子少量
3　明褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量

遺物　土師器片129点が出土している。第226図に示した土器は土師器で，いずれも東コーナー付近から出土している。1の高坏は床面から出土している。2・3の坩は覆土下層から横位で，4の甕は覆土下層から横位で，5の甕は床面から横位で出土している。

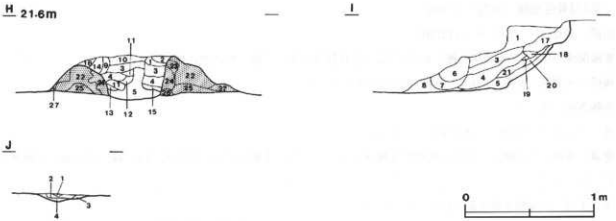
所見　本跡の時期は，出土土器から判断して4世紀後半と考えられる。

第772号住居跡出土遺物観察表

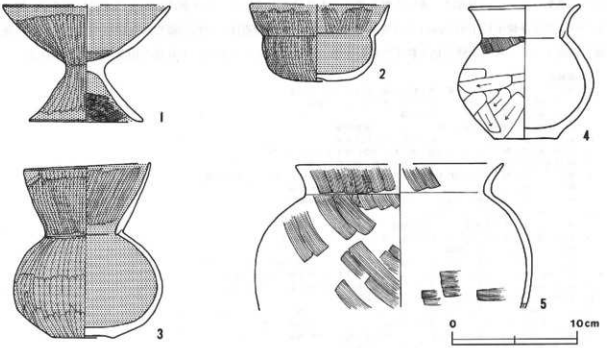
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第226図 1	高坏 土師器	A [13.4] B 9.4 D 9.2 E 4.2	脚部から口縁部にかけての破片。脚部は「ハ」の字状に開く。坏部は軽く内弯して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面上半部ナデ，下半部横方向のヘラ磨き，外面縦方向のヘラ磨き。脚部内面ハケ目調整，外面縦方向のヘラ磨き。内・外面赤彩。	砂粒 にぶい橙色 普通 二次焼成	P110156　70% PL72 東コーナー付近床面
2	坩 土師器	A [11.2] B 6.2 C 1.6	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内弯して立ち上がり，頸部は「く」の字状に屈曲し，口縁部は軽く弯曲しながら外傾する。	口縁部内・外面縦方向のヘラ磨き。体部内面上位横方向のヘラ磨き，中・下位ナデ，外面縦方向のヘラ磨き。内・外面赤彩。	砂粒・長石・石英 明褐色 普通	P110157　60% PL72 東コーナー付近覆土下層



第224図　第772・773号住居跡実測図（1）



第225図　第772・773号住居跡実測図（2）



第226図　第772号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第226図 3	坩 土師器	A 11.0 B 13.9 C 5.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内弯して立ち上がり，頸部は「く」の字状で，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面縦方向のヘラ磨き。体部内面ヘラナデ，外面縦方向のヘラ磨き。内・外面赤彩。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P 110159　95% P L72　東コーナー付近覆土下層
4	甕 土師器	A 9.0 B 10.6 C 5.0	体部一部欠損。小形。平底。体部は内弯して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面ナデ。体部内面ヘラナデ，頸部外面付近ハケ目調整，下半部ヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒・白色粒子 にぶい赤褐色 普通	P 110158　95% P L72　東コーナー付近覆土下層
5	甕 土師器	A [16.4] B (11.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内弯して立ち上がり，頸部は「く」の字状で，口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面ハケ目調整。体部内面ハケ目調整痕を残すヘラナデ，外面ハケ目調整。	砂粒・長石 明褐色 普通	P 110160　30% 東コーナー付近床面

第773号住居跡（第224・225図）

位置　調査11区の中央部，G12f2区。

重複関係　第772号住居跡を掘り込み，第770号住居及び第31号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸5.00m，短軸4.60mの方形である。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は50～60cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　重複のため確認できない南壁際を除き，巡っている。上幅約15cm，下幅約10cm，深さ約5cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，壁際を除き踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へ50cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは125cm，両袖部幅は120cmである。袖部は砂粒を多量に含んだ砂質粘土で芯を作り，それに砂質粘土と黒褐色土を貼り付けて構築している。内面は，強い火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面とほぼ同じ高さで，焼土の小ブロック及び焼土粒子が5cmほどの厚さで堆積している。煙道は，比較的緩やかな傾斜で立ち上がる。竈土層中，第4・8・9・10層が粘土粒子や砂粒を多く含んでいることから，天井部の崩落土と考えられる。

竈土層解説

1　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
2　明 赤 褐 色　焼土小ブロック・粒子多量，焼土中ブロック中量
3　明 赤 褐 色　焼土小ブロック・粒子多量
4　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・砂粒中量
5　暗 赤 褐 色　焼土小ブロック・粒子中量，炭化粒子少量
6　明 赤 褐 色　焼土小ブロック多量，焼土粒子中量，焼土大ブロック少量
7　極暗赤褐色　焼土中ブロック・小ブロック多量，焼土粒子中量
8　褐　　色　焼土粒子・砂粒多量，焼土小ブロック中量，ローム小ブロック・粒子少量
9　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量
10　褐　灰　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・粘土粒子中量
11　明 赤 褐 色　焼土大ブロック多量
12　黒　　色　黒色土多量・ローム粒子微量
13　暗 赤 褐 色　焼土大ブロック・粒子多量，焼土中ブロック・砂粒中量
14　褐　　色　ローム粒子微量
15　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土小ブロック少量
16　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
17　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量，炭化粒子微量
18　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
19　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
20　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
21　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化物・粘土粒子・砂粒微量
22　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，ローム粒子・炭化物微量
23　極暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子微量
24　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
25　暗 赤 褐 色　焼土小ブロック・粒子少量，ローム粒子微量
26　極暗赤褐色　ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
27　極暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子少量

ピット　5か所（P1～P5）。P1～P4は各コーナー付近に位置し，径30～40cmの円形で，深さは43～66cmである。規模や配置から主柱穴と考えられる。P5は南壁際中央に位置し，径約30cmの円形で，深さは24cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

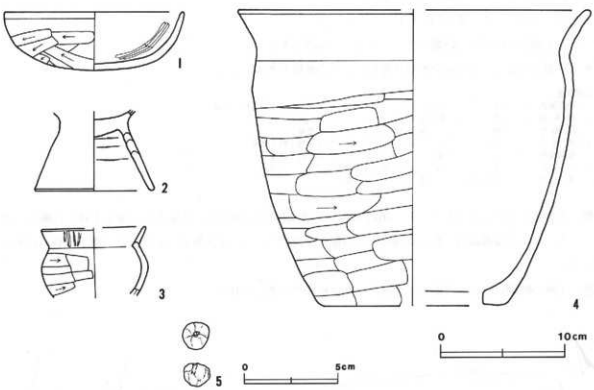
覆土　5層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
2　黒褐色　ローム小ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
3　暗褐色　炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
4　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
5　暗褐色　炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量

遺物　土師器片832点，須恵器片84点及び土製品1点（土玉）が出土している。第227図に示した土器はいずれ

も土師器である。1の坏は南西コーナー付近の覆土下層から横位で，2の高坏脚部は北西コーナー部の覆土下層から正位で出土している。3の小形壺は覆土中から出土している。4の甑は北東コーナー部の覆土中層から出土している。5の土玉は，P4付近の床面から出土している。出土した土器のほとんどは土師器甕の体部細片で，中・上層からの出土が多いことから，本跡廃絶後に投棄されたものと考えられる。須恵器片は攪乱による混入と思われる。また，2及び3は古墳時代前期の様相を呈することから第772号住居跡に伴う遺物の可能性がある。



第227図　第773号住居跡出土遺物実測図

第773号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第227図 1	坏 土師器	A 14.5 B 4.6	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面雑なヘラ磨き，外面ヘラ削り。	砂粒・雲母・白色粒子 灰褐色 良好	P110161　70% P L.73　南壁際南西コーナー付近覆土下層
2	高坏 土師器	B (6.4) D 9.6 E 5.6	脚部片。脚部は「ハ」の字状に開く。	脚部内・外面ナデ。	砂粒・長石・礫 にぶい褐色 普通	P110162　40% 北西コーナー部覆土下層
3	壺 土師器	A [8.4] B (5.6)	体部から口縁部にかけての破片。小形。体部は内彎して立ち上がり，頂部は「く」の字状に屈曲し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P110163　20% P L.73 覆土中
4	甑 土師器	A [28.4] B 23.6 C [14.8]	体部から口縁部にかけての破片。無底式。体部は軽く内彎して立ち上がる。頸部から口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面横方向のヘラ削り。	砂粒 にぶい橙色 普通	P110164　50% P L.73 北東コーナー部の覆土中層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第227図5	土玉	1.4	1.3	0.2	2.02	P4付近床面	DP11014

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して6世紀後半と考えられる。

第776号住居跡（第228図）

位置　調査11区の中央部，G11g0区。

重複関係　第768号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.70m，短軸3.50mの方形と推定される。

主軸方向　N－22°－W

壁　壁高は15～20cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦である。あまり踏み固められていない。

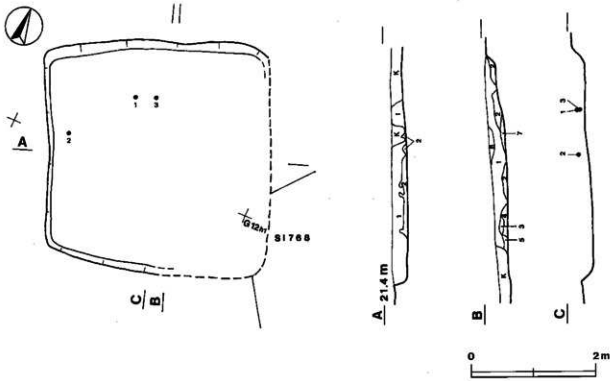
炉　出土土器から炉を持つ時期と考えられるが，確認できなかった。

覆土　7層からなる。不連続な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

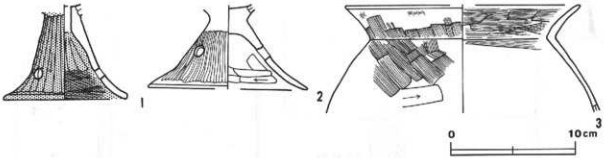
土層解説
1　極暗褐色　ローム中ブロック・粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ローム小ブロック・粒子中量
3　黒 褐 色　ローム中・小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子微量
4　黒 褐 色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
5　極暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗 褐 色　ローム中ブロック・小ブロック・粒子少量，焼土小ブロック微量
7　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック少量

遺物　土師器片26点が出土している。第229図1の土師器器台の脚部は，北壁寄りの覆土下層から横位で出土している。2の土師器器台の脚部は西壁寄りの覆土下層から，3の土師器甕は北壁寄りの覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して4世紀後半と考えられる。



第228図　第776号住居跡実測図



第229図　第776号住居跡出土遺物実測図

第776号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第229図 1	器　台 土師器	B (7.5) D 13.5 E 6.6	脚部片。脚部は「ハ」の字状に開く。脚部下位に3孔を穿つ。	脚部内面上半部ヘラナデ，下半部ハケ目調整，外面縦方向のヘラ磨き。内・外面赤彩。	砂粒・長石 にぶい赤褐色 普通	P110170　45% P L73　中央付近 北壁寄り覆土下層
2	器　台 土師器	B (6.8) D [13.0] E 5.6	脚部片。脚部は「ハ」の字状に大きく開く。脚部中位に3孔を穿つ。	脚部内面上半部ヘラナデ，下半部ハケ目調整，外面縦方向のヘラ磨き。	砂粒・長石・白色粒子 にぶい橙色　普通	P110171　50% 西壁寄り覆土下層
3	甕 土師器	A [18.8] B (8.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部は「く」の字状に屈曲し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面ハケ目調整。体部内面ハケ目調整痕を残すナデ，外面ハケ目調整。	砂粒 にぶい橙色 普通	P110172　10% 北壁寄り覆土下層

第777号住居跡（第230図）

位置　調査11区の中央部，G12f1区。

重複関係　第775号住居及び第31号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸4.60m，短軸4.45mの方形である。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は16～28cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　耕作機械による幅20cmほどの深い撹乱が，南北方向に床面を壊している。撹乱を受けていない部分については，あまり踏み固められていない。

炉　中央部やや北寄りに付設している。長径70cm，短径55cmの楕円形で，10cmほどの深さに焼土が堆積し，炉床面には部分的に硬化した焼土ブロックが確認できる。

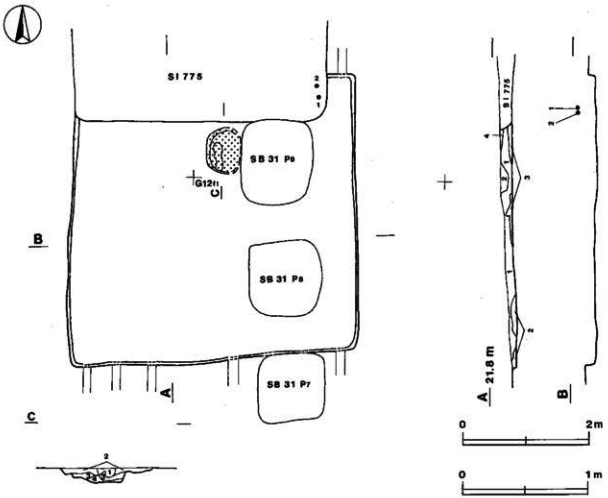
炉土層解説
1　極暗褐色　焼土粒子中量，ローム粒子微量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
4　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック微量

覆土　4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
3　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
4　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量

遺物　土師器片90点が出土している。第231図1の土師器異形器台器受部，2の土師器甕はともに北東コーナー部の覆土下層から出土している。

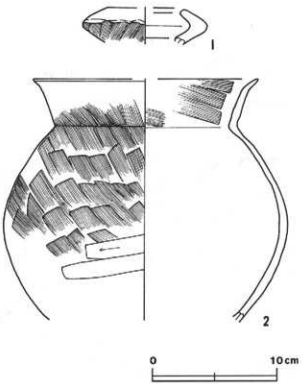
所見　本跡の時期は，出土土器から判断して4世紀前半と考えられる。



第230図　第777号住居跡実測図

第777号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第231図 1	異形器台 土師器	A [6.0] B (2.9)	器受部片。器受部は算盤玉状である。	器受部内面縦なナデ，外面上半部ナデ，下半部ハケ目調整。	砂粒・長石 にぶい赤褐色 普通	P110173　20% PL73　北東コーナー部覆土下層
2	甕 土師器	A [18.0] B (19.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部は「く」の字状に屈曲する。口縁部は外傾し，端部はわずかに開く。	口縁部内・外面ハケ目調整。体部内面ヘラナデ，外面ハケ目調整。	砂粒・長石 にぶい黄橙色 普通	P110174　20% PL73 北東コーナー部覆土下層



第231図　第777号住居跡出土遺物実測図

第778号住居跡（第232図）

位置　調査11区の中央部，H12a2区。

重複関係　第752・755・765号住居及び第30号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と平面形　南部を第752・765号住居に掘り込まれているため，確認できたのは南北軸（1.65）m，東西軸［4.20］mである。北コーナー及び西コーナーが直角であることから，方形または長方形と推定される。

主軸方向　N－28°－W

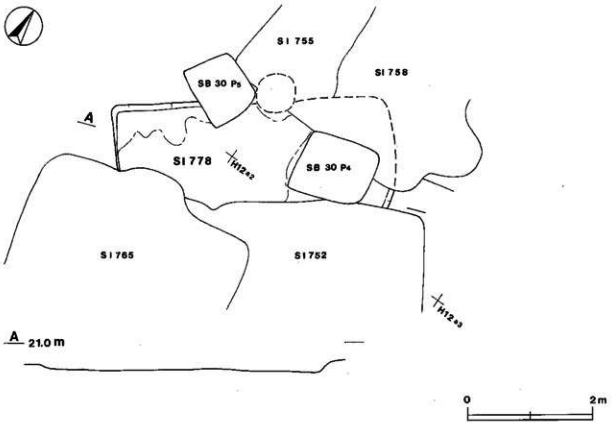
壁　壁高は約10cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　平坦で，壁際を除き踏み固められている。

竈　構築材の砂質粘土と火床部の焼土が，北西壁中央部でわずかに確認できた。

遺物　土師器片７点が出土している。いずれも甕体部の細片である。

所見　本跡からは重複のために時期を判断できる土器が出土していない。６世紀後半に位置づけられる第752号住居に掘り込まれていることから，それ以前の住居跡と考えられる。



第232図　第778号住居跡実測図

第779号住居跡（第233・234図）

位置　調査11区の中央部，G11e5区。

重複関係　第781・783号住居跡を掘り込み，第784号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸6.00m，短軸5.70mの方形である。

主軸方向　N－8°－W

壁　壁高は約25～50cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅15～20cm，下幅10～15cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，壁際を除き踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へ80cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは140cm，両袖部幅は90cmである。両袖端部には補強材として比較的大きな土師器甕片が使われている。袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面からわずかに掘りくぼめられ，焼土粒子が約10cmの厚さで堆積している。煙道は，ほぼ垂直に立ち上がる。

竈土層解説

1　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗赤褐色　焼土粒子多量・焼土中ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
4　暗赤褐色　焼土中ブロック・粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
5　極暗赤褐色　焼土小ブロック中量，焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
6　にぶい赤色　焼土粒子少量，ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物微量
7　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子・炭化物微量
8　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量

ピット　5か所（P1～P5）。P1～P4は各コーナー付近に位置し，径70～90cmの円形で，深さは50～76cmで

ある。規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は南壁際中央部に位置し，長径80cm，短径60cmの楕円形で，深さは37cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　竈北側の北東壁際に設けられている。長径約90cm，短径約50cmの楕円形で，深さは45cmである。断面は逆台形である。

貯蔵穴土層解説

1　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量
2　黒褐色　炭化粒子中量，ローム小ブロック少量
3　黒褐色　炭化粒子中量，ローム小ブロック・粒子少量
4　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量

覆土　5層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

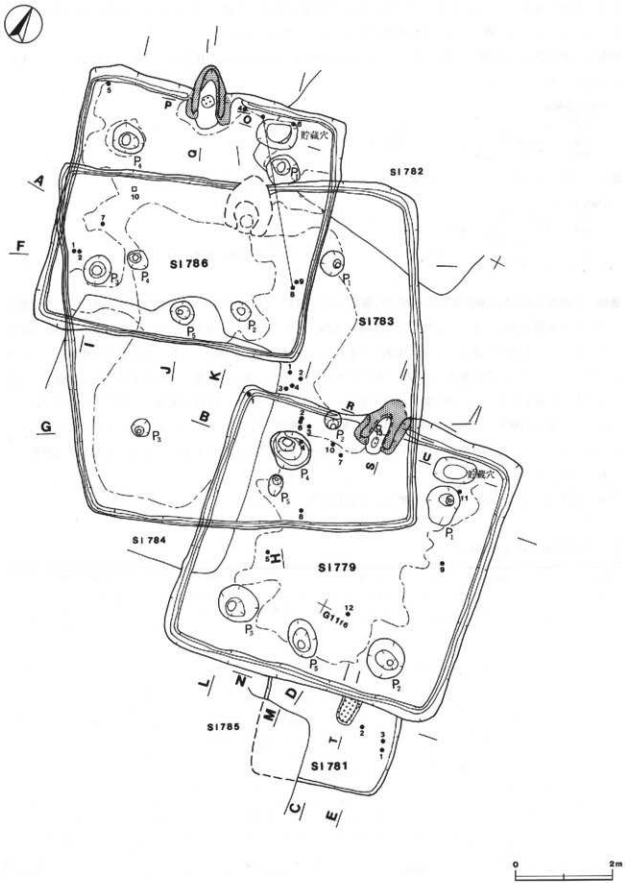
9　黒褐色　炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量
10　暗褐色　焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
11　褐　色　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック中量，ローム大ブロック少量
12　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子少量
13　褐　色　ローム粒子中量

遺物　土師器片442点，須恵器片5点及び石製品1点（勾玉）が出土している。第235・236図に示した土器はいずれも土師器である。1～7は坏で，5を除き北西コーナー付近から出土している。1は覆土下層から出土している。2は床面から逆位で，3は床面から正位で，4は床面から逆位で，6・7は覆土下層からともに逆位で出土している。5は西壁寄りの覆土下層から出土している。8～11は甕で，8は中央付近の床面から，9は東壁寄りの覆土下層から，10は竈手前の床面から，11は北東コーナー付近の床面から出土している。12のミニチュア土器は南壁寄りの覆土下層から，13の石製勾玉は竈内から出土している。出土した土器で図示しなかったもののほとんどは土師器甕の体部細片で，本跡廃絶後に投棄されたものと考えられる。須恵器片は撹乱による混入と思われる。

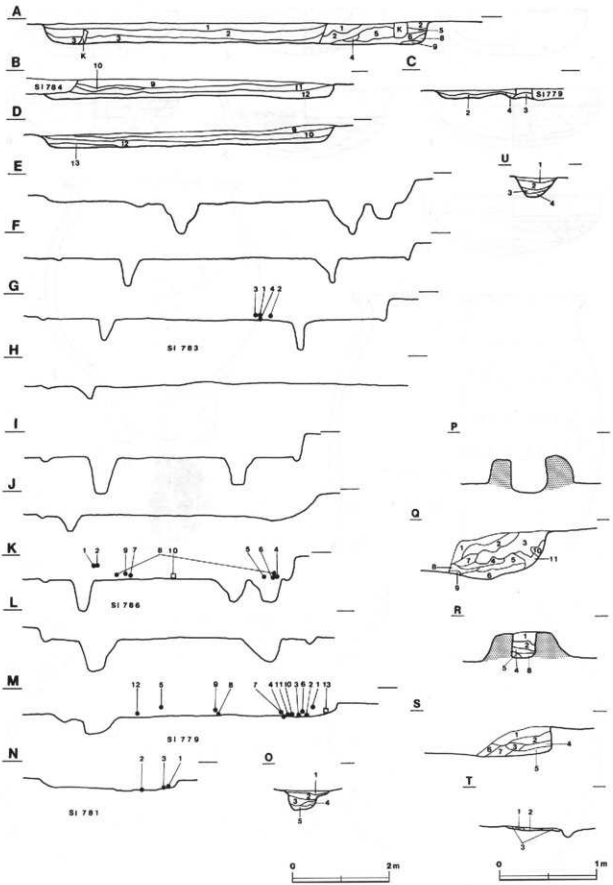
所見　本跡の時期は，出土土器から判断して6世紀後半と考えられる。

第779号住居跡出土遺物観察表

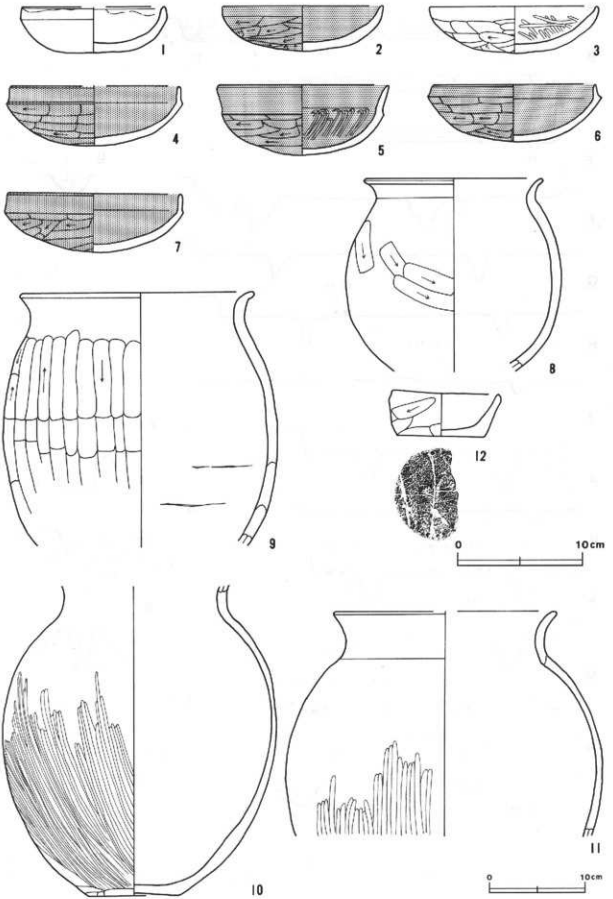
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第235図 1	坏 土師器	A [11.4] B 3.6	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持ち，口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後，丁寧なナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 灰白色 普通	P110175　50% 北西コーナー付近 覆土下層 口縁部タール付着
2	坏 土師器	A 13.0 B 3.6	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持ち，口縁部にいたる。厚手。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英 灰褐色 普通	P110176　95% P L73　北西コーナー付近床面
3	坏 土師器	A 13.4 B 3.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持ち，口縁部にいたる。厚手。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面上位横方向のヘラ磨き，中・下位放射状のヘラ磨き，外面ヘラ削り。	砂粒・長石・石英 にぶい褐色 普通	P110177　95% P L73　北西コーナー付近床面
4	坏 土師器	A [13.3] B 4.7	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・石英・白色粒子 普通	P110178　55% P L73　北西コーナー付近床面
5	坏 土師器	A 13.6 B 5.6	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面放射状のヘラ磨き，外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P110179　70% P L73　西壁寄り覆土下層
6	坏 土師器	A 13.0 B 4.6	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面横ナデ，外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。丁寧な調整。	砂粒・長石・白色粒子 にぶい黄橙色 普通	P110180　95% P L73　北西コーナー付近覆土下層



第233図　第779・781・783・786号住居跡実測図（1）



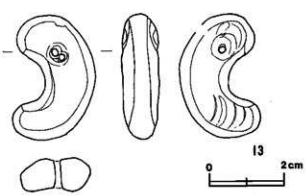
第234図　第779・781・783・786号住居跡実測図（2）



第235図　第779号住居跡出土遺物実測図（1）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第235図 7	坏 土師器	A 18.6 B 4.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。厚手。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・白色粒子 灰黄褐色 普通	P110181 95% P L 73 北西コーナー付近覆土下層
8	甕 土師器	A 14.2 B (15.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面ナデ。体部内面ヘラナデ，外面斜方向のヘラ削り。	砂粒・長石・白色粒子 にぶい黄橙色普通	P110182 70% P L 73 中央付近床面
9	甕 土師器	A 18.6 B (20.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面上半部縦方向のヘラ削り。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P110183 70% P L 73 東壁寄り覆土下層
10	甕 土師器	B (32.4) C 9.4	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれる。	体部内面ヘラナデ，外面縦方向のヘラ磨き。	砂粒 にぶい橙色 普通	P110184 60% 竈手前床面
11	甕 土師器	A [23.2] B (23.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面上半部ヘラ削り後，ナデ，下半部縦方向のヘラ磨き。	砂粒・長石 橙色 普通	P110185 80% 北東コーナー付近床面
12	ミニチュア土器 土師器	A 8.6 B 3.7 C 7.0	鉢形。底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部内・外面，体部内面ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。底部木葉痕。	砂粒・石英 にぶい黄橙色 普通	P110186 70% P L 73 南壁寄り覆土下層

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第236図13	勾玉	3.3	2.1	0.2	8.60	滑石	竈内	Q11006 P L 105



第236図　第779号住居跡出土遺物実測図（2）

第780号住居跡（第237図）

位置　調査11区の中央部，G11i6区。

規模と平面形　一辺7.65mの方形である。

主軸方向　N－35°－W

壁　壁高は25～55cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅10～15cm，下幅5～10cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，壁際を除き踏み固められている。

竈　北西壁中央部を壁外へ80cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。天井部は崩落しているものの，袖部は良好な状態で遺存している。焚口部から煙道部までは150cm，両袖部幅は115cmである。火床部は床面からわずかに掘りくぼめられ，焼土粒子が約8cmの厚さで堆積している。火床面は，焼土ブロックが径約35cmの

円形に広がっている。煙道は，ほぼ垂直に立ち上がる。竈土層中，第７・８・12層が砂粒を多く含んでいることから，天井部の崩落土と考えられる。

竈土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒暗褐色　焼土中ブロック・粒子少量，ローム粒子・焼土大ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
3　暗 褐 色　焼土粒子少量，ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
4　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土大・中ブロック少量，ローム小ブロック・炭化物微量
5　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化物微量
6　極暗褐色　焼土粒子中量，ローム粒子微量
7　暗 褐 色　砂粒中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
8　暗 褐 色　砂粒多量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
9　暗赤褐色　焼土小ブロック・粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
10　暗赤褐色　焼土小ブロック・粒子少量
11　暗赤褐色　焼土粒子・砂粒少量，炭化物微量
12　暗赤褐色　砂粒多量，焼土粒子中量，炭化物少量
13　暗赤褐色　焼土粒子多量，砂粒少量，炭化物微量

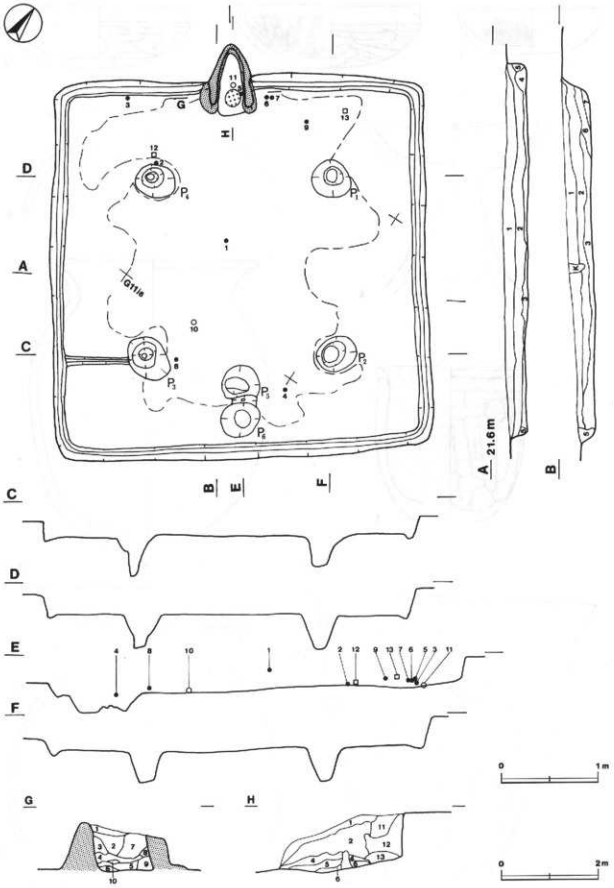
ピット　６か所（P1～P6）。P1～P4は各コーナー付近に位置し，径75～85cmの円形で，深さは61～86cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。P5・P6はともに径約75cmの円形で，深さは38cmと36cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　７層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

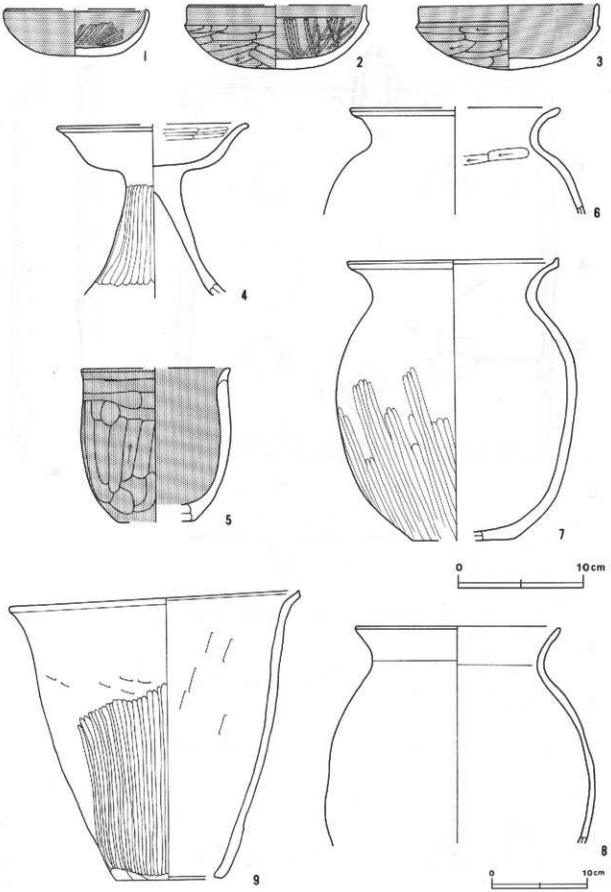
土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック多量，ローム中ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量
2　黒褐色　ローム小ブロック中量，焼土小ブロック・炭化物少量
3　暗褐色　炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物少量
4　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子少量
5　黒褐色　炭化物中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
6　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・ローム中ブロック少量
7　暗褐色　粘土粒子中量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量

遺物　土師器片1,762点，須恵器片４点，土製品２点（土玉１，支脚１）及び石製品２点（管玉）が出土している。第238・239図に示した土器はいずれも土師器である。１の坏は中央部の覆土中層から，２の坏はP4付近の床面から，４の高坏は南東壁寄りの床面から出土している。３の坏は，西コーナー付近の覆土下層から逆位で出土している。５の甕は，竈内から土圧でつぶれた状態で出土している。６・７の甕は竈東側の覆土下層から，８の甕はP3付近の床面から出土している。９の甑は，竈東側の床面から出土した数片が接合している。10の土玉は，中央部の床面から出土している。11の土製支脚は，竈内から据え付けたままの直立した状態で出土している。12の管玉はP4付近の覆土下層から，13の管玉は竈東側の覆土中層から出土している。出土した土器で図示しなかったもののほとんどは土師器甕の体部細片で，本跡廃絶後に投棄されたものと考えられる。須恵器片は撹乱による混入と思われる。

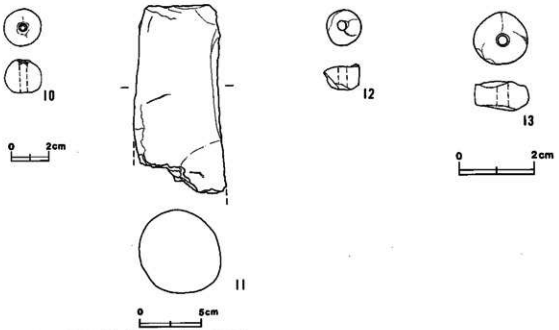
所見　本跡の時期は，出土土器から判断して６世紀前半と考えられる。



第237図　第780号住居跡実測図



第238図　第780号住居跡出土遺物実測図（1）



第239図　第780号住居跡出土遺物実測図（2）

第780号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第238図 1	坏 土師器	A [11.2] B 4.3	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持ち，口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面放射状のヘラ磨き，外面ヘラ削り後，丁寧なナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・白色粒子 にぶい褐色 普通	P 110188　60% 中央部覆土中層
2	坏 土師器	A [14.4] B 5.1	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面放射状のヘラ磨き，外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・ にぶい褐色 普通	P 110190　40% PL.74 P 4 付近床面
3	坏 土師器	A 14.4 B 5.1	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・雲 にぶい橙色 普通	P 110191　90% PL.74　西コーナー付近覆土下層
4	高坏 土師器	A [15.4] B (13.6) E (9.9)	脚部から坏部にかけての破片。脚部は比較的高く，「ハ」の字状に開く。坏部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内面横方向のヘラ磨き，外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後，ナデ。脚部内面ヘラナデ，外面縦方向のヘラ磨き。	砂粒・白色粒子 明赤褐色 普通	P 110192　60% PL.74 南東隅寄り床面
5	甕 土師器	A [11.8] B 12.3 C [6.0]	底部から口縁部にかけての破片。小形。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部から口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内面ナデ，外面強いナデ。体部ヘラナデ，外面縦方向のヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・密母・長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P 110193　40% 竈内
6	甕 土師器	A [16.8] B (8.4)	底部から口縁部にかけての破片。小形。体部は内彎し，頸部でくびれ，口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内面横方向のヘラ削り。体部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・白色粒子 明褐色　普通	P 110194　20% 竈東側覆土下層
7	甕 土師器	A 16.8 B 22.2 C [8.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれる。口縁部は外反し，端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面上半部ナデ，下半部縦方向のヘラ磨き。	砂粒・密母・長石・石英 灰色 普通	P 110195　70% PL.74 竈東側覆土下層
8	甕 土師器	A 21.5 B (23.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・雲・石英 にぶい橙色　普通	P 110196　40% P 3 付近床面
9	甑 土師器	A 30.6 B 30.0 C 11.2	体部・口縁部一部欠損。無底。体部は外傾して立ち上がり，頸部から口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面上半部ナデ，下半部縦方向のヘラ磨き。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P 110197　90% PL.74 竈東側床面

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考	
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第239図10	土玉	2.0	1.8	0.4	6.35	中央部床面	DP 11015	PL105
11	土製支脚	5.8～7.4	(15.1)	－	750.0	竈内	DP 11016	

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考	
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
第239図12	管玉	0.9	0.7	0.2	0.88	滑石	P4付近覆土下層	Q 11007	PL 106
13	管玉	1.4	0.8	0.3	2.48	滑石	竈東側覆土中層	Q 11008	PL 106

第781号住居跡（第233・234図）

位置　調査11区の中央部，G11f6区。

重複関係　第779・785号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　北部を第779号住居に掘り込まれているため，確認できたのは南北軸（1.70）m，東西軸2.85mである。南東コーナーが直角であることから，方形または長方形と推定される。

主軸方向　N－14°－W

壁　壁高は12～22cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，あまり踏み固められていない。

炉　中央部に付設されている。短径は40cmで，長径は55cmまで測れ，楕円形と推定されるが，北部を第779号住居に掘り込まれているため全体は確認できない。炉床面は床面から10cmほど掘り下げられ，焼土ブロックが広がっている。

炉土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量
2　暗褐色　ローム大ブロック・粒子中量
3　赤褐色　焼土中ブロック多量

覆土　4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。第3層の下部に炭化粒子が中量含まれていることや，床面に焼土が散在することから，焼失家屋の可能性がある。

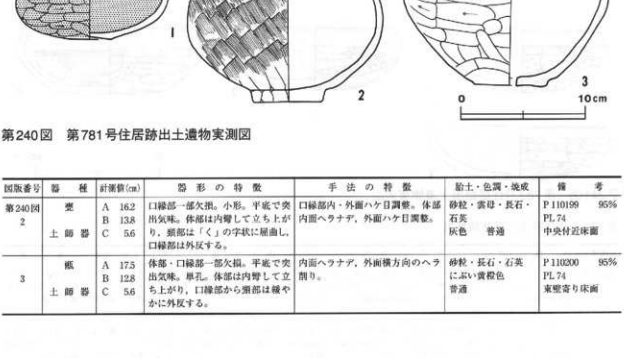
土層解説
1　暗褐色　炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量
2　黒褐色　ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
3　極暗褐色　炭化粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
4　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物　土師器片8点が出土している。第240図1の土師器坩は東壁寄りの床面から，2の土師器甕は中央付近の床面から，3の土師器甑は東壁寄りの床面から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して4世紀前半と考えられる。

第781号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第240図 1	坩 土師器	A 12.4 B 8.3 C 3.2	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部は「く」の字状に屈曲し，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面横方向のヘラ削り後，ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・長石・白色粒子 にぶい橙色 普通	P 110198　95% PL 74 東壁寄り床面



第240図　第781号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第240図 2	甕 土師器	A 16.2 B 13.8 C 5.6	口縁部一部欠損。小形。平底で突出気味。体部は内彎して立ち上がり，頸部は「く」の字状に屈曲し，口縁部は外反する。	口縁部内・外面ハケ目調整。体部内面ヘラナデ，外面ハケ目調整。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色　普通	P 110199　95% PL 74 中央付近床面
3	甑 土師器	A 17.5 B 12.8 C 5.6	体部・口縁部一部欠損。平底で突出気味。単孔。体部は内彎して立ち上がり，口縁部から頸部は緩やかに外反する。	内面ヘラナデ，外面横方向のヘラ削り。	砂粒・長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P 110200　95% PL 74 東壁寄り床面

第783号住居跡（233・234図）

位置　調査11区の中央部，G11d4区。

重複関係　第779・782・784・786号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸7.72m，短軸7.20mの方形である。

主軸方向　N－25°－W

壁　壁高は30～45cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅約15cm，下幅約5cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，全体が踏み固められている。

竈　北西壁に付設されているが，第786号住居に掘り込まれていて遺存状態は良くない。袖部の構築材である砂質粘土と火床部の焼土の広がりから，袖部幅は約100cmと推定される。

ピット　5か所（P1～P5）。P1～P4は各コーナー付近に位置し，径35～50cmの円形で，深さは46～66cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は南東壁際中央部に位置し，長径45cm，短径30cmの楕円形で，深さは30cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

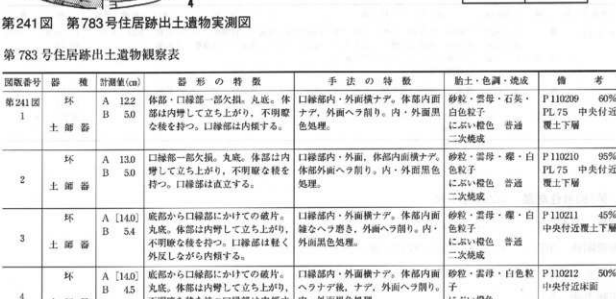
覆土　7層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中・小ブロック少量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量，炭化粒子微量
8　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
9　暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子中量，ローム小ブロック・粒子微量

遺物　土師器片132点及び須恵器片5点が出土している。第241図に示した土器はいずれも土師器坏で，中央付

近から出土している。1～3は覆土下層から，4は床面から出土している。須恵器片は撹乱による混入と思われる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して6世紀後半と考えられる。



第241図　第783号住居跡出土遺物実測図

第783号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第241図 1	坏 土師器	A 12.2 B 5.0	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・白色粒子 にぶい橙色　普通 二次焼成	P 110209　60% PL 75　中央付近 覆土下層
2	坏 土師器	A 13.0 B 5.0	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・礫・白色粒子 にぶい橙色　普通 二次焼成	P 110210　95% PL 75　中央付近 覆土下層
3	坏 土師器	A [14.0] B 5.4	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持つ。口縁部は軽く外反しながら内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面雑なヘラ磨き，外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・礫・白色粒子 にぶい橙色　普通 二次焼成	P 110211　45% 中央付近覆土下層
4	坏 土師器	A [14.0] B 4.5	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持つ口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ後，ナデ，外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・白色粒子 にぶい橙色 普通	P 110212　50% 中央付近床面

第786号住居跡（第233・234図）

位置　調査11区の中央部，G11d4区。

重複関係　第783号住居跡を掘り込み，第782・784号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸5.48m，短軸5.21mの方形である。

主軸方向　N－15°－W

壁　壁高は44～48cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅10～20cm，下幅約10cm，深さ約5cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，全体が踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へ60cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは145cm，両袖部幅は90cmである。袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面から10cmほど掘りくぼめられ，焼土と炭化物が約10cmの厚さで堆積している。煙道は，比較的緩やかな傾斜で立ち上がる。竈土層中，第3・8層が粘土粒子や砂粒を多量に含んでいることから，天井部の崩落土と考えられる。

竈土層解説
1 暗　褐　色　砂粒中量，炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
2 黒　褐　色　炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
3 褐　　色　砂粒多量，粘土粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
4 暗 赤 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・砂粒中量，焼土小ブロック・粘土粒子少量
5 暗 赤 褐 色　焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量，炭化物少量
6 黒　褐　色　炭化粒子中量，焼土粒子・粘土粒子少量
7 暗　褐　色　砂粒中量，焼土粒子少量，焼土小ブロック微量
8 暗　褐　色　砂粒多量，焼土小ブロック・炭化粒子中量
9 にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・砂粒少量
10 にぶい赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
11 褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

ピット　5か所（P1～P5）。P1～P4は各コーナー付近に位置し，径45～70cmの円形で，深さは54～75cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は径約50cmの円形で，深さは38cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　竈東側の北壁際に設けられている。長軸80cm，短軸60cmの長方形で，深さは50cmである。

貯蔵穴土層解説
1 褐　色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子微量
2 暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4 褐　色　ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量，炭化物・炭化粒子微量
5 黒褐色　ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量，炭化物微量

覆土　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

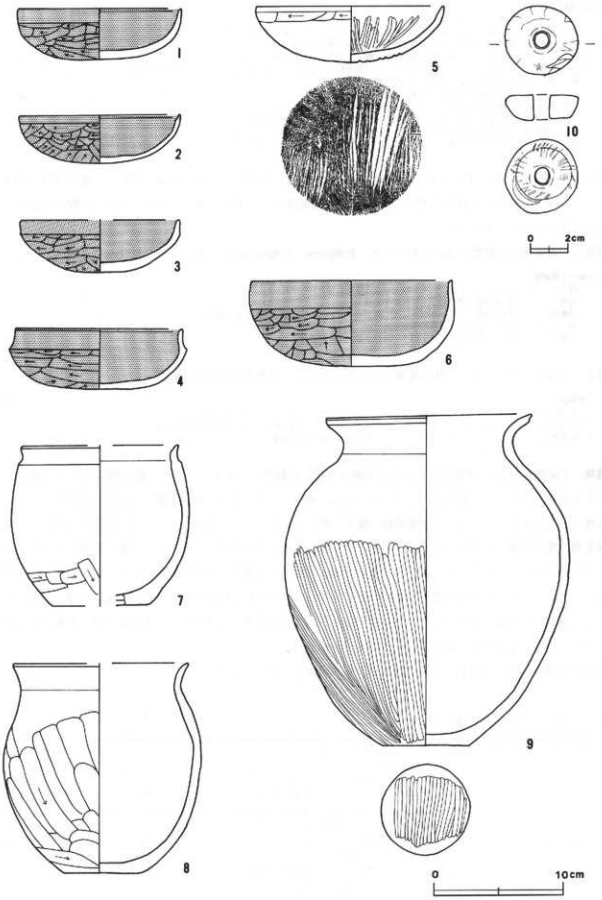
土層解説
1 暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
2 黒 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
3 暗赤褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　土師器片842点，須恵器片47点及び石製品1点（紡錘車）が出土している。第242図に示した土器はいずれも土師器である。1～6は坏で，1・2はともに南西コーナー付近の覆土中層から正位で出土している。3は覆土中から出土している。4は竈東側の覆土下層から正位で，5は北西コーナー部の床面から逆位で，6は竈東側の覆土下層から正位で出土している。7～9は甕で，7は南西コーナー付近の覆土下層から土圧でつぶれた状態で出土している。8は竈東側の覆土下層から出土した破片と東壁際の覆土下層から出土した破片とが接合している。9は東壁際の覆土下層から出土している。10の石製紡錘車は中央付近の覆土下層から出土している。出土した土器で図示しなかったもののほとんどは土師器甕の体部細片で，本跡廃絶後に投棄されたものと考えられる。須恵器片は撹乱による混入と思われる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して6世紀後半と考えられる。

第786号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第242図 1	坏 土師器	A 13.0 B 4.0	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持ち，口縁部にいたる。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P 110224　95% PL 75　南西コーナー付近覆土中層
2	坏 土師器	A 12.8 B 3.8	底から口縁にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持ち，口縁部にいたる。口縁端部内面に小さな段が巡る。	口縁部，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英 にぶい橙色 普通	P 110225　50% PL 75 南西コーナー付近覆土中層
3	坏 土師器	A (12.6) B 4.2	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・石英・白色粒子 にぶい橙色 普通	P 110226　40% 覆土中



第242図　第786号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第242図 4	坏 土師器	A 13.1 B 4.8	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・石英・白色粒子 灰色 普通	P 110227 60% PL 75 竪穴掘形上層
5	坏 土師器	A 14.8 B 4.4	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，小明瞭な稜を持ち，口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面放射状のヘラ磨き，外面ヘラ削り後，丁寧なナデ。	砂粒・雲母・長石・白色粒子 にぶい橙色 普通	P 110228 90% 北西コーナー部炉興 南部延石転用
6	坏 土師器	A 15.9 B 6.8	口縁部一部欠損。大形。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ後，ナデ，外面ヘラ削り後，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英 にぶい褐色 普通	P 110229 90% PL 75 竪穴掘形上層
7	甕 土師器	A [12.6] B 12.8 C [7.6]	底部から口縁部にかけての破片。小形。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部の短で段を成す。口縁部は外反する。	口縁部内面横ナデ，外面強い横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面ヘラ削り後，ナデ。	砂粒・長石 灰褐色 普通	P 110230 40% PL 75 南西コーナー付近覆土下層
8	甕 土師器	A [14.0] B 16.5 C 6.0	口縁部一部欠損。小形。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部から口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面ヘラ削り後，ナデ。	砂粒・長石・赤色粒子 にぶい褐色 普通	P 110231 90% 竪穴掘形上層と東壁際覆土下層
9	甕 土師器	A 21.4 B 35.0 C 9.2	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれる。口縁部は緩やかに外反し，端部は軽くつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，体部外面上半部ヘラナデ，下半部縦方向のヘラ磨き。底部ヘラ磨き。	砂粒・雲母・長石 にぶい黄橙色 普通	P 110232 80% PL 75 東壁際覆土下層

図版番号	種別	計測値 径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第242図10	紡錘車	3.8	1.4	0.9	30.0	滑石	中央付近覆土下層	Q 11010 PL 106

第787号住居跡（第243図）

位置　調査11区の中央部，H11a9区。

規模と平面形　長軸3.15m，短軸3.05mの方形である。

主軸方向　N－2°－W

壁　壁高は20～30cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　東壁下北部を除き，巡っている。上幅10～15cm，下幅5～10cm，深さ約5cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，壁際を除き踏み固められている。特に，南壁際中央部の出入り口ピット北側は，ブロック化して段を成して盛り上がっている。

竈　北壁東コーナー寄りを壁外へ30cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。天井部は崩落しているものの，袖部は良好な状態で遺存し，内面は火熱を受けて赤変硬化している。焚口部から煙道部までは105cm，両袖部幅は85cmである。火床部は床面と同じ高さで，焼土大・中・小ブロックが約8cmの厚さで堆積している。煙道は，ほぼ垂直に立ち上がる。竈土層中，第1層が粘土粒子を多量に含んでいることから，天井部の崩落土と考えられる。

竈土層解説

1　灰褐色　粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　焼土小ブロック・炭化物少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗赤灰色　焼土大・中・小ブロック多量，炭化物中量，粘土粒子少量
4　暗褐色　焼土小ブロック・炭化物少量，ローム粒子微量
5　暗褐色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化物微量
6　暗褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化物少量，ローム粒子微量
7　黒褐色　炭化物中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子微量

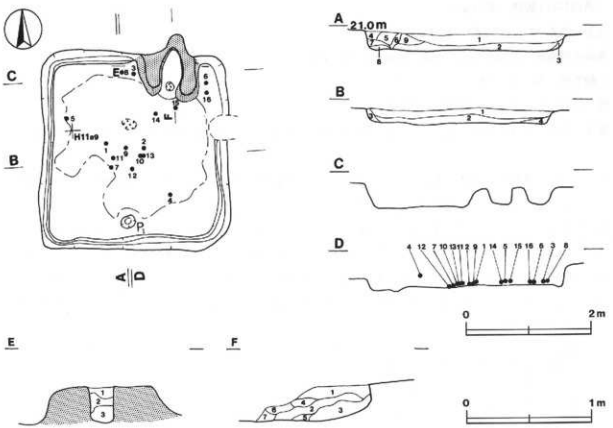
ピット　P1は南壁中央部に位置する。出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　9層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

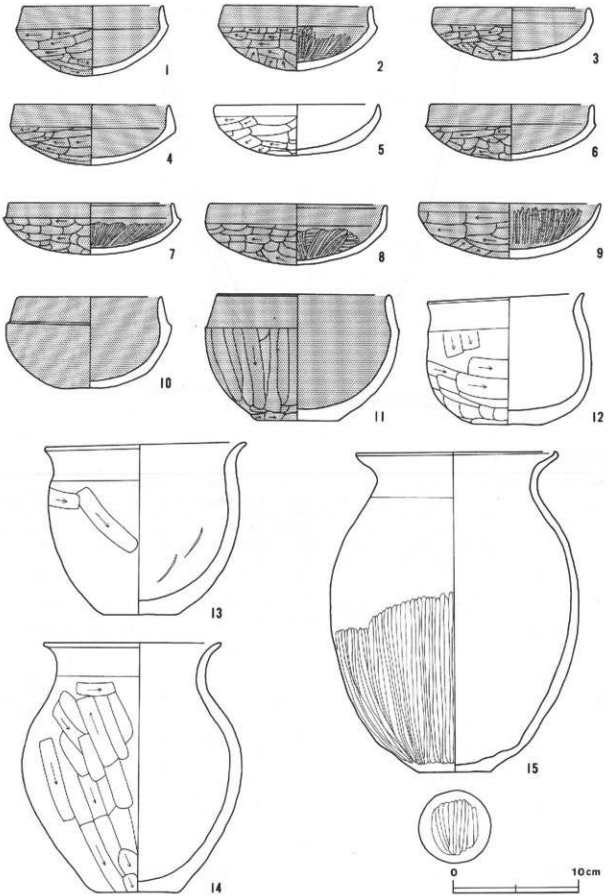
土層解説
1　黒 褐 色　ローム小ブロック・炭化粒子中量，焼土粒子・炭化物少量
2　暗 褐 色　炭化粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
3　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子少量
4　黒 褐 色　炭化粒子中量，ローム小ブロック少量
5　暗赤褐色　ローム小ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量
6　暗赤褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子中量，粘土粒子少量
7　黒 褐 色　焼土粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
8　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・炭化粒子中量
9　暗赤褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック中量，ローム粒子・焼土中ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量

遺物　土師器片164点，須恵器片3点及び鉄製品1点（刀子片）が出土している。第244・245図に示した土器はいずれも土師器である。1～9は坏で，1は中央付近の覆土下層から正位で出土している。2・7・9は中央付近の床面から出土している。3は竈西側の床面から正位で，4は南東コーナー寄りの覆土中層から正位で，5は西壁際中央部の床面から正位で，6は北東コーナー部の床面から正位で，8は竈西側の床面から正位で出土している。10・11は椀で，10は中央付近の床面から出土している。11は中央付近の床面から斜位で出土している。12～15は甕で，12は中央付近の床面から斜位で出土している。13は中央付近から出土した数片が，14・15は竈手前の床面から出土した数片がそれぞれ接合したものである。16の甑は竈東側の床面から横位で出土している。床面から比較的残りの良い土器が出土しているが，本跡が廃絶されるときに残されたものと考えられる。須恵器片は撹乱による混入と思われる。

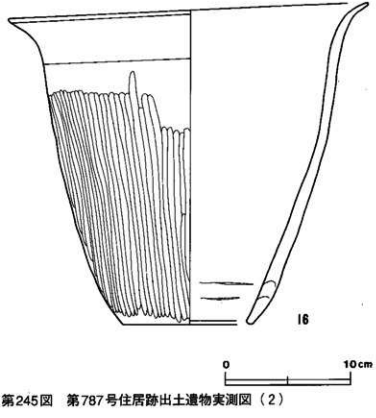
所見　本跡の時期は，出土土器から判断して6世紀後半と考えられる。



第243図　第787号住居跡実測図



第244図　第787号住居跡出土遺物実測図（1）



第245図　第787号住居跡出土遺物実測図（2）

第787号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第244図 1	坏 土師器	A 11.2 B 5.5	完形。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ。内・外面黒色処理。丁寧な調整。	砂粒・雲母・長石 にぶい黄橙色 普通	P 110233　100% PL 76 中央付近覆土下層
2	坏 土師器	A 11.9 B 5.1	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面放射状のヘラ磨き，外面ヘラ削り後，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・礫 灰色 普通	P 110234　60% PL 76 中央付近床面
3	坏 土師器	A 12.4 B 4.1	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色　普通	P 110235　95% PL 76 竈西側床面
4	坏 土師器	A 12.4 B 4.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。丁寧な調整。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色　普通	P 110236　95% PL 76　南東コーナーより覆土中層
5	坏 土師器	A 13.0 B 4.1	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持ち，口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後，ナデ。丁寧な調整。	砂粒・雲母・長石・石英　にぶい橙色 普通　二次焼成	P 110237　95% PL 76　西壁際中央付近床面
6	坏 土師器	A 13.1 B 4.4	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。丁寧な調整。	砂粒・雲母・白色粒子 にぶい橙色　普通	P 110238　90% PL 76　北東コーナー部床面
7	坏 土師器	A 13.2 B 3.9	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面放射状の丁寧なヘラ磨き，外面ヘラ削り後，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P 110239　90% PL 76 中央付近床面
8	坏 土師器	A 14.2 B 4.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面多方向のヘラ磨き，外面ヘラ削り後，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P 110240　95% PL 76 竈西側床面
9	坏 土師器	A 14.4 B 4.4	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持ち，口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面丁寧なヘラ磨き，外面ヘラ削り後，丁寧なナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・石英 にぶい橙色 普通	P 110241　80% PL 76 中央付近床面

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第244図 10	椀 土師器	A 11.4 B 7.3 C 2.5	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内弯して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面ヘラ削り後，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・石英にぶい黄橙色 普通	P110242 80% PL76 中央付近床面
11	椀 土師器	A 13.8 B 10.0 C 6.5	完形。平底。体部は内弯して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面縦方向のヘラ削り後，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英淡赤橙色 普通	P110244 100% PL76 中央付近床面
12	皿 土師器	A 12.4 B 10.6 C 5.2	口縁部一部欠損。小形。平底。体部は内弯して立ち上がり，頂部との境で段を成す。口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部内面ヘラナデ，体部外面横方向のヘラ削り後，ナデ。	砂粒・長石・石英淡赤橙色 普通	P110243 95% PL76 中央付近床面
13	皿 土師器	A 16.2 B 13.8 C 5.6	底部から口縁部にかけての破片。小形。平底。体部は内弯して立ち上がり，頂部から口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，体部外面ヘラ削り後，ナデ。	砂粒・長石・石英褐灰色 普通	P110245 80% PL76 中央付近床面
14	皿 土師器	A 14.2 B 19.8 C 5.6	完形。小形。平底。体部は内弯して立ち上がり，頂部でくびれ，口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面縦方向のヘラ削り後，ナデ。	砂粒・長石にぶい赤褐色 普通	P110246 100% PL76 竈手前床面
15	皿 土師器	A 21.3 B 33.5 C 7.6	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は内弯して立ち上がり，頂部でくびれ。口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面上半部ナデ，下半部縦方向のヘラ磨き。底部ヘラ磨き。	砂粒・雲母浅黄色 普通	P110247 80% PL77 竈手前床面
第245図 16	甑 土師器	A 23.8 B 25.5 C 10.4	口縁部・一部欠損。無底式。体部は外傾して立ち上がり，頂部から口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，体部外面縦方向のヘラ磨き。	砂粒・雲母・長石にぶい橙色 普通	P110248 95% PL76 竈東側床面

第788号住居跡（第246図）

位置　調査11区の中央部，H12b5区。

重複関係　第791号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸4.75m，短軸4.50mの方形である。

主軸方向　N－8°－W

壁　壁高は40～45cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅15～20cm，下幅10～15cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　ほぼ平坦で，壁際を除き踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へ30cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは105cm，両袖部幅は115cmである。天井部が部分的に残り，煙道が確認できる。袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面とほぼ同じ高さで，焼土が薄く堆積している。煙道は，ほぼ垂直に立ち上がる。竈土層中，第9～18層は袖部の土層である。

竈土層解説

1 極暗褐色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2 暗　褐　色　炭化物中量，粘土大ブロック・砂粒少量，焼土粒子微量
3 極暗褐色　焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物微量
4 褐　色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5 褐　色　粘土大ブロック多量，炭化物微量
6 暗　褐　色　焼土大ブロック少量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
7 暗　褐　色　焼土中ブロック少量，焼土小ブロック微量
8 黒　褐　色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子微量
9 暗赤褐色　砂粒中量，炭化粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
10 にぶい褐色　粘土粒子多量，砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子少量
11 にぶい褐色　粘土粒子・砂粒多量，焼土粒子・炭化物少量，炭化粒子微量
12 にぶい褐色　粘土粒子・砂粒多量，炭化粒子中量，焼土小ブロック少量
13 暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量
14 にぶい褐色　粘土粒子・砂粒多量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
15 暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量，焼土粒子・粘土小ブロック微量
16 赤　褐　色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化物・炭化粒子少量
17 にぶい赤褐色　炭化粒子・粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
18 黒　褐　色　炭化粒子多量，砂粒中量，焼土粒子少量

ピット　5か所（P1～P5）。P1～P4は，各コーナー付近に位置する。P1は径約65cmの円形で，深さ54cm，P2は径約50cmで，深さは58cmである。P3は長径50cm，短径40cmの楕円形で，深さ56cm，P4は長径60cm，短径50cmの楕円形で，深さは57cmである。P1～P4は，規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は南壁際中央部に位置し，長径45cm，短径30cmの楕円形で，深さは23cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　7層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　明赤褐色　焼土粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量
4　黒褐色　ローム粒子・焼十小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
6　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
7　暗褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック少量，炭化粒子微量

遺物　土師器片781点，須恵器片5点，土製品2点（支脚）及び鉄製品1点（鉄釘）が出土している。第247図に示した土器はいずれも土師器である。1・2の坏は覆土中から出土している。3の高台付坏は，P5付近の床面から出土している。4の甕は，竈内から出土した破片や竈東側の床面から出土した破片と，竈手前の床面から出土した破片が接合している。5の甕は，P5付近の床面出土片と西壁際北西コーナー寄りから出土した破片が接合している。6・7は土製支脚で，6は竈東側の床面から，7は竈内から出土している。8の鉄釘は，南西コーナー付近の床面から出土している。須恵器片は撹乱による混入と思われる。

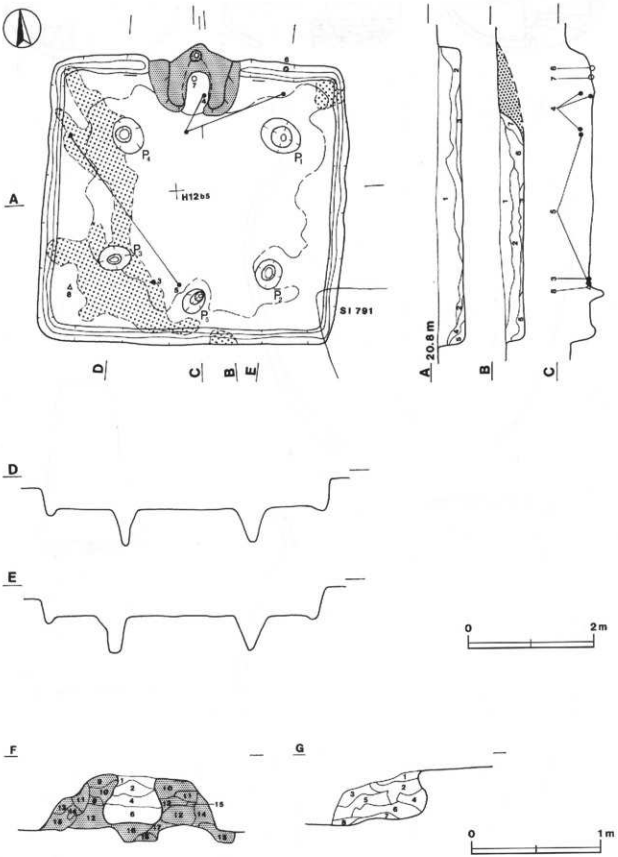
所見　本跡の時期は，出土土器から判断して6世紀後半と考えられる。

第788号住居跡出土遺物観察表

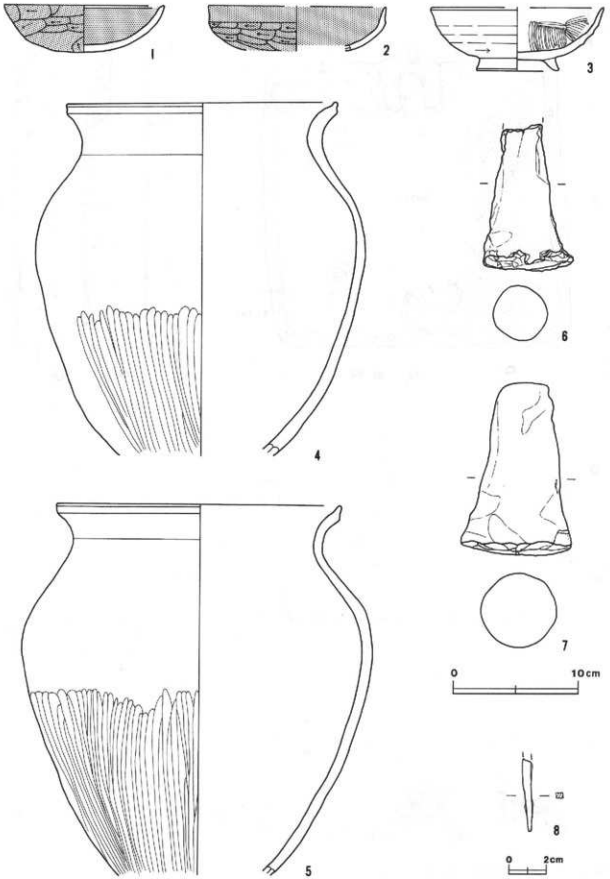
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第247図 1	坏 土師器	A 12.7 B 3.7	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石にぶい黄橙色 普通	P110251 45% P L 77 覆土中
2	坏 土師器	A [14.2] B (3.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石にぶい黄橙色 普通	P110252 45% 覆土中
3	高台付坏 土師器	A [13.8] B 5.0 D 6.4 E 1.2	高台部から口縁部にかけての破片。高台は比較的短く，「ハ」の字状に開く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き，外面上半部ロクロナデ，下半部回転ヘラ削り。高台貼り付け。底部，高台部ナデ。	砂粒・長石にぶい褐色 普通	P110250 60% P L 77 P5付近床面
4	甕 土師器	A 21.6 B (28.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し，頸部でくびれる。口縁部はゆるやかに外反し，端部は軽くつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面上半部ナデ，下半部縦方向のヘラ磨き。	砂粒・雲母・長石・石英にぶい橙色 普通	P110253 75% P L 77 竈周辺中・下層
5	甕 土師器	A 22.8 B (29.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれる。口縁部は緩やかに外反し，端部は軽くつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面上半部ナデ，下半部縦方向のヘラ磨き。	砂粒・雲母・長石・石英にぶい橙色 普通	P110254 70% P L 77 P5付近の床面と西壁際覆土下層

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	計測値 径(cm)	計測値 重量(g)	出土地点	備考
第247図6	土製支脚	(11.8)	3.3～7.3	(298.4)	竈東側床面	D P 11018
7	土製支脚	13.8	4.0～8.8	664.1	竈内	D P 11019　P L 104

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	計測値 幅(cm)	計測値 厚さ(cm)	計測値 重量(g)	出土地点	備考
第247図8	鉄釘	(4.0)	0.6	0.3	(1.64)	南西コーナー付近床面	M11015　P L 109



第246図　第788号住居跡実測図



第247図　第788号住居跡出土遺物実測図

第790号住居跡（第249図）

位置　調査11区の中央部，H12c8区。

重複関係　第796・797号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　北部を第796・797号住居に掘り込まれているため，確認できたのは長軸8.10m，短軸（7.60）mである。南東コーナーが直角であることから，方形または長方形と推定される。

主軸方向　N－19°－W

壁　壁高は約45cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　南西部を除き，巡っている。上幅約15cm，下幅約10cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，中央付近が踏み固められている。

竈　出土遺物から竈を持つ時期と考えられるが，第796号住居に掘り込まれているため確認できない。

ピット　4か所（P1～P4）。P1～P4は各コーナー付近に位置する。P1～P3は径約65cmの円形で，深さは64～90cmである。P4は長径70cm，短径45cmの楕円形で，深さは75cmである。P1～P4は，規模と配置から主柱穴と考えられる。

貯蔵穴　竈西側の北壁際に設けられている。長軸120cm，短軸70cmの不整長方形で，深さは62cmである。断面は逆台形である。

覆土　4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

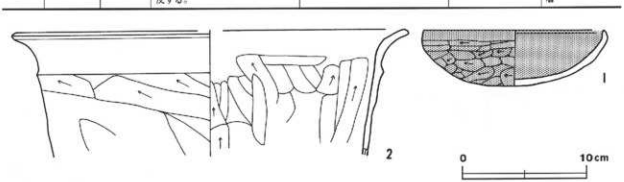
土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子少量，焼土小ブロック微量
4　黒褐色　炭化粒子中量，ローム小ブロック少量

遺物　土師器片171点及び須恵器片7点が出土している。第248図1の土師器坏，2の土師器甕はともに貯蔵穴内から出土している。須恵器片は攪乱による混入と思われる。

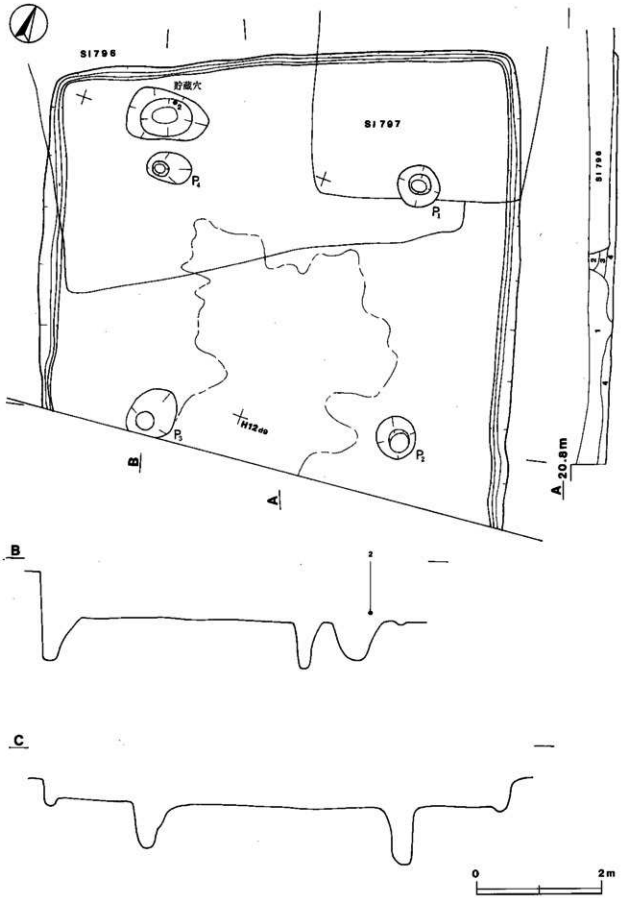
所見　本跡の時期は，出土土器から判断して6世紀後半と考えられる。

第790号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第248図 1	坏 土師器	A 14.4 B 4.4	口縁部一部欠損。丸底。体部は内弯して立ち上がり，不明瞭な稜を持ち，口縁部にいたる。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P110261　95% P L77 貯蔵穴内覆土中
2	甕 土師器	A [31.8] B (10.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内弯して立ち上がり，頸部で段を成す。口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面ヘラ削り後，ナデ。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P110262　10% P L77 貯蔵穴内覆土上層



第248図　第790号住居跡出土遺物実測図



第249図　第790号住居跡実測図

第792号住居跡（第250図）

位置　調査11区の中央部，G12b0区。

重複関係　第797・892号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸6.20m，短軸6.15mの方形である。

主軸方向　N－28°－W

壁　壁高は20～30cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　第797号住居に掘り込まれている部分を除き，巡っている。上幅20～25cm，下幅10～15cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，壁際を除き踏み固められている。

竈　北西壁中央部を壁外へ60cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは140cm，両袖部幅は130cmである。袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面から10cmほど掘りくぼめられ，焼土粒子や焼土小ブロックが約5cmの厚さで堆積している。煙道は，ほぼ垂直に立ち上がる。竈土層中，第1・2・9層が粘土粒子や砂粒を多く含んでいることや堆積状況から，天井部の崩落土と考えられる。

竈土層解説
1　暗　褐　色　粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子少量
2　暗　褐　色　粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3　極暗赤褐色　炭化粒子・粘土粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量
4　暗 赤 褐 色　焼土粒子・炭化粒子中量，焼土小ブロック・炭化物・砂粒少量
5　暗 赤 褐 色　炭化粒子・粘土小ブロック中量，焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量
6　暗 赤 褐 色　炭化粒子多量，焼土中ブロック・小ブロック・粒子中量
7　明 赤 灰 色　灰多量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
8　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量
9　にぶい褐色　砂粒多量，粘土粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
10　黒　褐　色　炭化粒子・砂粒中量，粘土粒子少量，焼土粒子微量
11　暗 赤 褐 色　砂粒多量，焼土粒子中量，炭化粒子・粘土粒子少量
12　にぶい褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，焼土小ブロック微量
13　暗 赤 褐 色　焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子中量，焼土粒子少量

ピット　8か所（P1～P8）。P1～P4は各コーナー付近に位置する。P1は長径75cm，短径55cmの楕円形で，深さは65cm，P2は長径85cm，短径75cmの楕円形で，深さは54cm，P3は径約75cmの円形で，深さは58cm，P4は径約75cmの円形で，深さは71cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。P5・P6は南東壁際中央部に位置し，ともに径約50cmの円形で，深さは順に32cmと28cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P7・P8は竈の東袖と西袖外側の北壁に接して位置している。位置から竈の使用にかかわる施設の柱穴と考えられる。

貯蔵穴　竈東側に設けられている。長軸90cm，短軸70cmの長方形で，深さは45cmである。断面は逆台形である。

貯蔵穴土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量
3　黒褐色　炭化粒子少量，ローム小ブロック微量

覆土　7層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム小ブロック・炭化粒子中量，ローム中ブロック少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　焼土粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　炭化粒子多量，ローム粒子微量
5　にぶい赤褐色　炭化粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
6　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，炭化粒子・粘土小ブロック中量，焼土小ブロック少量
7　黒　褐　色　ローム小ブロック・炭化粒子中量，ローム中ブロック少量

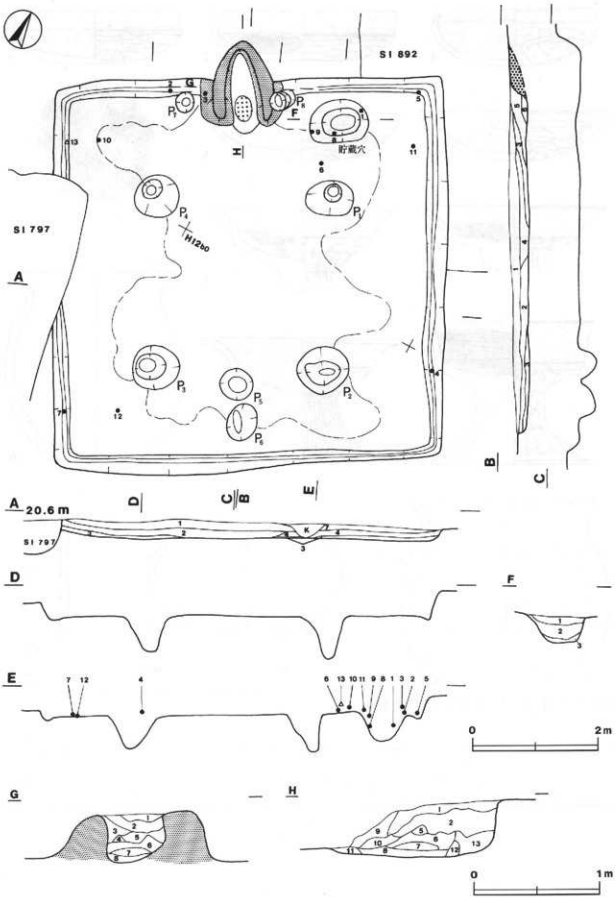
遺物　土師器片685点，須恵器片11点及び鉄製紡錘軸1点が出土している。第251図に示した土器は1～11が土師器で，12が須恵器である。1～5は坏で，1は竈東側の貯蔵穴内から逆位で出土している。2は竈西側の床

面から，3は竈西袖外側に接して覆土下層から，4は東コーナー付近の北東壁の壁溝から，5は北コーナー部の壁溝から出土している。6～9は高坏で，6は竈東側の床面から，7は南コーナー部の壁溝から出土している。8は貯蔵穴内から横位で，9は貯蔵穴の周縁部床面から横位で出土している。10の甕は，西コーナー付近の覆土下層から横位で出土している。11の甕は北コーナー付近の床面から出土している。12の須恵器鉢は南コーナー部の床面から出土している。13の鉄製紡錘車軸は，西コーナー付近の覆土下層から出土している。貯蔵穴周辺から残りの良い土器がまとまって出土しているが，本跡廃絶の際に残されたものと考えられる。須恵器片は撹乱による混入と思われる。

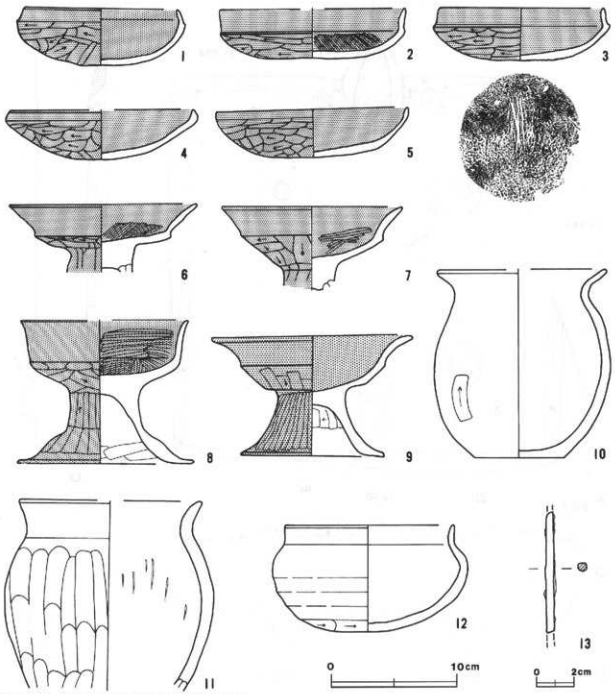
所見　本跡の時期は，出土土器から判断して6世紀後半と考えられる。

第792号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第251図 1	坏 土師器	A 12.2 B 4.5	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・白色粒子 にぶい黄橙色 普通	P110266　60% P L78 貯蔵穴内
2	坏 土師器	A [14.6] B 4.0	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内・外面黒色処理。丁寧な調整。	砂粒・長石・白色粒子 にぶい黄橙色 普通	P110267　45% P L78 竈西側床面
3	坏 土師器	A 13.0 B 4.2	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい黄橙色 普通	P110268　95% P L78　竈西袖外 側覆土下層 底部延石転用
4	坏 土師器	A [14.8] B 3.9	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持ち，口縁部にいたる。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内・外面黒色処理。丁寧な調整。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P110269　45% 北東壁の壁溝
5	坏 土師器	A 15.2 B 3.8	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持ち，口縁部にいたる。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・白色粒子 にぶい橙色　普通	P110270　80% P L78　北コーナー部壁溝
6	高坏 土師器	A 14.9 B (5.4)	坏部片。坏部は軽く内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面放射状のヘラ磨き，外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい赤褐色 普通	P110271　50% 竈東側床面
7	高坏 土師器	A 14.4 B (6.6)	坏部片。坏部は軽く内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面雑なヘラ磨き，外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・白色粒子 にぶい褐色 普通	P110272　40% P L78　南コーナー部壁溝
8	高坏 土師器	A [13.4] B 11.4 D 14.0 E 6.0	坏部・脚部一部欠損。脚部は「ハ」の字状に開き，裾部が広がる。坏部は軽く内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内面横方向のヘラ磨き，外面横ナデ。体部内面横方向のヘラ磨き，外面ヘラ削り。脚部内面ヘラナデ，外面縦方向のヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P110273　70% P L78 貯蔵穴内
9	高坏 土師器	A 16.0 B 9.6 D 11.4 E 9.6	脚部・坏部一部欠損。脚部は「ハ」の字状に開き，裾部が広がる。坏部は軽く内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面，体部内面ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。脚部内面ナデ，外面縦方向のヘラ磨き。内・外面赤彩。	砂粒・長石・雲 にぶい赤褐色 普通	P110274　60% P L78 貯蔵穴周縁部床面
10	甕 土師器	A [13.4] B 14.9 C 7.0	口縁部一部欠損。小形。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部で「く」の字状に屈曲し，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面ヘラ削り後，ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 にぶい橙色　普通	P110275　90% P L78　西コーナー付近覆土下層
11	甕 土師器	A [14.4] B (15.0)	体部から口縁部にかけての破片。小形。体部は内彎して立ち上がり，頸部で段を成す。口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面縦方向のヘラ削り後，ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	P110276　40% P L78　北コーナー付近床面
12	鉢 須恵器	A 13.4 B 8.5	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英・礫・黒色粒子 灰色　普通	P110277　60% 南コーナー部床面



第250図　第792号住居跡実測図



第251図　第792号住居跡出土遺物実測図

図版番号	種　別	計　測　値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第251図13	鉄製紡錘車軸	(6.4)	0.5	0.4	(4.10)	西コーナー付近	M11019

第794号住居跡（第252図）

位置　調査11区の中央部，H12c6区。

重複関係　第791・793・795号住居及び第707号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　一辺7.25mの方形と推定される。

主軸方向　N－37°－W

壁　壁高は約40cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　南西部を除き，巡っている。上幅10～20cm，下幅5～10cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，壁際を除き踏み固められている。特に，貯蔵穴の周囲の硬化が著しい。

竈　北西壁中央部を壁外へ50cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。第791号住居に竈の上部を掘り込まれ，袖部と煙道の下部が残るのみである。焚口部から煙道部までは130cm，両袖部幅は110cmである。袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面からわずかに掘りくぼめられ，焼土粒子が約5cmの厚さで堆積している。竈土層中，第5・10層が粘土粒子や砂粒を多く含んでいることから，天井部の崩落土と考えられる。

竈土層解説
1　暗赤褐色　炭化粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック少量
2　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量，粘土小ブロック少量
3　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土中・小ブロック中量，炭化粒子・粘土小ブロック少量
4　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子多量，炭化粒子中量，炭化物少量
5　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子少量
6　黒褐色　炭化粒子多量，焼土中ブロック・小ブロック・粒子少量
7　赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化粒子少量
8　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子中量，粘土粒子少量
9　赤褐色　焼土粒子多量，焼土中・小ブロック中量，炭化物少量
10　暗赤褐色　焼土小ブロック・粘土小ブロック・砂粒中量，炭化粒子少量

ピット　3か所（P1～P3）。P1～P3はそれぞれ北・東・西コーナー付近に位置し，径25～30cmの円形で，深さは32～57cmである。規模や配置から主柱穴と考えられる。

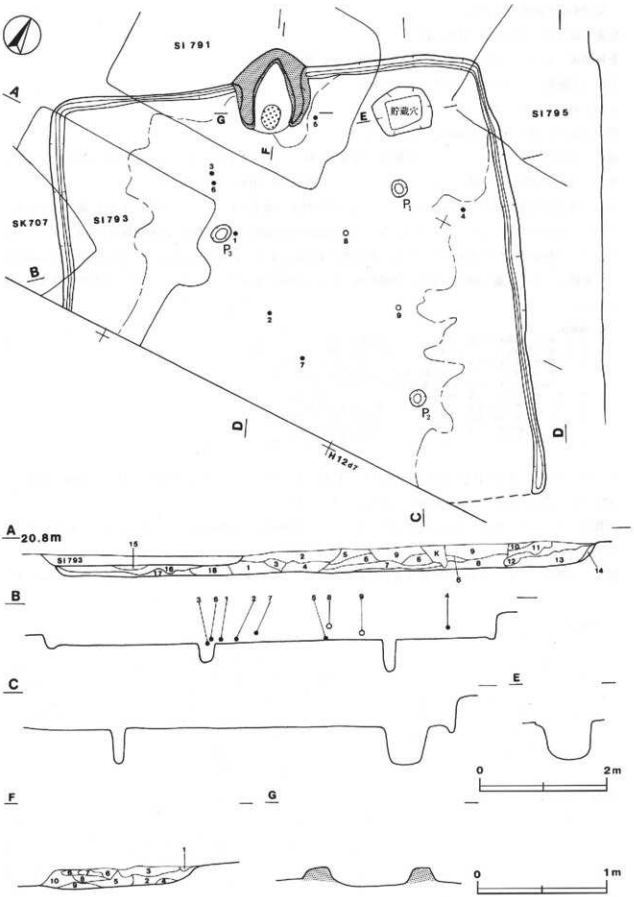
貯蔵穴　北コーナー付近の北東壁際に設けられている。長軸90cm，短軸60cmの長方形で，深さは62cmである。断面は逆台形である。

覆土　18層からなる。不連続な堆積状況や比較的多くのローム ブロックが含まれることから，人為堆積と考えられる。

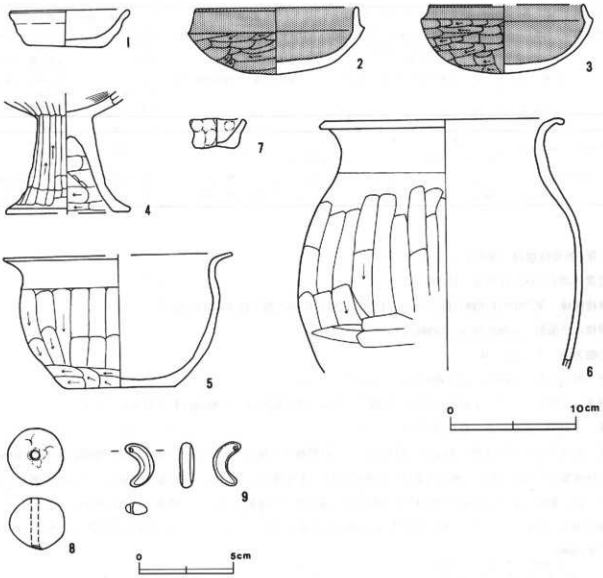
土層解説
1　暗褐色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
2　暗褐色　炭化粒子中量，ローム小ブロック・粒子少量，焼土小ブロック・炭化物微量
3　褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
4　暗褐色　炭化粒子中量，ローム中ブロック・小ブロック・粒子少量
5　黒褐色　ローム小ブロック・炭化粒子中量，ローム中ブロック少量，炭化物微量
6　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
7　黒褐色　炭化粒子多量，ローム小ブロック少量
8　褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
9　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子中量
10　褐色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
11　黒褐色　炭化粒子中量，ローム中ブロック・粒子少量
12　褐色　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック少量，炭化粒子微量
13　褐色　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック少量
14　黒褐色　炭化粒子中量，ローム粒子少量
15　褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
16　褐色　ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック少量
17　褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
18　褐色　ローム粒子中量，ローム中・小ブロック少量，焼土粒子・炭化物微量

遺物　土師器片510点，須恵器片27点及び土製品2点（土玉，勾玉）出土している。第253図に示した土器はいずれも土師器である。1～3は坏で，1はP3付近の床面から，2は中央付近の床面から，3は竈手前の覆土下層から出土している。4の高坏は北東壁寄りの覆土下層から，5の甕は竈手前の床面から，6の甕は竈手前の覆土下層から，7の手捏土器は中央付近の覆土中層から出土している。8の土玉，9の勾玉は中央付近の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して6世紀後半と考えられる。



第252図　第794号住居跡実測図



第253図　第794号住居跡出土遺物実測図

第794号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第253図 1	坏 土師器	A 9.5 B 3.0 C 6.0	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部との境で段を成し，口縁部にいたる。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ナデ。底部ナデ。	砂粒・雲母・黒色粒子 浅黄橙色 普通	P110279　90% PL78 P3付近床面
2	坏 土師器	A 12.9 B 5.2	完形。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。丁寧な調整。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい橙色　普通	P110280　100% PL78 中央付近床面
3	坏 土師器	A [12.4] B 5.5	体部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P110281　60% PL78 竈手前覆土下層
4	高坏 土師器	B [9.6] D [10.0] E 7.6	脚部から坏部にかけての破片。脚部は比較的高く，「ハ」の字状に開く。坏部は内彎して立ち上がる。	坏部内面放射状のヘラ磨き，外面縦方向のヘラ削り。脚部内面横方向のヘラ削り，外面縦方向のヘラ削り。	砂粒・長石・赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	P110282　40% 北東隅寄り覆土下層
5	甕 土師器	A [18.2] B 10.5 C 8.7	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ。外面縦方向のヘラ削り，下端横方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 橙色　普通	P110283　55% PL78 竈手前床面

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第253図 6	甕 土師器	A 19.0 B (20.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内弯し，頸部でくびれ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面縦方向のヘラ削り。下端横方向のヘラ削り。	砂粒・長石・礫 黒褐色 普通	P110284 50% P L78 竈手前覆土下層
7	手捏土器 土師器	A 4.3 B 2.3 C 3.4	完形。体部は外傾して立ち上がる。	口縁部，体部内・外面指頭圧痕。	砂粒 にぶい褐色 普通	P110285 100% P L78 中央部覆土中層

図版番号	種別	計測値 径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第253図8	土玉	2.9	2.7	0.4	22.0	中央付近覆土下層	D P 11020 P L 105
9	土製勾玉	(幅)1.5	2.3	0.2	2.06	中央付近覆土下層	D P 11021 P L 102

第796号住居跡（第254・255図）

位置　調査11区の中央部，H12b8区。

重複関係　第790号住居跡を掘り込み，第795・797号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸6.50m，短軸6.20mの方形である。

主軸方向　N－28°－W

壁　壁高は45～50cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅10～15cm，下幅5～10cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，中央付近が踏み固められている。

竈　北西壁中央部を壁外へ30cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは110cm，両袖部幅は110cmである。袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面から15cmほど掘りくぼめられ，粘性・締まりの弱い焼土粒子と灰が約5cmの厚さで堆積している。煙道は，ほぼ垂直に立ち上がる。

竈土層中，第1・2・3・4層が粘土粒子や砂粒を多量に含んでいることから，天井部の崩落土と考えられる。

竈土層解説

1　にぶい黄褐色　粘土粒子・砂粒多量，ローム小ブロック微量
2　暗　褐　色　粘土粒子・砂粒多量，ローム中・小ブロック少量
3　黒　褐　色　粘土粒子・砂粒多量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
4　黒　褐　色　粘土粒子・砂粒多量，ローム小ブロック中量
5　黒　褐　色　炭化粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
6　暗 赤 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量，焼土中ブロック少量
7　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子中量，炭化粒子少量
8　にぶい褐色　粘土粒子・砂粒多量，ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量
9　赤　褐　色　焼土粒子多量，炭化粒子・粘土粒子少量
10　暗 赤 褐 色　焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・炭化粒子少量
11　暗 褐 灰 色　灰多量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
12　にぶい赤褐色　焼土粒子・粘土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化粒子少量
13　にぶい褐色　粘土粒子・砂粒多量，ローム小ブロック少量
14　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒中量
15　極暗赤褐色　炭化粒子・粘土粒子中量，焼土粒子少量
16　にぶい赤褐色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量

ピット　5か所（P1～P5）。P1～P3は北・東・南コーナー付近に位置し，径60～80cmの円形で，深さは81～94cmである。P4は西コーナー付近に位置し，長径95cm，短径70cmの楕円形で，深さは65cmである。P1～P4は，規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は南東壁際中央部に位置し，径約50cmの円形で，深さは31cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　竈東側の北西壁際に設けられている。長径121cm，短径80cmの楕円形で，深さは55cmである。断面はU字形をしている。

貯蔵穴土層解説
1　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・炭化粒子少量
3　黒褐色　ローム小ブロック・炭化粒子少量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量

覆土　4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

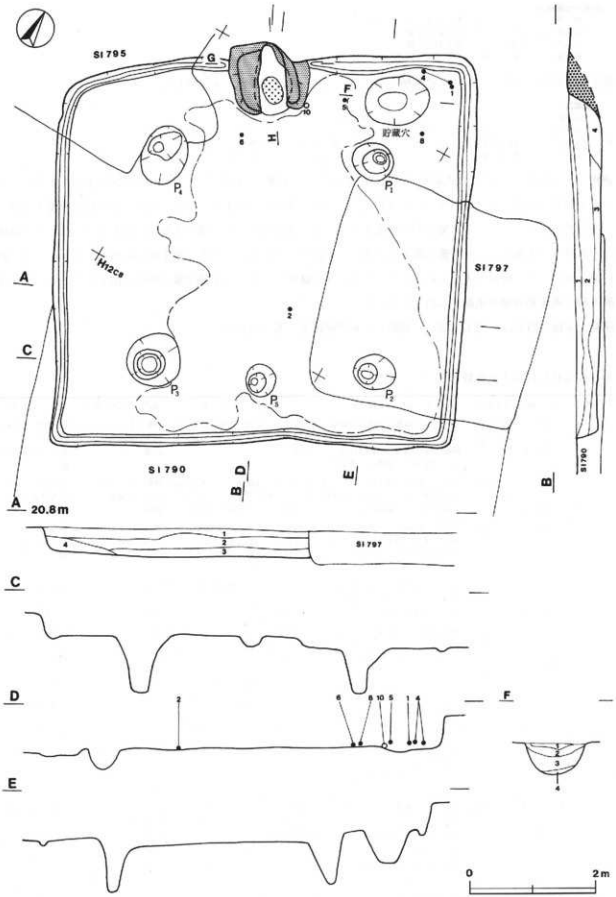
土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子少量，焼土小ブロック微量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子・粘土中ブロック・砂粒少量

遺物　土師器片1,150点，須恵器片11点及び土製品1点（支脚）が出土している。第256図に示した土器はいずれも土師器である。1～4は坏で，1は北コーナー部の床面から出土している。2は，中央付近の覆土下層から逆位で出土している。3は覆土中から出土している。4は北コーナー部の床面から出土している。5の高坏は中央付近の床面から，6の甕は竈手前の床面から出土している。7の甕は覆土中から出土している。8の直口壺は北コーナー付近の床面から出土している。9の鉢形ミニチュア土器は覆土中から出土している。10の土製支脚は竈東袖外側の床面から出土している。

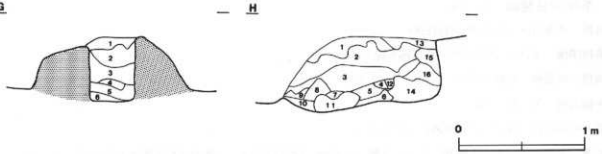
所見　本跡の時期は，出土土器から判断して6世紀後半と考えられる。

第796号住居跡出土遺物観察表

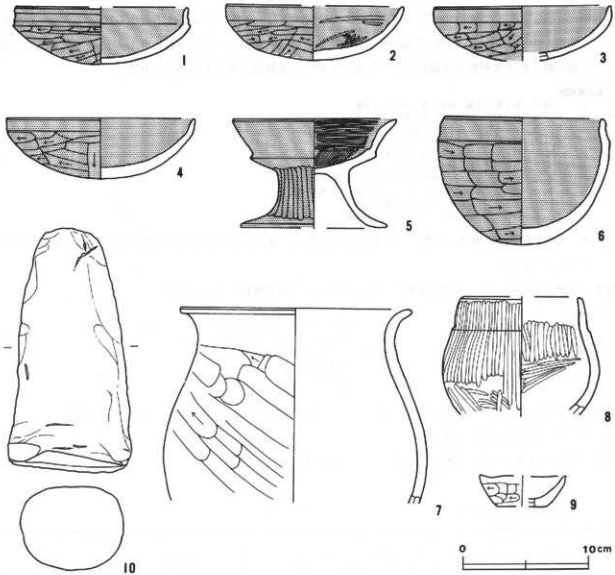
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第256図 1	坏 土師器	A [13.6] B 4.6	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。口縁部には沈線が一条巡る。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 にぶい黄橙色 普通	P110294　60% P L79 北コーナー部床面
2	坏 土師器	A [14.0] B 4.3	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持ち，口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面雑なヘラ磨き，外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・雲 にぶい赤褐色 普通	P110295　80% 中央付近覆土下層
3	坏 土師器	A 14.0 B (4.2)	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持ち，口縁部にいたる。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	P110296　45% P L79 覆土中
4	坏 土師器	A 15.0 B 4.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 灰褐色 普通	P110297　95% P L79　北コーナー部床面
5	高坏 土師器	A 13.0 B 8.6 D [11.6] E 4.4	脚部一部欠損。脚部は「ハ」の字状に開く。坏部は軽く内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内面横方向のヘラ磨き，外面ナデ。体部内面放射状のヘラ磨き，外面ヘラ削り後，ナデ。脚部内面ヘラナデ，外面縦方向のヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒 にぶい褐色 普通	P110298　80% P L79 中央付近床面
6	椀 土師器	A 12.6 B 10.0	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境で稜を成し，口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒 にぶい橙色 普通	P110299　80% P L79 竈手前床面
7	甕 土師器	A 18.4 B (15.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面斜め方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P110300　40% P L79 覆土中
8	直口壺 土師器	A [9.4] B (9.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内面横ナデ，外面縦方向のヘラ磨き。体部内面ヘラ磨き，外面縦方向のヘラ磨き。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P110301　40% P L79　北コーナー付近床面
9	ミニチュア土器 土師器	A [6.8] B 2.5 C [3.8]	鉢形。底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	体部内面ナデ，外面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい褐色 普通	P110302　15% 覆土中



第254図　第796号住居跡実測図（1）



第255図　第796号住居跡実測図（2）



第256図　第796号住居跡出土遺物実測図

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考	
		長さ(cm)	径(cm)	重量(g)			
第256図10	土製支脚	19.4	4.5～9.9	1,300.0	竪穴補外側床面	DP 11022	PL 104

第797号住居跡（第257図）

位置　調査11区の中央部，H12b9区。

重複関係　第790・792・796号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.55m，短軸3.50mの方形である。

主軸方向　N－15°－W

壁　壁高は約55cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅10～15cm，下幅5～10cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，壁際を除き踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へ30cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは90cm，両袖部幅は100cmである。袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面から10cmほど掘りくぼめられ，焼土の中・小ブロックが約7cmの厚さで堆積している。煙道は，ほぼ垂直に立ち上がる。竈土層中，第1・2層が粘土粒子や砂粒を多量に含んでいることから，天井部の崩落土と考えられる。

竈土層解説
1　にぶい褐色　粘土粒子多量，砂粒中量，炭化粒子少量
2　褐　　色　粘土粒子・砂粒多量，炭化粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
4　暗　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
5　暗 赤 褐 色　焼土中・小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
6　極暗赤褐色　炭化粒子中量，焼土粒子・砂粒少量
7　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，炭化粒子中量，焼土小ブロック・砂粒少量
8　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，焼土中・小ブロック中量，炭化粒子少量
9　にぶい赤褐色　灰多量，焼土粒子・炭化粒子少量
10　暗　褐　色　炭化粒子中量，焼土小ブロック・粒子少量，ローム粒子微量

ピット　P1は南壁際中央部に位置し，径約45cmの円形で，深さは34cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　5層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

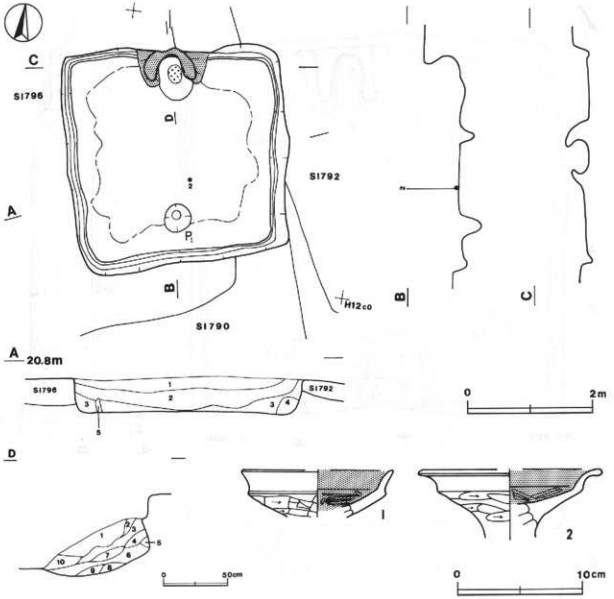
土層解説
1　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子少量，焼土小ブロック微量
4　黒褐色　焼土小ブロック・粒子中量，ローム小ブロック・粒子少量
5　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，ローム小ブロック微量

遺物　土師器片209点及び須恵器片6点が出土している。第257図に示した土器はともに土師器高杯片で，1は覆土中から，2は中央付近の床面から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して6世紀後半と考えられる。

第797号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第257図 1	高　坏 土師器	A [12.0] B (3.7)	坏部片。坏部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面雑なヘラ磨き，外面ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・長石・石英・白色粒子 にぶい褐色　普通	P110303　10% PL79 覆土中
2	高　坏 土師器	A [14.4] B (5.4)	坏部片。坏部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面雑なヘラ磨き，外面ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・白色粒子 にぶい赤褐色　普通	P110304　20% PL79 中央付近床面



第257図　第797号住居跡・出土遺物実測図

第800号住居跡（第258図）

位置　調査11区の中央部，F13f3区。

重複関係　第801・806号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸6.10m，短軸6.00mの方形である。

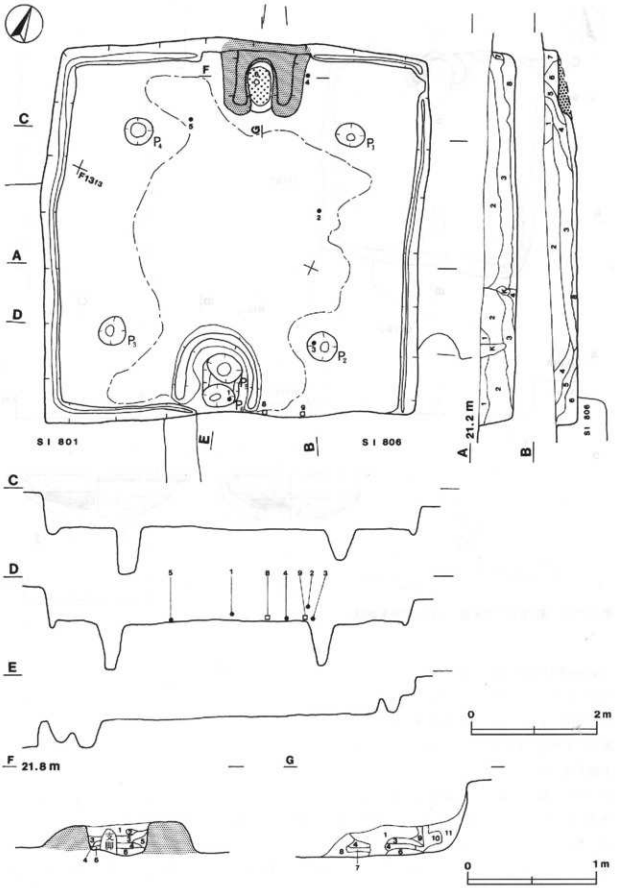
主軸方向　N－20°－W

壁　壁高は40～55cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅10～20cm，下幅5～10cm，深さは約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，中央付近が踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へわずかに掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは115cm，両袖部幅は120cmである。袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面からわずかに掘りくぼめられ，焼土粒子が約5cmの厚さで堆積している。煙道は，ほぼ垂直に立ち上がる。竈土層中，第2・3層が



第258図　第800号住居跡実測図

粘土粒子や砂粒が中量含まれていることから，天井部の崩落土と考えられる。

竈土層解説

1 暗赤褐色 焼土粒子中量，焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒少量
2 暗赤褐色 砂粒中量，粘土粒子少量
3 赤褐色 焼土小ブロック多量，粘土粒子・砂粒中量，焼土大ブロック少量
4 に.ぶい赤褐色 灰多量，焼土粒子中量
5 赤褐色 焼土中・小ブロック中量，焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
6 赤褐色 焼土大ブロック・小ブロック・粒子多量
7 暗赤褐色 焼土粒子中量
8 に.ぶい赤褐色 焼土粒子・灰多量
9 暗赤褐色 焼土粒子多量
10 暗赤褐色 焼土粒子多量，砂粒少量
11 暗赤褐色 焼土粒子多量，炭化粒子・砂粒少量

ピット 6か所（P1～P6）。P1～P4は各コーナー付近に位置し，径40～50cmの円形で，深さは67～76cmである。規模や配置から主柱穴と考えられる。P5・P6は南壁際中央部に位置し，長径55cm，短径40cmの楕円形で，深さは45cmと39cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 8層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色 炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3 暗褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子少量
4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化材・炭化粒子少量
7 褐色 ローム粒子多量
8 暗褐色 ローム小ブロック中量，ローム粒子・焼土大ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量

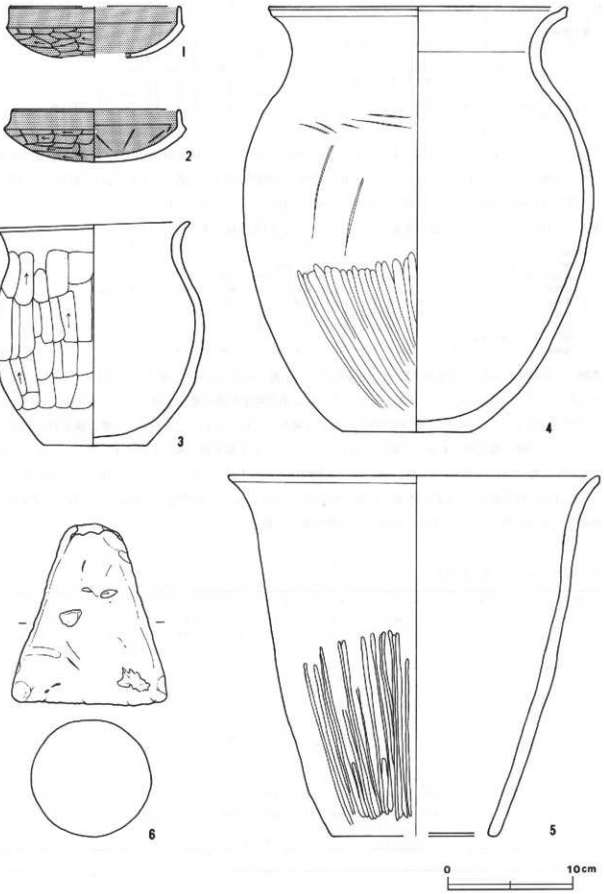
遺物 土師器片1,752点，須恵器片22点，土製品1点（支脚）及び石器3点（砥石）が出土している。第259・260図に示した土器はいずれも土師器である。1の坏は南壁際中央部の覆土下層から，2の坏は中央付近の覆土中層から出土している。3の甕はP2付近の覆土下層から一括で出土している。4の甕は竈東側の床面から正位で，5の甑は竈西側の床面から横位で出土している。6の土製支脚は竈内から出土している。7～9は砥石で，7は覆土中から出土している。8・9は南壁際中央部の床面から出土している。出土した土師器片のほとんどは甕の体部細片で，本跡廃絶後に投棄されたものと考えられる。須恵器片は撹乱による混入と思われる。

所見 本跡の時期は，出土土器から判断して6世紀後半と考えられる。

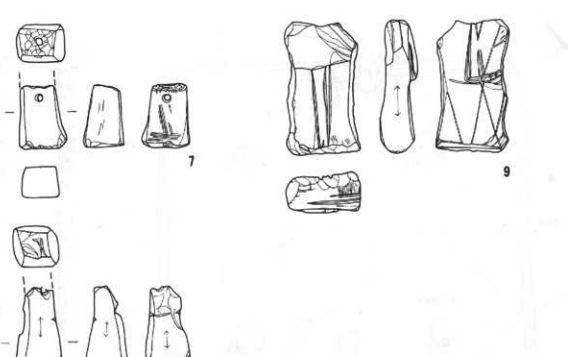
第800号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第259図 1	坏 土師器	A [13.8] B (4.0)	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	P110308 30% P L80 南壁際中央部覆土下層
2	坏 土師器	A 13.2 B 4.3	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は軽く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P110309 95% P L80 中央付近覆土中層
3	甕 土師器	A 15.4 B 17.8 C 8.0	体部・底部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面縦方向のヘラ削り。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P110310 70% P L80 P2付近覆土下層
4	甕 土師器	A 23.4 B 33.7 C 10.3	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面上半部ヘラナデ，下半部縦方向のヘラ磨き。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい褐色 普通	P110311 80% P L80 竈東側床面
5	甑 土師器	A 24.6 B 28.5 C [13.0]	口縁部・体部一部欠損。無底。体部は外帯して立ち上がり，頸部から口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面上半部ヘラナデ，下半部縦方向のヘラ磨き。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい褐色 普通	P110312 80% P L80 竈西側床面

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第259図6	土製支脚	14.6	5.0～12.0	1,160.0	竈内	D P 11023 P L 104



第259図　第800号住居跡出土遺物実測図（1）



第260図　第800号住居跡出土遺物実測図（2）

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
第260図7	砥石	(4.9)	3.9	2.5	0.5	(84.0)	凝灰岩	覆土中	Q11011	PL106
8	砥石	(7.3)	3.1	3.1	－	(93.0)	凝灰岩	南壁際中央部床面	Q11012	PL106
9	砥石	10.4	5.9	3.1	－	244.0	凝灰岩	南壁際中央部床面	Q11013	PL106

第801号住居跡（第261図）

位置　調査11区の中央部，F13g2区。

重複関係　第808号住居跡を掘り込み，第800・802号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸7.75m，短軸7.60mの方形である。

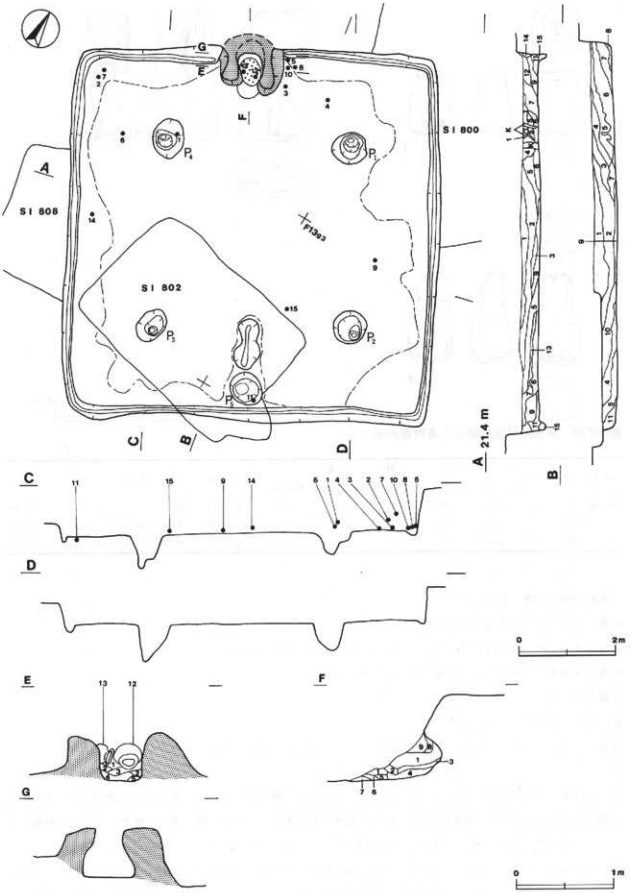
主軸方向　N－28°－W

壁　壁高は約40cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅15～20cm，下幅10～15cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，コーナー部と壁際を除き踏み固められている。

竈　北西壁中央部を壁外へ30cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは120cm，両袖部幅は130cmである。袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化している。竈に架けて使用したままの状態と思われる土師器甕が覆土上層から横位で，支脚に転用したと思われる小形の甕が火床部から逆位で出土している。火床部は床面とほぼ同じ高さで，締まりの弱い焼土粒子と灰が約5cmの厚さで堆積している。煙道は，垂直に立ち上がる。竈覆土中，第1・2層が粘土粒子や砂粒を多く含んでいることから，天井部の崩落土と考えられる。



第261図　第801号住居跡実測図

竈土層解説

1　暗赤褐色　砂粒多量，焼土粒子・粘土粒子中量
2　暗赤褐色　焼土粒子・砂粒多量，粘土粒子少量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，粘土粒子・砂粒少量
4　灰　褐　色　焼土粒子中量，粘土粒子・砂粒・灰少量
5　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，粘土粒子中量，砂粒・灰少量
6　極暗赤褐色　炭化粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒・灰少量
7　暗赤褐色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
8　暗赤褐色　砂粒多量，焼土粒子中量，粘土粒子少量
9　褐　色　ローム粒子多量

ピット　5か所（P1～P5）。P1～P4は各コーナー付近に位置し，径65～70cmの円形で，深さは70～83cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は南東壁際の中央部に位置し，径約70cmの円形で，深さは34cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　15層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

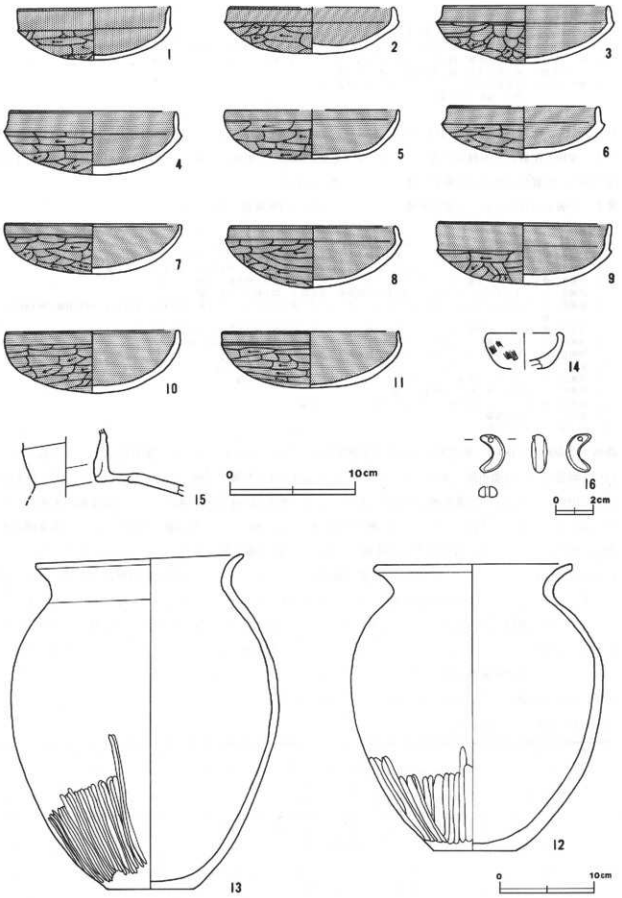
1　暗褐色　ローム中ブロック・小ブロック・粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
2　暗褐色　ローム大・小ブロック中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
3　暗褐色　ローム大ブロック多量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
4　黒褐色　焼土小ブロック中量，ローム大ブロック・ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
5　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
6　暗褐色　ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子少量
7　暗褐色　焼土中ブロック中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化材・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
8　暗褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
9　黒褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化粒子少量
10　暗褐色　ローム大・小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
11　黒褐色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
12　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
13　暗褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量
14　褐　色　ローム粒子多量
15　褐　色　ローム粒子中量

遺物　土師器片1,489点，須恵器片33点及び土製品1点（勾玉）が出土している。第262図に示した土器は1～14が土師器で，15は須恵器である。1～11は坏で，1はP4付近の覆土下層から，2は西コーナー部の覆土下層から出土している。3は竈東側の床面から正位で，4は竈東側の床面から逆位で，5は竈東側の床面から正位で出土している。6は西コーナー付近の覆土下層から，7は西コーナー部の覆土中層から，8は竈東側の床面から出土している。9は北東壁寄りの床面から逆位で，10は竈東側の床面から正位で出土している。11はP5付近の床面から出土している。12・13の甕は竈内から，14のミニチュア土器は南西壁際中央部の覆土下層から出土している。15の須恵器平瓶の頸部片は中央付近の床面から出土している。16の土製勾玉は覆土中から出土している。竈周辺から出土している比較的残りの良い土器は，本跡が廃絶されたときに残されたものと思われる。出土した土器で図示しなかったもののほとんどは土師器甕の体部細片で，床から浮いた状態で出土するものが多く，本跡廃絶後に投棄されたものと思われる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して6世紀後半と考えられる。

第801号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第262図 1	坏 土師器	A 12.2 B 4.1	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子・黒色粒子 灰褐色　普通	P 110313　80% P L.80 P 4付近覆土下層
2	坏 土師器	A [13.0] B 3.7	体部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子・黒色粒子 にぶい橙色 普通　二次焼成	P 110314　40% P L.80 西コーナー部覆土下層
3	坏 土師器	A 13.1 B 4.5	完形。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。丁寧な調整。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子・黒色粒子 にぶい橙色　普通 二次焼成	P 110315　100% P L.80 竈東側床面



第262図　第801号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第262図 4	坏 土師器	A 13.4 B 5.0	完形。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。丁寧な調整。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通　二次焼成	P110316　100% P L80 竈東側床面
5	坏 土師器	A [13.8] B 3.9	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持ち，口縁部にいたる。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。丁寧な調整。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通　二次焼成	P110317　45% 竈東側床面
6	坏・土師器	A [12.0] B 4.0	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒 にぶい橙色 普通 二次焼成	P110318　45% P L80 西コーナー付近 覆土下層
7	坏 土師器	A 14.0 B 4.0	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持ち，口縁部にいたる。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子・黒色粒子 にぶい橙色 普通　二次焼成	P110319　70% P L80 西コーナー部覆土中層
8	坏 土師器	A 13.1 B 4.8	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子・黒色粒子 にぶい褐色 普通　二次焼成	P110320　50% P L80 竈東側床面
9	坏 土師器	A 13.8 B 4.9	完形。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒 にぶい褐色 普通　二次焼成	P110321　100% P L80 北東壁際寄り床面
10	坏 土師器	A 13.8 B 4.9	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持ち，口縁部にいたる。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P110322　95% P L80 竈東側床面
11	坏 土師器	A 14.0 B 4.5	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持ち，口縁部にいたる。	口縁部・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。丁寧な調整。	砂粒・雲母・長石・礫・白色粒子 普通　二次焼成	P110323　80% P L80 P5付近床面
12	甕 土師器	A 20.6 B 29.8 C 9.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，体部外面上半部ヘラナデ，下半部縦方向のヘラ磨き。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 にぶい黄橙色　普通	P110324　95% P L80 竈内
13	甕 土師器	A 21.8 B 35.0 C 9.2	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面上半部ヘラナデ，外面下半部縦方向のヘラ磨き。	砂粒・雲母・長石・礫 にぶい褐色 普通	P110325　95% 竈内
14	ミニチュア土器	A [4.8] B (2.9)	胴部。体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部内・外面ナデ。体部内面ナデ，体部外面には，わずかにハケ目調整痕を残す。ヘラ削り後ナデ。	砂粒・長石 にぶい赤褐色 普通	P110326　30% 南西壁際中央部 覆土下層
15	平瓶 須恵器	B (5.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し，天井部はドーム状をしている。口縁部は頸部から外反する。	ロクロ成形。	砂粒・黒色粒子 褐灰色 普通	P110327　5% P L80 中央付近床面

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第262図16	土製勾玉	2.0	1.3	0.2	1.42	覆土中	D P 11024　P L 102

第804号住居跡（第263・264図）

位置　調査11区の中央部，F13d1区。

重複関係　第812号住居跡を掘り込み，第807号住居及び第32号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　第32号溝に南部を掘り込まれているため，南北軸（6.10）m，東西軸7.10mと推定される。南東コーナーが直角であることから，方形または長方形と推定される。

主軸方向　N－16°－W

壁　壁高は20～25cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　平坦である。壁際を除き踏み固められている。特に，南壁際中央部の出入り口付近は踏み固められ，ブロッ

ク化した床面が盛り上がっている。

竈　付設されていたと思われる北壁を第32号溝に掘り込まれているため確認できなかった。

ピット　5か所（P1～P5）。P1～P3は南東・南西・北西コーナー付近に位置し，径40～65cmの円形で，深さは59～65cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。P4は南壁際中央部に位置し，径約35cmの円形で，深さ58cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P5は南東コーナー部の東壁に接して位置し，径約90cmの円形で，深さ31cmである。断面は半円形で，性格は不明である。

土層解説（P4・P5）

1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
5　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
6　暗褐色　ローム粒子中量，ローム大ブロック少量

覆土　11層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

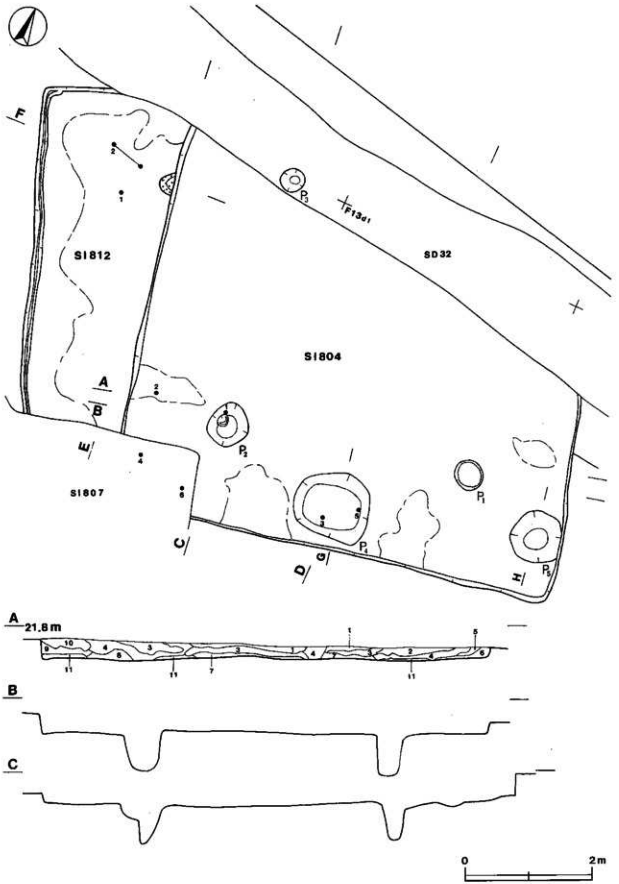
1　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・炭化粒子中量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
3　黒褐色　炭化粒子多量，焼土粒子中量，ローム小ブロック・粒子少量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量
5　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量
6　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
7　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
8　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子少量
9　黒褐色　焼土粒子多量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量
10　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
11　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子少量

遺物　土師器片607点が出土している。第265図に示した土器はいずれも土師器である。1～4は坏で，1はP2の覆土中から出土している。2は南西コーナー付近の覆土下層から正位で出土している。3はP4の覆土上層から，4は南西コーナー付近の床面から出土している。5の高坏脚部はP4付近の覆土上層から横位で，6の手捏土器は南西コーナー付近の床面から正位で出土している。出土した土器で図示したなかったものの多くは土師器甕体部細片で，床面から浮いた状態で出土していることから，本跡が廃絶された後に投棄されたものと思われる。

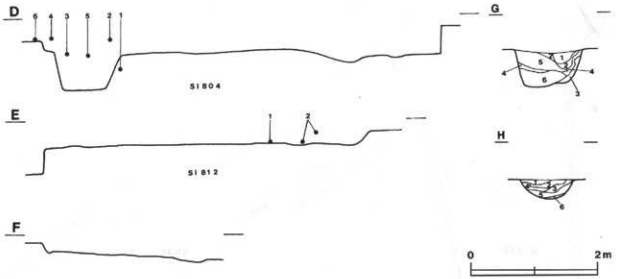
所見　本跡の時期は，出土土器から判断して5世紀末から6世紀初めと考えられる。

第804号住居跡出土遺物観察表

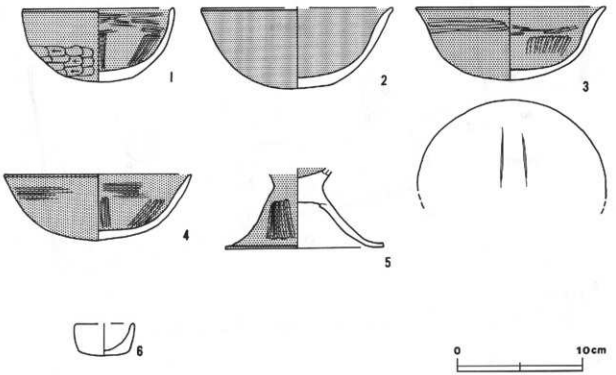
図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第265図 1	坏 土師器	A［12.0］ B 5.8	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。	内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後，丁寧なナデ。内・外面赤彩。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子・黒色粒子にぶい黄橙色　普通	P110334　70% P L 81 P 2 覆土中
2	坏 土師器	A［15.0］ B 6.4	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 灰黄褐色 普通	P110335　55% 南西コーナー付近覆土下層
3	坏 土師器	A 15.0 B 5.7	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部，体部内・外面丁寧なヘラ磨き。体部外面ヘラ磨き。底部ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 にぶい橙色 普通	P110336　50% P L 81 P 4 覆土上層 底部砥石転用
4	坏 土師器	A［15.0］ B 5.2	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部内・外面，体部内面丁寧な放射状のヘラ磨き。体部外面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・雲母・赤色粒子・黒色粒子 橙色　普通	P110337　70% P L 81　南西コーナー付近床面
5	高坏 土師器	B（5.3） D 11.4 E 4.1	脚部片。脚部は「八」の字状に開き，裾部が広がる。	脚部内面ヘラナデ，外面縦方向のヘラ磨き。内・外面赤彩。	砂粒・長石・赤色粒子 にぶい赤褐色 普通 二次焼成	P110338　50% P L 81 P 4 付近覆土上層
6	手捏土器 土師器	A［4.6］ B 2.5 C 3.9	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は軽く内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。	体部外面指頭痕。	砂粒・長石・石英 橙色 普通	P110339　60% P L 81　南西コーナー付近床面



第263図　第804・812号住居跡実測図（1）



第264図　第804・812号住居跡実測図（2）



第265図　第804号住居跡出土遺物実測図

第805号住居跡（第267・268図）

位置　調査11区の中央部，F12e9区。

重複関係　第807号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　第807号住居に南東部を掘り込まれているため，確認できたのは南北軸（3.35）m，東西軸3.80mである。北コーナーが直角であることから，方形または長方形と推定される。

主軸方向　N－26°－W

壁　壁高は約10cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北コーナー部で確認されている。上幅約10cm，下幅約5cm，深さ約5cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，壁際を除き踏み固められている。

炉　中央部のやや北コーナー寄りに付設されている。長径60cm，短径45cmの楕円形を呈し，長径方向はN－35°－Wである。中央部は約10cm掘り下げられ，長径50cm，短径35cmの範囲に焼土ブロックが炉床面を形成している。

炉土層解説
1　赤　褐　色　焼土大ブロック・粒子多量
2　暗赤褐色　焼土大ブロック・粒子中量
3　極暗赤褐色　炭化粒子中量，焼土粒子少量
4　暗赤褐色　ローム小ブロック・粒子中量，焼土粒子少量

覆土　6層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

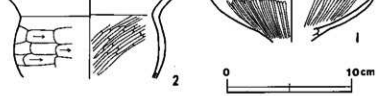
土層解説
1　にぶい赤褐色　ローム小ブロック・粒子少量
2　赤　褐　色　ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3　明赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子多量，炭化粒子少量
4　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
5　にぶい赤褐色　焼土粒子・炭化粒子少量
6　赤　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量

遺物　土師器片30点が出土している。第266図1の土師器高杯の杯部は，北西壁際寄りの床面から逆位で出土している。2の土師器小形甕は南西壁際の覆土下層から出土している。

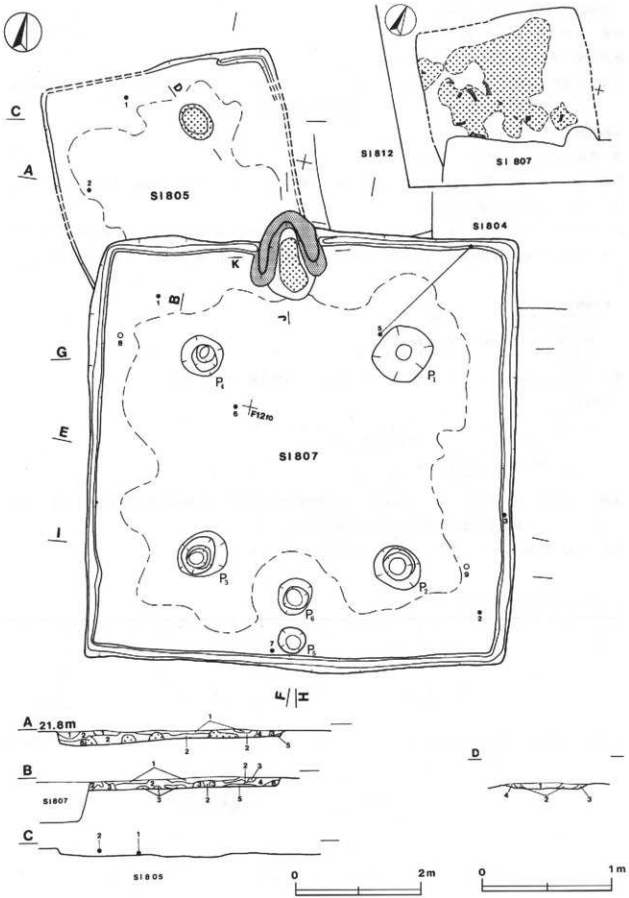
所見　本跡の時期は，出土土器から判断して4世紀後半と考えられる。

第805号住居跡出土遺物観察表

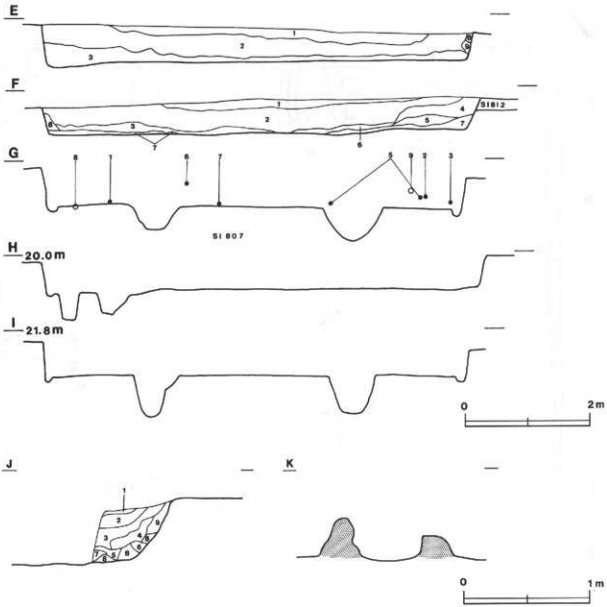
図版番号	器　種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第266図 1	高　坏 土師器	A 13.3 B（3.8）	坏部片。坏部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。	内面・口縁部外面縦方向の丁寧なヘラ磨き。口縁部外面にはハケ目調整痕をわずかに残す。	砂粒・長石・石英 橙色 普通	P 110340　40% P L 81 北西壁際床面
2	甕 土師器	A［14.0］ B（6.8）	体部から口縁部にかけての破片。小形。体部は内彎し，頸部は「く」の字状に屈曲し，口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面横方向のヘラ削り。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P 110341　5% 南西壁際覆土下層



第266図　第805号住居跡出土遺物実測図



第267図　第805・807号住居跡出土遺物実測図（1）



第268図　第805・807号住居跡実測図

第806号住居跡（第269図）

位置　調査11区の中央部，G13f4区。

重複関係　第800号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　東部が調査区域外へ延びているため，確認できたのは南北軸（6.10）m，東西軸6.90mである。北及び西コーナーが直角であることから，方形または長方形と推定される。

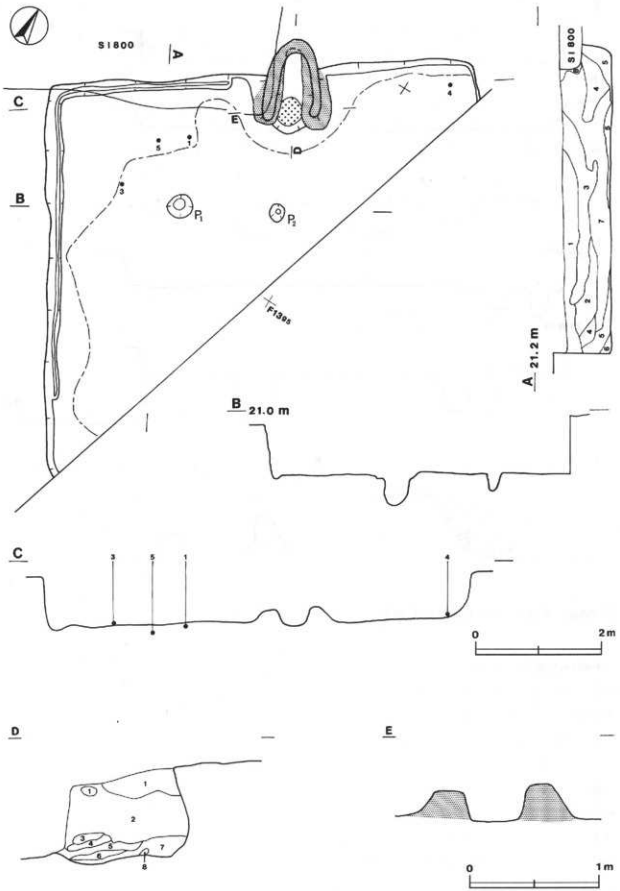
主軸方向　N－30°－W

壁　壁高は約80cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　西コーナー付近で確認されている。上幅約15cm，下幅約5cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，コーナー部及び壁際を除き踏み固められている。

竈　北西壁中央部を壁外へ60cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは130cm，両袖部幅は125cmである。袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面から15cmほど掘りくぼ



第269図　第806号住居跡実測図

められ，締まりの弱い焼土粒子が約5㎝の厚さで堆積している。火床部最奥部は袋状に掘り込まれ，煙道は，ほぼ垂直に立ち上がる。竈覆土中，第1層が天井部の遺存部分で，第2・3層が粘土粒子や砂粒を多量に含んでいることから，天井部の崩落土と考えられる。

竈土層解説
1 灰 褐 色 粘土粒子・砂粒多量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化材少量
2 暗 褐 色 ローム粒子・粘土粒子・砂粒多量，ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子少量
3 にぶい赤褐色 粘土粒子・砂粒多量，焼土粒子少量
4 暗 赤 褐 色 焼土粒子・砂粒多量
5 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒・灰中量
6 灰 褐 色 灰多量・焼土粒子中量，炭化粒子少量
7 暗 赤 褐 色 焼土粒子多量，焼土中ブロック中量，炭化粒子少量
8 暗 褐 色 ローム粒子多量，焼土粒子中量

ピット 2か所（P1・P2）。P1は西コーナー付近に位置し，径約35㎝の円形で，深さは53㎝である。規模と位置から主柱穴と考えられる。P2は竈手前に位置し，径約25㎝の円形で，深さは32㎝である。性格は不明である。

覆土 8層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

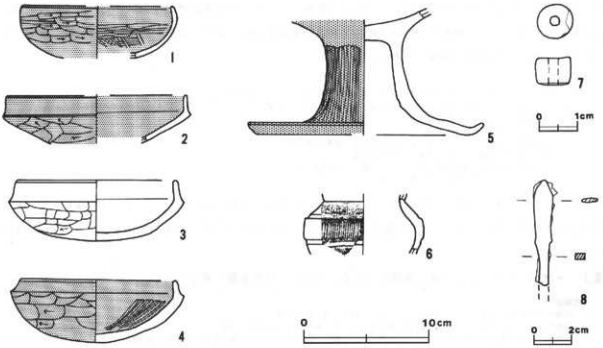
土層解説
1 暗褐色 炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3 暗褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子少量
4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化材・炭化粒子少量
7 褐 色 ローム粒子多量
8 暗褐色 ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量

遺物 土師器片854点，須恵器片3点，石製品1点（臼玉）及び鉄器1点（鉄鏃）が出土している。第270図に示した土器は，1～5が土師器で，6は須恵器である。1～4は坏で，1・3は西コーナー付近の床面から出土している。2は覆土中から出土している。4は北コーナー部の床面から正位で出土している。5の高坏脚部は，西コーナー付近の床面から出土している。6の須恵器（瓮）は覆土中から出土している。7の臼玉，8の鉄鏃は覆土中から出土している。出土した土器で図示しなかったもののほとんどは土師器甕体部細片で，多くが覆土上層からまとまって出土していることから，本跡が廃絶された後に投棄されたものと考えられる。

所見 本跡の時期は，出土土器から判断して6世紀後半と考えられる。

第806号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第270図 1	坏 土師器	A [12.0] B (4.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持ち，口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい黄橙色 普通	P110342 30% 西コーナー付近床面
2	坏 土師器	A [14.4] B (3.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部はわずかに内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P110343 20% P L81 覆土中
3	坏 土師器	A 12.7 B 4.8	体部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後，ヘラナデ。作り丁寧。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	P110344 60% P L81 西コーナー付近床面
4	坏 土師器	A 12.2 B 5.0	完形。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子・黒色粒子 にぶい橙色 普通	P110345 100% P L81 北コーナー部床面
5	高坏 脚部	B (10.0) D [17.2] E 7.6	脚部片。脚部は大形で，「八」の字状に開き，裾部が大きく広がる。端部は軽く上反りする。	坏部底部内面丁寧なヘラ磨き。脚部内面ヘラナデ，外面縦方向のヘラ磨き。外面赤彩。	砂粒・長石・石英・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	P110346 40% P L81 西コーナー付近床面
6	瓮 須恵器	B 4.8	体部片。体部は内彎する。中位に沈線が2条巡り，その間に波雷文の刻文を施している。	ロクロ成形。体部上半部に自然釉。	砂粒・長石 褐灰色 普通	P110347 10% P L81 覆土中



第270図　第806号住居跡出土遺物実測図

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考	
		径（cm）	厚さ（cm）	孔径（mm）	重量（g）				
第270図7	臼玉	0.9	0.8	0.3	1.28	滑石	覆土中	Q11015	PL106

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）		
第270図8	鉄鏃	(5.7)	1.0	0.3	(4.10)	覆土中	M11025

第807号住居跡（第267・268図）

位置　調査11区の中央部，F12f0区。

重複関係　第804・805・812号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸6.85m，短軸6.75mの方形である。

主軸方向　N－10°－W

壁　壁高は50～60cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅15～25cm，下幅10～20cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，壁際を除き踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へ50cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは130cm，両袖部幅は110cmである。袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面よりわずかに高く，粘性・締まりの弱い焼土粒子が約5cmの厚さで堆積している。煙道は，45度ほどの傾斜で立ち上がる。竈覆土中，第4・5層が粘土粒子や砂粒を多く含んでいることから，天井部の崩落土と考えられる。

竈土層解説
1　暗褐色　焼土小ブロック・炭化材・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
2　暗褐色　粘土粒子・砂粒中量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
3　暗褐色　焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
4　灰褐色　粘土粒子多量，砂粒中量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化材少量

5　灰 褐 色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒中量
6　暗赤褐色　焼土小ブロック・粒子多量，粘土粒子・砂粒少量
7　暗赤褐色　焼土中ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒少量
8　暗赤褐色　焼土小ブロック・炭化材・炭化粒子・粘土粒子少量
9　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム中ブロック・焼土中ブロック・粘土粒子・砂粒少量

ピット　6か所（P1～P6）。P1は北東コーナー付近に位置し，径約90cmの円形で，深さは54cm，P2は南東コーナー付近に位置し，長径80cm，短径65cmの楕円形で，深さは64cm，P3は南西コーナー付近に位置し，長径85cm，短径65cmの楕円形で，深さは64cm，P4は北西コーナー付近に位置し，径約65cmの円形で，深さは66cmである。P1～P4は，規模と配置から主柱穴と考えられる。P5・P6は南壁際中央部に位置し，ともに径約50cmの円形で，深さは順に50cmと42cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　9層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

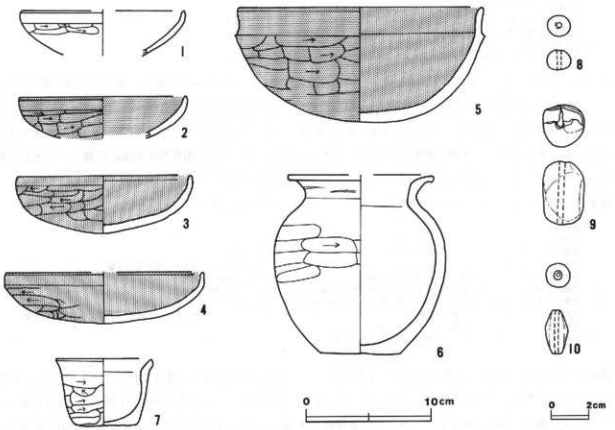
土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子少量
4　暗褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量，ローム小ブロック・粘土粒子少量
5　暗褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量，ローム小ブロック・砂粒少量
6　暗褐色　粘土粒子中量，焼土中ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子・砂粒少量
7　黒褐色　ローム中ブロック中量，ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
8　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
9　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子少量

遺物　土師器片1,817点，須恵器片10点，土製品3点（土玉1，管状土錘1，壷玉1）が出土している。第271図に示した土器はいずれも土師器である。1～5は坏で，1は北西コーナー付近の覆土下層から，2は南東コーナー付近の覆土下層から出土している。3は東壁際の床面から正位で出土している。4は覆土中から出土している。5はP1地点の覆土下層と北東コーナー部の壁際から出土した2片が接合している。6の甕は中央付近の覆土中層から出土している。7のミニチュア土器は南壁際中央部の床面から正位で出土している。8の土玉は北西コーナー付近の床面から，9の管状土錘は南東コーナー付近の覆土下層から出土している。10の壷玉は覆土中から出土している。出土した土器で図示しなかったもののほとんどは土師器甕の体部細片で，多くが壁寄りの覆土上層から出土していることから，本跡が廃絶された後に投棄されたものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して6世紀後半と考えられる。

第807号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第271図 1	坏 土師器	A [13.0] B (3.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持ち，口縁部にいたる。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，丁寧なヘラナデ。丁寧な調整。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい橙色 普通　二次焼成	P110348　20% P L81　北西コーナー付近覆土下層
2	坏 土師器	A 13.4 B (3.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持ち，口縁部にいたる。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P110349　60% P L81　南東コーナー付近覆土下層
3	坏 土師器	A 13.9 B 4.4	体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持ち，口縁部にいたる。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内・外面黒色処理。丁寧な調整。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 灰褐色　普通	P110351　90% 東壁際床面
4	坏 土師器	A [16.0] B (4.0)	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持ち，口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい橙色　普通	P110352　20% 覆土中
5	坏 土師器	A 19.5 B 9.1	体部・口縁部一部欠損。丸底。大形。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子・黒色粒子 にぶい橙色　普通	P110353　80% P L81 P1地点覆土下層



第271図　第807号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第271図 6	甕 土師器	A [11.6] B 14.3 C 6.2	口縁部一部欠損。平底。小形。体部は内彎して立ち上がり，頸部は「コ」の字状で，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	砂粒・雲母・赤色粒子 灰褐色 普通	P 110354　60% P L 81 中央付近覆土中層
7	ミニチュア土器 土師器	A 7.6 B 5.3 C 4.6	鉢形。口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，頸部から口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面横方向のヘラ削り後，ヘラナデ。	砂粒・長石・黒色粒子 橙色 普通	P 110355　95% P L 81 南壁際中央部床面

図版番号	種別	計測値 径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第271図8	土玉	1.1	1.1	0.3	1.44	北西コーナー付近床面	D P 11025　P L 105
9	管状土錘	2.2	3.4	0.3	13.0	南東コーナー付近覆土下層	D P 11026　P L 105
10	土製勾玉	1.2	2.3	0.2	3.66	覆土中	D P 11027　P L 105

第808号住居跡（第272図）

位置　調査11区の中央部，F13g1区。

重複関係　第801号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　第801号住居に東部を掘り込まれているため，確認できたのは南北軸2.70m，東西軸（1.30）mである。北西及び南西コーナーが直角であることから，方形または長方形と推定される。

主軸方向　N－7°－W

壁　壁高は約15cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，壁際を除き踏み固められている。

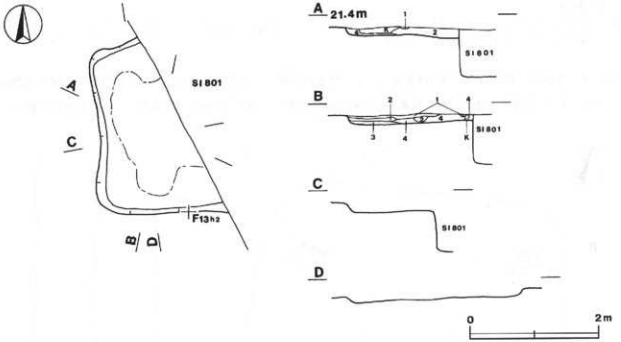
炉　出土遺物から炉を持つ時期と考えられるが，第801号住居に掘り込まれているため確認できない。

覆土　4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量
3　暗褐色　ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物少量
4　褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック・炭化粒子少量

遺物　土師器片214点が出土している。出土した土師器片のほとんどは，体部にハケ目調整が施された甕体部細片である。第273図1の土師器甕の口縁部は，覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して4世紀と考えられる。



第272図　第808号住居跡実測図

第808号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第273図 1	甕 上師器	A〔28.0〕 B（5.3）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頂部は「く」の字状に屈曲し，口縁部は軽く外反する。	口縁部，体部内・外面ハケ目調整。	砂粒・雲母・長石・石英・黒色粒子 にぶい橙色 普通	P110358 10% PL82 覆土中

第273図　第808号住居跡出土遺物実測図

第810号住居跡（第274図）

位置　調査11区の北部，F12f8区。

規模と平面形　炉とそれに対応するピットの配置及び床面と思われる硬化面の広がりから，長軸［5.95］m，短軸［5.00］mの隅丸長方形と推定した。

主軸方向　N－20°－E

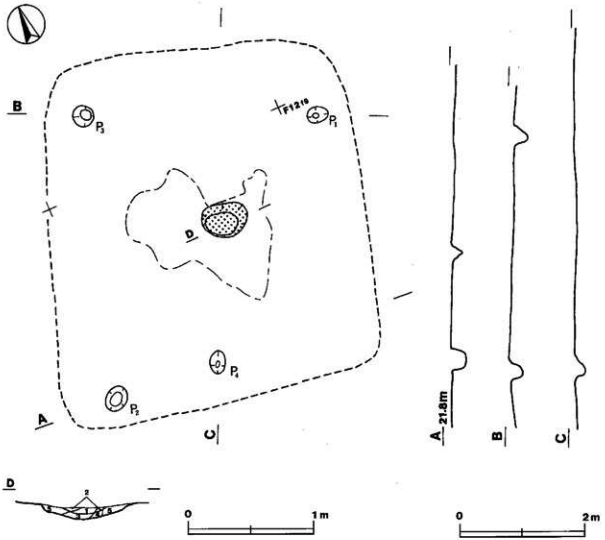
壁　覆土が残っていないため確認できない。

床　平坦で，炉の周囲が踏み固められている。

炉　柱穴の位置から想定される，住居跡の中央部に設けられている。長径70cm，短径55cmの楕円形に焼土が広がり，中央部は深さ15cmほど掘り下げられて，焼土ブロックが炉床面を形成している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土中ブロック・粒子多量
2　暗 褐 色　焼土粒子中量
3　褐　　色　ローム大ブロック多量，焼土粒子中量
4　褐　　色　ローム大ブロック多量，焼土粒子中量
5　暗 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

ピット　4か所（P1～P4）。P1は北東コーナー付近に位置し，長径30cm，短径25cmの楕円形で，深さは23cmである。P2は南西コーナー付近に位置し，径約35cmの円形で，深さは24cm，P3は北コーナー付近に位置し，



第274図　第810号住居跡実測図

径約30cmの円形で，深さは21cmである。P1～P3は，規模と配置から主柱穴と考えられる。P4は南壁際中央部に位置し，長径35cm，短径25cmの楕円形で，深さは15cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

遺物　出土していない。

所見　本跡の時期は，判断できる遺物が出土していないため明確ではないが，柱穴の配置や炉を持っていること及び主軸方向などから判断して，4～5世紀と考えられる。

第811号住居跡（第275図）

位置　調査11区の北部，F12i8区。

重複関係　南部を第813・820号住居及び第35号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸9.90m，短軸9.50mの方形である。

主軸方向　N－17°－W

壁　壁高は25～50cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　西壁下で確認されている。上幅10～15cm，下幅5～10cm，深さ約10cmである。断面はU字形で，部分的にV字形をしている。

床　平坦である。耕作機械により，帯状に撹乱を受けている。

竈　北壁中央部に付設されている。床面まで届く撹乱を受け，煙道と袖部の一部しか残っていないため詳細は不明である。

ピット　12か所（P1～P12）。P1・P3・P4・P6は各コーナー付近に位置し，径40～55cmの円形で，深さは36～90cmである。P2はP1とP3との中間に位置し，径25cmの円形で，深さは29cm，P5はP4とP6との中間に位置し，径35cmの円形で，深さは31cmである。P1～P6は，規模と配置から主柱穴と考えられる。P7は南壁際中央部に位置し，径約50cmの円形で，深さは50cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P8～P12は北壁や南壁寄り及び竈手前に位置し，径25～35cmの円形で，深さは14～45cmである。P8～P12は形状から柱穴と考えられるが，性格は不明である。

貯蔵穴　北東コーナー部に設けられている。長軸110cm，短軸90cmの長方形で，深さは58cmである。断面は逆台形である。

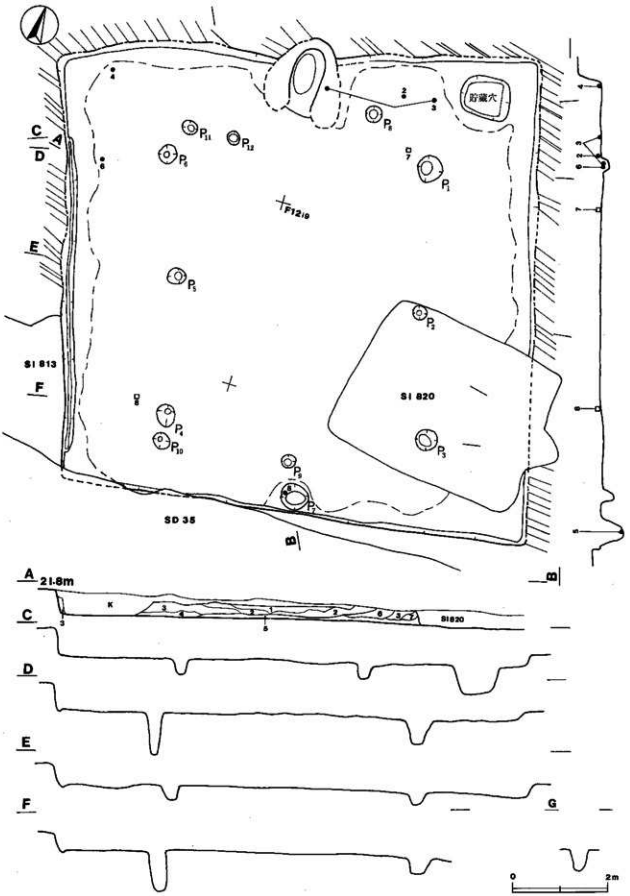
覆土　7層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

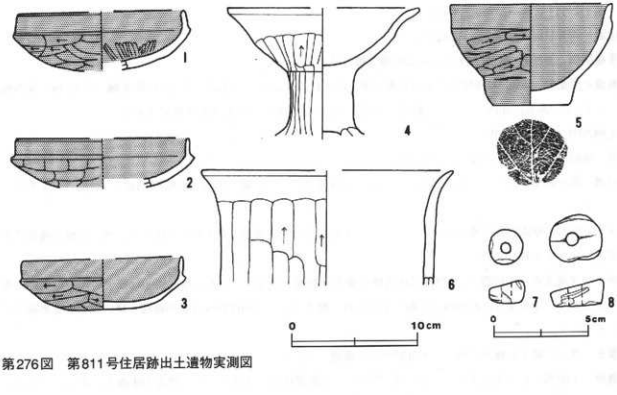
1	暗褐色	ローム中ブロック・小ブロック・粒子少量	5	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2	褐　色	ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量	6	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3	暗褐色	ローム中・小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化材・炭化粒子少量	7	暗褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
4	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量			

遺物　土師器片1,337点，須恵器片21点及び石製品2点（臼玉）が出土している。第276図に示した土器はいずれも土師器である。1の坏は覆土中から出土している。2の坏は竈東側の床面から出土し，3の坏は竈東側の床面と竈東袖部の床面から出土した2片が接合している。4の高坏は北西コーナー部の床面から，5の鉢はP7の底面から，6の甕は北西コーナー付近の覆土下層から出土している。7の臼玉はP1付近の床面から，8の臼玉は南西コーナー付近の床面から出土している。出土した土器で図示しなかったもののほとんどは土師器甕の体部細片で，多くが覆土上層から出土していることから，本跡廃絶後に投棄されたものと思われる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して6世紀前半と考えられる。



第275図　第811号住居跡実測図



第276図　第811号住居跡出土遺物実測図

第811号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第276図 1	坏 土師器	A [13.0] B (4.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は軽く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P 110364　40% 覆土中
2	坏 土師器	A [13.6] B (3.8)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 にぶい黄橙色 普通	P 110365　30% P L 82 竈東側床面
3	坏 土師器	A [12.6] B 4.0	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい黄橙色　普通	P 110366　40% P L 82 竈東側床面
4	高坏 土師器	A [15.0] B (10.1) E (5.1)	脚部上位から坏部にかけての破片。脚部上位は円柱状である。坏部は軽く内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面ヘラ削り。脚部外面縦方向のヘラナデ。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P 110367　40% P L 82 北西コーナー部床面
5	鉢 土師器	A 12.8 B 10.0 C 6.0	体部・口縁部一部欠損。平底で突出気味。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は薄くなって，軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。底部木葉痕。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通 二次焼成	P 110368　70% P L 82 P7成面
6	甕 土師器	A [20.0] B (9.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部から口縁部は稜やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ。外面縦方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英・白色粒子 にぶい黄橙色　普通	P 110369　20% P L 82　北西コーナー付近覆土下層

図版番号	種別	計測値 径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第276図7	臼玉	0.9	0.6	0.3	0.81	滑石	P1付近床面	Q11018　P L 106
8	臼玉	1.4	0.7	0.4	1.32	滑石	南西コーナー付近床面	Q11019　P L 106

第812号住居跡（第263・264図）

位置　調査11区の中央部，F12d0区。

重複関係　第804・807号住居及び第32号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　第807号住居及び第32号溝に掘り込まれているため，確認できたのは南北軸（5.35）m，東西軸（2.45）mである。北西コーナーが直角であることから，方形または長方形と推定される。

主軸方向　N－20°－W

壁　壁高は約10cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　掘り込まれていない部分は巡っているのが確認された。上幅約10cm，下幅約5cmで，断面はU字形をしている。

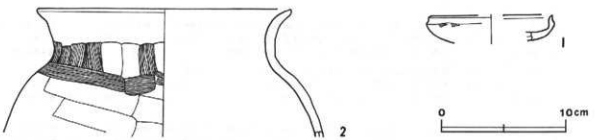
床　平坦で，壁際を除き踏み固められている。床面全体に明赤褐色の焼土粒子が広がり，所々に焼土塊及び黒褐色の炭化材が残っている。

炉　中央部北寄りに位置し，第804号住居跡に東半分を掘り込まれている。推定径40cmほどの円形の範囲に焼土が広がり，中央部分は約10cmほど掘り下げられ，焼土ブロックが径20cmほどの範囲で硬い炉床面を形成している。

覆土　残った覆土が極めて薄いため堆積状況は確認できない。

遺物　土師器片12点が出土している。第277図1の土師器坏は，北西コーナー付近の床面から出土している。2の土師器甕は，北西コーナー付近の床面と覆土下層から出土した2片が接合したものである。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して4世紀と考えられる。床面に焼土と炭化材が散在することから焼失家屋と考えられる。



第277図　第812号住居跡出土遺物実測図

第812号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第277図 1	坏 土師器	A［10.0］ B（2.1）	体部から口縁部にかけての破片。小形。体部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部にはわずかにハケ目痕が残る。	砂粒・長石 にぶい赤褐色 普通	P110370　10% 北西コーナー付近 床面
2	甕 土師器	A 20.2 B（10.0）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部は「コ」の字状で，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ハケ目調整。	砂粒・赤色粒子・黒色粒子 にぶい赤褐色 普通	P110371　15% PL82 北西コーナー付近の床面と覆土下層

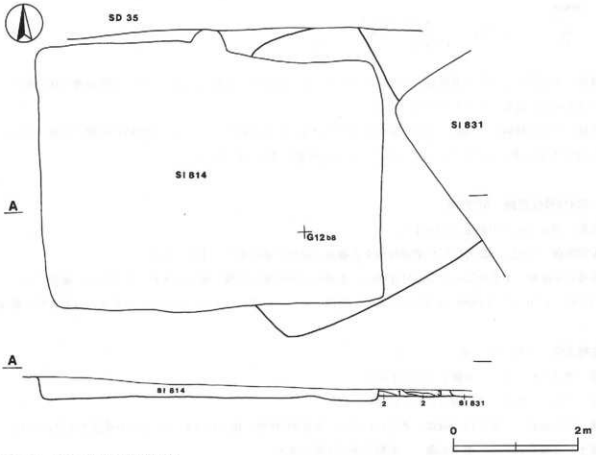
第816号住居跡（第278図）

位置　調査11区の中央部，G12a8区。

重複関係　第814・831号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　西部を第814号住居に，東部を第831号住居に掘り込まれているため，確認できたのは南北軸4.45m，東西軸（3.45）mである。北及び南コーナーが直角であることから，方形または長方形と推定される。

主軸方向　N－25°－W



第278図　第816号住居跡実測図

第814・815・816・817・818号住居跡重複状況

壁　壁高は約10cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦である。あまり踏み固められていない。

覆土　3層からなる。各層にローム ブロックを多く含んでいることや不連続な堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　明褐色　ローム中・小ブロック多量，焼土粒子少量
2　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量
3　褐　色　ローム中ブロック・粒子多量，ローム小ブロック中量

遺物　土師器片28点及び須恵器片6点が出土している。出土した土器は，ほとんどが土師器甕の体部細片で，本跡廃絶後に投棄されたものと考えられる。

所見　本跡の時期は，判断できる土器が出土していないため明確ではないが，古墳時代後期に位置づけられる第831号住居に掘り込まれていることから，それより前と考えられる。

第819号住居跡（第279図）

位置　調査11区の中央部，G12c4区。

重複関係　第822・823号住居，第20号地下式壙及び第42号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　東部を第822・823号住居に，北部を第20号地下式壙に掘り込まれているため，確認できたのは南北軸（4.70）m，東西軸（4.40）mである。南西コーナーが直角であることから，方形または長方形と推定される。

主軸方向　［N－12°－W］

壁　壁高は約15cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，あまり踏み固められていない。

竈　出土遺物から竈を持つ時期と考えられるが，第822号住居に掘り込まれているため確認できなかった。

覆土　2層からなる。覆土が薄く，堆積状況は不明である。

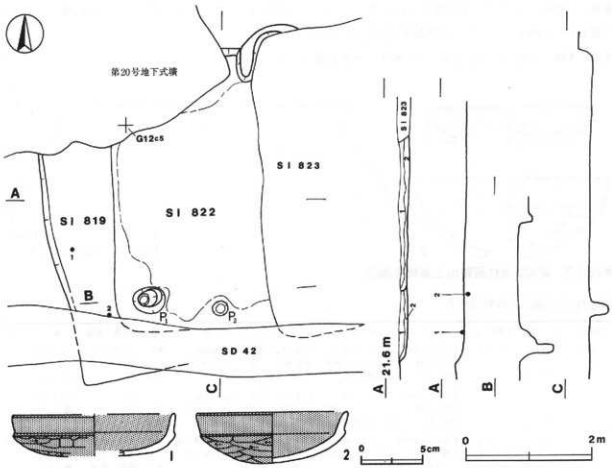
土層解説
1　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・焼土粒子少量

遺物　土師器片13点が出土している。第279図1の土師器坏は，西壁際中央部の床面から出土している。2の土師器坏は，南西コーナー付近の床面から正位で出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して6世紀後半と考えられる。

第819号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第279図 1	坏 土師器	A [13.0] B 3.3	体部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい橙色　普通	P 110381　10% P L 83 西壁際中央部床面
2	坏 土師器	A 12.0 B 4.0	完形。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・石英・赤色粒子 灰褐色　普通	P 110382　100% P L 83　南西コーナー付近床面



第279図　第819・822号住居跡・出土遺物実測図

第822号住居跡（第279図）

位置　調査11区の中央部，G12c5区。

重複関係　第819号住居跡を掘り込み，第823号住居，第20号地下式壙及び第42号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　東部を第823号住居に，北部を第20号地下式壙に掘り込まれているため，確認できたのは南北軸（4.45）m，東西軸（2.40）mである。南西コーナーが直角であることから，方形または長方形と推定される。

主軸方向　N－2°－W

壁　壁高は約25cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，壁際を除き踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へ40cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。西袖と煙道端部を残し，第823号住居に掘り込まれている。西袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化している。

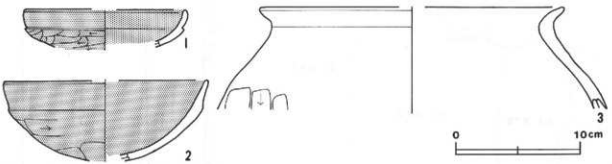
ピット　2か所（P1・P2）。P1は南西コーナー付近に位置し，径約50cmの円形で，深さは51cmである。規模と位置から主柱穴と考えられる。P2は径約25cmの円形で，深さは31cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　2層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物　土師器片111点及び須恵器片7点が出土している。第280図1・2の土師器坏，3の土師器甕は，いずれも覆土中から出土している。須恵器片は攪乱による混入と思われる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して6世紀後半と考えられる。



第280図　第822号住居跡出土遺物実測図

第822号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第280図 1	坏 土師器	A〔14.8〕 B（3.1）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は内彎する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい黄褐色 普通	P 116393 10% P L 83 覆土中
2	坏 土師器	A〔16.4〕 B（6.3）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	雲母・長石 にぶい橙色 普通	P 116394 5% 覆土中
3	甕 土師器	A〔24.4〕 B（8.0）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，体部外面ヘラ削り後，ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 にぶい橙色　普通	P 116395 10% P L 83 覆土中

第826号住居跡（第281図）

位置　調査11区の中央部，F13i4区。

規模と平面形　東部が調査区域外へ延びているため，確認できたのは南北軸8.00m，東西軸（2.20）mである。南西及び北西コーナーが直角であることから，方形または長方形と推定される。

主軸方向　N－6°－E

壁　壁高は約45cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　平坦である。耕作機械による帯状の攪乱を受けている。

竈　出土遺物から竈を持つ時期と考えられるが，東部が調査区域外へ延びているため確認できなかった。

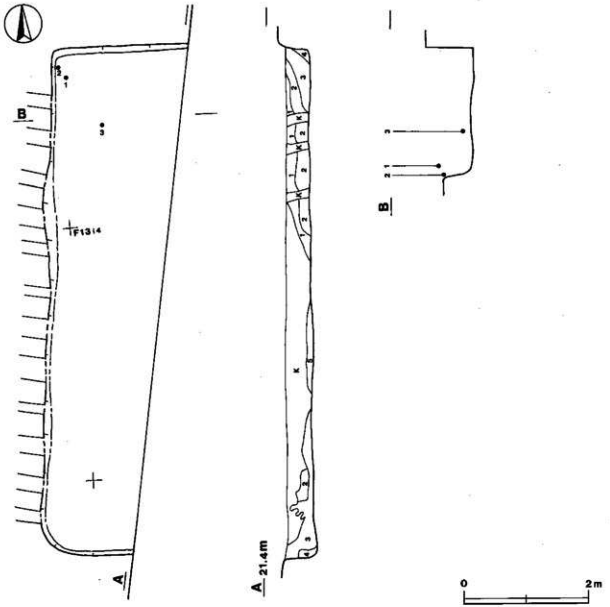
覆土　5層からなる。各層ともロームブロックを比較的多く含んでいるが，レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説
1　暗褐色　ローム中ブロック・粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム大ブロック少量
2　暗褐色　ローム粒子・粘土中ブロック・粘土小ブロック中量，ローム中ブロック少量
3　褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック中量，焼土粒子少量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子少量
5　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量

遺物　土師器片227点及び須恵器片16点が出土している。第282図に示した土器はいずれも土師器で，北西コーナー付近から出土している。1の坏は覆土上層から斜位で，2の坏は覆土上層から逆位で出土している。3の坏は覆土下層から出土している。出土した土器で図示しなかったものの多くは土師器甕の体部細片で，本跡が

廃絶された後に投棄されたものと考えられる。

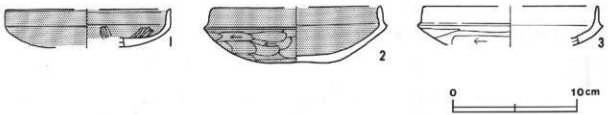
所見　本跡の時期は，出土土器から判断して6世紀後半と考えられる。



第281図　第826号住居跡実測図

第826号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第282図 1	坏 土師器	A [13.2] B 3.0	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面放射状のヘラ磨き，外面ヘラ削り後，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子にぶい橙色　普通	P110414　30% P L83　北西コーナー付近覆土上層
2	坏 土師器	A [13.6] B 4.4	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒 褐灰色 普通	P110415　60% P L83 北西コーナー付近覆土上層
3	坏 土師器	A [13.6] B (4.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒・礫 赤色 普通	P110416　10% 北西コーナー覆上下層



第282図　第826号住居跡出土遺物実測図

第827号住居跡（第283図）

位置　調査11区の中央部，G12b9区。

重複関係　第831・832号住居跡を掘り込み，第830号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.70m，短軸3.20mの長方形である。

主軸方向　N－121°－W

壁　壁高は約10cmである。

床　平坦で，中央付近に部分的に硬化面が確認できた。

竈　南西壁中央部を壁外へ75cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。覆土が薄く，遺存状態は良くない。火床部の焼土と砂質粘土の広がりから，竈の範囲を推定した。

覆土　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
2　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
3　暗褐色　ローム小ブロック少量

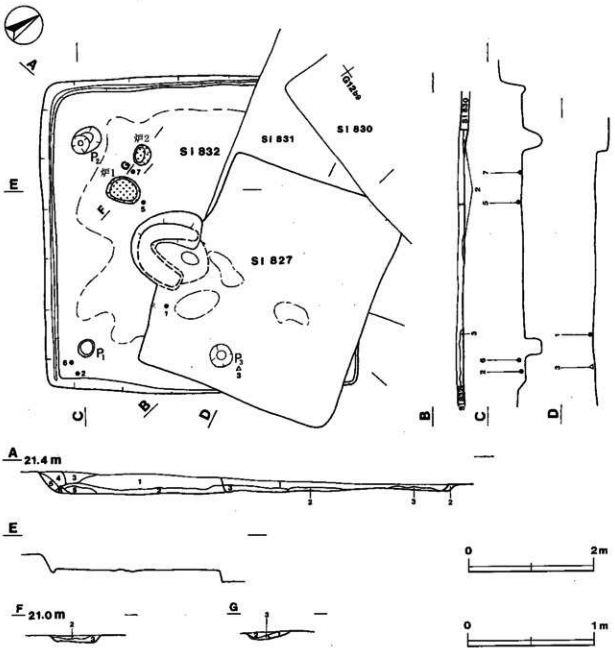
遺物　土師器片268点及び須恵器片3点，鉄製品1点（鎌）が出土している。第284図1の土師器坏は，竈南袖外側の床面から斜位で出土している。2の土師器坏は覆土中から出土している。3の鎌は南壁際の床面から出土している。出土した土器で図示しなかったものの多くは土師器甕の体部細片で，本跡が廃絶された後に投棄されたものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して6世紀後半と考えられる。

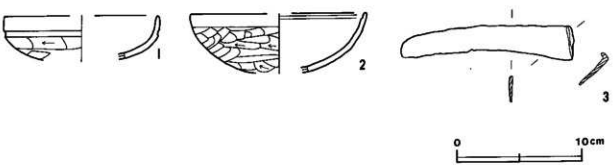
第827号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第284図1	坏 土師器	A［12.4］ B（3.5）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。口縁部下端に沈線が1条巡る。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒・雲母・黒色粒子 にぶい橙色 普通	P110417　10% PL84 竈南袖外側床面
2	坏 土師器	A［14.0］ B（4.7）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持ち，口縁部にいたる。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラナデ。	砂粒・黒色粒子 にぶい赤褐色 普通	P110418　25% PL84 覆土中

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第284図3	鎌	13.8	2.7	0.2	27.7	南壁際床面	M11031　PL109



第283図　第827・832号住居跡実測図



第284図　第827号住居跡出土遺物実測図

第829号住居跡（第285図）

位置　調査11区の中央部，H13c2区。

重複関係　第799号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　東部及び南部が調査区域外へ延びているため，確認できたのは南北軸（4.02)m，東西軸（2.80）mである。北西コーナーが直角であることから，方形または長方形と推定される。

主軸方向　N－2°－E

壁　壁高は約40cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認できる部分については，巡っている。上幅約10cm，下幅約5cm，深さ約5cmで，断面はU字形をしている。

床　ほぼ平坦で，壁際を除き踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へ25cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは110cm，両袖部幅は100cmである。袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面からわずかに掘りくぼめられ，焼土が薄く堆積している。煙道は，火床部から緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1　暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック微量
2　暗赤褐色　焼土中ブロック中量，焼土小ブロック少量，ローム粒子微量
3　極暗褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土中ブロック少量，ローム粒子・焼土小ブロック微量
4　極暗褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物微量
5　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
6　暗 褐 色　焼土小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック微量
7　極暗褐色　焼土粒子・炭化物少量，ローム小ブロック・粒子微量
8　暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量・ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
9　暗赤褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化物微量
10　極暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子微量
11　黒 褐 色　焼土小ブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
12　黒 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量

ピット　P1は北西コーナー付近に位置し，径約55cmの円形で，深さは54cmである。位置から主柱穴と考えられる。

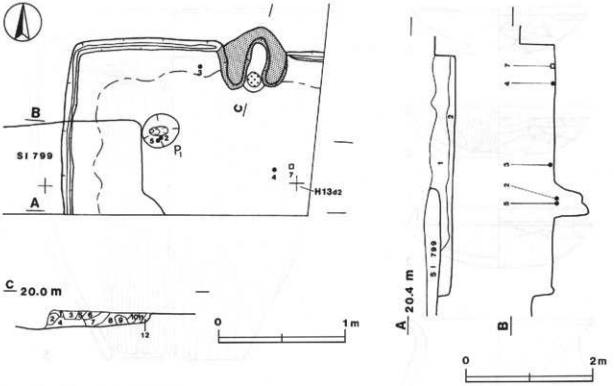
覆土　2層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量

遺物　土師器片633点及び須恵器片6点，石器1点（砥石）が出土している。第286図に示した土器はいずれも土師器である。1の坏は覆土中から，2の坏はP1付近の床面から，3の坏は竈西側の覆土下層から，4の甕は中央付近の床面から，5の甑はP1覆土上層から出土している。6のミニチュア土器は覆土中から出土している。7の砥石は中央付近の床面から出土している。出土した土器で図示しなかったもののほとんどは土師器甕の体部細片や土師器坏の細片で，床面から浮いた状態で出土していることから，本跡廃絶後に投棄されたものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して6世紀後半と考えられる。

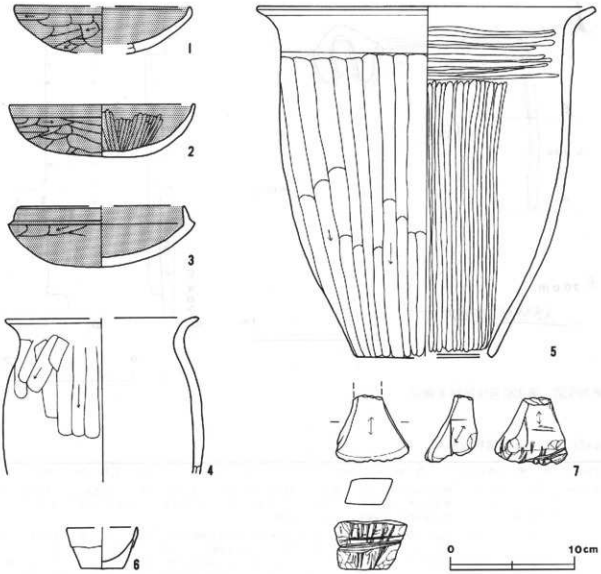


第285図　第829号住居跡実測図

第829号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第286図 1	坏 土師器	A [14.0] B (3.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持ち，口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子にぶい橙色 普通	P 110423 20% 覆土中
2	坏 土師器	A 14.8 B 4.2	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持ち，口縁部にいたる。	口縁部内面，体部内面放射状のヘラ磨き。口縁部外面横ナデ，体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英にぶい橙色 普通	P 110424 50% P L 84 P 1 覆土上層
3	坏 土師器	A [13.6] B 4.8	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母にぶい橙色 普通 二次焼成	P 110425 50% P L 84 竈西側 覆土下層
4	甕 土師器	A [15.6] B (12.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面縦方向のヘラ削り。	砂粒・長石にぶい褐色 普通	P 110426 20% P L 84 中央付近床面
5	甑 土師器	A 22.0 B 28.0 C [11.0]	体部・口縁部一部欠損。無底式。体部は外頸して立ち上がり，頸部から口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面上位横方向のヘラ磨き，中・下位縦方向のヘラ磨き。体部外面縦方向のヘラ削り。	砂粒・長石・黒色粒子にぶい褐色 普通	P 110427 60% P L 84 P 1 付近床面
6	ミニチュア土器 土師器	A [5.6] B 3.3 C 3.2	鉢形。底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外頸して立ち上がり，折り返しのある口縁部にいたる。	口縁部，体部内面ヘラナデ，外面ナデ。	砂粒・長石にぶい橙色 普通	P 110428 60% P L 84 覆土中

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第286図7	砥石	(5.4)	4.1	2.1	(98.9)	砂岩	中央付近床面	Q 11021 P L 106



第286図　第829号住居跡出土遺物実測図

第831号住居跡（第287図）

位置　調査11区の中央部，G12a9区。

重複関係　第816・832号住居跡を掘り込み，第827・830号住居及び第35号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸6.50m，短軸6.35mの方形である。

主軸方向　N－33°－W

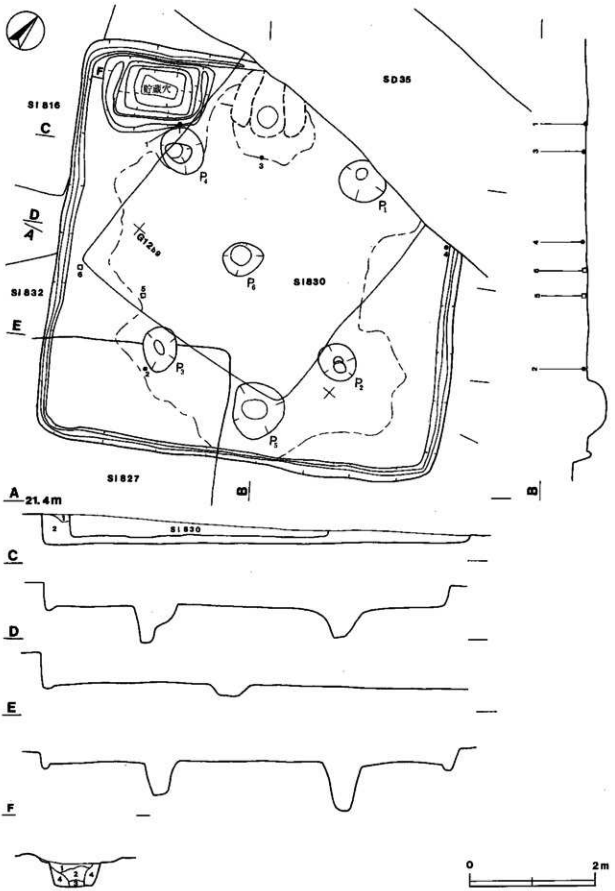
壁　壁高は約20cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　第35号溝に掘り込まれている部分を除き，巡っている。上幅15～20cm，下幅10～15cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，コーナー付近及び壁際を除き踏み固められている。

竈　北西壁中央部を壁外へわずかに掘り込んで，砂質粘土で構築されている。第830号住居に掘り込まれていて，ほとんど形を止めていない。

ピット　6か所（P1～P6）。P1～P4は各コーナー付近に位置し，径60～70cmの円形で，深さは46～75cmで



第287図　第831号住居跡実測図

ある。規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は南東壁際中央部に位置し，長径110cm，短径80cmの楕円形で，深さは32cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は中央部に位置し，径約55cmの円形で，深さは21cmである。性格は不明である。

貯蔵穴　西コーナー部の北西壁際に設けられている。長軸80cm，短軸60cmの長方形で，深さは47cmである。断面は逆台形である。

貯蔵穴土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・粘土粒子少量
3　暗褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
4　暗褐色　ローム小ブロック・焼土粒子少量

覆土　2層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
2　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量

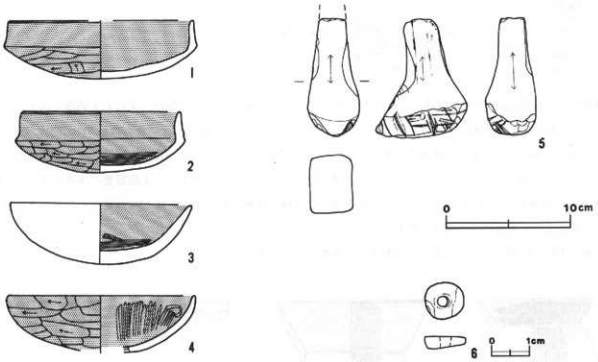
遺物　土師器片366点及び須恵器片15点，石器・石製品2点（砥石，臼玉）が出土している。第288図に示した土器はいずれも土師器である。1～4は坏で，1は竈西側の床面から逆位で，2はP3付近の床面から正位で，4は北東壁際中央部の床面から斜位で出土している。3は竈手前の床面から出土している。5の砥石は中央付近の床面から，6の臼玉は南西壁際中央部の床面から出土している。出土した土器で図示しなかったもののほとんどは土師器甕の体部細片で，床面から浮いた状態で出土しているものが多く，本跡が埋まる過程で投棄されたものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して6世紀後半と考えられる。

第831号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第288図 1	坏 土師器	A［15.0］ B 4.6	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・礫 にぶい橙色 普通	P110432　60% 竈西側床面
2	坏 土師器	A 12.6 B 4.9	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は軽く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい褐色　普通	P110433　95% P L 84 P3付近床面
3	坏 土師器	A 14.6 B 4.8	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持ち，口縁部にいたる。厚手。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内面黒色処理。	砂粒・礫 にぶい褐色 普通	P110434　60% P L 84 竈手前床面
4	坏 土師器	A 15.0 B 4.6	底部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持ち，口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面放射状のヘラ磨き，外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・石英 にぶい橙色 普通	P110435　70% P L 84　北東壁際中央部床面

図版番号	種別	計測値 長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	石質	出土地点	備考
第288図5	砥石	9.3	4.2	4.5	235.0	凝灰岩	中央付近床面	Q11024　P L 106
6	臼玉	1.0	1.0	0.4	0.47	滑石	南西壁際中央部床面	Q11023　P L 106



第288図　第831号住居跡出土遺物実測図

第832号住居跡（第283図）

位置　調査11区の中央部，G12b8区。

重複関係　第827・831号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸4.90m，短軸3.90mの長方形である。

主軸方向　N－57°－W

壁　壁高は10～35cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北西壁際及び南西壁際で確認されている。上幅10～15cm，下幅5～15cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，コーナー部及び壁際を除き踏み固められている。

炉　2か所（炉1・炉2）。炉1・炉2は西コーナー付近に位置し，炉1は長径50cm，短径40cmの楕円形に，炉2は長径35cm，短径25cmの楕円形にそれぞれ焼土が広がり，中央部はともに10cmほど掘り下げられて焼土粒子が堆積している。底部は焼土化したブロックが炉床面を形成している。

炉1・2土層解説
1　赤 褐 色　焼土粒子多量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量
3　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム大ブロック中量

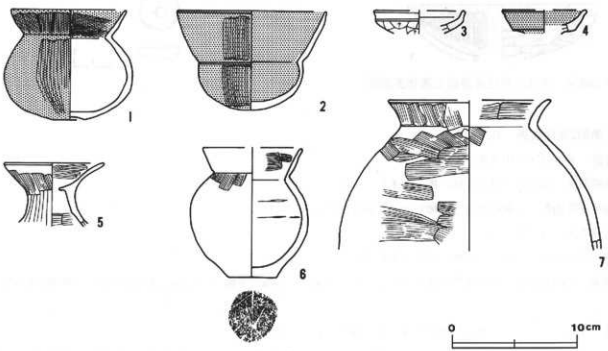
ピット　3か所（P1～P3）。P1は南コーナー付近に位置し，径約25cmの円形で，深さは25cm，P2は西コーナー付近に位置し，長径50cm，短径40cmの楕円形で，深さは31cmである。P1・P2は，規模と配置から主柱穴と考えられる。P3は南壁際中央部に位置し，径約40cmの円形で，深さは17cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　6層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化材・炭化粒子少量
2　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物少量
5　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
6　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量

遺物　土師器片626点及び須恵器片13点が出土している。第289図に示した土器はいずれも土師器である。1の坩，3・4の器台器受部はいずれも覆土中から出土している。2の坩は南コーナー部の床面から出土している。5の器台は西コーナー付近の床面から出土している。6の甕は南コーナー部の覆土下層から，7の甕は西コーナー付近の床面から出土している。出土した土器で図示しなかったものの多くは土師器甕の体部細片で，床面から20～30cmほど浮いた状態で出土するものが多く，本跡が廃絶された後に一括して投棄されたものと思われる。須恵器片は攪乱による混入と思われる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して4世紀の中頃と考えられる。



第289図　第832号住居跡実測図

第832号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第289図 1	坩 土師器	A 9.2 B 8.7 C 2.2	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部は「く」の字状に屈曲し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面ハケ目調整。体部内・外面ナデ。口縁部内・外面，体部外面赤彩。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P110438　85% P L 84 覆土中
2	坩 土師器	A 12.0 B 8.0	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，頸部は「く」の字状に屈曲する。口縁部は体部に比べて大きく，外傾する。	口縁部内面横ナデ，外面縦方向のヘラ磨き。体部内面ナデ，外面縦方向のヘラ磨き。内・外面赤彩。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P110439　90% P L 84 南コーナー部床面
3	器台 土師器	A〔7.2〕 B（1.8）	器受部片。器受部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後，ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 普通	P110440　10% 覆土中

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第289図 4	器台 土師器	A [6.6] B (1.8)	器受部片。器受部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ，内・外面赤彩。	砂粒・石英 にぶい橙色 普通	P110441 10% 覆土中
5	器台 土師器	A 8.1 B (5.1) E (3.1)	脚部から器受部にかけての破片。脚部は「ハ」の字状に開く。器受部は外傾して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部内面ヘラ磨き，外面ハケ目調整。体部内面ヘラ磨き，外面ハケ目調整。脚部内面ハケ目調整，外面縦方向のヘラ磨き。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P110442 60% PL85 西コーナー付近 床面
6	甕 土師器	A [8.0] B 10.3 C 3.8	口縁部・胴欠損。底部は突出気味の平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部は「く」の字状に屈曲し，口縁部は外反する。	口縁部内面ハケ目調整。外面ナデ。体部内面には輪積痕を残す。体部内・外面ナデ，外面上端にはわずかにハケ目調整痕を残す。底部木葉痕。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P110437 85% 南コーナー部覆土下層
7	壺 土師器	A [13.0] B (11.8)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部は「く」の字状に屈曲し，口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面，体部外面ハケ目調整。体部内面ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P110443 10% 西コーナー付近 床面

第834B号住居跡（第290・291図）

位置　調査11区の中央部，G12d5区。

重複関係　第835A・837A号住居跡を掘り込み，第834A・835B号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　第834A号住居に南部を掘り込まれているため，確認できたのは南北軸（1.40)m，東西軸（3.00）mである。北西コーナーが直角であることから，方形または長方形と考えられる。

主軸方向　N－18°－W

壁　壁高は約10cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦である。

ピット　2か所（P1・P2)。P1は北東コーナー付近に位置し，径約40cmの円形，深さ51cm，P2は北西コーナー付近に位置し，径約35cmの円形で，深さは37cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。

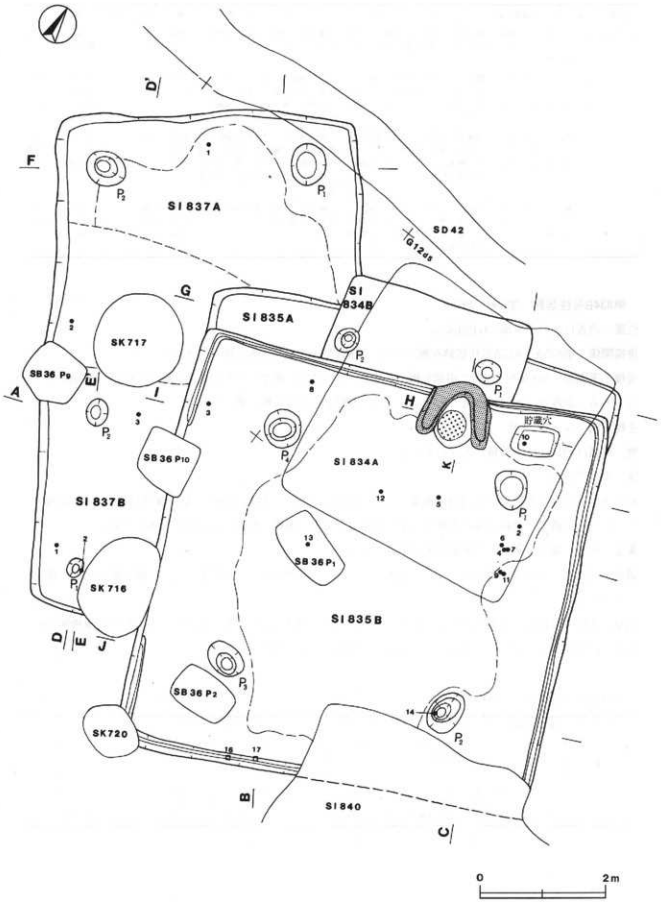
覆土　残った覆土が薄いため堆積状況は不明である。

遺物　土師器片97点及び須恵器片1点が出土している。第292図1の土師器甕，2の土師器甑はともに覆土中から出土している。

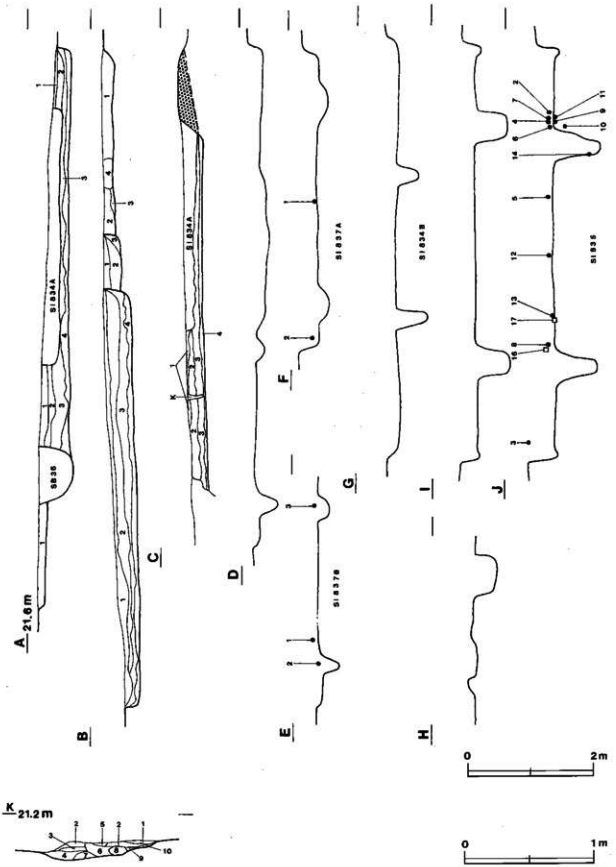
所見　本跡の時期は，遺物がほとんど出土していないため明確ではないが，出土した土器細片や重複関係から第835A号住居跡より新しく，第834A・835B号住居跡より古い6世紀と考えられる。

第834B号住居跡出土遺物観察表

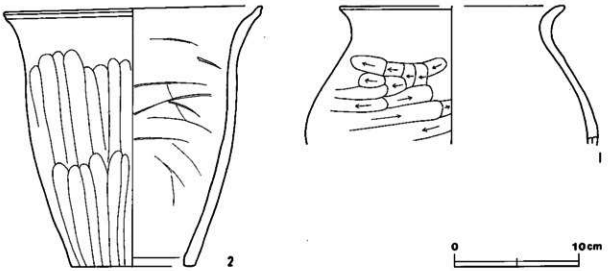
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第292図 1	甕 土師器	A [17.8] B (11.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	砂粒・雲母・赤色粒子・黒色粒子 明褐色 普通	P110449 20% PL85 覆土中
2	甑 土師器	A 20.6 B 20.7 C 9.8	体部・口縁部一部欠損。無底式。体部は外傾して立ち上がり，頸部から口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面縦方向のヘラ削り。	砂粒・長石・石英・黒色粒子 普通	P110450 70% PL85 覆土中



第290図　第834B・835A・835B・837A・837B号住居跡実測図（1）



第291図　第834B・835A・835B・837A・837B号住居跡実測図（2）



第292図　第834B号住居跡出土遺物実測図

第835A号住居跡（第290・291図）

位置　調査11区の中央部，G12d4区。

重複関係　第837A号住居跡を掘り込み，第834A・834B・835B号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　第835B号住居に南部を掘り込まれているため，確認できたのは南北軸（0.85）m，東西軸6.60mである。北西コーナーが直角であることから，方形または長方形と推定される。

主軸方向　N－18°－W

壁　壁高は約15cmで，外傾して立ち上がる。

床　確認できた部分については，平坦である。

覆土　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子少量
2　黒褐色　ローム中・小ブロック少量
3　灰褐色　ローム小ブロック少量

遺物　土師器片27点が出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器と重複関係から，第837A号住居跡より新しく，第834B・835B・834A号住居跡より古い6世紀と考えられる。

第835B号住居跡（第290・291図）

位置　調査11区の中央部，G12d5区。

重複関係　第837A・837B・835A・834B号住居跡を掘り込み，第834A・840号住居及び第36号掘立柱建物，第716・720号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸6.90m，短軸6.70mの方形である。

主軸方向　N－27°－W

壁　壁高は25～40cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　第840号住居に掘り込まれている部分を除き，巡っている。上幅約15cm，下幅約10cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，コーナー付近及び壁際を除き踏み固められている。

竈　北西壁中央部を壁外へ20cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは90cm，両袖部幅は120cmである。袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面から10cmほど掘りくぼめられ，少量の焼土と多量の灰が約10cmの厚さで堆積している。煙道は，比較的緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈覆土中，第１・２・８層が粘土粒子や砂粒を多く含んでいることから，天井部の崩落土と考えられる。

竈土層解説

1	暗　褐　色	ローム粒子・粘土粒子多量，焼土粒子少量
2	灰　褐　色	粘土粒子多量，焼土粒子・砂粒少量
3	暗 赤 褐 色	焼土粒子多量
4	黒　褐　色	炭化粒子多量，灰中量，焼土小ブロック・炭化物少量
5	暗 赤 褐 色	焼土小ブロック・粘土粒子少量
6	暗 赤 褐 色	焼土小ブロック・粘土粒子少量
7	にぶい赤褐色	焼土小ブロック・粘土粒子少量
8	暗 赤 褐 色	粘土粒子中量，焼土中・小ブロック少量
9	にぶい赤褐色	焼土大・小ブロック多量
10	褐　灰　色	焼土中ブロック少量

ピット　４か所（P1～P4）。P1・P4はそれぞれ北・西コーナー付近に位置し，径約60cmの円形で，深さは52cmと53cmである。P2・P3はそれぞれ東・南コーナー付近に位置し，ともに長径70cm，短径50cmの楕円形で，深さは75cmと66cmである。P1～P4は，規模と配置から主柱穴と考えられる。

貯蔵穴　北コーナー部の北西壁際に設けられている。長軸70cm，短軸50cmの長方形で，深さは35cmである。断面は逆台形である。

覆土　４層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

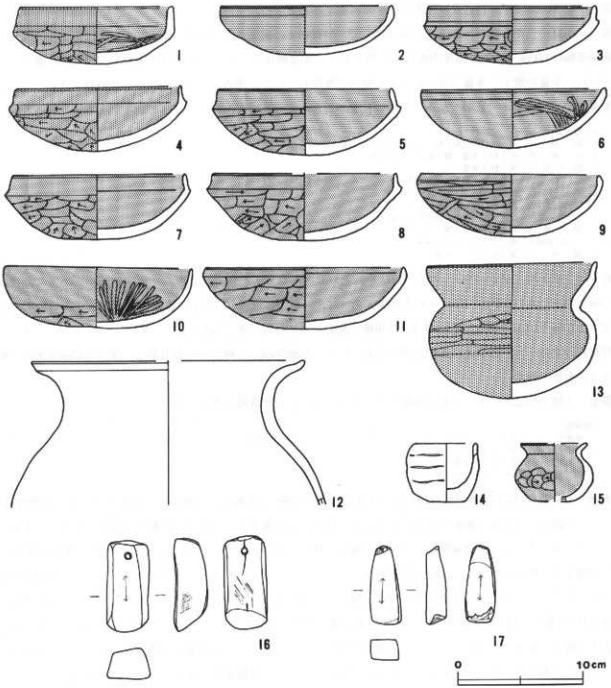
1	暗褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物少量
2	黒褐色	ローム中・小ブロック少量
3	灰褐色	ローム小ブロック少量
4	褐　色	ローム大・小ブロック少量

遺物　土師器片777点，須恵器片19点及び土製品１点（支脚），石器２点（砥石）が出土している。第293図に示した土器はいずれも土師器である。１から11は坏で，１は覆土中から出土した数片が接合したものである。２・４・６・７・９・11は東壁寄りの床面や覆土下層から出土している。３は西コーナー付近の覆土中層から，５は竈手前の覆土下層から，８は北西壁際西コーナー寄りの覆土下層から，10は北コーナー付近の貯蔵穴内から出土している。12の甕は中央付近の覆土下層から，13の壺は中央付近の床面から出土している。14の手捏土器はP2の覆土下層から，15のミニチュア土器は覆土中から出土している。16・17の砥石は南東壁際中央部の覆土下層及び床面から出土している。本跡の床面から出土している比較的遺存状態の良い土器は，本跡廃絶時にそのまま残されたものと思われる。また，図示しなかった土師器細片は床面から浮いた状態で出土していることから，本跡廃絶後に投棄されたものと思われる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して６世紀後半と考えられる。

第835B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第293図 1	坏 土師器	A 12.1 B 4.4	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内弯して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面等なへラ磨き，外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 明褐灰色　普通	P110453　70% P L85 覆土中
2	坏 土師器	A 13.7 B 3.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内弯して立ち上がり，不明瞭な稜を持ち，口縁部にいたる。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英・礫　にぶい橙色　普通　二次焼成	P110454　90% P L85 東壁寄り床面
3	坏 土師器	A 13.4 B 4.5	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内弯して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・礫 明褐灰色 普通	P110455　80% P L85 西コーナー付近覆土中層



第293図　第835B号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第293図 4	坏 土師器	A 13.4 B 5.0	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。丁寧な調整。	砂粒・雲母・石英・礫・赤色粒子 にぶい橙色　普通 二次焼成	P 110456　95% P L 85 東壁寄りの床面
5	坏 土師器	A 13.8 B 5.3	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は薄く，内傾する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒 にぶい橙色 普通　二次焼成	P 110457　95% P L 85 竈手前覆土下層
6	坏 土師器	A 14.5 B 4.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持ち，口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面雑なヘラ磨き，外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子・黒色粒子 にぶい橙色　普通	P 110458　95% P L 85 東壁寄りの床面

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第293図 7	坏 土師器	A 13.8 B 5.0	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は薄く，内傾する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子・黒色粒子 明褐色　普通	P110459　90% P L85 東壁寄りの床面
8	坏 土師器	A [14.6] B 5.3	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子・黒色粒子 明褐色　普通	P110460　50% 北西壁際覆土下層
9	坏 土師器	A 14.1 B 4.9	L1縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持ち，L1縁部にいたる。	L1縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内・外面黒色処理。丁寧な調整。	砂粒・長石・赤色粒子 にぶい橙色　普通	P110461　80% 東壁寄り床面
10	坏 土師器	A 15.0 B 4.7	完形。丸底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜をもち，口縁部にいたる。	L1縁部内・外面横ナデ。体部内面放射状のヘラ磨き，外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい褐色　普通	P110462　100% P L85　北コーナー付近貯蔵穴内
11	坏 土師器	A 15.8 B 4.9	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持ち，L1縁部にいたる。	L1縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P110463　70% P L85 東壁寄り床面
12	甕 土師器	A [21.6] B (11.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。	L1縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色　普通	P110464　5% 中央付近覆土下層
13	壺 土師器	A 13.4 B 10.7	L1縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，頸部は「く」の字状に屈曲する。L1縁部は外傾し，端部は直立する。	L1縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内・外面赤彩。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色 普通	P110452　95% P L85 中央付近床面
14	手捏土器 土師器	A 5.0 B 4.6	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。	体部外面には輪積痕が残る。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P110465　70% P L85 P2覆土下層
15	ミニチュア土器 土師器	A [5.2] B 4.6 C 2.8	壺形。体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面ヘラ削り後，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・石英 にぶい橙色 普通	P110466　40% P L85 覆土中

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第293図16	砥石	7.2	3.4	2.4	0.5	89.0	凝灰岩	南東壁際覆土下層	Q11028　P L106
17	砥石	6.1	2.5	1.7	−	42.0	凝灰岩	南東壁際床面	Q11027　P L107

第836号住居跡（第294図）

位置　調査11区の中央部，G12e0区。

重複関係　第842・904号住居跡を掘り込み，第809・833号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　一辺6.15mの方形である。

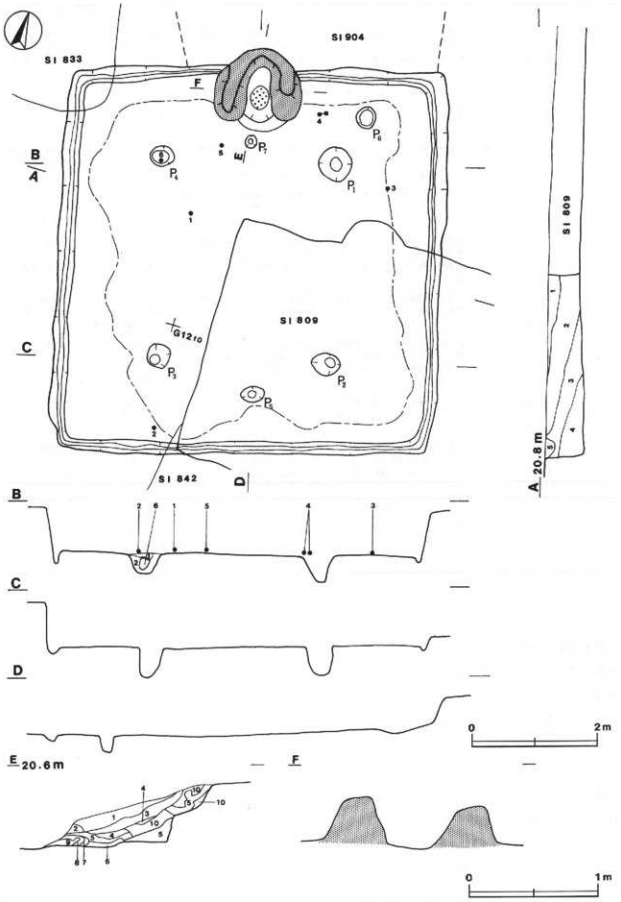
主軸方向　N−14°−W

壁　壁高は約70cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅10〜20cm，下幅5〜10cm，深さ10〜20cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，壁際を除き踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へ35cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは120cm，両袖部幅は140cmである。袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面から10cmほど掘りくぼめられ，焼土の中・小ブロックが約5cmの厚さで堆積している。煙道は，70度ほどの角度で立ち上がる。竈覆土中，第1・9・10層が粘土粒子や砂粒を多量に含んでいることから，天井部の崩落土と考えられる。



第294図　第836号住居跡実測図

竈土層解説

1 褐　灰　色　砂粒多量，ローム大ブロック・焼土粒子少量
2 暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子少量
3 褐　　色　ローム小ブロック中量，ローム大・中ブロック少量
4 暗　褐　色　ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
5 暗赤灰色　炭化粒子多量，ローム粒子少量
6 暗赤褐色　焼土中ブロック多量，ローム粒子少量
7 暗赤褐色　ローム中ブロック中量，ローム粒子少量
8 暗赤灰色　焼土粒子・炭化粒子中量
9 灰　赤　色　粘土大・中ブロック多量
10 にぶい黄褐色　砂粒多量，焼土中ブロック少量

ピット　7か所（P1～P7）。P1～P4は各コーナー付近に位置し，径35～55cmの円形で，深さは42～52cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は南壁際中央部に位置し，長径40cm，短径25cmの楕円形で，深さは27cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は北東コーナー付近に位置し，径約30cmの円形で，深さは14cmである。P7は竈の正面に位置し，径約20cmの円形で，深さは11cmである。ともに性格は不明である。

P4土層解説

1 褐　色　ローム大ブロック・ローム小ブロック・炭化物少量
2 褐　色　ローム粒子多量

覆土　5層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

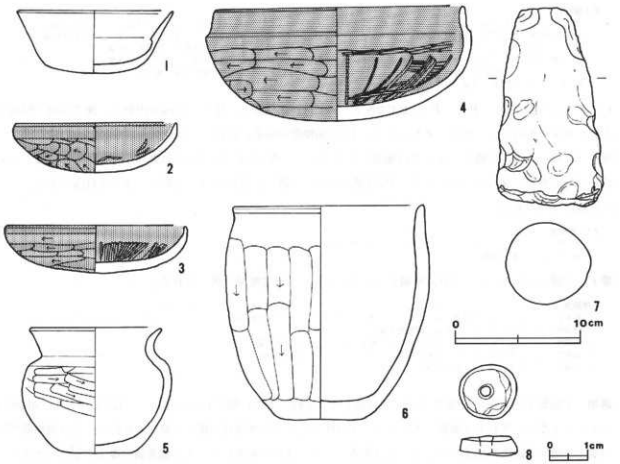
1 暗褐色　ローム小ブロック多量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化物少量
2 暗褐色　ローム大・中ブロック多量，炭化物少量
3 暗褐色　ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量
4 暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック・炭化物少量
5 黒褐色　ローム大ブロック・粒子少量

遺物　土師器片362点，須恵器片5点，土製品1点（支脚）及び石製品1点（臼玉）が出土している。第295図に示した土器はいずれも土師器である。1～4は坏で，1は中央付近の覆土下層から正位で，2は南壁際寄りの覆土下層から逆位で出土している。3は北東コーナー付近の床面から，4は竈東側の覆土下層から出土している。5の甕は竈手前の覆土下層から，6の甕はP4の覆土中層から出土している。7の土製支脚，8の臼玉は覆土中から出土している。出土した土器の多くは土師器甕の体部細片で，床面から浮いた状態で出土していることから，本跡が廃絶された後に投棄されたものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して6世紀後半と考えられる。

第836号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第295図 1	坏 土師器	A 12.5 B 4.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，内面中位に稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部，体部，底部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・礫 橙色　普通	P110467　80% PL86 中央付近覆土下層
2	坏 土師器	A 12.8 B 3.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持ち，口縁部にいたる。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・礫 明褐灰色　普通	P110468　90% PL86 南壁際覆土下層
3	坏 土師器	A 14.4 B 3.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜をもつ。口縁部は端部が薄くなる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面放射状のヘラ磨き，体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 灰黄褐色 普通	P110469　75% PL86　北東コーナー付近床面
4	坏 土師器	A 19.4 B 8.9	底部から口縁部にかけての破片。大形。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・にぶい黄橙色 普通	P110470　60% PL86 竈東側覆土下層



第295図　第836号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第295図 5	甕 土師器	A 10.4 B 10.0 C 5.6	口縁部一部欠損。小形。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部はくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，体部外面ヘラ削り後，ナデ。	砂粒・長石・石英・赤色粒子・黒色粒子 橙色　普通	P 110471　90% PL 86 竈手前覆土下層
6	甕 土師器	A 15.0 B 16.9 C 6.0	完形。小形。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ後，ナデ，外面縦方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・石英・礫 黄　普通	P 110472　100% PL 86 P 4 覆土中層

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	重量(g)		
第295図7	土製支脚	15.9	3.8～8.5	727.0	覆土中	DP 11029　PL 104

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第295図8	臼玉	1.5	0.5	0.3	1.18	滑石	覆土中	Q 11029　PL 106

第837A号住居跡（第290・291図）

位置　調査11区の中央部，G12d4区。

重複関係　第834B・835A・835B号住居，第36号掘立柱建物，第42号溝，第717号土坑に掘り込まれている。第837B号住居跡と重複するが，新旧関係は確認できなかった。

規模と平面形　第837B号住居跡との重複のため明確でないが，長軸4.75m，短軸［4.55］mの方形と推定される。

主軸方向　N－39°－W

壁　壁高は25～30cmで，外傾して立ち上がる。

床　確認できる部分は平坦である。全体が火熱を受けて明赤褐色に変色している。

炉　出土土器から炉をもつ時期と考えられるが，確認できなかった。

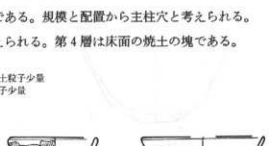
ピット　2か所（P1・P2）。P1は北コーナー付近に位置し，径約60cmの円形で，深さ12cm，P2は西コーナー付近に位置し，長径65cm，短径50cmの楕円形で，深さは18cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。

覆土　4層からなる。不連続な堆積状況から，人為堆積と考えられる。第4層は床面の焼土の塊である。

土層解説
1　暗褐色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量
2　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土粒子少量
3　褐　色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量
4　明赤褐色　焼土中ブロック多量

遺物　土師器片20点が出土している。第296図1の土師器坩は北西壁際の床面から，2の土師器甕は南コーナー部の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して4世紀中頃と考えられる。床面に焼土が広がっていることから，焼失家屋と考えられる。



第296図　第837A号住居跡出土遺物実測図

第837A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第296図 1	坩 土師器	A［9.7］ B 5.9 C 1.8	口縁部一部欠損。平底。体部は内塑して立ち上がる。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面ヘラ磨き。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後，ナデ。部分的に赤彩が残る。	砂粒・雲母・石英 にぶい橙色 普通	P110473　60% PL86 北西壁際床面
2	甕 土師器	A 6.9 B 8.4 C 3.5	完形。小形。平底。体部は内塑して立ち上がり，頸部は「く」の字状に屈曲し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面ハケ目調整。体部内面ナデ，外面上半部ハケ目調整。下半部雑なヘラナデ。	砂粒・雲母・礫・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P110475　100% PL86 南コーナー部覆土下層

第837B号住居跡（第290・291図）

位置　調査11区の中央部，G12e4区。

重複関係　第835B号住居，第36号掘立柱建物，第716・717号土坑に掘り込まれている。第837A号住居跡と重複するが，新旧関係は確認できなかった。

規模と平面形　東部を第835B号住居に掘り込まれ，南部で第837A号住居跡と重複しているため，確認できたのは南北軸（3.30）m，東西軸（2.20）mである。南コーナーが直角であることから，方形または長方形と推定される。

主軸方向　N－38°－W

壁　壁高は約10cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦である。あまり踏み固められていない。

炉　出土土器から炉をもつ時期と考えられるが，掘り込まれているため確認できなかった。

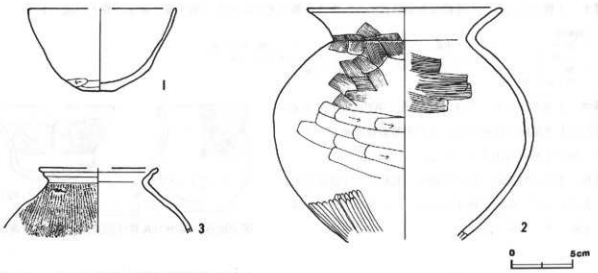
ピット　2か所（P1・P2）。P1は南コーナー付近に位置し，径約35cmの円形で，深さ35cm，P2は西コーナー付近に位置し，長径50cm，短径35cmの楕円形で，深さは19cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。

覆土　覆土は薄く，1層である。

土層解説
1　暗褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量

遺物　土師器片16点が出土している。第297図1の土師器坩は南コーナー付近の覆土下層から，2の土師器甕は南コーナー付近の床面から，3の土師器台付甕はP2付近の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して4世紀中頃と考えられる。



第297図　第837B号住居跡出土遺物実測図

第837B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第297図 1	坩 土師器	A〔11.8〕 B　6.6 C　2.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部でわずかにくびれる。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面ナデ，外面ヘラ削り後，ナデ。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 浅黄橙色 普通	P 110474　60% PL 86　南コーナー付近覆土下層
2	甕 土師器	A　15.6 B（18.6）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部は「く」の字状に屈曲し，口縁部は外傾する。	口縁部内面ヘラナデ，外面横ナデ。頸部外面ハケ目調整。体部内面上半部ハケ目調整，下半部ナデ。体部外面上位ハケ目調整，中位ヘラ削り，下位縦方向のヘラ磨き。	砂粒・長石 赤灰色 普通	P 110477　80% PL 86　南コーナー付近床面
3	台付甕 土師器	A〔 9.6〕 B（ 5.6）	体部から口縁部にかけての破片。薄手。体部は内彎して立ち上がり，頸部は「く」の字状に屈曲する。口縁部は「S」字状で，外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面縦方向の強いハケ目調整。	砂粒・黒色粒子 灰褐色 普通	P 110476　10% PL 86 P 2付近覆土下層

第842号住居跡（第299・300図）

位置　調査11区の中央部，G12f0区。

重複関係　第809・836・843号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸4.80m，短軸4.60mの方形である。

主軸方向　N－8°－W

壁　壁高は40～45cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　第809号住居に掘り込まれている部分を除き，巡っている。上幅10～15cm，下幅5～10cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，中央付近が踏み固められている。

竈　北壁中央部に砂質粘土で構築されていたと思われる。第809号住居に掘り込まれているため，ほとんど形を止めていないが，構築材である砂質粘土と火床部の焼土の広がりが確認できた。

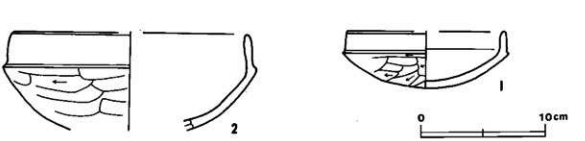
ピット　5か所（P1～P5）。P1～P4は各コーナー付近に位置し，径約30～40cmの円形で，深さは42～83cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は南壁際中央部に位置し，長径40cm，短径35cmの楕円形で，深さは26cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　7層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム大ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量
2　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
3　黒褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
4　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
5　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
6　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
7　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量

遺物　土師器片652点及び須恵器片20点が出土している。第298図1の土師器坏は西壁寄りの覆土下層から，2の土師器坏は中央付近の覆土下層から出土している。出土した土器で図示しなかったもののほとんどは土師器甕の体部細片や土師器坏細片で，床面から浮いた状態で出土していることから，本跡が廃絶された後に投棄されたものと考えられる。

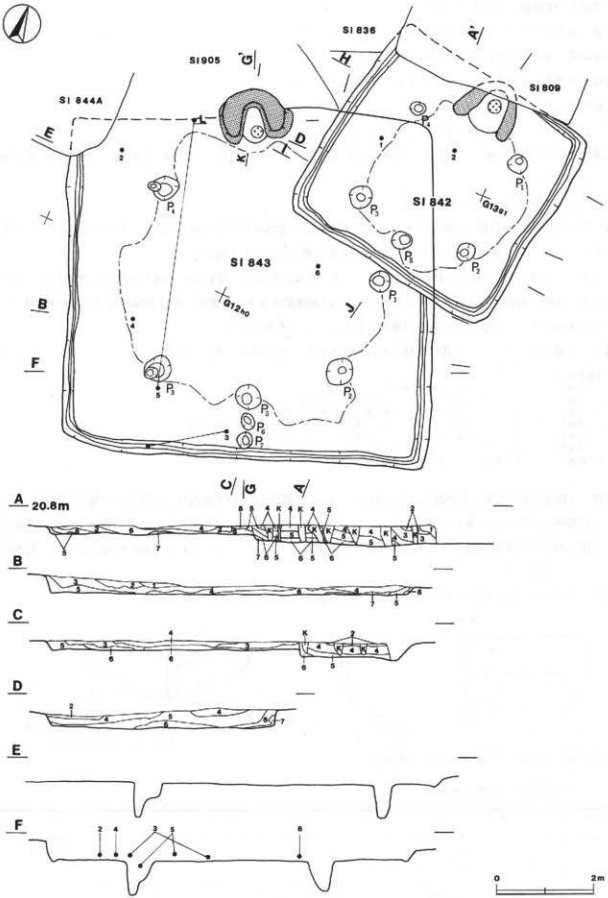
所見　本跡の時期は，出土土器から判断して6世紀前半と考えられる。



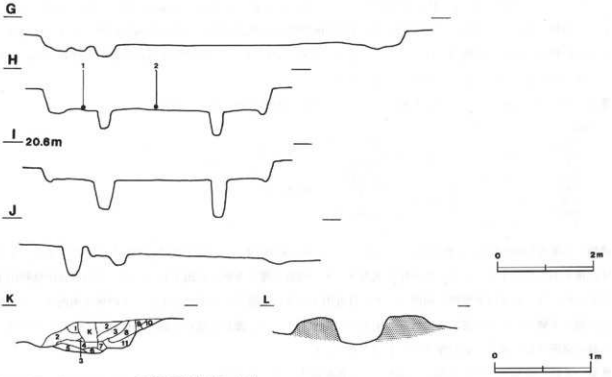
第298図　第842号住居跡出土遺物実測図

第842号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第298図 1	坏 須恵器	A [12.8] B 4.5	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内湾して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 普通	P110497　20% 西壁寄り覆土下層
2	坏 須恵器	A [18.6] B (8.3)	体部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内湾して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は軽く内傾する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい赤褐色　普通	P110498　25% PL87 中央付近覆土下層



第299図　第842・843号住居跡実測図（1）



第300図　第842・843号住居跡実測図（2）

第843号住居跡（第299・300図）

位置　調査11区の中央部，G12g9区。

重複関係　第842・905号住居跡を掘り込み，第844A号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸7.50m，短軸7.40mの方形である。

主軸方向　N－22°－W

壁　壁高は35～40cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　第844A・905号住居跡との重複部分を除き，巡っている。上幅10～20cm，下幅5～15cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　平坦で，各コーナー部及び壁際を除き踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へ50cmほど掘り込んで，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは90cm，両袖部幅は145cmである。袖部内面は，火熱を受けて赤変硬化している。火床部は床面からわずかに掘りくぼめられ，焼土が薄く堆積している。煙道は，火床面から30度ほどの角度で立ち上がる。竈覆土中，第4・11層が粘土粒子や砂粒を中量含んでいることから，天井部の崩落土と考えられる。

竈土層解説

1	褐　灰　色	粘土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック少量
2	灰　　色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3	灰　褐　色	ローム中ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土粒子・炭化物少量
4	赤　灰　色	粘土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック少量
5	明赤褐色	焼土大ブロック多量
6	にぶい橙色	灰多量，焼土大ブロック中量
7	暗　褐　色	ローム大・小ブロック少量
8	暗　褐　色	ローム大ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
9	明赤褐色	焼土大ブロック多量
10	暗　褐　色	ローム粒子少量
11	赤　灰　色	粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

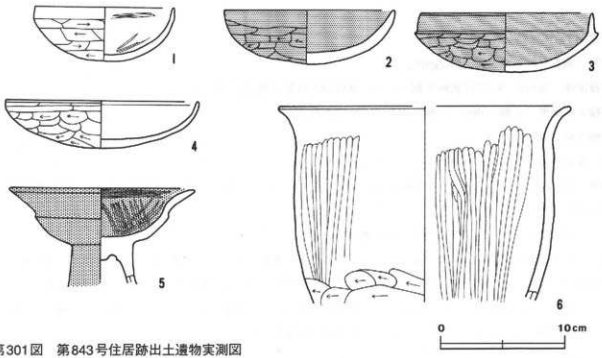
ピット　7か所（P1～P7）。P1～P4は各コーナー付近に位置し，径45～60cmの円形で，深さは64～74cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は南壁際中央部に位置し，径約50cmの円形で，深さは24cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7は南壁際中央部に位置し，径約30cmの円形で，深さは14cmと16cmである。性格は不明である。

覆土　8層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
2　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
3　黒褐色　ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子少量
4　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
5　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
6　黒褐色　ローム小ブロック・炭化材少量
7　黒褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化材少量
8　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量

遺物　土師器片699点及び須恵器片14点が出土している。第301図に示した土器はいずれも土師器である。1の坏は覆土中から出土している。2の坏は北西コーナー付近の覆土下層から出土している。3の坏は南壁際出土の2片が，5の高坏は北壁際と南西コーナー付近出土の2片が接合したものである。4の坏は南西コーナー付近の覆土下層から，6の甕は中央付近の床面から出土している。離れた地点の破片が接合していることから，本跡が廃絶された後に一括投棄されたものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して6世紀後半と考えられる。



第301図　第843号住居跡出土遺物実測図

第843号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	対測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第301図 1	坏 土師器	A 11.2 B 4.3	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持ち，口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面雑なヘラ磨き，外面ヘラ削り。	砂粒・長石・黒色粒子 にぶい橙色　普通	P110499　50% 覆土中
2	坏 土師器	A 13.7 B 4.2	体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持ち，口縁部にいたる。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい黄橙色　普通	P110500　80% PL.87　北西コーナー付近覆土下層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第301図 3	坏 土師器	A 13.8 B 4.6	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は軽く内傾する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子・黒色粒子 明褐色　普通	P 110501　90% PL87　南壁際覆土下層
4	坏 土師器	A 15.5 B 3.9	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，不明瞭な稜を持ち，口縁部にいたる。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒・雲母・礫・赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	P 110502　50% PL87　南西コーナー付近覆土下層
5	高坏 土師器	A 14.8 B (7.8) E (3.3)	脚部上位から坏部にかけての破片。脚部は「ハ」の字状に開く。坏体部は内彎して立ち上がり，明瞭な稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面放射状のヘラ磨き，外面ヘラ削り。坏部内面ヘラナデ，外面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P 110503　50% PL87 北壁際覆土下層
6	甕 土師器	A [23.4] B (15.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部から口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面縦方向のヘラ磨き，外面下半部ヘラ削り。	砂粒・長石・石英 にぶい橙色 普通	P 110504　20% PL87 中央付近床面

第845号住居跡（第303図）

位置　調査11区の東部，G13a3区。

重複関係　西部で第847号住居跡を掘り込み，西部から南部にかけて第35号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　東部が調査区域外に位置しているため詳細は不明であるが，長軸［7.00］m，短軸（6.70）mの方形と推定される。

主軸方向　N－10°－E

壁　壁高は40cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　第35号溝に掘り込まれている以外の南部から西部にかけて巡っている。上幅24～28cm，下幅4～10cm，深さ約10cmで，断面はU字形をしている。

床　ほぼ平坦で中央部を中心に踏み固められている。

竈　北壁中央を壁外に20cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで70cm，両袖部幅120cmである。天井部は崩落しており，第1・4層が崩落土と考えられる。第2層は焼土混じりの灰赤色の覆土であり，下部が火床部と考えられる。煙道は火床部から外傾して立ち上がる。

竈土層解説
1　灰黄褐色　砂粒多量
2　灰赤色　焼土大ブロック・焼土粒子・砂粒少量
3　赤灰色　ローム大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・砂粒少量
4　灰黄褐色　砂粒中量，炭化物少量
5　褐灰色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック少量
6　灰黄褐色　砂粒中量，炭化物・焼土粒子少量

ピット　4か所（P1～P4）。北東部に位置するP1は長径48cm，短径22cmの不整円形で，深さは34cmである。P2は南西コーナーから中央部寄りに位置しており，長径36cm，短径12cmのほぼ円形で，深さは72cmである。それぞれ規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際中央に位置するP3は，長径30cm，短径20cmのほぼ円形で，深さが44cmのピットと径約20cmの円形で深さ約45cmのピットと径約20cmの円形で深さ約44cmの三つのピットが連結した形で確認された。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。P3から約70cmほど西に位置するP4は，径40cmの円形で，深さは16cmである。性格は不明である。

P3土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量
2　黒褐色　ローム小ブロック・粘土粒子少量
3　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
4　暗褐色　ローム大ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量
5　暗褐色　ローム粒子多量
6　黒褐色　ローム粒子少量

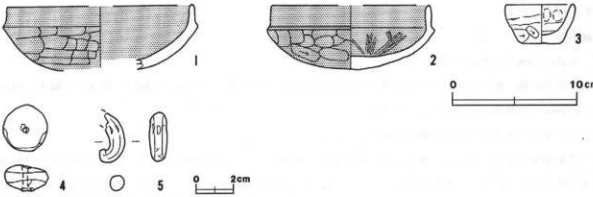
覆土　11層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化材少量
2	黒褐色	ローム中・小ブロック中量，ローム大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・粘土小ブロック少量
3	黒褐色	ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量
4	黒褐色	ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・粒子少量
5	黒褐色	ローム大・小ブロック少量
6	黒褐色	ローム中・小ブロック少量
7	黒褐色	ローム小ブロック・粒子少量
8	黒褐色	ローム小ブロック中量，焼土小ブロック少量
9	黒褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
10	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化材少量
11	褐　色	ローム粒子多量

遺物　土師器片780点，須恵器片40点，土製品２点（土玉・勾玉），陶器片２点が出土している。第302図１の土師器坏は，Ｐ３内から出土した二つの破片が接合したものである。２の土師器坏は，北東コーナー部と竈の中間壁際床面から出土した破片が接合したものである。３のミニチュア土器は，南部やや中央寄りの覆土中層から逆位で出土している。４の土玉は中央部の床面から，５の勾玉は竈内から出土している。陶器片は攪乱により混入したものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して６世紀後葉と考えられる。



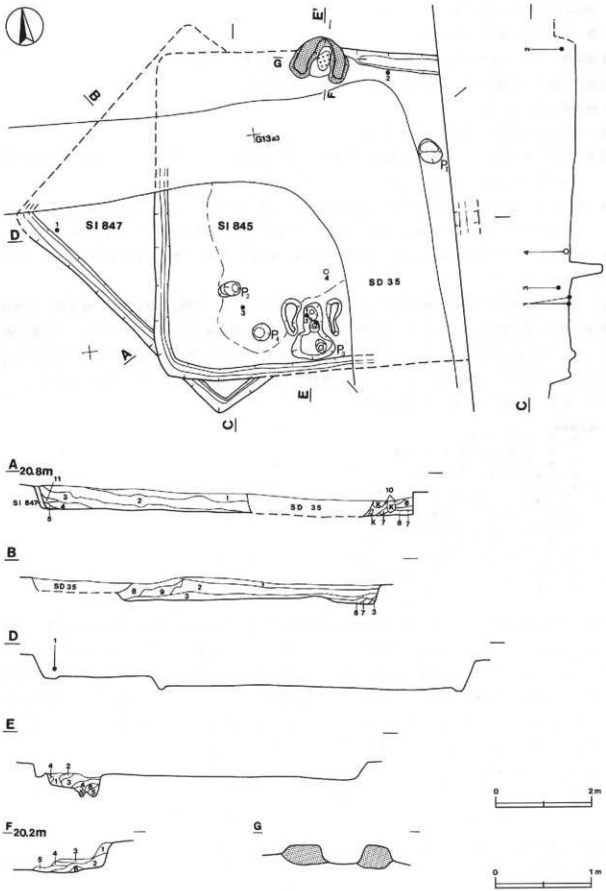
第302図　第845号住居跡出土遺物実測図

第845号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第302図 1	坏 土師器	A [14.8] B (5.0)	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 灰黄褐色 普通	P 112001　40% P 3 覆土中
2	坏 土師器	A [12.6] B 5.1	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P 112002　40% 北東コーナーと竈の中間壁際床面
3	ミニチュア土器 土師器	A 5.4 B 3.1 C 3.2	鉢形。口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて内彎気味に立ち上がる。	体部下端ヘラ削り。体部内面ナデ。体部内面上位指頭押圧。体部内・外面輪積み痕。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P 112003　95% PL 88　南部やや中央寄りの覆土中層

図版番号	種　別	計測値 径(cm)	長さ(cm)	孔径(g)	重量(g)	出土地点	備　考
第302図4	土　玉	2.4	2.5	0.4	7.15	中央部床面	DP 112002　PL 105

図版番号	種　別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備　考
第302図5	土製勾玉	(2.7)	(1.3)	0.8	(2.32)	竈内覆土中	DP 112003　PL 102



第303図　第845・847号住居跡実測図

第846号住居跡（第304図）

位置　調査11区の東部，G13d2区。

重複関係　北部で第848号住居跡を掘り込み，東部を第35号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸8.80m，短軸（5.14）mの長方形と推定される。

主軸方向　N－5°－E

壁　壁高は10～50cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　第35号溝と重複している部分は確認できなかったが，全周していたと考えられる。上幅16～44cm，下幅6～18cm，深さ約10cmで，断面はU字形である。

床　第33号溝と重複している部分以外は，ほぼ平坦であり，踏み固められている。全体的に焼土により赤変している。西壁下からP3に延びる溝a，同じく西壁下からP4に延びる溝bと西壁下からP5に延びる溝cの3条が確認された。いずれも上幅18～26cm，下幅8～16cm，深さ10～22cmで，断面はU字形をしている。性格は不明である。

竈　北壁中央を壁外に30cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで120cm，東袖が第33号溝に掘り込まれているため詳細は不明であるが，両袖部幅は100cmと推定される。天井部は崩落しており，第1層が崩落土と考えられる。また，第3層は赤変状態から被熱した天井部の崩落土と考えられる。第9層は，焼土粒子が多量，焼土小ブロックも中量確認され，下部が赤変硬化しているため，火床部と考えられる。煙道は火床部から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1	褐　灰　色	粘土粒子多量
2	灰　褐　色	粘土粒子多量，焼土粒子少量
3	赤　褐　色	焼土粒子少量
4	極暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子微量
5	極暗赤褐色	ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム中ブロック・粒子微量
6	にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
7	灰　褐　色	粘土小ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量
8	極暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子中量
9	赤　褐　色	焼土粒子多量，焼土小ブロック中量
10	黒　褐　色	ローム粒子少量
11	暗　赤　褐　色	焼土小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
12	暗　赤　褐　色	ローム中ブロック・焼土粒子少量
13	暗　赤　褐　色	粘土中ブロック少量

ピット　6か所（P1～P6）。P1・P2の上端は径約50cm，下端は径それぞれ20cm，10cmのほぼ円形で，深さ101cm，106cmである。それぞれ南西・北西コーナーから中央部寄りに位置している。規模と配置から主柱穴と考えられる。P3はP1とP2の中間に位置しており，上端径28cm，下端径8cm，深さ38cmである。位置的に補助柱穴の可能性がある。南壁際中央で確認されたP4は径45cmのほぼ円形で，深さ35cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。その他，径20cmの円形で，深さ56cmのP5や径30cmの円形で，深さ38cmのP6などが確認されているが，性格は不明である。

P1・P2・P4・P6土層解説

1	黒褐色	ローム小ブロック・粒子少量
2	暗褐色	ローム大ブロック中量，ローム中ブロック少量
3	褐　色	ローム粒子多量
4	極暗褐色	ローム粒子中量

貯蔵穴　竈と西壁の中間のやや竈寄りで確認された。長軸140cm，短軸92cmの長方形で，深さ約50cmである。

貯蔵穴土層解説

1	黒褐色	ローム粒子多量，ローム大ブロック・ローム小ブロック・炭化材・粘土大ブロック少量
2	暗褐色	ローム粒子多量，ローム大ブロック・ローム小ブロック・粘土大ブロック少量
3	暗褐色	ローム粒子多量，ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土大ブロック少量

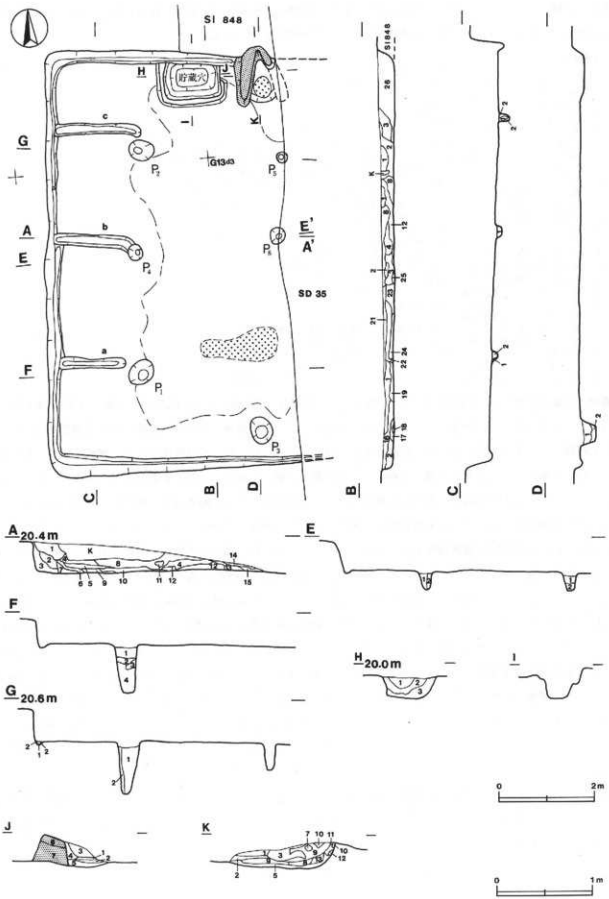
覆土　26層からなる。中央部から西部のP1・P2・P4周辺の床面から屋根材や柱材と推定される炭化材が多量に出土している。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

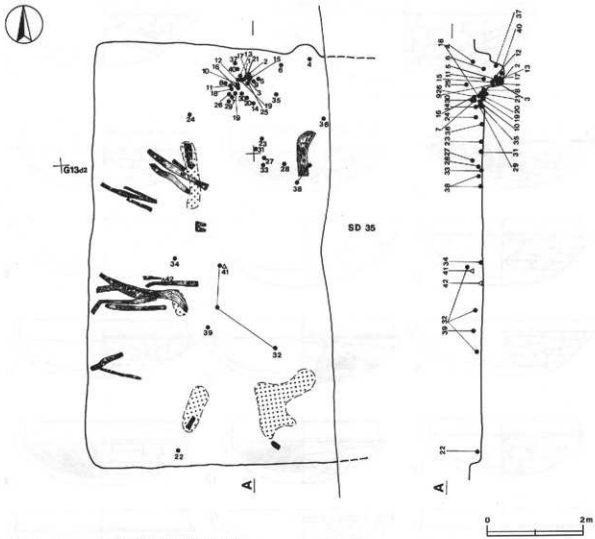
1	黒　　色	ローム大・中ブロック・炭化物少量
2	褐　　色	ローム中ブロック中量，ローム大ブロック少量
3	黒　　色	ローム中ブロック少量
4	灰　褐　色	ローム中・小ブロック中量，ローム大ブロック少量
5	にぶい褐色	ローム小ブロック多量，ローム大ブロック少量
6	黒　　色	ローム中ブロック少量
7	灰　褐　色	ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
8	褐　　色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化物少量
9	明　褐　色	ローム中ブロック・粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子少量
10	褐　　色	ローム中ブロック・粘土中ブロック多量，ローム小ブロック・焼土小ブロック中量
11	褐　　色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化材多量
12	暗　褐　色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物多量，ローム小ブロック・ローム粒子中量
13	暗　褐　色	焼土小ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子少量
14	褐　　色	ローム小ブロック・粒子中量，焼土粒子少量
15	褐　　色	ローム小ブロック中量，焼土粒子少量
16	暗　褐　色	焼土小ブロック・粒子多量，ローム粒子・炭化粒子少量
17	暗　褐　色	焼土粒子多量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化材中量
18	赤　褐　色	焼土中・小ブロック多量
19	褐　　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
20	褐　　色	ローム小ブロック・焼土粒子少量
21	褐　　色	ローム粒子少量
22	褐　　色	焼土中・小ブロック・粒子多量，ローム粒子・炭化粒子少量
23	褐　　色	焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量
24	明赤褐色	焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化材多量
25	にぶい褐色	ローム大ブロック
26	褐　　色	ローム粒子多量，ローム中・小ブロック中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量

遺物　土師器片963点，須恵器片16点，土製品1点（支脚片），陶器片1点，鉄器2点（鎌・刀子），炭化材が出土している。第306～308図1～3・5・12・13・15・17の土師器坏，37の土師器甕，40の須恵器坏は，いずれも貯蔵穴から出土している。1は底面直上から斜位で，2・15・17・37は底面直上から横位で，3・13は覆土下層から横位で，5は覆土中層から横位で，12は覆土下層から斜位で，40は底面直上から正位で，それぞれ出土している。4の土師器坏は竈内から横位で，6の土師器坏と35の土師器高坏は竈内から正位で出土している。23の土師器坏と28・31の土師器高坏は，竈焚き口付近の床面から逆位でそれぞれ出土している。7・8・11・18・19の土師器坏は竈西袖際床面から正位で，9の土師器坏は竈西袖際覆土下層から斜位で，10・16・21の土師器坏は竈西袖際の床面から斜位で，14・20の土師器坏は竈西袖際の覆土中層からそれぞれ正位と斜位で出土している。22の土師器坏は南壁際の床面から正位で，24の土師器坏は北西部の覆土中層から，25の土師器高坏は竈西袖際の覆土上層から横位で，26・27の土師器高坏は竈西袖際の覆土下層から逆位と横位でそれぞれ出土している。27の土師器高坏は床面から横位で，30の土師器高坏は竈西袖際の床面から横位で，29の土師器高坏は竈西袖際の床面直上から出土している。中央部の床面からは，33の土師器高坏が正位で，34の土師器高坏，38の土師器小形甕がそれぞれ出土している。32の土師器高坏は，中央部の覆土上・中・下層からそれぞれ出土した破片が接合したものである。36の土師器甕は竈東袖際の床面から，39のミニチュア土器は中央部の覆土上層から斜位で，それぞれ出土している。41の鎌は中央部の覆土中層から，42の刀子は西部中央の床面から出土している。

所見　それぞれのピット周辺で屋根材や柱材と推定される炭化材が多量に出土しており，これは本跡が焼失家屋であることと関係しているものと考えられる。床面から多量の遺物が出土している。時期は，出土土器から判断して6世紀後葉と考えられる。



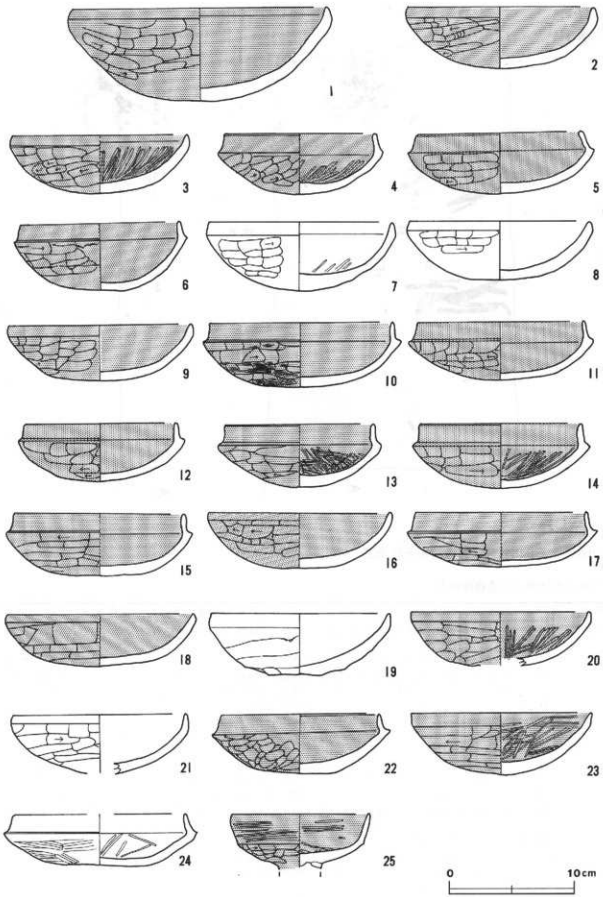
第304図　第846号住居跡実測図



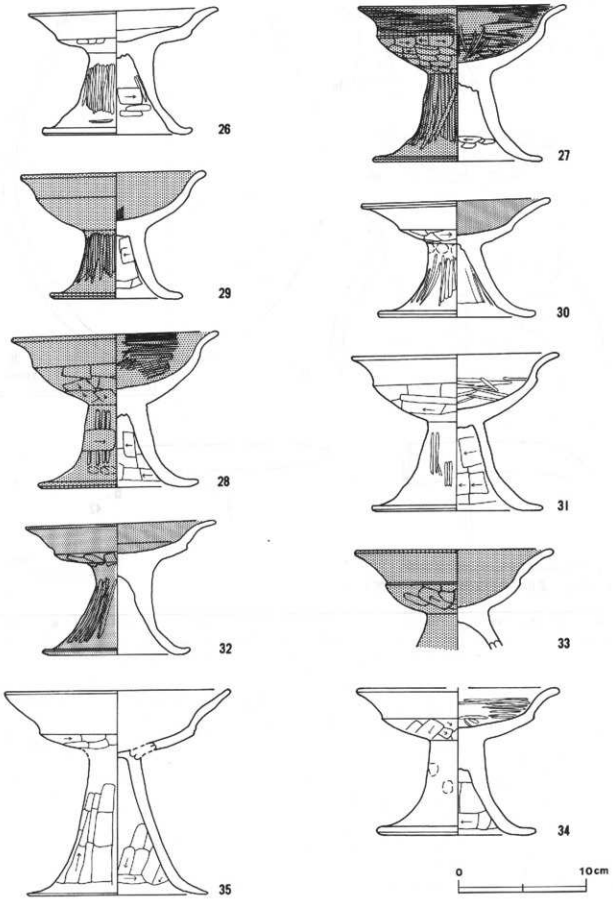
第305図　第846号住居跡遺物出土状況図

第846号住居跡出土遺物観察表

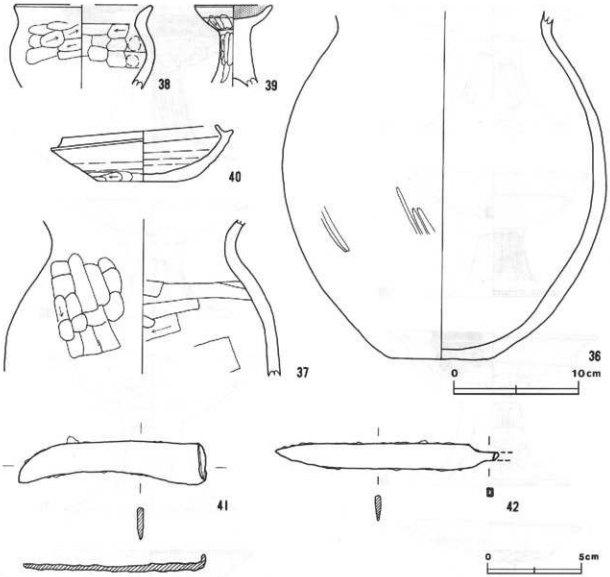
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第306図 1	坏 土師器	A 20.4 B 7.4	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい黄褐色 普通	P112007　98% P L 88 貯蔵穴底面直上
2	坏 土師器	A 14.9 B 4.7	完形。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P112008　100% 貯蔵穴底面直上
3	坏 土師器	A 14.0 B 4.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面放射状のヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P112009　90% 貯蔵穴覆土下層
4	坏 土師器	A 11.9 B 4.9	完形。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は若干内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面横ナデ後，粗いヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 普通	P112010　100% P L 88 竈内
5	坏 土師器	A 13.0 B 4.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面・体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。底部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 赤橙色 普通　二次焼成	P112011　98% P L 88 貯蔵穴覆土中層
6	坏 土師器	A 12.5 B 5.4	完形。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。口縁部は若干内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部上位は輪積み痕を残すナデ。下位はヘラ削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・白色粒子 にぶい褐色　普通	P112012　100% P L 88 竈内



第306図　第846号住居跡出土遺物実測図（1）



第307図　第846号住居跡出土遺物実測図（2）



第308図　第846号住居跡出土遺物実測図（3）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第306図 7	坏 土師器	A 14.6 B 5.4	完形。丸底。体部と口縁部との境は稜をなして屈曲し，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面横ナデ後，放射状のヘラ磨き。	砂粒・雲母 橙色 普通	P112013　100% 竈西袖際床面
8	坏 土師器	A 14.5 B 4.7	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，上位で軽く外反し，口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部二方向のヘラ削り。	砂粒・白色粒子 黄橙色 普通	P112014　98% 竈西袖際床面
9	坏 土師器	A 14.6 B 4.4	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面横ナデ。内・外面黑色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい橙色 普通	P112015　95% 竈西袖際覆土下層
10	坏 土師器	A 14.7 B 5.2	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は若干内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内面ヘラナデ。内・外面黑色処理。	砂粒・白色粒子 にぶい褐色 普通	P112016　95% 竈西袖際床面
11	坏 土師器	A 13.2 B 4.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は若干内傾する。	口縁部内から外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面横ナデ。内・外面黑色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P112017　95% 竈西袖際床面

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第306図 12	坏 土師器	A 12.0 B 4.6	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・白色粒子 にぶい褐色 普通	P112018 95% P L 88 貯蔵穴覆土下層
13	坏 土師器	A 11.8 B 5.0	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面，体部内面ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P112019 95% P L 88 貯蔵穴覆土下層
14	坏 土師器	A 12.8 B 5.1	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面横ナデ後，放射状のヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P112020 95% P L 88 竈西袖際覆土中層
15	坏 土師器	A 13.6 B 5.0	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒 にぶい橙色 普通	P112021 90% P L 88 貯蔵穴底面直上
16	坏 土師器	A 14.6 B 4.4	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P112022 95% 竈西袖際床面
17	坏 土師器	A 13.6 B 4.4	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P112023 85% P L 88 貯蔵穴底面直上
18	坏 土師器	A 14.8 B 4.1	口縁部一部欠損。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒 にぶい橙色 普通	P112024 90% 竈西袖際床面
19	坏 土師器	A 14.3 B 5.0	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P112025 90% P L 88 竈西袖際床面
20	坏 土師器	A 14.2 B (4.2)	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部はやや内彎して口縁部にいたる。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面放射状のヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 にぶい黄橙色 普通	P112026 80% P L 88 竈西袖際覆土中層
21	坏 土師器	A 13.8 B (4.6)	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり口縁部にいたる。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内面ヘラ磨き。	砂粒・長石・石英・赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	P112027 90% P L 88 竈西袖際床面
22	坏 土師器	A 12.6 B 4.8	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は若干内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 にぶい黄橙色 普通	P112028 70% 南壁際床面
23	坏 土師器	A 14.4 B 4.9	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり口縁部にいたる。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P112029 55% 竈焚き口付近床面
24	坏 土師器	A [13.6] B 4.1	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は若干内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラ磨き。内面ナデ。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	P112030 60% 北西部覆土中層
25	高坏 土師器	A 11.0 B (4.2)	脚部欠損。坏部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面ヘラ磨き。坏部外面ヘラ削り後，ヘラ磨き。内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 黒褐色 普通	P112031 60% 竈西袖際覆土上層
第307図 26	高坏 土師器	A 14.9 B 10.1 D 11.4 E 7.0	完形。脚部はラッパ状に開く。坏部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面ヘラ削り後，ナデ。坏部内面ナデ。脚部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。裾部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P112032 100% P L 88 竈西袖際覆土下層
27	高坏 土師器	A 16.2 B 12.4 D 13.2 E 7.2	口縁部・裾部一部欠損。脚部はラッパ状に開く。坏部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は大きく外反する。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面ヘラ削り後，ナデ。坏部内面ヘラ磨き。脚部外面ヘラ削り後，ヘラ磨き。裾部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・雲母・石英 赤色 普通	P112033 90% P L 88 竈西袖際床面

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第307図 28	高坏 土師器	A 16.0 B 12.3 D 12.0 E 6.5	口縁部・裾部一部欠損。脚部はラッパ状に開く。坏部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は大きく外反する。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面ヘラ削り。ヘラナデ。坏部内面ヘラ磨き。脚部外面ヘラ磨き後，横ナデ。脚部内面ヘラ削り。裾部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・長石・石英 橙色 普通	P112034 95% P L.88 竈焚き口付近床面
29	高坏 土師器	A 14.4 B 10.1 D 10.0 E 5.5	口縁部・裾部一部欠損。脚部はラッパ状に開く。坏部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面ヘラ削り後，ナデ。内面横ナデ。脚部外面ヘラ磨き。裾部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・長石・石英・雲 赤色 普通	P112035 95% P L.88 竈西袖際覆土下層
30	高坏 土師器	A 14.8 B 9.4 D 12.2 E 5.9	口縁部・坏部一部欠損。脚部はラッパ状に開く。坏部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面ヘラ削り後，ナデ。内面横ナデ。脚部外面ヘラ削り。裾部内・外面横ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 にぶい黄橙色 普通	P112036 90% P L.88 竈西袖際床面
31	高坏 土師器	A 16.0 B 12.5 D 12.8 E 7.1	口縁部・坏部・裾部一部欠損。脚部はラッパ状に開く。坏部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は大きく外反する。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面ヘラ削り。内面ヘラ磨き。脚部外面ヘラ磨き後，ナデ。裾部内・外面横ナデ。	砂粒 赤色 普通	P112037 85% P L.88 竈焚き口付近床面
32	高坏 土師器	A 14.6 B 10.6 D 10.6 E 7.5	口縁部・坏部・脚部・裾部一部欠損の脚部はラッパ状に開く。坏部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面ヘラ削り。内面ナデ。脚部外面ヘラ磨き。裾部内・外面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・長石 明赤褐色 普通	P112038 90% P L.88 中央部覆土上層から下層
33	高坏 土師器	A 15.5 B (7.9)	脚部から口縁部にかけての破片。坏部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に明瞭な接をもつ。口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面ヘラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・長石・石英・雲 橙赤色 普通	P112039 65% 中央部から竈寄り床面
34	高坏 土師器	A [15.4] B 11.7 D 11.6 E 7.5	口縁部・坏部・脚部一部欠損。脚部はラッパ状く。坏部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は大きく外反する。	口縁部内面ヘラ磨き。外面横ナデ。坏部外面ヘラ削り。内面ナデ。脚部外面ヘラ削り。裾部内・外面横ナデ。	砂粒・長石 赤褐色 普通	P112040 70% P L.89 竈内・中央部やや西寄り床面
35	高坏 土師器	A 17.7 B [16.2] D 14.2 E [10.9]	脚部及び坏部片。脚部はラッパ状に開く。坏部は内彎気味に立ち上がり口縁部との境に明瞭な接をもつ。口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面ヘラ削り。内面ナデ。脚部外面ヘラ削り。裾部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・石英・赤色粒子 明赤褐色 普通	P112041 70% 竈内
第308図 36	甕 土師器	B (27.8) C 8.0	底部から頸部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ちあがり，頸部でくびれる。	体部外面ヘラ磨き。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい褐色　普通	P112042 40% 竈東袖部際床面
37	甕 土師器	B (12.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。内面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英・雲 にぶい赤褐色 普通	P112043 40% P L.89 貯蔵穴内底面直上
38	甕 土師器	A [10.8] B (6.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	砂粒・長石・赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	P112044 20% 中央部床面
39	ミニチュア土器 土師器	A 6.0 B (6.4)	高坏形。坏部・脚部一部欠損。脚部は柱状である。坏部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部内・外面，坏部内面横ナデ。坏部外面，脚部外面ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P112045 70% P L.89 中央部やや南寄りの覆土上層
40	坏 須恵器	A 12.3 B 4.5 C 7.2	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に接をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部・体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	砂粒・長石 灰色 普通	P112047 95% 竈穴内底面

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第308図41	鎌	10.1	2.2	0.3	21.0	中央部覆土中層	M112001　P L.109
42	刀子	(11.9)	1.4	0.28	(11.0)	西部中央床面	M112002　P L.108

第847号住居跡（第303図）

位置　調査11区の東部，G13a2区。

重複関係　中央部から東部を第845号住居に，中央部から西部を第35号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸［6.00］m，短軸［5.54］mの方形と推定される。

壁　壁高は25cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　南西コーナー部から北西コーナー部にかけての壁下で確認できた。上幅18～30cm，下幅4～18cm，深さ約4cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦である。ピットは確認されなかった。

覆土　2層からなる。レンズ状に堆積しており，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック・粒子少量
2　褐　色　ローム粒子多量，炭化材少量

遺物　土師器片5点が出土している。第309図1の土師器坏は，北西部の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して6世紀後葉と考えられる。

第309図　第847号住居跡出土遺物実測図

第847号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第309図 1	坏 土師器	A［12.6］ B 4.6	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・石英 褐灰色 普通	P112049　20% PL89 北西部覆土下層

第848号住居跡（第310図）

位置　調査11区の東部，G13c3区。

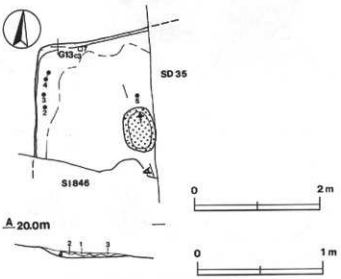
重複関係　南部を第846号住居に，東部を第35号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　第846号住居や第35号溝に掘り込まれているために，残存部はわずかである。南北（2.40）m，東西（1.90）mである。

壁　大部分が削平されており，詳細は不明であるが，わずかに確認できた北壁及び西壁は，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

炉　中央部からやや北寄りに確認された。規模は，長径72cm，短径50cmの楕円形で，



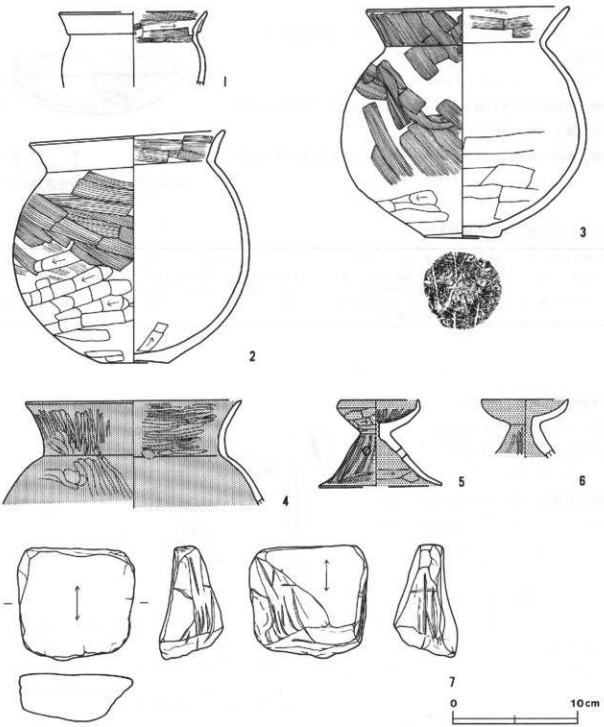
第310図　第848号住居跡実測図

床面を約10cm掘りくぼめた地床炉である。第1層は焼土粒子を多量，焼土中ブロックを中量含み，赤変硬化しており，炉床部と考えられる。

炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土中ブロック中量
2　暗赤灰色　炭化粒子多量，焼土粒子中量，炭化材少量
3　黒褐色　炭化粒子中量，焼土粒子・炭化材少量
4　暗赤褐色　ローム大ブロック・粒子中量，ローム中ブロック少量

覆土　削平されており覆土が薄いため，堆積状況の詳細は不明である。



第311図　第848号住居跡出土遺物実測図

遺物　土師器片153点，石製品１点（砥石）が出土している。第311図１の土師器甕は，炉内から出土している。２～４の土師器甕は，北西コーナー部壁際の床面から出土しており，ハケ目調整が施されている。５の土師器器台は中央部の覆土中層から，６の土師器器台は北部の覆土中から出土している。７の砥石は，北西部壁際の床面から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して４世紀前葉と考えられる。

第848号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第311図 1	甕 土師器	A [11.8] B (4.9)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部で「く」の字状に屈曲し，口縁部は折り返し口縁で，外傾する。	口縁部は外面ナデ。内面ハケ目調整。体部内・外面ナデ。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P112051 5% 炉内
2	甕 土師器	A 15.7 B 18.5 C 5.2	完形。小形。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部は「く」の字状に屈曲し，口縁部は外反する。	口縁部内面ハケ目調整。外面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り。体部外面ハケ目調整。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P112052 100% PL89 北西コーナー部壁際床面
3	甕 土師器	A 16.2 B 18.3 C 6.0	口縁部・体部一部欠損。小形。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部で「く」の字状に屈曲し，口縁部は外反する。	口縁部内・外面，体部外面ハケ目調整。体部内面ヘラ削り。底部木葉痕。輪積み痕。	砂粒・長石 にぶい赤褐色 普通	P112053 95% 北西コーナー部壁際床面
4	甕 土師器	A 17.3 B (8.5)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部で「く」の字状に屈曲し，口縁部は外反する。	口縁部内・外面ハケ目調整。体部外面ハケ目調整後，ヘラ磨き。内面ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 暗褐色 普通	P112054 10% 北西コーナー部壁際床面
5	器台 土師器	A 6.3 B 6.9 D [9.9] E 4.4	口縁部・脚部一部欠損。脚部はラッパ状に開き，上半に３孔を有する。器受部は内彎気味に立ち上がり，端部は上方に突出する。	口縁部内・外面横ナデ。器受部内・外面丁寧なヘラ磨き。脚部外面丁寧なヘラ磨き。内面ヘラナデ。器受部内・外面，脚部外面赤彩。	砂粒・雲母 赤色 普通	P112055 70% PL89 中央部床面，覆土中
6	器台 土師器	A 7.0 B (4.6)	器受部・脚部一部欠損。脚部「ハ」の字状に開く。器受部は内彎気味に立ち上がる。	器受部内面ヘラ磨き。外面ナデ。脚部外面ヘラ磨き。内・外面赤彩。	砂粒・雲母 赤色 普通	P112046 50% 覆土中

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第311図7	砥石	9.0	9.4	5.1	427.8	砂岩	北西部壁際床面	Q112001 PL107

第849号住居跡（第312図）

位置　調査11区の東部，G13f2区。

重複関係　南西コーナー部で第889号住居跡を掘り込み，東部を第45・35号溝にそれぞれ掘り込まれている。

規模と平面形　長軸5.00m，短軸（3.80）mで方形と推定される。

主軸方向　N－6°－E

壁　壁高は20～48cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　東部は第35号溝に掘り込まれており確認できなかったが，それ以外は壁下を巡っている。上幅12～30cm，下幅４～10cm，深さ約10cmで，断面はU字形である。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量

床　ほぼ平坦であり，確認できた部分は全体的に踏み固められている。

竈　北壁中央部に砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで100cm，両袖部幅100cmである。

煙道部は攪乱されているが，袖部は良好に遺存している。火床部は床面から6cmほど掘りくぼめており，赤変硬化している。煙道は火床部から急な傾斜で立ち上がる。

ピット　4か所（P1～P4）。南西および北西コーナーから中央部寄りに位置するP1・P2は上端径38cm，48cm，下端径約18cmの円形で，深さ69cm，89cmである。規模と配置から判断して主柱穴と考えられる。南壁際中央で確認されたP3・P4は径約30cm，42cmで，深さ17cm，43cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P1～P4，盤濁土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土小ブロック微量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土小ブロック微量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
4　黒褐色　ローム粒子少量
5　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
6　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
7　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
8　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

覆土　5層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　灰　褐　色　ローム大ブロック・粒子少量
2　褐　　色　ローム大・小ブロック少量
3　にぶい褐色　ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・炭化物少量
4　灰　褐　色　ローム大ブロック・ローム小ブロック・粘土粒子・砂粒少量
5　明　褐　色　ローム大ブロック中量

遺物　土師器片314点，須恵器片28点，灰釉陶器片1点，土製品1点（支脚片），鉄滓1点，石製品1点（紡錘車），陶器片1点が出土している。第312図1の土師器坏は，南壁際の床面から出土している。2の土師器坏は，覆土中から出土している。3の砥石は南壁際の床面から，4の石製紡錘車は北壁際の床面から出土している。灰釉陶器片と陶器片がそれぞれ1点出土しているが，攪乱による混入と考えられる。

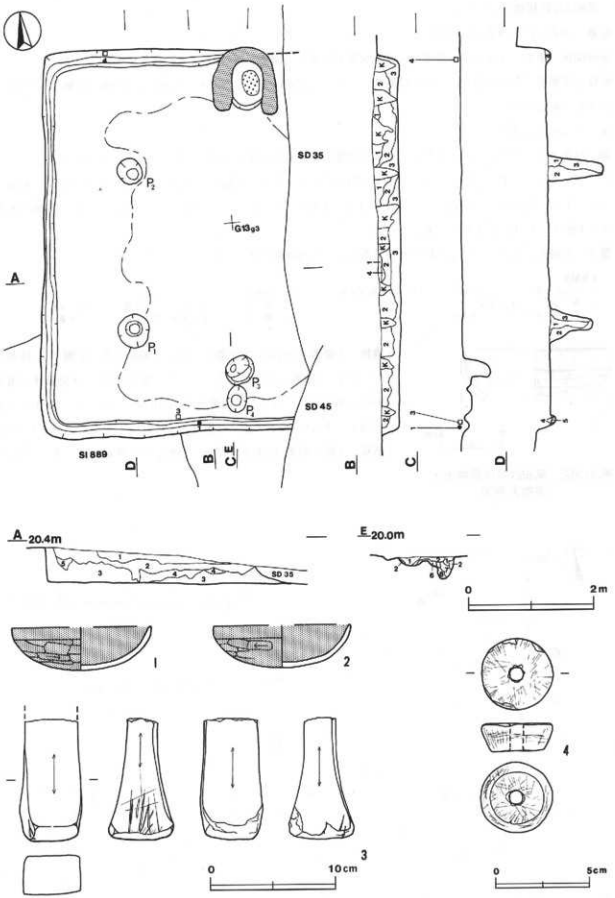
所見　本跡の時期は，出土土器から判断して7世紀前葉と考えられる。

第849号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第312図1	坏 土師器	A [11.2] B 3.4	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内弯して立ち上がり，口縁部にいたる。	LI縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	P112057　30% PL89 南壁際床面
2	坏 土師器	A [10.9] B 3.3	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内弯して立ち上がり，口縁部にいたる。	LI縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 暗赤褐色 普通	P112058　20% PL89 覆土中

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第312図3	砥石	(9.6)	5.0	5.1	298.3	凝灰岩	南壁際床面	Q112002　PL107

図版番号	種別	計測値 径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第312図4	紡錘車	3.9	1.5	0.7	34.6	滑石	北壁際床面	Q112003　PL106



第312図　第849号住居跡・出土遺物実測図

第853号住居跡（第314図）

位置　調査11区の西部，G10J3区。

重複関係　東部と北部を第36号溝に，西部を第35号溝に，南部を第598号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　南部が調査区域外に位置しているため詳細は不明であるが，長軸［3.10］m，短軸［2.40］mの長方形と推定される。

床　ほぼ平坦である。

竈　付設されていたと考えられるが，東部と北部を第36号溝に掘り込まれており，確認できなかった。

ピット　2か所（P1・P2）。P1・P2の上端は径30cm，34cm，下端は径約20cmの円形で，深さ58cm，82cmである。P1は東壁からやや西寄りに位置し，P2は北東コーナーからやや中央寄りに位置しており，規模と配置から判断していずれも主柱穴と考えられる。

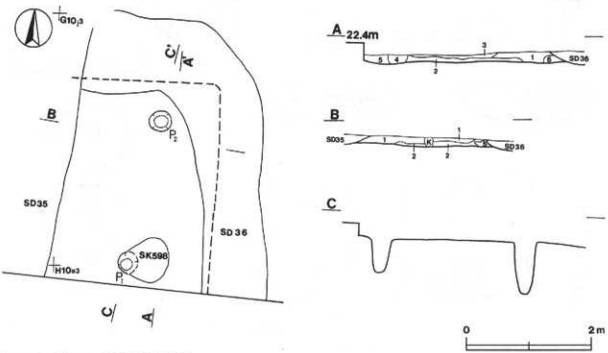
覆土　6層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　焼土小ブロック多量，ローム粒子・焼土粒子少量
2　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
3　褐　色　焼土ブロック・灰多量
4　暗褐色　ローム小ブロック中量
5　褐　色　ローム中・小ブロック多量，ローム粒子少量
6　褐　色　ローム粒子多量，焼土中・小ブロック中量

第313図　第853号住居跡出土遺物実測図

遺物　土師器片185点，須恵器片5点，土製品2点（支脚片），鉄器1点（刀子），陶器片2点が出土している。第313図1の土師器杯は覆土中から出土している。刀子が覆土中から出土しているが，極小片であり図示できない。陶器の細片は撹乱により混入したものと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して7世紀前葉と考えられる。



第314図　第853号住居跡実測図

第853号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第313図 1	坏 土師器	A [11.4] B (4.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	P112067 5% 中央部覆土中

第854号住居跡（第315図）

位置　調査11区の西部，G10j6区。

規模と平面形　南部が調査区域外に位置し，また大部分が削平されているため詳細は不明であるが，床質や竈の痕跡から長軸［3.80］m，短軸［3.60］mの方形と推定される。

主軸方向　N－3°－E

床　ほぼ平坦である。

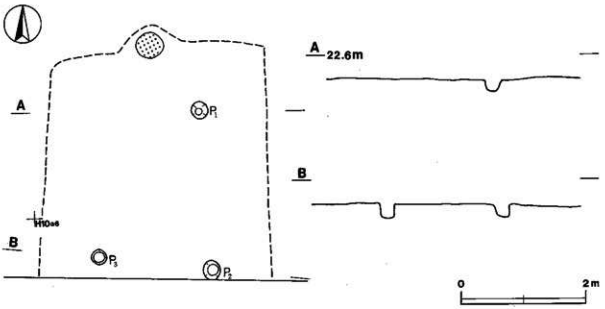
竈　大部分が削平されており，赤変硬化した火床部だけが確認できた。

ピット　3か所（P1～P3）。P1～P3の上端は径約24cm，下端は径12～20cmの円形で，深さ17～23cmである。各コーナーやや中央部寄りに位置しており，規模と配置から主柱穴と考えられる。

覆土　削平されて覆土が薄く，堆積状況は確認できなかった。

遺物　土師器片24点，須恵器片4点，灰釉陶器片1点が出土している。そのうち1点は土師器坏細片で，内・外面に黒色処理が施され，口縁部と体部の境に明瞭な稜をもち，口縁部がやや外傾する。灰釉陶器片は細片のため器種は不明である。攪乱による混入と考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して古墳時代後期と考えられる。



第315図　第854号住居跡実測図

第858号住居跡（第316図）

位置　調査11区の西部，G10b7区。

重複関係　北部を第38号溝に，南部を第35号溝にそれぞれ掘り込まれている。

規模と平面形　長軸5.70m，短軸［4.16］mの長方形と推定される。

壁　東・西壁は，壁高は8㎝で，外傾して立ち上がる。北・南壁は，溝に掘り込まれており，確認できなかった。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。ピットは確認されなかった。

炉　北部中央で焼土ブロック混じりの炉床部の一部が確認された。

覆土　4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　明褐色　ローム粒子中量，焼土粒子極微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・焼土粒子微量，炭化粒子極微量
3　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子極微量
4　暗褐色　ローム小ブロック・粒子微量

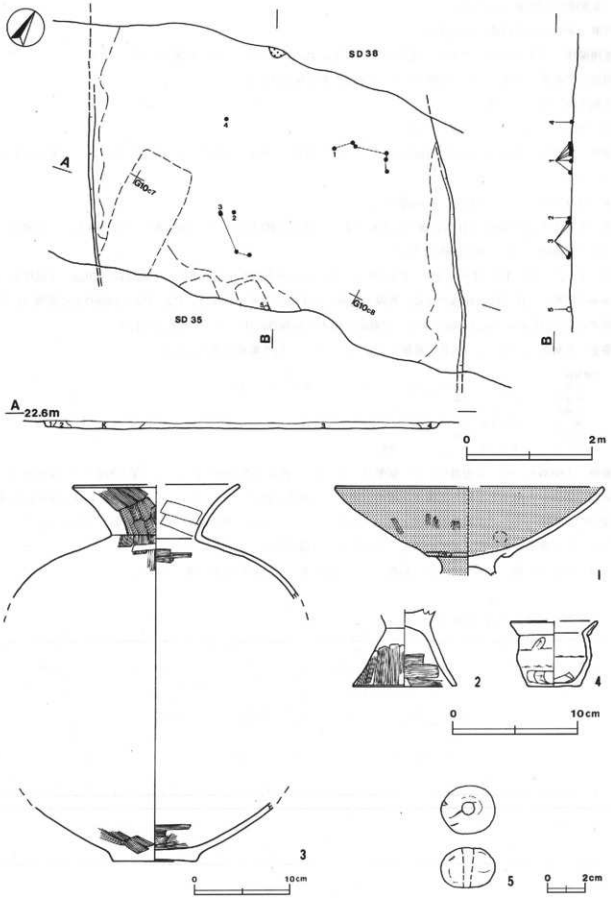
遺物　土師器片173点，須恵器片2点，土製品（土玉）が出土している。第316図1の土師器高坏は北東部の床面から出土した破片と覆土下層から出土した破片が接合したものである。2の土師器高坏は，中央部から南寄りの覆土下層から横位で出土している。3の土師器甕は南部の床面から出土した破片と床面直上から出土した破片が接合したもので，ハケ目調整が施されている。4の土師器ミニチュア土器は，中央部の床面から出土している。5の土製品（土玉）は，南部の覆土下層から出土している。確認面から出土した須恵器片2点はいずれも甕の細片であり，撹乱による混入と考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して4世紀前葉と考えられる。

第858号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第316図 1	高坏 土師器	A［21.6］ B（7.2）	脚部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ヘラ磨き。内・外面赤彩。	砂粒・長石 にぶい赤褐色 普通	P 112076　30% PL 90　北部床面，覆土下層
2	高坏 土師器	B（6.1） D　8.4	脚部片。脚部はラッパ状に開く。	脚部内・外面ハケ目調整。	砂粒・長石 にぶい赤褐色 普通	P 112077　40% PL 90　中央部から南寄りの覆土下層
3	甕 土師器	A［17.1］ B（18.0） C　8.7	底部から体部下位，体部上位から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部で「く」の字状に屈曲し，口縁部は外反する。	口縁部外面，体部内・外面ハケ目調整。口縁部内面横ナデ後，ハケ目調整。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 普通	P 112078　25% 南部覆土下層
4	ミニチュア土器 土師器	A［6.8］ B　5.2 C　4.2	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部で「く」の字状に屈曲する。口縁部は折り返し口縁で外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。体部内・外面輪積み痕。	砂粒・長石・赤色粒子 褐色 普通	P 112079　45% PL 90 中央部床面

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第316図5	土玉	2.9	2.2	0.6	15.0	南部覆土下層	DP 112004　PL 105



第316図　第858号住居跡・出土遺物実測図

第859号住居跡（第317図）

位置　調査11区の西部，G10j7区。

重複関係　北部を第856号住居に，北東コーナー部を第857号住居にそれぞれ掘り込まれている。

規模と平面形　長軸4.70m，短軸（3.94）mの長方形と推定される。

主軸方向　N－5°－W

壁　壁高は8～22cm で，外傾して立ち上がる。

壁溝　竈付近と東部の一部及び西部を巡っている。上幅12～30cm，下幅3～10cm，深さ約6cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

竈　北壁中央部が第856号住居に掘り込まれており，遺存状態は良くない。砂質粘土で構築されている袖部の一部と赤変硬化した火床部が確認された。

ピット　5か所（P1～P5）。P1～P4は各コーナーから中央部寄りに位置し，上端径66～70cm，下端径28～36cmの円形で，深さ56～80cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。P2・P3の中間のやや南寄りに位置するP5は径36cm，深さ23cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　6層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック微量
2　黒褐色　ローム小ブロック少量
3　黒褐色　ローム小ブロック微量
4　褐　色　ローム粒子少量，ローム中・小ブロック微量
5　暗褐色　ローム小ブロック微量
6　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

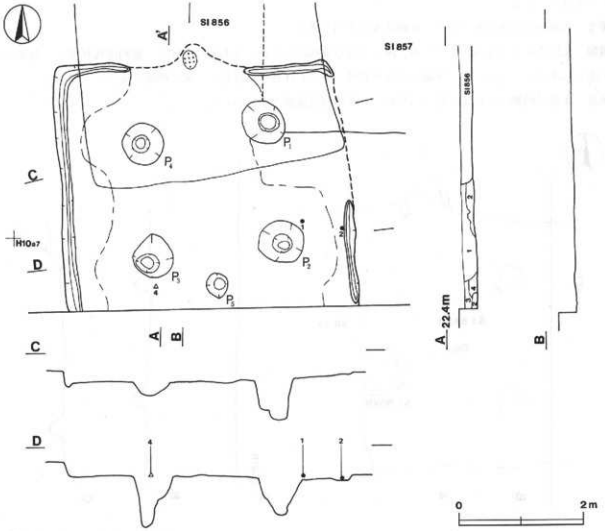
遺物　土師器片79点，須恵器片1点，銅製品1点（鈴），鉄滓1点が出土している。第318図1の土師器坏は，東部の床面から出土した破片と覆土下層から出土した破片が接合したものである。2の土師器坏は東壁際の床面から正位で，3の須恵器提瓶は覆土中から出土したものである。4の鈴は，南部の床面から出土している。鉄滓1点が覆土中から出土しているが，鍛冶炉などは確認されなかった。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。

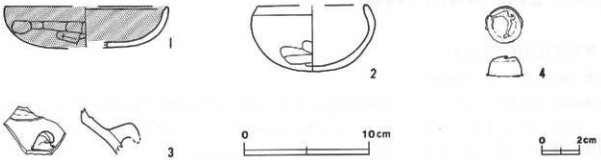
第859号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第318図1	坏 土師器	A [13.0] B 3.2	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎気味に立ち上がる。内面の口縁端部に稜をもつ。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 灰黄褐色 普通	P112080　20% PL89　東部床面，覆土下層
2	坏 土師器	A [8.8] B 5.2	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・赤色粒子 橙色 普通	P112072　60% PL89 東部床面
3	提瓶 須恵器	B（3.8）	体部片。体部は内彎して立ち上がる。類部下に把手が付いている。	体部内面ナデ。外面カキ目。	砂粒・長石・赤色粒子 黄灰色　普通	P112074　5% PL90 覆土中

図版番号	種別	計測値 径(cm)	高さ(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第318図4	鈴	1.95	(1.1)	0.05	(0.83)	南部P3付近覆土下層	M112005　銅製　PL110



第317図　第859号住居跡実測図



第318図　第859号住居跡出土遺物実測図

第862B号住居跡（第319図）

位置　調査11区の西部，G10j2区。

重複関係　東部を第35号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　大部分が削平されているため全容は確認できなかった。

床　ほぼ平坦であり，中央部と考えられる床の一部が踏み固められている。ピットは確認されなかった。

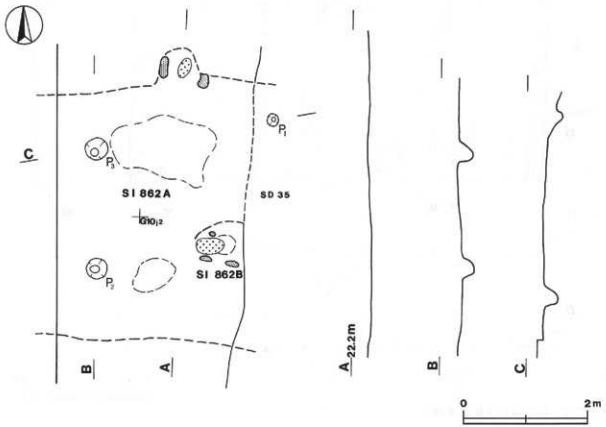
竈　東部で竈袖部の一部と推定される砂質粘土ブロックや火床部が確認された。砂質粘土ブロックは火熱を受

けて赤変している。

覆土　大部分が削平されており，堆積状況は不明である。

遺物　土師器片２点が出土している。図示できる遺物はないが，うち１点は坏片で竈袖部残存部やや南寄りの床面から出土しており，内・外面とも黒色処理が施され体部と口縁部との境に明瞭な稜をもっている。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して古墳時代後期と考えられる。



第319図　第862A・862B号住居跡実測図

第865号住居跡（第320図）

位置　調査11区の西部，G10d0区。

重複関係　中央部から西部にかけてを第864号住居に，北部を第863号住居に掘り込まれている。さらに中央部から東部にかけてを第28・29号掘立柱建物跡に，北東部を第41号溝にそれぞれ掘り込まれている。

規模と平面形　長軸8.30m，短軸6.54mの長方形である。

主軸方向　N－21°－W

壁　壁高は20～30cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北部と南部の一部で壁下を巡っている。上幅14～36cm，下幅６～14cm，深さ約６cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

竈　北壁中央部が第863号住居跡に掘り込まれているため遺存状態は悪いが，北壁中央部に砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで［100］cm，両袖部幅（150）cmである。第２・３層は焼土粒子・焼土ブロックを多量に含んでおり，火床部と考えられる。煙道は火床部から緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説
1　暗赤褐色　焼土小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量
2　暗赤褐色　焼土小ブロック・粒子中量，粘土粒子・砂粒少量
3　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，焼土中ブロック・粘土粒子・砂粒少量
4　暗赤褐色　炭化粒子多量，粘土粒子中量，焼土小ブロック・砂粒少量
5　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量
6　暗赤褐色　焼土小ブロック・粒子多量，炭化粒子中量

ピット　4か所（P1～P4）。東西コーナー寄りに位置するP1・P2は上端径26cm，32cm，下端径約10cmの円形で，深さ79cm，83cmである。位置と規模と配置から判断して主柱穴と考えられる。P3・P4は径24cm，38cmで，深さ30cm，67cmである。性格は不明である。

貯蔵穴　竈と東壁の中間のやや竈寄りで確認された。長軸約140cm，短軸約90cmの隅丸長方形で，深さ約57cmである。

貯蔵穴土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック・粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
4　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
5　暗褐色　ローム粒子少量

覆土　7層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

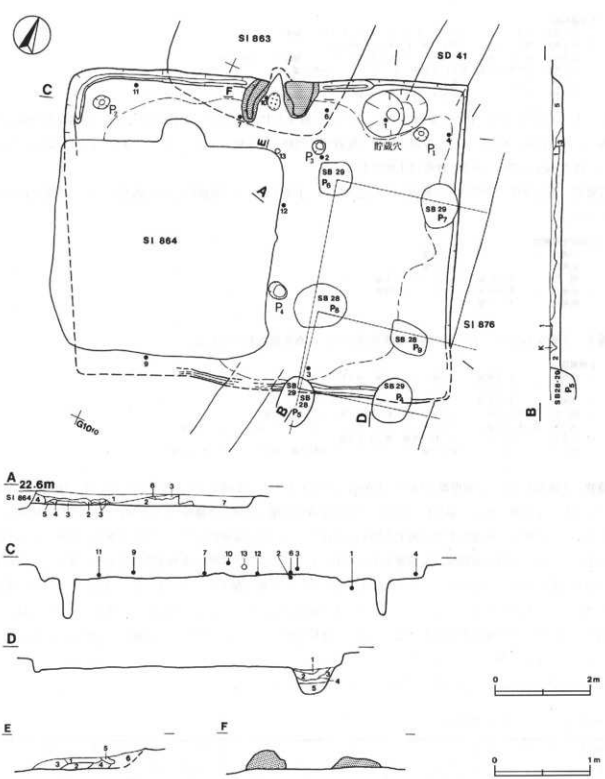
土層解説
1　暗褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，焼土粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
3　明褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，ローム大ブロック少量
4　褐　色　焼土粒子多量，ローム中ブロック・粒子中量，焼土小ブロック少量
5　褐　色　焼土粒子多量，ローム中ブロック・粒子中量，ローム大ブロック・焼土小ブロック少量
6　明褐色　ローム中・小ブロック・粒子多量，焼土粒子少量
7　褐　色　ローム中ブロック・粒子多量，ローム小ブロック・砂粒中量，焼土小ブロック・粒子少量

遺物　土師器片340点，須恵器片14点，土製品5点（土玉2点，支脚片3点）が出土している。図示した土器はいずれも土師器である。第321・322図1の坏は貯蔵穴内覆土中層から横位で，2の坏は東袖部付近床面から正位で，3の坏は，南壁際中央の覆土上層から正位で，4の坏は東壁際北寄りの覆土下層から逆位でそれぞれ出土している。5の土師器椀は南部覆土中から出土している。6の高坏は東袖部際の床面から横位で，7の甕は西袖部際の床面から横位で，それぞれ出土している。8の甕は覆土中から，9の鉢は南西コーナー部の覆土中層から，それぞれ出土したものである。10の鉢は竈内から出土している。11の甑は北壁際の床面から横位で出土している。12の須恵器坏は中央部の床面から逆位で出土している。13の土玉は竈焚き口付近から出土している。14の土玉は覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して6世紀後葉と考えられる。

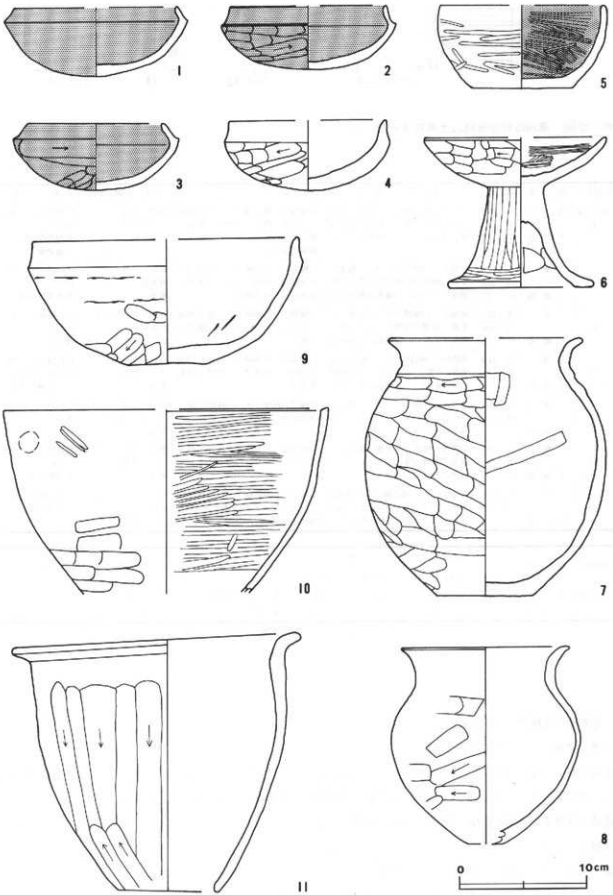
第865号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第321図 1	坏 土師器	A 13.0 B 5.5	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P112101 50% PL 貯蔵穴内覆土中層
2	坏 土師器	A [12.4] B 5.0	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 褐灰色 普通	P112102 50% PL90 東袖部付近床面
3	坏 土師器	A 10.6 B 5.3	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒 橙色 普通	P112103 50% 南壁際中央の覆土上層

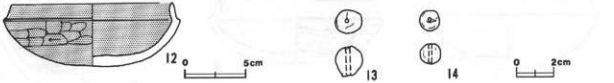


第320図　第865号住居跡実測図

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第321図 4	坏 土師器	A〔12.4〕 B 5.6	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。作り雑。	砂粒・雲母・礫にぶい橙色 普通	P 112104　50% PL 90　東壁際北寄りの覆土下層
5	椀 土師器	A〔13.0〕 B 6.6 C 8.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面丁寧なヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒 にぶい褐色 普通	P 112105　40% 南部覆土下層



第321図　第865号住居跡出土遺物実測図（1）



第322図　第865号住居跡出土遺物実測図（2）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第321図 6	高台坏 土師器	A [14.4] B 11.9 D [11.4] E 7.9	坏部，脚部，裾部一部欠損。脚部はラッパ状に開く。坏部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面ヘラ削り。内面ヘラ磨き。脚部，裾部外面ヘラ削り後，ヘラ磨き。裾部内面ナデ。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P 112106　60% PL 91 東袖部際床面 内面剥離
7	甕 土師器	A [14.8] B 20.4 C 7.7	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。底部不定方向へのヘラ削り。	砂粒・雲母 暗褐色 普通	P 112107　90% PL 91 西袖部際床面
8	甕 土師器	A 13.2 B 15.6 C [2.8]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。底部ヘラ削り。	砂粒・長石・石英 赤色粒子 にぶい橙色　普通	P 112108　40% PL 91 覆土中
9	鉢 土師器	A [21.0] B 9.9 C [6.2]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。体部外面輪積み痕。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P 112109　40% PL 90　南西コーナー部覆土中層
10	鉢 土師器	A [26.0] B (14.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部外面横ナデ。口縁部内面，体部内面ヘラ磨き。外面ナデ。	砂粒・雲母・白色粒子　にぶい褐色 普通	P 112110　5% 竈内
11	瓶 土師器	A 22.3 B 20.5 C 7.8	口縁部・体部一部欠損。無定式。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。内面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P 112111　90% PL 90 北壁際床面
第322図 12	坏 須恵器	A 13.0 B 5.0	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部はやや内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 にぶい褐色　普通	P 112100　80% 中央部床面

図版番号	種別	計測値 径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第322図13	土玉	1.4	1.5	0.2	2.84	竈焚き口付近床面	DP 112006　PL 105
14	土玉	1.1	1.1	0.15	1.12	覆土中	DP 112007　PL 105

第876号住居跡（第323図）

位置　調査11区の西部，G11e2区。

重複関係　南部を第875号住居に南西コーナー部を第874号住居に，西部を第865号住居に，北部を第868B号住居に掘り込まれている。また，第28・29号掘立柱建物，第666号土坑にも掘り込まれている。

規模と平面形　長軸8.52m，短軸8.36mの方形である。

主軸方向　N－8°－W

壁　壁高は32～42cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅14～40cm，下幅6～10cm，深さ約6cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，掘り込まれている部分以外は踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外に70cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで150cm，両袖部幅130cmである。第2・10層は焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子を多量に含んでおり，赤変していることから，火床部と考えられる。

竈土層解説

1　暗　褐　色　砂粒中量，焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化粒子少量
3　褐　　色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・ローム粒子中量
4　にぶい黄橙色　焼土粒子・砂粒多量，ローム粒子中量
5　にぶい黄橙色　焼土粒子・砂粒多量
6　赤　褐　色　焼土小ブロック・粒子多量，ローム粒子中量，炭化粒子少量
7　暗　赤　褐　色　焼土小ブロック・粒子多量，ローム粒子・砂粒中量，焼土中ブロック少量
8　暗　赤　褐　色　焼土小ブロック・粒子多量，砂粒中量
9　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・灰多量
10　暗　赤　褐　色　焼土粒子多量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・灰中量

ピット　11か所（P1～P11）。P1は上端径22cm，下端径12cmの円形で，深さ75cmである。P2～P4は上端径80～100cm，下端径12～22cmのほぼ円形で，深さ69～73cmである。それぞれコーナー部寄りに位置しており，規模と配置から判断して主柱穴と考えられる。南壁際の中央に位置するP5は径約42cmの円形で，深さ36cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7は径32cm，44cmのほぼ円形で深さは36cm，37cmである。性格は不明であるが，竈施設に伴う柱穴の可能性も考えられる。P8～P11は径52～70cmのほぼ円形，深さは32～60cmで，性格は不明である。

貯蔵穴　竈と東壁の中間で確認された。長径96cm，短径70cmの楕円形で，深さ63cmである。

貯蔵穴土層解説

1　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
2　明褐色　ローム大・中ブロック中量

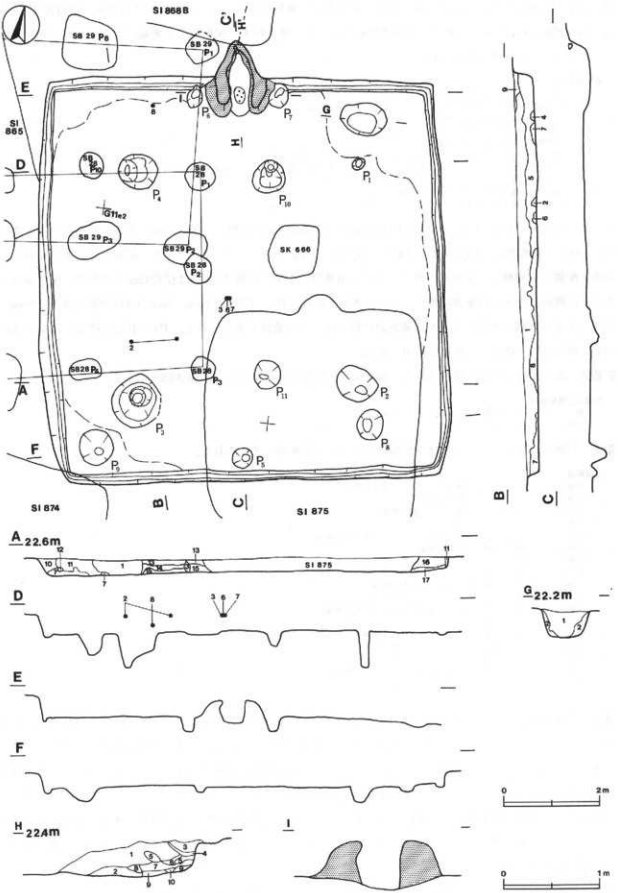
覆土　17層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

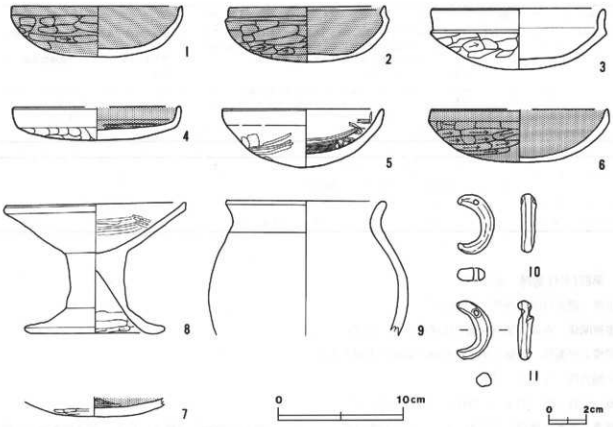
1　黒褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量
3　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
4　暗褐色　ローム小ブロック少量
5　暗褐色　ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
6　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
7　暗褐色　ローム中・小ブロック・粒子微量
8　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
9　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
10　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
11　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量，炭化物・炭化粒子微量
12　褐　色　ローム粒子中量
13　暗褐色　ローム粒子少量，ローム中・小ブロック微量
14　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
15　暗褐色　ローム粒子少量・ローム小ブロック微量
16　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量，焼土小ブロック微量
17　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

遺物　土師器片1203点，須恵器片56点，土製品2点（勾玉）が出土している。第324図1の土師器坏は，中央部の覆土下層から出土している。2の土師器坏は，西部の床面から出土した破片と床面直上から出土した破片と覆土中から出土した破片が接合したものである。3の土師器坏は中央部の床面直上から正位で，4の土師器坏は覆土中から出土している。5の土師器坏は，覆土中から出土した破片が接合したものである。6・7の土師器坏は，中央部の床面直上から正位で出土している。8の土師器高坏は，北部壁際の床面から逆位で出土している。9の土師器甕は，覆土中から出土している。10・11の土製勾玉は，中央部の床面とP8の覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。



第323図　第876号住居跡実測図



第324図　第876号住居跡出土遺物実測図

第 876 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第324図 1	坏 土師器	A 13.7 B 4.0	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部にいたる。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・白色粒子 にぶい橙色 普通	P 112131　90% PL 92 覆土中
2	坏 土師器	A 12.5 B 4.4	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	P 112132　60% 西部床面
3	坏 土師器	A 14.9 B 4.8	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒 にぶい黄褐色 普通	P 112133　50% 中央部床面直上
4	坏 土師器	A [13.4] B 2.6 C 12.7	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は軽く外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ後，ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒 橙色 普通	P 112134　60% 覆土中
5	坏 土師器	A 12.7 B 4.6	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。端部は丸く収めている。	口縁部内・外面，体部内面ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り後，ヘラ磨き。内外面黒色処理。	砂粒・長石・礫 灰褐色 普通	P 112135　50% 覆土中
6	坏 土師器	A [14.2] B 4.2	体部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P 112136　30% PL 92 中央部床面直上
7	坏 土師器	B (1.5)	体部片。体部はやや外傾気味に立ち上がる。	体部内面ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・長石 灰褐色 普通	P 112137　10% PL 92 中央部床面直上

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第324図 8	高坏 土師器	A 14.4 B 10.4 D 10.2	口縁部・脚部一部欠損。脚部はラッパ状に開く。坏部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は軽く外反する。端部は上方につまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。坏部，脚部外面ヘラ削り。坏部内面ヘラ磨き。脚部内外面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・礫 明赤褐色 普通	P 112138 80% PL 92 北部集際床面
9	甕 土師器	A 12.5 B (10.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，中位に最大径をもつ。頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ。内面ナデ。	砂粒・雲母・石英 灰褐色 普通	P 112139 40% PL 92 覆土中

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第324図10	土製勾玉	3.1	2.0	0.2	2.89	中央部床面	DP 112008 PL 102
第324図11	土製勾玉	3.1	1.9	0.3	2.08	P 8 覆土中	DP 112009 PL 102

第877号住居跡（第326図）

位置　調査11区の西部，G11h3区。

重複関係　南部が第34号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸3.58m，短軸3.40mの方形である。

主軸方向　N－9°－W

壁　壁高は26～34cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　西部は確認できなかったが，それ以外は巡っている。上幅12～26cm，下幅4～12cm，深さ約8cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

竈　北壁中央を壁外に10cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで70cm，両袖部幅80cmである。天井部は崩落しており，粘土混じりの砂粒が多量に含まれる第1～5層が崩落土と考えられる。第6層は焼土ブロック・焼土粒子を多量に含んで赤変していることから，下部が火床部と考えられる。煙道は火床部から外傾し，急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1　褐　色　砂粒多量，焼土小ブロック・炭化粒子中量
2　褐　色　砂粒多量，ローム小ブロック・焼土小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
3　にぶい褐色　砂粒多量，焼土小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
4　にぶい褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子中量，焼土中ブロック・粒子少量
5　褐　色　砂粒多量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
6　赤褐色　焼土小ブロック・粒子多量，焼土中ブロック・炭化粒子・砂粒中量

第325図　第877号住居跡出土遺物実測図

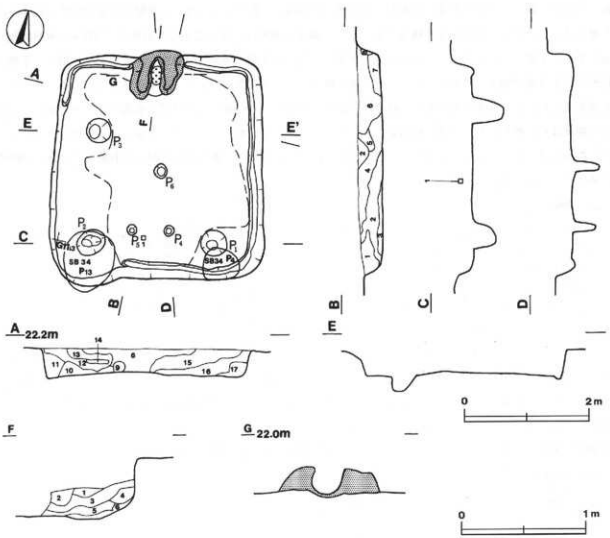
ピット　6か所（P1～P6）。北東コーナー部を除く各コーナー部からやや中央部寄りに位置するP1～P3は上端径38～42cm，下端径16～18cmのほぼ円形で，深さ24～50cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際中央からやや中央部寄りに位置するP4・P5や中央部に位置するP6は径16～18cmの円形で，深さ20～40cmである。性格は不明である。

覆土　17層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム小ブロック・炭化粒子少量，ローム大ブロック・焼土小ブロック微量
3　褐　色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
5　暗褐色　ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
6　暗褐色　ローム小ブロック少量，焼土小ブロック微量
7　暗褐色　ローム粒子少量
8　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
9　暗褐色　ローム粒子中量，砂粒微量
10　褐　色　ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
11　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量，焼土粒子微量
12　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
13　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
14　黒褐色　炭化粒子少量，焼土粒子微量
15　暗褐色　ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック微量
16　黒褐色　ローム小ブロック少量，炭化物微量
17　黒褐色　ローム小ブロック・粒子少量，炭化物微量

遺物　土師器片482点，須恵器片13点，石製品1点（砥石）が出土している。第325図1の砥石は，南部中央の覆土中層から出土している。出土した土師器片482点のうち，数点は体部から口縁部にかけての坏細片である。大部分が内・外面とも黒色処理され，体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はやや外反している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。



第326図　第877号住居跡実測図

第877号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第325図	砥石	(8.5)	4.0	4.3	154.4	凝灰岩	南部中央覆土中層	Q 112005 PL 107

第880号住居跡（第327図）

位置　調査11区の南西部，H11a4区。

重複関係　北壁中央部を第40号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　南部が調査区域外に位置しているため全容は不明である。確認できたのは東西7.00m，南北（2.90）mである。

主軸方向　N－6°－W

壁　壁高は60cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　南部は調査区域外のため確認できなかったが，それ以外では確認され，全周していたと推定される。上幅26～50cm，下幅10～22cm，深さ約8cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

竈　2か所。竈1は北壁中央部やや西寄りを壁外に約10cmほど掘り込み，竈2は北壁中央部を壁外に約50cmほど掘り込み，いずれも砂質粘土で構築されている。竈1の規模は，焚口部から煙道部まで100cm，両袖部幅90cmである。北部でトレンチャーによる攪乱を受けている。天井部は崩落しており，赤変状態から第1・2層は被熱した天井部の崩落土と考えられる。第4層は焼土ブロックを多量に含み，灰を中量含んでいることから火床部と考えられる。煙道は火床部から緩やかな傾斜で立ち上がる。竈2は天井部が崩落しており，第2～5層が赤変状態から被熱した天井部の崩落土と考えられる。第7層は焼土ブロックを多量，灰を中量含んでいることから火床部と考えられる。煙道は火床部から緩やかに立ち上がる。竈の遺存状況から判断して，ほぼ同時期に使用したと考えられる。

竈1土層解説
1　褐　色　焼土ブロック・褐色土中量
2　赤褐色　焼土ブロック多量
3　褐　色　焼土ブロック中量
4　赤褐色　焼土ブロック多量，灰中量
5　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化材中量
6　褐　色　ローム粒子多量
7　赤褐色　砂粒多量，焼土ブロック・粒子中量
8　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子中量
9　褐　色　ローム粒子・焼土粒子多量

竈2土層解説
1　褐　色　ローム粒子多量，砂粒中量
2　褐　色　ローム粒子・焼土粒子多量，砂粒中量
3　褐　色　ローム粒子多量，ロームブロック中量
4　暗赤褐色　ローム粒子多量，焼土ブロック中量
5　赤褐色　焼土ブロック多量，ローム粒子中量
6　赤褐色　焼土ブロック多量
7　暗赤褐色　焼土ブロック多量，灰中量

ピット　3か所（P1～P3）。東・西コーナー部から中央部寄りに位置するP1・P2は上端径68cm，下端径24cmのほぼ円形で，深さはそれぞれ71cm，81cmである。P1の覆土上層から土師器坏が出土している。規模と配置から判断して主柱穴と考えられる。P1とP2の中間に位置するP3は径約46cmの円形で，深さ16cmである。性格は不明である。

貯蔵穴　竈2と東壁の中間で確認された。長径76cm，短径66cmの楕円形で，深さ54cmである。

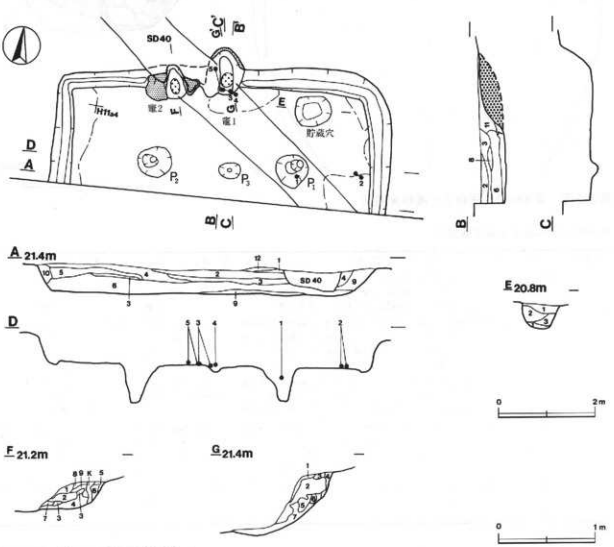
貯蔵穴土層解説
1　にぶい褐色　焼土ブロック・粘土ブロック多量，炭化材中量
2　にぶい褐色　焼土ブロック・粘土ブロック・炭化材多量
3　褐　色　炭化材・粘土ブロック中量

覆土　12層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

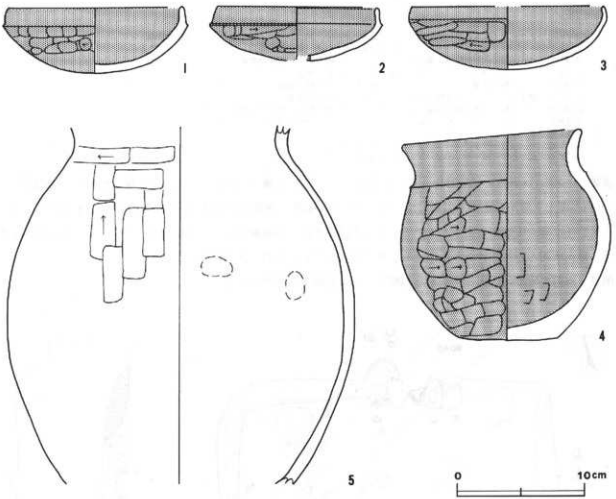
土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・黒色土小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒 褐 色 ローム粒子中量，炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
3 明 褐 色 ローム中ブロック・小ブロック・粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
5 暗 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6 黒 褐 色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7 灰 褐 色 粘土小ブロック・粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
8 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
9 極暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
10 褐 色 ローム中ブロック・小ブロック・粒子少量
11 褐 色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
12 黒 褐 色 焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量

遺物 土師器片696点，須恵器片3点，土製品1点（支脚），礫2点が出土している。第328図1の土師器坏は，P1内の覆土上層から正位で出土している。2の土師器坏は西壁から約70cmほど中央部寄りの床面から，3の土師器坏は竈火床面から出土している。4の土師器甕は，竈東袖付近から正位で出土している。5の土師器甕は，竈火床面と西袖部付近から出土した破片が接合されたものである。

所見 本跡の時期は，出土土器から判断して6世紀後葉と考えられる。



第327図 第880号住居跡実測図



第328図　第880号住居跡出土遺物実測図

第880号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第328図 1	坏 土師器	A 13.8 B 5.2	完形。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境にわずかに稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P 112149　100% PL 92 P. 内覆上上層
2	坏 土師器	A 12.8 B 4.2	体部・口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は若干内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P 112150　80% PL 92 西壁際床面
3	坏 土師器	A [15.2] B 5.0	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・石英 灰褐色 普通	P 112151　50% PL 92 竈内
4	甕 土師器	A 14.0 B 16.8 C 8.0	完形。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ヘラナデ。底部ヘラ削り後，ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい褐色 普通	P 112152　100% PL 93 竈内
5	甕 土師器	B (28.4)	体部片。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ヘラ磨き。内面ナデ。指頭押圧。	砂粒・長石・石英 暗赤褐色 普通	P 112153　20% 竈内

第888号住居跡（第329図）

位置　調査11区の東部，G12h6区。

重複関係　東部で第903号住居跡を掘り込み，南東部を第900号住居，南西部を第896・897A号住居に，北部を第886号住居にそれぞれ掘り込まれている。

規模と平面形　長軸8.00m，短軸7.80mの方形である。

主軸方向　N－7°－W

壁　壁高は48～52cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　第896・900号住居跡と重複している部分は確認できなかったが，他は巡っており，全周していたと推定される。上幅16～30cm，下幅6～12cm，深さ約10cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。出入り口施設に伴うピットの周囲には高まりが認められた。北東コーナー部に長径120cm，短径約70～100cmの楕円形で，深さ約10cmの掘り込みが確認できた。覆土は3層からなり，第1層は床面から深さ3cm，東西径約60cmで，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子が中量含まれている。また，第2層は焼土粒子中量，炭化粒子少量，第3層は炭化粒子が少量確認されたことから，灰溜めと考えられる。

竈　第886号住居跡の床下から確認された。北壁中央部を壁外に30cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで130cm，両袖部幅120cmである。第5・6層は焼土粒子を多量に含み赤変していることから，下部が火床部と考えられる。煙道は，火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1	黒褐色	ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2	黒褐色	ローム中ブロック中量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3	暗赤褐色	ローム中ブロック・焼土粒子中量，焼土小ブロック・ローム粒子少量
4	暗赤褐色	焼土粒子中量
5	暗赤褐色	焼土粒子多量，焼土小ブロック少量
6	暗赤褐色	焼土粒子多量
7	暗赤褐色	焼土粒子・灰多量
8	暗赤褐色	焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
9	暗赤褐色	粘土粒子多量，焼土粒子・砂粒少量
10	暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子中量，ローム小ブロック・砂粒少量

ピット　6か所（P1～P6）。各コーナー寄りに位置するP1～P4は上端径64～80cm，下端径12～36cmの円形で，深さ59～64cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際の中央に位置するP5は3穴が連結しており，それぞれ上端径74cm，36cm，54cm，下端はそれぞれ20cm，20cm，26cmの円形で，深さは33～41cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。また，P5を囲むように高まりが確認された。北西コーナー壁際で確認されたP6は径14cmの円形で，深さ10cmである。性格は不明である。

貯蔵穴　竈と西壁の中間で確認された。長軸74cm，短軸62cmの長方形で，深さは40cmである。

貯蔵穴土層解説

1	黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量
2	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量
3	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材少量
4	黒褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量
5	暗褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
6	褐　色	ローム粒子多量

覆土　10層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

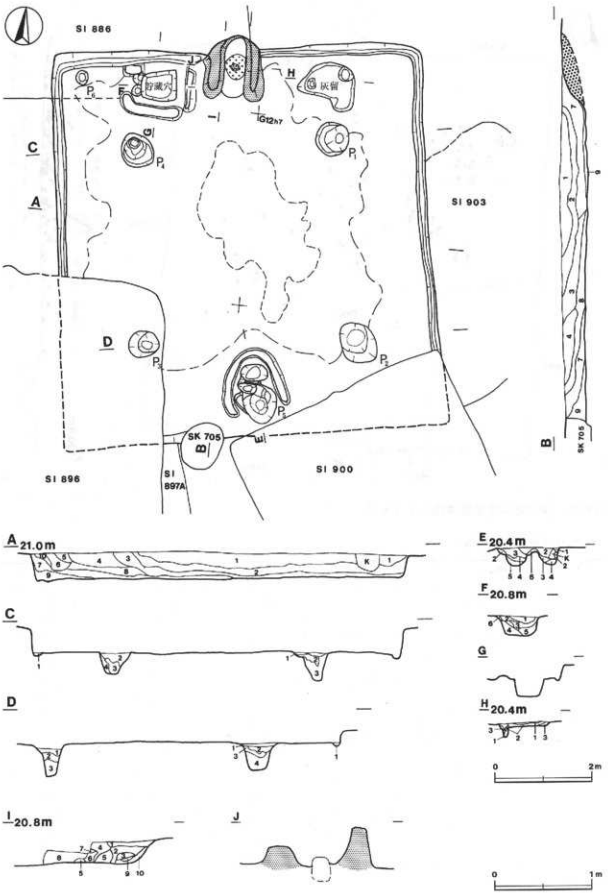
土層解説

1	褐　色	ローム大・中ブロック中量
2	黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
3	暗褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物少量
4	暗褐色	ローム中ブロック・粒子少量
5	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
6	暗褐色	ローム小ブロック中量，ローム大ブロック少量

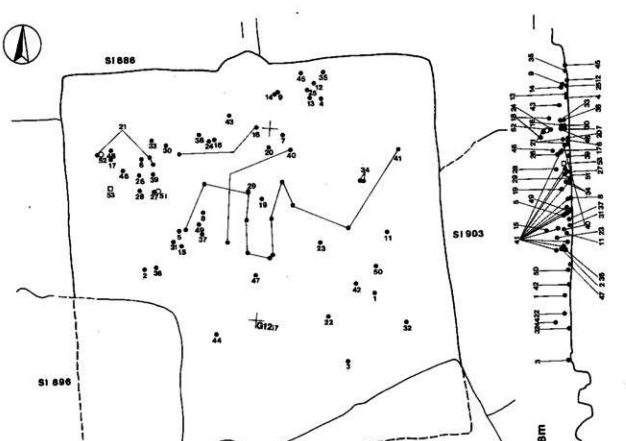
7　褐　色　ローム粒子中量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
8　褐　色　ローム小ブロック中量・ローム中ブロック少量
9　暗褐色　ローム中ブロック中量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
10　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物　土師器片4975点，須恵器片49点，土製品8点（土玉2点・支脚片6点），石製品1点（管玉），不明銅製品1点，礫37点が出土している。第331～336図1～18は土師器坏である。1は，東部の覆土下層から正位で出土している。2は西部の覆土中層から斜位で，3は南東部の床面から正位で，4は北東部の床面から斜位で，5は中央部の覆土下層からそれぞれ正位で出土している。6は北西部の覆土下層から，7は北部の覆土下層から，8は中央部床面からそれぞれ正位で出土している。9は北部の壁寄り，11は東部覆土下層から斜位でそれぞれ出土している。10は，中央部覆土下層から出土している。12・13は北東部床面から正位で，14は北壁寄りの床面から逆位で出土している。15は中央やや西寄りの覆土上層から正位で，16は北部中央の覆土下層から逆位で，17は西部の覆土下層から逆位でそれぞれ出土している。18は，北部の中央覆土中層から出土した破片と北西部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。19は土師器坏で，中央の覆土下層から出土した破片と覆土中から出土した破片が接合したものである。20～25は土師器高坏である。20は，北部の床面から逆位で出土している。21は，北西部の床面から出土した2片と北西コーナー部の覆土上層から出土した破片が接合したものである。22は，中央部やや南東寄りの覆土下層から逆位で出土している。23の高坏は，中央部の覆土中層から斜位で出土している。24の高坏脚部は，北部の覆土中層から正位で出土している。25は北部の床面から斜位で，出土している。26～42は土師器甕である。26は北西部の覆土下層から斜位，27は北西部の床面から斜位で出土している。28は，北西部の覆土中層から出土した破片と覆土中から出土した破片が接合したものである。29は中央部の床面から出土している。30は，北西部の覆土下層から斜位で出土している。31は，中央部の床面から出土した破片と覆土中から出土した破片が接合したものである。32は南東部の床面から斜位で，33は北西部の覆土下層から横位で出土している。34は，東部の覆土下層から出土した破片と床面から出土した破片が接合したものである。35は北東部の床面から斜位で，36は西部の覆土下層から斜位で，37は中央部の床面から横位で出土している。38は，北部の覆土下層から出土した破片と覆土中から出土した破片が接合したものである。39は，北西部の床面から出土した破片と覆土中から出土した破片が接合したものである。40は，北部の覆土下層から出土した破片と中央部覆土中層から出土した破片が接合したものである。41は，中央部から北部にかけての覆土下層から出土した破片と床面から出土した破片が接合したものである。42の土師器甕は，東部の床面から出土している。43の土師器椀は，北部中央の竈寄りの覆土下層から出土している。44の土師器鉢は，中央やや南西寄りの覆土中層から出土した破片と覆土中から出土した破片が接合したものである。45の土師器甑は北部の壁際の床面から逆位で，46の土師器甑は北西部の覆土中層から横位で，47の土師器甑は中央部の床面直上から横位で，48の土師器甑は北西コーナー部の覆土下層から斜位で出土している。49の土師器ミニチュア土器は，中央部の床面から正位で出土している。50の須恵器長頸瓶は，東部の床面から出土している。51の土玉は，北西部床面土師器甕内から出土している。52の土玉は，北西コーナー部覆土中層から出土している。53の碧玉の管玉は，北西部の覆土下層から出土している。54の不明銅製品は覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して，6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。



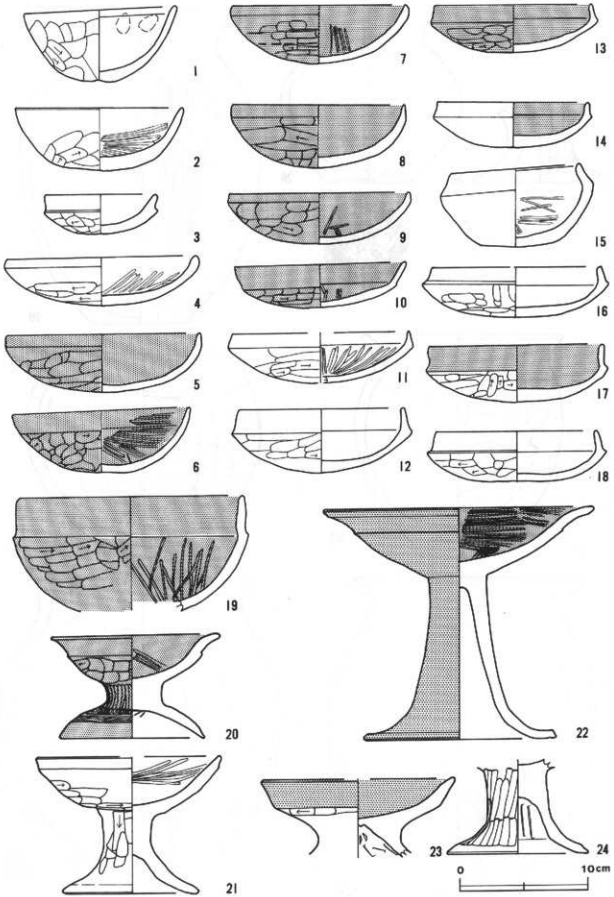
第329図　第888号住居跡実測図



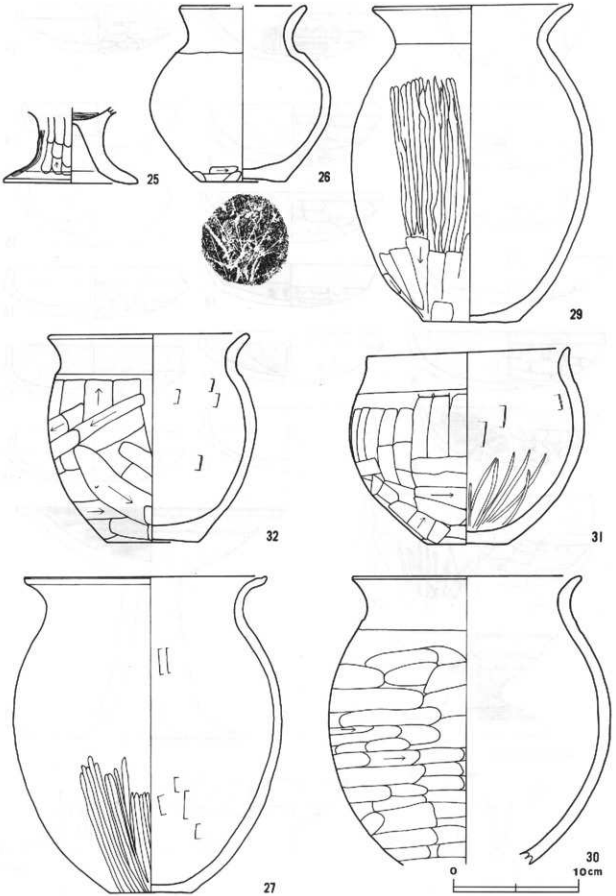
第330図　第888号住居跡遺物出土状況図

第 888 号住居跡出土遺物観察表

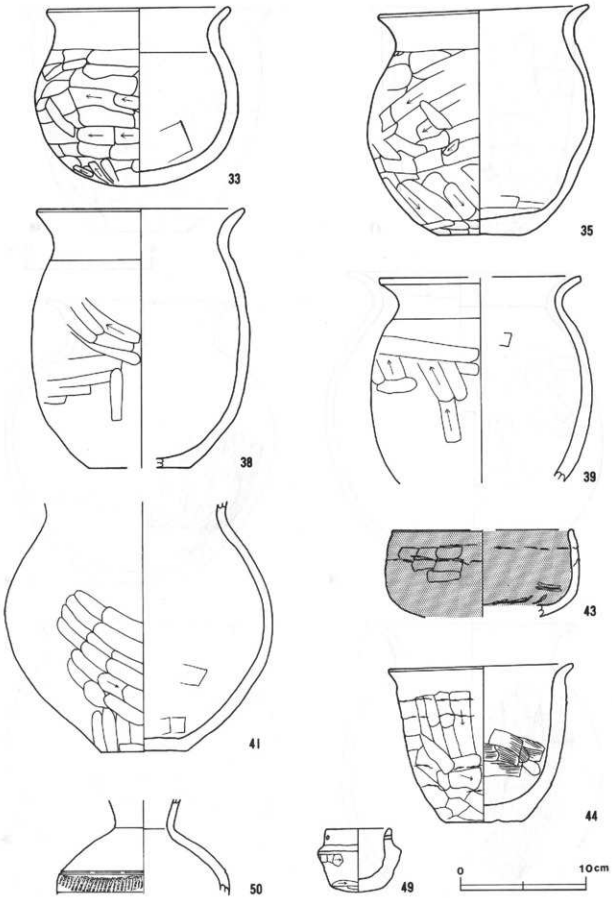
図版番号	器　種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備　考
第331図 1	坏 土 師 器	A 12.0 B 5.9	完形。丸底。体部から口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面手持ちヘラ削り。内面ヘラナデ。	砂粒・長石。石英 にぶい橙色 普通	P 112182　100% PL 94 東部覆土下層
2	坏 土 師 器	A 13.3 B 5.0	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。口縁部はほぼ直立する。	口縁部外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。口縁部・体部内面ヘラ磨き。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい褐色 普通	P 112183　95% PL 94 西部覆土中層
3	坏 土 師 器	A 9.0 B 3.1	完形。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面手持ちヘラ削り。内面ヘラ磨き。	砂粒・白色粒子 にぶい褐色 普通	P 112184　100% 南東部床面
4	坏 土 師 器	A 15.0 B 3.9	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラ磨き。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色 普通　二次焼成	P 112186　95% PL 94 北東部床面
5	坏 土 師 器	A 15.4 B 4.7	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい黄褐色　普通	P 112187　80% PL 94 中央部覆土下層
6	坏 土 師 器	A 14.0 B 5.2	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。口縁部内面・体部内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい黄褐色　普通	P 112188　95% PL 94 北西部覆土下層



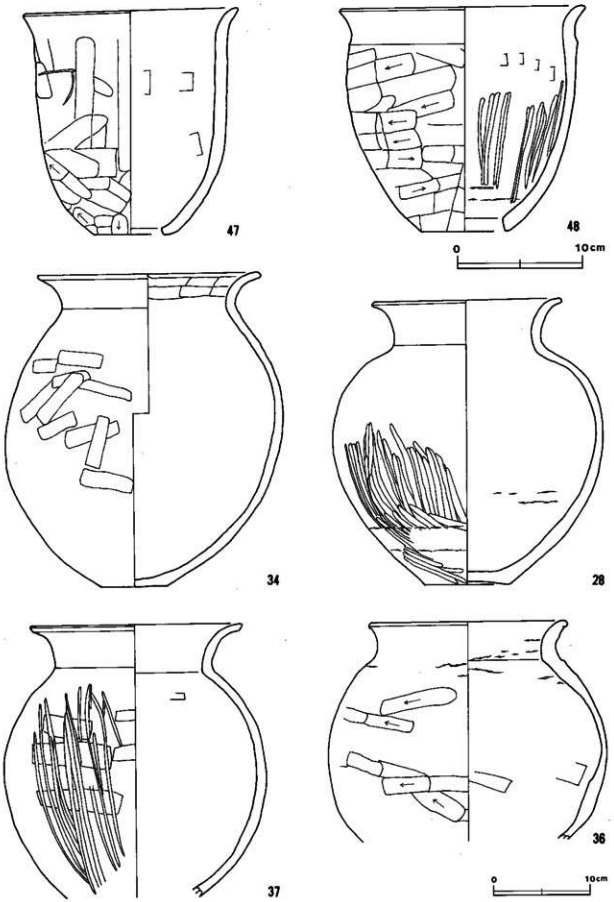
第331図　第888号住居跡出土遺物実測図（1）



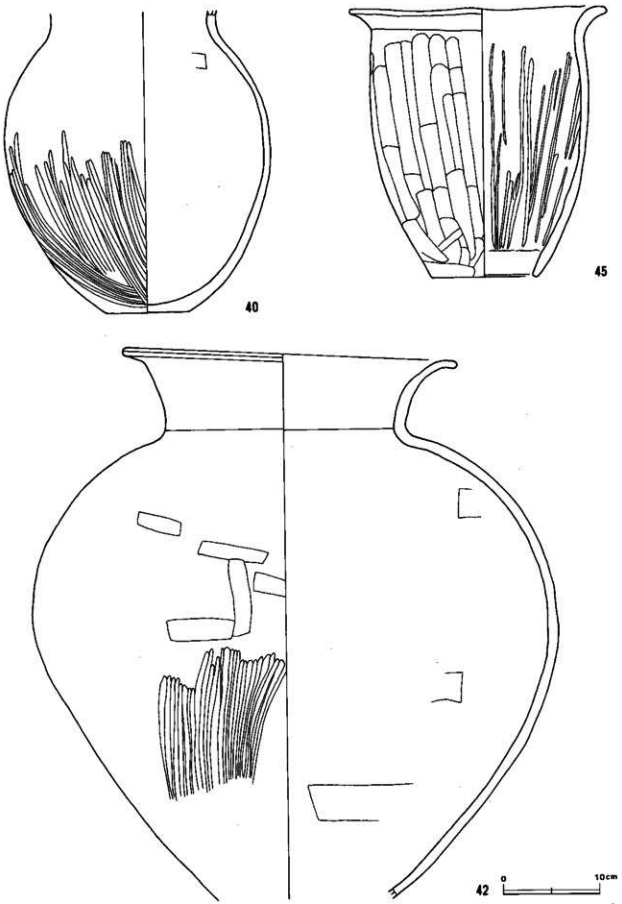
第332図　第888号住居跡出土遺物実測図（2）



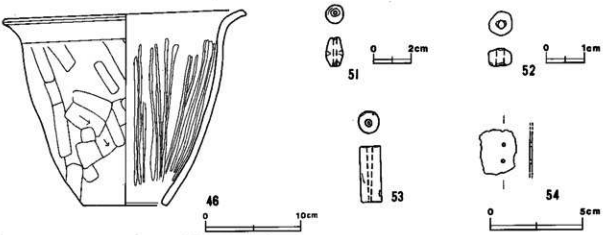
第333図　第888号住居跡出土遺物実測図（3）



第334図　第888号住居跡出土遺物実測図（4）



第335図　第888号住居跡出土遺物実測図（５）



第336図　第888号住居跡出土遺物実測図（6）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第331図 7	坏 土師器	A 13.6 B 4.6	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒 にぶい橙色 普通	P 112190　90% PL 94 北部覆土下層
8	坏 土師器	A 13.6 B 5.0	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内面ナデ内・外面黒色処理。	砂粒・長石・雲 にぶい橙色 普通	P 112191　80% PL 94 中央部床面
9	坏 土師器	A 14.3 B 4.1	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P 112194　70% PL 94 北部壁寄り覆土下層
10	坏 土師器	A 13.6 B 3.4	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境にわずかに稜をもつ。口縁部はやや外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	P 112196　70% PL 94 中央部覆土下層
11	坏 土師器	A [14.0] B 4.0	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面放射状のヘラ磨き。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	P 112198　50% PL 94 東部覆土下層
12	坏 土師器	A 13.2 B 5.1	完形。丸底。体部とは内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部はやや内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削りの後，ナデ。内面横ナデ。	砂粒・長石・石英 橙色 普通	P 112200　100% PL 94 北東部床面
13	坏 土師器	A 12.4 B 3.8	口縁部・一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部はやや内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P 112201　95% 北東部床面
14	坏 土師器	A 12.0 B 3.6	口縁部・体部・一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面横ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P 112202　90% 北部壁寄り床面
15	坏 土師器	A 10.2 B 6.4 C 5.8	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内面横ナデ後，ヘラ磨き。	砂粒・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P 112203　95% PL 94　中央部や や西寄り覆土上層
16	坏 土師器	A 13.4 B 4.0	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部はやや内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内面ナデ。	砂粒・雲母・石英・細礫 褐灰色　普通	P 112204　95% 北部中央覆土下層
17	坏 土師器	A 13.8 B 4.5	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・赤色粒子 にぶい橙色 普通 二次焼成	P 112207　70% PL 94 中央部やや西寄り の覆土下層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第331図 18	坏 土師器	A 12.8 B 4.0	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内弯気味に立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部はやや内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面横ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 灰褐色 普通	P112208 70% PL94 北部中央覆土中層，北西部覆土中層
19	坏 土師器	A 17.8 B (9.0)	口縁部・体部一部欠損。大形。丸底。体部はわずかに内弯して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部下位ヘラ削り。体部外面ヘラナデ。内面上位横ナデ。内面ヘラナデ。底部ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P112237 40% PL94 北部中央覆土下層
20	高坏 土師器	A 13.2 B 8.3 D 11.4 E 4.4	裾部一部欠損。脚部は短く，内弯し「八」の字状に開く。坏部は内弯して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は大きく外反する。	口縁部内・外面，体部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。脚部外面ヘラ磨き。内面ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・石英 にぶい橙色 普通	P112213 90% PL94 北部床面
21	高坏 土師器	A 14.5 B 10.9 D 10.2	口縁部・体部・裾部一部欠損。脚部はラッパ状に開く。坏部はやや内弯して立ち上がり，口縁部にいたる。口縁部はやや外反する。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部・坏部内面ヘラ磨き。坏部外面ヘラ削り。脚部外面ヘラ削り後，ナデ。裾部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P112214 70% 北西部床面
22	高坏 土師器	A 21.4 B 18.4 D 15.0	口縁部・体部・裾部一部欠損。脚部はラッパ状に開く。坏部はやや内弯して立ち上がり，口縁部との境にわずかに稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部，体部内面丁寧なヘラ磨き。口縁部外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ。裾部内・外面横ナデ。内面黒色処理，外面赤彩。	砂粒・長石・赤色粒子 赤色 普通	P112215 70% PL94 南東部床面
23	高坏 土師器	A [15.0] B (6.2)	脚部から口縁部にかけての破片。体部は内弯気味に立ち上がり，口縁部にいたる。口縁部はやや外反する。	口縁部外面横ナデ。口縁部・坏部内面ヘラ磨き。坏部外面ヘラ削り。坏部内・外面赤彩。	砂粒・石英 にぶい赤褐色 普通	P112216 40% 中央部覆土中層
24	高坏 土師器	B (7.4) D 11.0	脚部片。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面ヘラ削り後，ナデ。裾部内・外面横ナデ。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P112217 40% 北部覆土中層
第332図 25	高坏 土師器	B (6.0) D 10.5	坏部底部から脚部にかけての破片。脚部はラッパ状に開く。	坏部内面ヘラ磨き。脚部外面ヘラ削り後，ナデ。裾部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・小石 灰黄褐色 普通	P112218 40% 北部床面
26	甕 土師器	A [9.8] B 14.0 C 6.9	口縁部一部欠損。平底。体部は内弯して立ち上がり，中位に最大径をもつ。頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。底部ヘラ削り。	砂粒・長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P112219 95% PL94 北西部覆土下層
27	甕 土師器	A 25.1 B 32.8 C 8.2	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は内弯気味に立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は大きく外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ。中位から下位縦位の，ヘラ磨き。内面ナデ。底部ヘラ削り後，ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 にぶい橙色　普通	P112220 95% PL95 北西部床面
第334図 28	甕 土師器	A 19.2 B 8.8 C 29.7	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は内弯して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は大きく外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ。中位から下位ヘラ磨き。内面ヘラナデ。体部内・外面輪積み痕。底部ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色　普通	P112221 95% PL94 北西部覆土中層
第335図 29	甕 土師器	A 15.6 B 25.3 C 7.8	体部下端一部欠損。平底。体部は内弯気味に立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面縦位のヘラナデ。	砂粒・長石・白色粒子 明赤褐色　普通	P112222 95% PL95 中央部床面
30	甕 土師器	A 18.0 B (22.9)	口縁部・体部一部欠損。底部決損。体部は内弯して立ち上がり，中位で最大径をもつ。頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P112223 90% PL95 北西部覆土下層
31	甕 土師器	A 15.9 B 15.7 C 6.5	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は内弯して立ち上がり，口縁部はやや外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位，縦位のヘラ削り後，ナデ。中位から下位，縦位のヘラ削り後，ナデ。内面ヘラナデ後，放射状のヘラ磨き。	砂粒・雲母・長石・石英・赤褐色 にぶい褐色 普通	P112224 80% PL95 中央部床面
32	甕 土師器	A 15.7 B 16.5 C 7.2	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は内弯して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英 橙色 普通	P112225 90% PL95 南東部床面
第333図 33	甕 土師器	A 14.3 B 14.2	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内弯して立ち上がり，中位で最大径をもつ。頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 橙色 普通	P112226 90% 北西部覆土下層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第334図 34	甕 土師器	A 22.3 B 32.4 C 6.8	体部一部欠損。体部は内弯して立ち上がり，中位には最大径をもつ。頸部でくびれ，口縁部は大きく外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。内面ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P 112227 90% 北東部覆土下層
第333図 35	甕 土師器	A 16.3 B 18.2 C 6.7	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は内弯して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 橙色 普通	P 112228 80% 北東部床面
第334図 36	甕 土師器	A 20.0 B (22.7)	体部下端・底部欠損。体部は内弯して立ち上がり，中位に最大径をもつ。頸部でくびれ，口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内面ヘラナデ。体部内・外面輪積み痕。	砂粒・長石・石英・雲母 赤色粒子 橙色　普通	P 112229 80% PL 95 西部覆土下層
37	甕 土師器	A 21.7 B (28.2)	口縁部・体部一部欠損。底部欠損。体部は縦長の球形を呈し，頸部はゆるやかにくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部外面ヘラナデ後，ヘラ磨き。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母 赤色 普通	P 112230 70% PL 95 中央部床面
第333図 38	甕 土師器	A 16.3 B 20.6 C [8.1]	体部一部・底部欠損。体部は内弯気味に立ち上がり，頸部でくびれ口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい赤褐色　普通	P 112231 70% 北部覆土下層
39	甕 土師器	A [16.0] B (16.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内弯して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面横位のヘラナデ。	砂粒・長石・石英 明赤褐色 普通	P 112232 40% 北西部床面
第335図 40	甕 土師器	B (31.2) C 8.7	体部から口縁部にかけての破片。無底式。体部は内弯気味に立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位から中位，縦位のヘラ削り。下位ヘラ削り。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母 にぶい黄褐色 普通	P 112233 70% 北部覆土下層 中央部覆土中層
第333図 41	甕 土師器	B (19.8) C 7.0	口縁部欠損。体部一部欠損。体部は内弯して立ち上がる。	体部内・外面ヘラナデ。体部下端ヘラ削り後ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母粒子 赤色 普通	P 112234 70% 北部覆土下層
第335図 42	甕 土師器	A 33.4 B (55.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内弯して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・礫 にぶい赤褐色 普通	P 112235 60% PL 96 東部床面
第333図 43	鉢 土師器	A [14.0] B (6.9)	体部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内弯して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面横ナデ後，放射状のヘラ磨き。内・外面黒色処理。体部内・外面輪積み痕。	砂粒・長石・黒色粒子 にぶい橙色 普通	P 112236 30% PL 95 北部中央覆土下層
44	鉢 土師器	A 14.3 B 12.5 C 6.0	体部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内弯して立ち上がり，口縁部にいたる。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。体部外面輪積み痕。	砂粒・長石・礫 にぶい黄橙色 普通	P 112238 90% PL 96 中央やや西寄り覆土中層
第335図
45 | 甑
土師器 | A 26.1
B 28.1
C 11.0 | 完形。無底式。体部は外傾して立ち上がり，上位でやや内弯する。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ後，ヘラ磨き。輪積み痕。 | 砂粒・長石・石英・礫
赤色粒子
にぶい黄橙色　普通 | P 112239 100%
PL 96
北部樹脂床面 |
第336図
46 | 甑
土師器 | A 24.9
B 20.5
C 8.6 | 体部一部欠損。無底式。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ後，縦位のヘラ磨き。 | 砂粒・雲母・石英・赤色粒子
にぶい黄橙色　普通 | P 112240 95%
PL 95
北西部覆土中層 |
第334図
47 | 甑
土師器 | A 16.8
B 17.9
C 5.9 | 口縁部・体部一部欠損。無底式。体部は内弯気味に立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位から中位，縦位のヘラ削り。下位ヘラ削り。内面横位のヘラナデ。 | 砂粒・長石
にぶい黄橙色
普通 | P 112241 90%
PL 96
中央部床面直上 |
48 | 甑
土師器 | A 19.1
B 17.9
C 6.6 | 口縁部一部欠損。無底式。体部は内弯気味に立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ後，縦位のヘラ磨き。 | 砂粒・雲母・長石・礫・にぶい橙色
普通 | P 112242 95%
PL 96　北西コーナー部覆土下層 |
第333図
49 | ミニチュア土器
土師器 | A 5.1
B 5.1
C 4.2 | 底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は外傾して立ち上がり，頸部は「く」の字状に屈曲して口縁部にいたる。口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。 | 砂粒・雲母
褐灰色
普通 | P 112243 80%
PL 95
中央部床面 |

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第333図 50	長頸取 須恵器	B 7.6	体部・口縁部一部欠損。体部は内彎して立ち上がる。頸部は外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。体部中位に2条の沈線と櫛描文。	砂粒 灰色 普通	P 112244 30% PL 95 東部床面

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第336図51	土玉	0.9	1.5	0.9	1.15	北西部床面土師器甕内	DP 112011 PL 105
52	白玉	0.6	0.4	0.2	0.17	北西コーナー部覆土中層	DP 112012 PL 105

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第336図53	管玉	1.1	3.0	0.3	7.91	碧玉	北西部覆土下層	Q 112009 PL 105

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第336図54	不明銅製品	(1.9)	(2.4)	0.15	(2.64)	覆土中	M 112014 PL 110

第889号住居跡（第337図）

位置　調査11区の東部，G13h2区。

重複関係　北東部を第849号住居に，南東部を第890号住居にそれぞれ掘り込まれている。

規模と平面形　長軸5.20m，短軸5.00mの長方形である。

主軸方向　N－17°－W

壁　壁高は38cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　第849・890号住居跡と重複している部分は確認できなかったが，それ以外は巡っており，全周していたと推定される。上幅12～34cm，下幅3～8cm，深さ約8cmで，断面はU字形である。

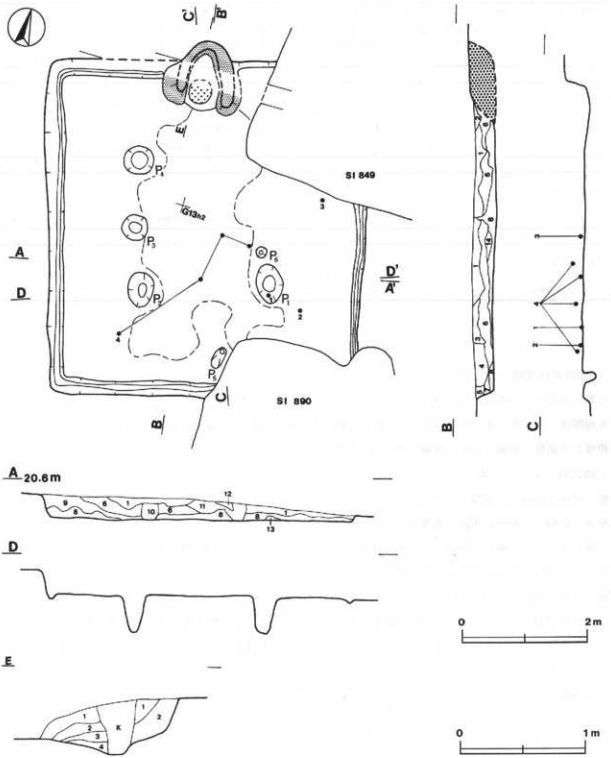
床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外に30cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで110cm，両袖部幅110cmである。中央部が攪乱を受けているが，第4層が焼土中ブロック・焼土粒子を多量に含んでおり，その下面は床面から最大で約18cmほど掘りくぼめられ赤変していることから，火床面と考えられる。煙道は火床部から急な傾斜で立ち上がる。

覆土層解説
1　灰褐色　砂粒中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
2　にぶい赤褐色　砂粒多量，粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土中ブロック・炭化粒子中量
4　にぶい赤褐色　焼土中ブロック・粒子多量

ピット　6か所。（P1～P6）。各コーナー寄りに位置する。P1・P2・P4は上端径40～46cm，下端径14～24cmのほぼ円形で，深さ45～60cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際中央に位置するP5は，上端が長径36cm，短径16cmの楕円形で，下端が径6cmの円形，深さは22cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。西壁中央から中央部寄りのP2・P4の中間に位置するP3は，上端径40cm，下端径22cmの円形で，深さ18cmである。規模と配置から補助柱穴と考えられる。P1から約10cmほど北で確認されたP6は径約15cmの円形で，深さ15cmで，性格は不明である。

覆土　14層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

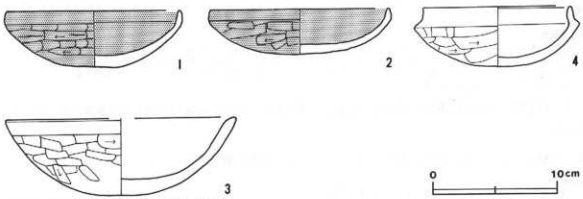


第337図　第889号住居跡実測図

土層解説
1　暗褐色　ローム大・中ブロック・粒子少量
2　黒　色　ローム粒子少量
3　黒褐色　ローム大ブロック少量
4　黒　色　ローム小ブロック・粒子少量
5　黒褐色　ローム中ブロック少量
6　褐　色　ローム中ブロック中量，ローム大ブロック少量
7　黒　色　ローム粒子少量
8　褐　色　ローム大ブロック中量，ローム中ブロック少量
9　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム大・中ブロック少量
10　褐　色　ローム中ブロック中量，ローム大ブロック少量
11　黒褐色　ローム中ブロック少量
12　灰褐色　ローム粒子中量
13　暗褐色　ローム中ブロック少量
14　褐　色　ローム大・中ブロック少量

遺物　土師器片310点，須恵器片10点，鉄滓９点が出土している。第338図１・２の土師器坏は南東部床面から，３の土師器坏は東部の覆土下層から出土している。４の土師器坏は，中央部及び南部の覆土上層から出土した破片が接合したものである。鉄滓が覆土中から出土しているが，鍛冶炉などは確認されなかった。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して６世紀後葉と考えられる。



第338図　第889号住居跡出土遺物実測図

第889号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第338図 1	坏 土師器	A　13.8 B　4.5	完形。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。口縁部はやや内径する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P112245　100% PL97 南東部床面
2	坏 土師器	A　14.3 B　3.6	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部ヘラ削り後，ナデ。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・赤色粒子 橙色 普通	P112246　70% PL97 南東部床面
3	坏 土師器	A　[18.2] B　5.2	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部ヘラ削り後，ナデ。内面ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P112247　60% 東部覆土下層
4	坏 土師器	A　11.6 B　4.8	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部ヘラ削り後，ナデ。内面横ナデ。	砂粒・長石 にぶい赤褐色 普通	P112248　60% PL97　中央部覆土上層，南部覆土中層

第890号住居跡（第340図）

位置　調査11区の東部，G13h2区。

重複関係　北西部で第889号住居跡を，中央部から南東部で第906号住居跡をそれぞれ掘り込み，北東部を第45号溝に，東部を第35号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　第35・45号溝に掘り込まれているため，平面形は確認できなかった。確認できた規模は，南北［4.60］m，東西（2.40）mである。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は約30cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　西部の壁下で一部巡っているのが確認できた。上幅16～30cm，下幅4～10cmである。

床　ほぼ平坦であり，中央部から竈にかけて踏み固められている。

竈　北壁中央を壁外に30cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。東袖の一部が第45号溝と重複しているため確認できなかったが，規模は，焚口部から煙道部まで80cm，両袖部幅は推定で100cmである。第3・6層は焼土粒子を多量，焼土大ブロックも中量含まれ赤変しており，上面が火床面と考えられる。煙道は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

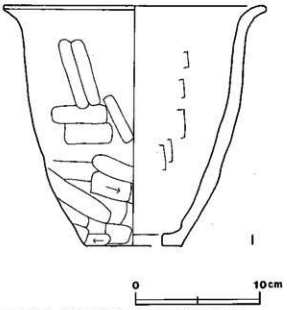
1　明赤褐色　焼土粒子・粘土粒子中量
2　赤　灰　色　粘土粒子中量，焼土中ブロック少量
3　赤　褐　色　焼土粒子多量，焼土大・中ブロック少量
4　暗赤灰色　ローム粒子・焼土粒子少量
5　灰　赤　色　焼土中ブロック・粘土粒子少量
6　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，焼土大ブロック中量
7　暗　褐　色　ローム中ブロック・粒子少量

ピット　南壁際の中央に位置し，径34cmの円形で，深さ10cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　5層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

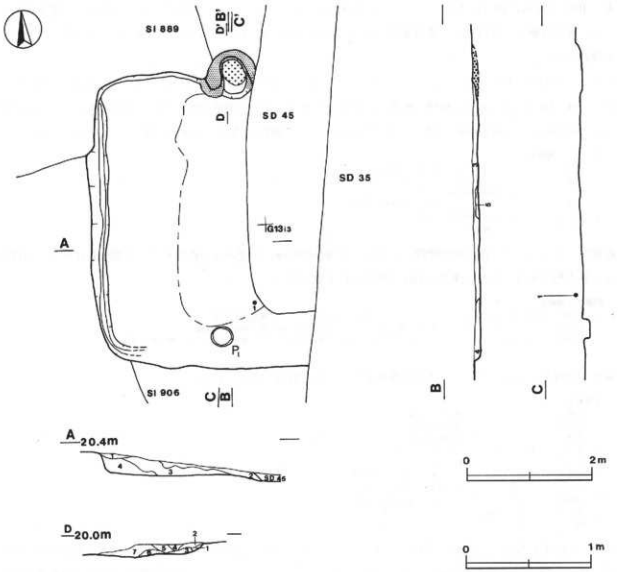
1　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
2　黒褐色　ローム中・小ブロック少量
3　暗褐色　ローム大・中ブロック少量
4　暗褐色　ローム大・小ブロック少量
5　黒　色　ローム小ブロック・粒子少量



第339図　第890号住居跡出土遺物実測図

遺物　土師器片179点，須恵器片4点が出土している。第339図1の土師器甕は，南部の第45号溝際の覆土中層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して7世紀前葉と考えられる。



第340図　第890号住居跡実測図

第890号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第339図 1	甕 土師器	A 20.8 B 19.2 C 7.6	体部から口縁部にかけての破片。平孔式。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位から中位ナデ。下位ヘラ削り。内面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英にぶい橙色普通	P 112249　40% PL97　南部第45号溝際覆土中層

第891号住居跡（第341図）

位置　調査11区の東部，H13a2区。

重複関係　北部を第892号住居に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸5.70m，短軸5.60mの方形である。

主軸方向　N－10°－W

壁　壁高は6～30cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　全周している。上幅12～20cm，下幅4～10cm，深さ約4cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，中央部を中心に踏み固められている。

竈　第892号住居に掘り込まれているため遺存状態はあまり良くないが，北壁中央部に砂質粘土で構築されている。推定規模は，焚口部から煙道部まで80cm，両袖部幅80cmである。竈中央部に焼土粒子及び焼土ブロックが確認された。

ピット　5か所（P1～P5）。各コーナー部寄りに位置するP1～P4は上端径64～74cm，下端径10～14cmの円形で，深さ60～82cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁中央からやや中央部寄りに位置するP5は上端径68cm，下端径16cmの円形で，深さ27cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P1～P5土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック中量，炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
3　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
5　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
6　褐　色　ローム粒子中量

貯蔵穴　北東コーナー部の中間壁際に位置し，上端長径84cm，短径70cmの楕円形で，下端は長径36cm，短径28cmの長方形である。また，深さは53cmで断面はU字形である。

貯蔵穴土層解説
1　暗褐色　焼土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量

覆土　10層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

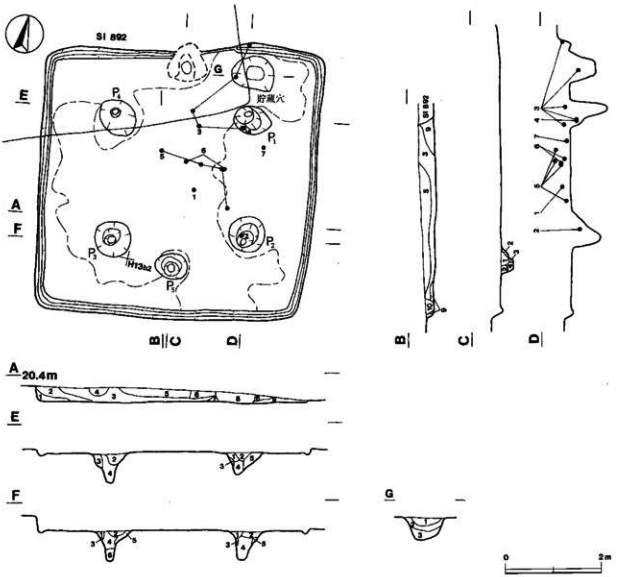
土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム中ブロック・炭化粒子少量
3　黒褐色　ローム小ブロック・炭化粒子中量，ローム中ブロック少量
4　黒褐色　炭化粒子中量，ローム中ブロック少量
5　褐　色　ローム中ブロック・粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
6　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
7　褐　色　ローム小ブロック・粒子中量，炭化粒子少量
8　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
9　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
10　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

遺物　土師器片468点，須恵器片23点，石製品1点（有孔円板）が出土している。第342図1の土師器坏は中央部の覆土上層から，2の土師器坏はP2の覆土中層から出土している。3の土師器甕は，中央部の北寄りから北東部にかけての覆土上層から下層にかけて出土した破片同士が接合したものである。4の土師器甕は，中央部やや北東寄りの覆土下層から出土している。5の土師器甕と6の土師器甑は，中央部の覆土上層から下層にかけて出土した破片が接合したものである。7の土師器甑は，東部中央やや北寄りの覆土下層から出土している。8の有孔円板は，覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して6世紀前半と考えられる。

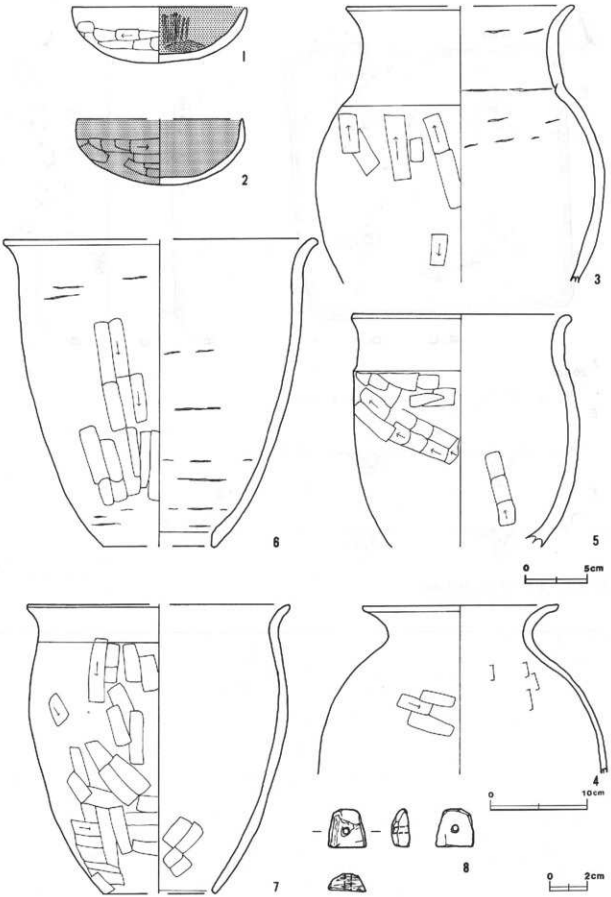
第891号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第342図 1	坏 土師器	A 13.8 B 4.4	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラ磨き。口縁部内・外面赤彩。	砂粒・長石・石英にぶい赤褐色 普通	P 112250　90% PL 97 中央部覆土上層
2	坏 土師器	A [13.2] B 5.2	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり口縁部にいたる。口縁部は直立する。	口縁部，内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P 112251　30% PL 97 南東部P2覆土中層



第341図　第891号住居跡実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第342図 3	甕 土師器	A [18.0] B (21.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内弯気味に立ち上がり，頸部はやや内傾し，口縁部は軽く外反する。	LI縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。内面ナデ。口縁部から体部内面輪積み痕。	砂粒・長石・石英 赤褐色 普通	P112252 30% 中央部から北東部にかけて 覆土上層から下層
4	甕 土師器	A 20.4 B (17.4)	体部中位から口縁部にかけての破片。体部は内弯して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は大きく外反する。	LI縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 普通	P112253 30% PL.97 中央部やや北東寄り覆土下層
5	甕 土師器	A 17.0 B (18.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内弯気味に立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラ磨き。内面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英 雲 にぶい赤褐色 普通	P112254 40% PL.97 中央部覆土上層から下層
6	甑 土師器	A [24.6] B 24.4 C 8.8	体部から口縁部にかけての破片。無底式。体部は内弯気味に立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。内面ヘラ磨き。体部内・外面輪積み痕。	砂粒・長石・石英 にぶい褐色 普通	P112255 40% PL.97 中央部覆土層 中央部覆土下層，覆土中
7	甑 土師器	A [27.1] B 30.1 C [11.6]	体部から口縁部にかけての破片。無底式。体部は内弯気味に立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部上位縦位のヘラ削り。中位から下位，ヘラ削り。内面上位から中位ヘラナデ。下位ヘラ削り。	砂粒・長石・石英 褐灰 にぶい褐色 普通	P112256 30% 東部中央からやや北寄りの覆土下層，覆土中



第342図　第891号住居跡出土遺物実測図

図版番号	種　別	計　測　値				石　質	出土地点	備　考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第342図8	有孔石製品	2.0	0.96	0.35	5.91	滑　石	覆土中	Q 112010　PL 107

第892号住居跡（第343図）

位置　調査11区の東部，G13j1区。

重複関係　南部で第891号住居跡を，南西部で第792号住居跡をそれぞれ掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸8.00m，短軸7.90mの方形である。

主軸方向　N－25°－W

壁　壁高は20～56cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　第891号住居跡と重複している南部は確認できなかったが，他は巡っている。上幅12～44cm，下幅6～12cm，深さ約6cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外に40cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで150cm，両袖部幅110cmである。天井部は崩落しており，第3層が粘土粒子を多量，砂粒を中量含んでおり，崩落土と考えられる。第8層は，焼土粒子・炭化粒子・灰が中量含まれて赤変していることから下面が火床面と考えられる。袖部内面は火熱を受けて赤変している。煙道は，火床部から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説
1　灰褐色　粘土粒子・砂粒中量，焼土小ブロック少量
2　暗赤褐色　ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
3　灰褐色　粘土粒子多量，砂粒中量，炭化粒子少量
4　暗赤褐色　焼土粒子・砂粒中量，炭化粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック微量
5　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子中量
6　赤黒色　炭化粒子多量，焼土粒子少量
7　灰褐色　灰多量，焼土小ブロック・粒子少量
8　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子・灰中量
9　暗褐色　ローム小ブロック・炭化物少量，ローム粒子・焼土小ブロック微量
10　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量

ピット　5か所（P1～P5）。P1～P4は上端径90～110cm，下端径20～40cmのほぼ円形で，深さ52～123cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁中央からやや中央部寄りに位置するP5は径30cmの円形で，深さ35cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P1・P4土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，ローム大・中・小ブロック微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック小量，焼土粒子・炭化物微量
3　褐　色　ローム大ブロック・中ブロック・粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
4　暗褐色　ローム小ブロック多量，ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
5　褐　色　ローム中・小ブロック・粒子少量
6　暗褐色　ローム小ブロック多量，ローム中ブロック・粒子中量，ローム大ブロック微量

P5土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
3　褐　色　ローム小ブロック・粒子少量

貯蔵穴　北東コーナー部と竈の中間で確認された。一辺約70cmの方形で，深さ53cmである。

貯蔵穴土層
1　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
3　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量

覆土　9層からなる。第9層から土器が多量に出土している。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

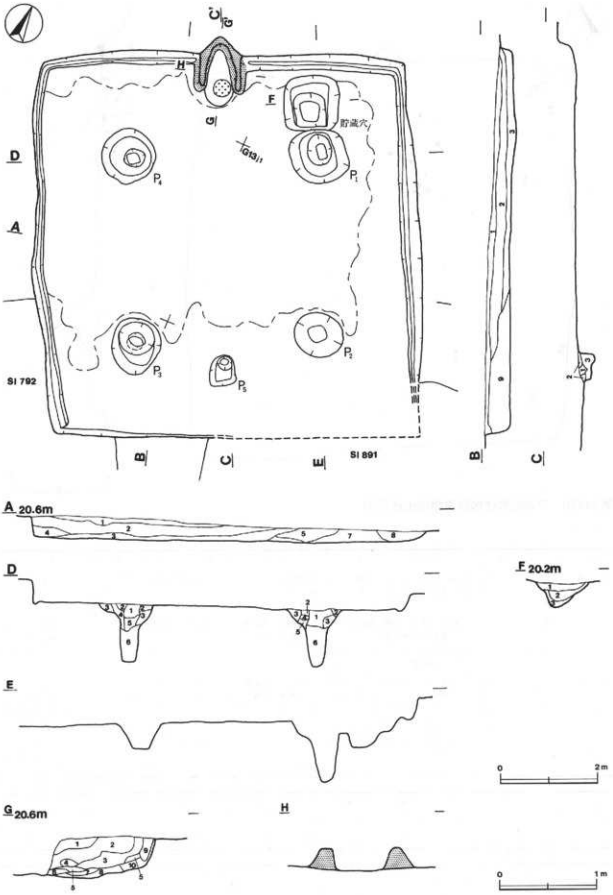
土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
3　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
5　黒褐色　ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
6　褐　色　ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
7　褐　色　ローム粒子中量，ローム中・小ブロック微量
8　暗褐色　ローム小ブロック・粒子少量
9　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子微量

遺物　土師器片1814点，須恵器片4点，石製品2点（勾玉，砥石）が出土している。第345・346図1の土師器坏は，中央部の覆土中層から出土している。2の土師器坏は，中央部の覆土下層から正位で出土している。3の土師器坏は，西部の覆土上層から出土した破片が接合したものである。4の土師器坏は，北東コーナー部北壁際の床面から出土した破片と北東部竈東袖部寄りの床面から出土した破片が接合したものである。5の土師器高坏は，北西コーナーと竈の間の北壁際の床面から逆位で出土している。6の土師器高坏は，北西部西壁際の覆土下層から正位で出土している。7の土師器甕は，中央部及び竈西袖寄りの覆土上層から下層にかけて出土した破片が接合したものである。8の土師器甕は，中央部からやや南西寄りの床面から出土したものである。9の土師器甕は，北部壁際の床面と覆土下層から出土した破片が接合したものである。10の土師器甕は，北部壁際の床面から正位で出土している。11の土師器ミニチュア土器は，北部中央寄りの覆土上層から正位で出土している。12の勾玉は西部中央壁際の床面直上から，13の砥石は南西コーナー部の床面から出土している。

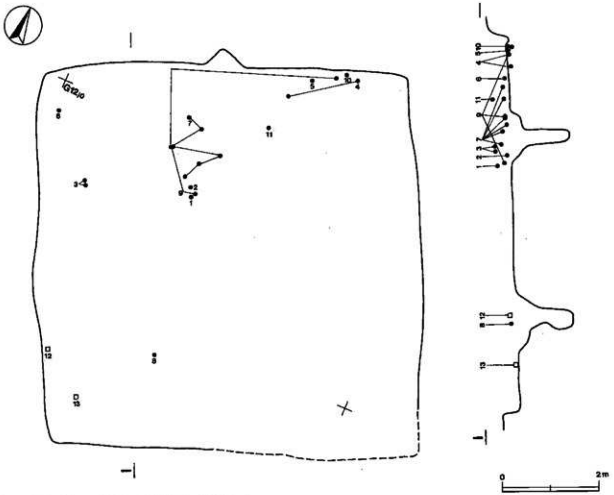
所見　本跡は床面から覆土下層にかけて多量の土器及び土器片が出土している。出土土器に大きな時期差は見られなかった。出土土器から判断して本跡の時期は6世紀後葉と考えられる。

第892号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第345図 1	坏 土師器	A 13.6 B 4.8	完全形。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境にわずかに稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・礫・赤色粒子 褐灰色　普通	P 112257　100% PL 97 中央部覆土中層
2	坏 土師器	A 12.0 B 4.2	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はとの境に稜をもつ。口縁部はやや外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P 112258　90% 中央部覆土下層
3	坏 土師器	A 13.7 B 4.3	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部，体部内・外面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P 112259　80% 西部覆土上層，覆土中
4	坏 土師器	A 20.6 B 7.3	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面横ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 褐色 普通	P 112260　90% PL97 北東コーナー部北壁際床面，北東部竈東袖寄床面
5	高　坏 土師器	A 15.6 B 7.9 D 11.1 E 3.0	脚部一部欠損。脚部はラッパ状に開く。坏部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は大きく外反する。	口縁部，坏部内面ヘラ磨き。口縁部外面横ナデ。坏部，脚部外面ヘラ削り。袖部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P 112261　90% PL97 北西コーナー部と竈の中間北壁際床面
6	高　坏 土師器	A 14.1 B 8.0 D 11.2 E 4.3	口縁部・坏部一部欠損。脚部はラッパ状に開く。坏部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・脚部外面ヘラ削り。体部内面ナデ。脚部内・外面横ナデ。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P 112262　80% PL 97 北西部西壁際の覆土下層
7	高　坏 土師器	A 21.5 B 35.6 C 9.0	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部でゆるやかにくびれ，口縁部でする。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ。体部下位ヘラ磨き。内面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P 112263　70% PL 98 中央部覆土上層から下層，覆土中



第343図　第892号住居跡実測図

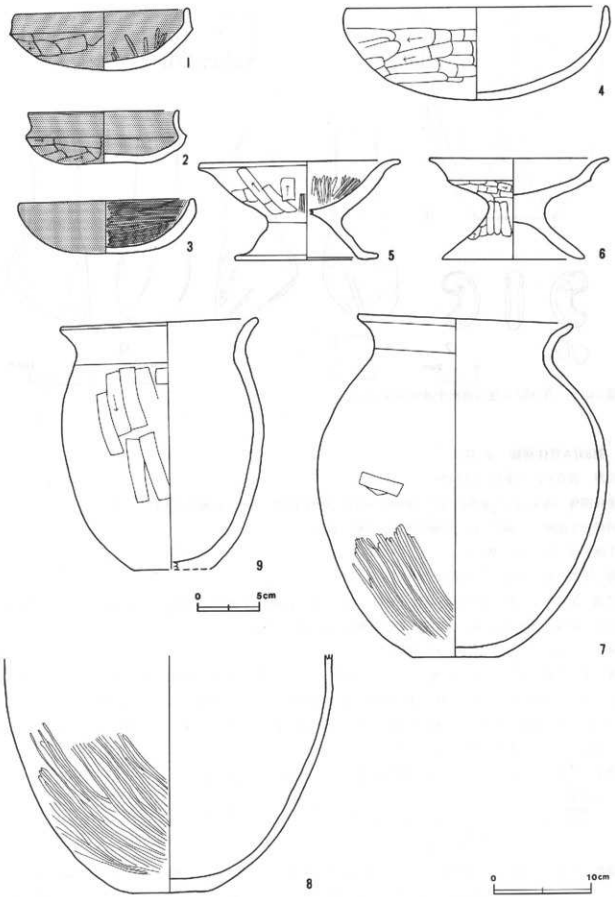


第344図　第892号住居跡遺物出土状況図

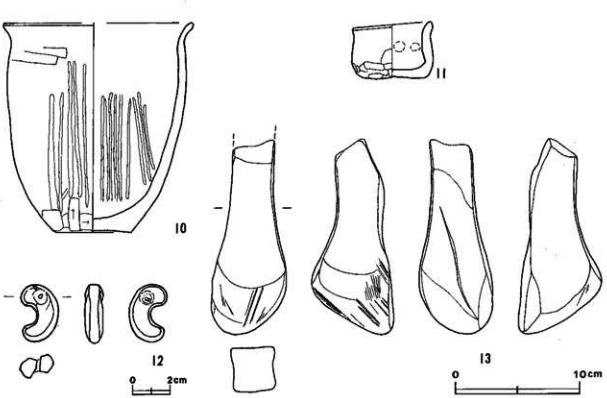
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第345図 8	甕 土師器	B (24.5) C 8.0	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面斜位のヘラ磨き。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色　普通	P112264　30% 中央部やや南西寄り床面
9	甕 土師器	A 15.5 B 19.9 C [6.4]	口縁部・体部・底部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，頸部でゆるやかにくびれ，口縁部はやや外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P112265　70% PL98 北東コーナー部と竈の中間北壁際床面，覆土中
第346図 10	甕 土師器	A [15.0] B 16.8 C 6.0	口縁部・体部一部欠損。平底。体部下位は外傾して立ち上がり，中位から上位にかけてやや内彎気味に立ち上がる。口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き。下端ヘラ削り。内面ヘラナデ後，ヘラ磨き。	砂粒・長石 にぶい赤褐色 普通	P112266　70% PL97　北東コーナー部と竈の中間北壁際床面
11	ミニチュア土器 土師器	A 6.1 B 4.5 C 5.0	体部完形。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はやや外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。体部内面指頭圧痕。	砂粒・雲母・長石・石英 明褐褐色　普通	P112267　100% PL97　北部中央寄り覆土上層

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第346図12	勾玉	3.1	2.0	0.99	0.4	8.11	滑石	西部中央壁際床面直上	Q112011　PL105

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第346図13	砥石	(15.6)	5.8	3.7	(615.9)	砂岩	南西コーナー部床面	Q112012　PL107



第345図　第892号住居跡出土遺物実測図（1）



第346図　第892号住居跡出土遺物実測図（2）

第897A号住居跡（第347図）

位置　調査11区の東部，G12j6区。

重複関係　中央部から北部にかけて第896・897B・898号住居にそれぞれ掘り込まれている。

規模と平面形　長軸5.73m，短軸5.71mの方形である。

主軸方向　N－10°－W

壁　壁高は32～40cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　第896・897B・第898号住居跡と重複している北・西部では確認できなかったが，他は巡っている。上幅16～30cm，下幅4～12cm，深さ約6cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

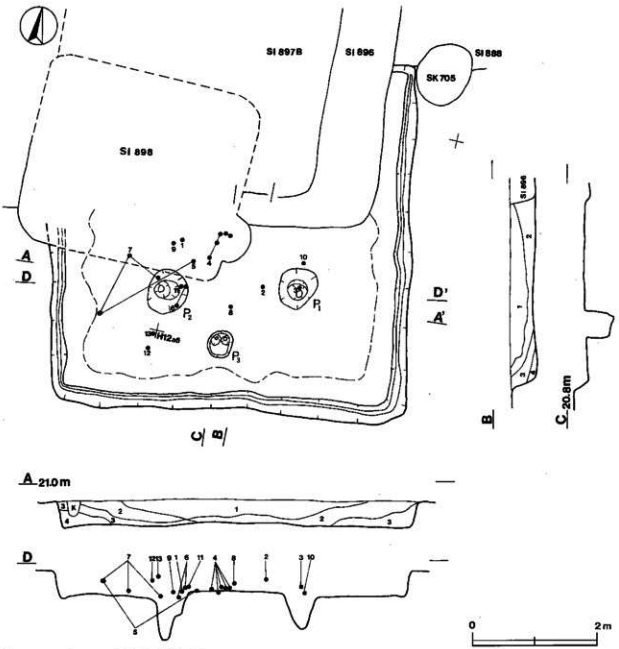
竈　竈が付設されていたものと考えられるが，遺存している部分においては確認できなかった。

ピット　3か所（P1～P3）。P1・P2はそれぞれ上端径60cm，62cm，下端径32cm，38cmの円形で，深さ58cm，78cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。P3は径40cmの円形で，深さはそれぞれ27cm，28cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　4層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物少量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
3　褐　色　ローム小ブロック多量
4　褐　色　ローム大ブロック・粒子中量

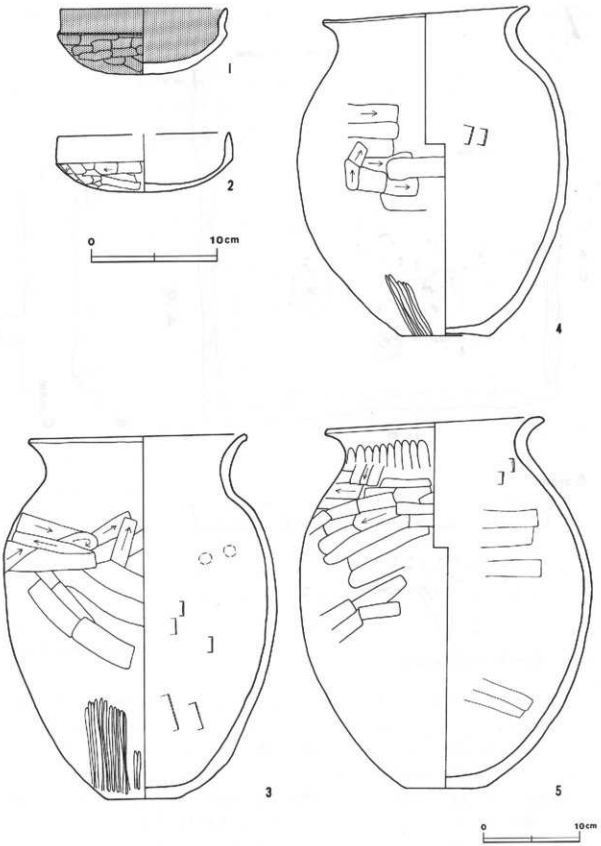
遺物　土師器片1609点，須恵器片51点，土製品12点（支脚片），鉄滓3点，石製品1点（臼玉），陶器片3点が出土している。第348～350図1の土師器坏は中央部の床面直上から斜位で，2の土師器坏は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。3の土師器甕は，中央部の床面直上から横位で出土している。4の土師器甕は，



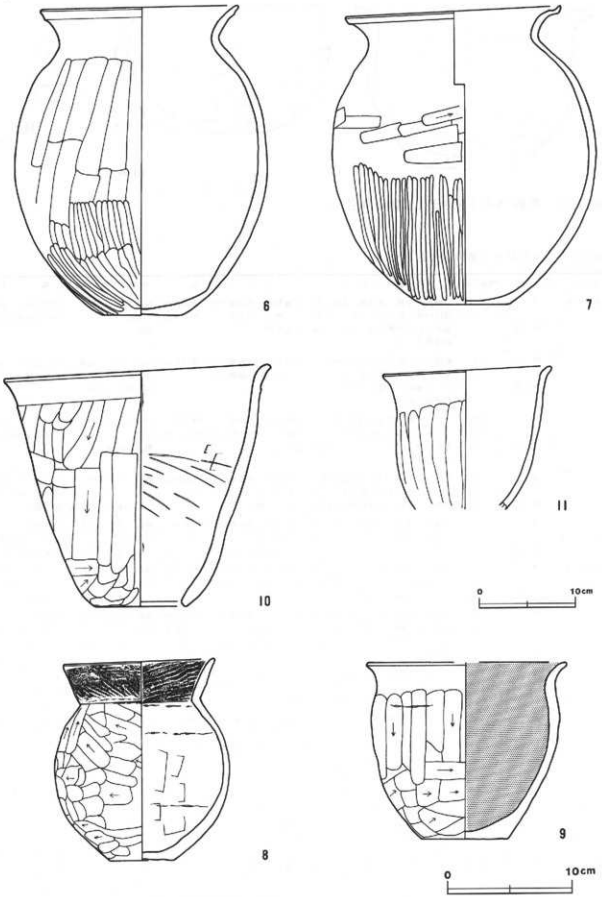
第347図　第897A号住居跡実測図

中央部の床面と床面直上及び覆土中から出土した破片が接合したものである。5の土師器甕は，西部の覆土中層から出土した破片と中央部床面から出土した破片が接合したものである。6の土師器甕は，中央部床面と覆土下層から出土した破片が接合したものである。7の土師器甕は，西部の覆土中層と下層から出土した破片と中央部床面から出土した破片がそれぞれ接合したものである。8の土師器甕は中央部の覆土下層から斜位で，9の土師器甕は中央部の床面から正位で，10の土師器甑は東部の床面から斜位で出土している。11の土師器甑は，中央部の覆土下層から出土している。12・13の土師器鉢は，南西部の覆土中層から正位と斜位でそれぞれ出土している。14の臼玉は覆土中から出土している。鉄滓3点が覆土中から出土しているが，鍛冶炉等は確認されていない。陶器細片は撹乱による混入と考えられる。また，南部床面から覆土下層にかけて土器片が多量に出土している。

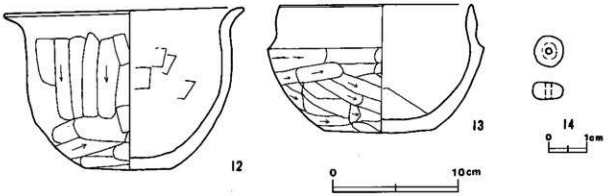
所見　本跡の時期は，出土土器から判断して6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。



第348図　第897A号住居跡出土遺物実測図（1）



第349図　第897A号住居跡出土遺物実測図（2）



第350図　第897A号住居跡出土遺物実測図（3）

第897A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第348図 1	坏 土師器	A 13.2 B 5.2	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒 灰褐色 普通	P112269　60% 中央部床面直上
2	坏 土師器	A [13.6] B 4.5	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面横ナデ。	砂粒・長石・石英・赤色粒子 明赤褐色　普通	P112270　40% 中央部覆土中層
3	甕 土師器	A 22.2 B 37.9 C 7.4	完形。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，上位に最大径をもつ。頸部でゆるやかにくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。底部ヘラ削り。指頭押圧。	砂粒・雲母・長石・石英 橙色　普通	P112271　100% 中央部床面直上
4	甕 土師器	A 21.0 B 35.5 C 9.0	体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，中位に最大径をもつ。頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位，横位のヘラナデ。中位から下位ヘラ磨き。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい赤褐色　普通	P112272　80% 中央部床面，中央部床面直上
5	甕 土師器	A 22.0 B 38.7 C 8.6	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，頸部でゆるやかにくびれ	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内面ヘラナデ。口縁部は外反する。	砂粒・長石・石英・赤色粒子 にぶい橙色　普通	P112273　70% P L 98　西部覆土中層，中央部床面
第349図 6	甕 土師器	A 20.1 B 32.3 C 8.0	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面，底部ヘラ磨き。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい赤褐色　普通	P112274　70% P L 98　中央部床面，中央部覆土下層
7	甕 土師器	A 22.2 B 31.0 C 9.0	口縁部・体部・底部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部でゆるやかにくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位から中位，ヘラナデ。下位縦位のヘラ磨き。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい橙色　普通	P112275　70% P L 98　西部覆土中層，西部覆土下層，中央部床面
8	甕 土師器	A 11.8 B 15.9 C 5.2	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，内頸の口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内面輪広のハケ目調整。外面幅広のハケ目調整後，横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 橙色　普通	P112276　95% P L 99 中央部覆土下層
9	甕 土師器	A [15.6] B 14.0 C 6.8	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面上位横ナデ。中位から下位ナデ。内面黒色処理。輪積み痕	砂粒・長石・石英・赤色粒子 にぶい褐色　普通	P112277　60% 中央部床面
10	甑 土師器	A 27.6 B 25.2 C 9.5	口縁部・体部一部欠損。無底式。体部は下位から中位にかけて外傾気味に立ち上がり，上位はやや内彎して口縁部にいたる。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。内面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英 にぶい橙色 普通	P112278　95% P L 98 東部床面
11	甑 土師器	A 17.5 B [14.8]	体部から口縁部は内彎気味に立ち上がり，口縁部部にかけての破片。体は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。内面ヘラナデ。	砂粒・長石・礫・赤色粒子 にぶい橙色　普通	P112279　50% P L 98 中央部覆土下層
第350図 12	鉢 土師器	A 19.0 B 12.9 C 7.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英・赤色粒子 にぶい橙色　普通	P112280　90% P L 99 南西部覆土中層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第350図 13	土師器 鉢	A 15.3 B 10.3 C 8.7	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 橙色 普通	P112281 95% P L98 南西部覆土中層

図版番号	種別	計測値 径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第350図14	臼玉	0.72	0.5	0.15	0.27	滑石	覆土中	Q112013 P L106

第900号住居跡（第351図）

位置 調査11区の東部，G12i7区。

重複関係 北部で第903号・888号住居跡を掘り込み，中央部から東部を第902A号・902B号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.90m，短軸4.78mの方形である。

主軸方向 N－32°－W

壁 壁高は37cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。上幅10～26cm，下幅4～10cm，深さ約6cmで，断面はU字形である。

床 ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

竈 北壁中央部に砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで100cm，両袖部幅100cmである。天井部は崩落しており，第4・5層は焼土小ブロック・粘土・砂粒を多量含んでいることから，被熱した天井部の崩落土と考えられる。第6層は色が微妙に異なる灰を多量に含んでおり，白色が強い灰や白色と灰色の中間色の灰，焼土を含んだ白色の灰がそれぞれ層を成しているのが確認できた。第7層は焼土小ブロックを多量に含み赤変していることから，火床部と考えられる。煙道は，火床部から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1 灰褐色 ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量
2 褐灰色 砂粒中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量
3 灰褐色 砂粒中量，焼土粒子・炭化物少量
4 にぶい赤褐色 砂粒多量，ローム小ブロック・焼土大ブロック・炭化物少量
5 赤褐色 焼土小ブロック多量，炭化物少量
6 明赤灰色 灰多量，焼土大ブロック少量
7 赤褐色 焼土小ブロック多量，炭化物少量
8 にぶい赤褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物少量
9 灰褐色 砂粒中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
10 灰褐色 ローム粒子多量，ローム大・中ブロック少量
11 灰褐色 粘土粒子中量，焼土粒子・炭化物少量
12 灰褐色 粘土粒子多量，焼土粒子・砂粒少量
13 灰褐色 粘土粒子多量，焼土粒子中量，砂粒少量

ピット 6か所（P1～P6）。P1～P4は各コーナー寄りに位置し，上端径26～36cm，下端径14～26cmの円形で，深さ36～58cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際中央に位置するP5・P6は径30cmで，深さはそれぞれ28cm，29cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

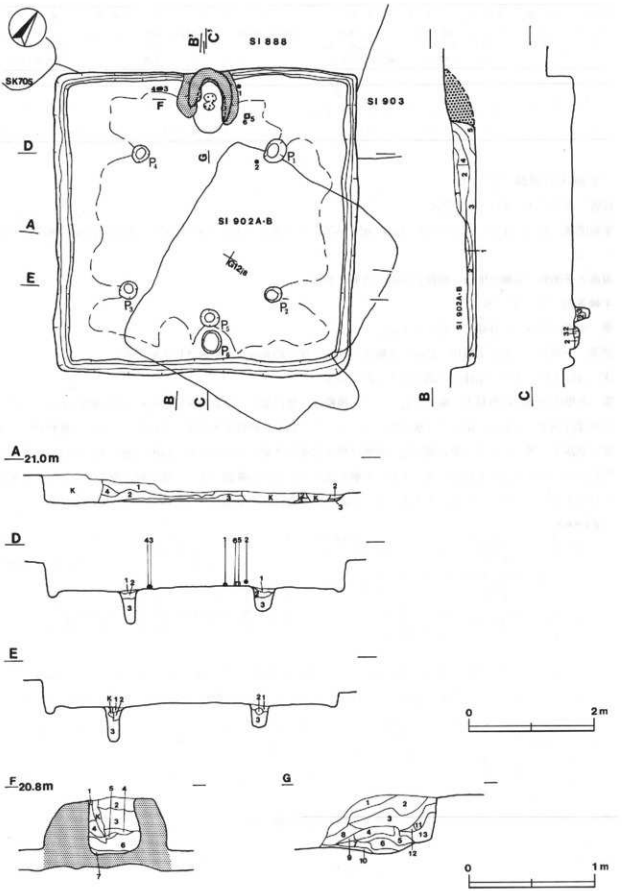
P1～P5土層解説

1 暗褐色 ローム粒子多量，ローム中ブロック・焼土粒子少量
2 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3 暗褐色 ローム粒子多量

覆土 5層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

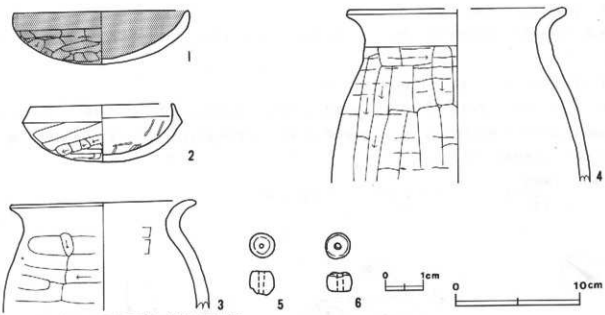
1 褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量
2 明褐色 ローム大ブロック多量，ローム中ブロック・炭化物少量
3 褐色 ローム大・中ブロック・粒子少量
4 褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
5 明褐色 ローム小ブロック中量



第351図　第900号住居跡実測図

遺物　土師器片121点，須恵器片13点，石製品１点（臼玉）が出土している。第352図１の土師器坏は北東部竈寄りの床面から正位で，２の土師器坏は中央部から北寄りの覆土下層から正位で出土している。３・４の土師器甕は，北西壁際から竈寄りの床面から出土している。５・６の臼玉は，東袖部付近の床面から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して６世紀後葉と考えられる。



第352図　第900号住居跡出土遺物実測図

第900号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第352図 1	坏 土師器	A 13.9 B 4.3	体部一部欠損。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ。内面ナデ。内・外面黒色処理。体部外面輪積み痕。	砂粒・雲母・赤色粒子にぶい橙色 普通	P112289 95% P L99 北東部竈袖部寄り床面
2	坏 土師器	A 11.4 B 4.6	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部にいたる。口縁部はやや内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・長石・石英にぶい赤褐色 普通	P112290 80% P L99 中央部北寄り覆土下層
3	甕 土師器	A 14.5 B (8.8)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英赤色粒子 赤色 普通	P112291 20% P L100 北西部壁際竈袖部寄り床面
4	甕 土師器	A [17.0] B (14.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，頸部でくびれ，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。内面横位のヘラナデ。体部外面輪積み痕。	砂粒・雲母・赤色粒子灰褐色 普通	P112292 20% P L99 北西部壁際竈袖部寄り床面

図版番号	種別	計測値 径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考	
第352図5	臼玉	0.6	0.6	0.16	0.28	滑石	東袖部付近の床面	Q112014	P L106
6	臼玉	0.65	0.49	0.15	0.24	滑石	東袖部付近の床面	Q112015	P L106

第903号住居跡（第353図）

位置　調査11区の東部，G12h8区。

重複関係　西部を第888号住居に南部を第900号住居に北東部を第709号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と平面形　長軸［4.54］m，短軸［4.28］mの長方形と推定される。

主軸方向　N－45°－E

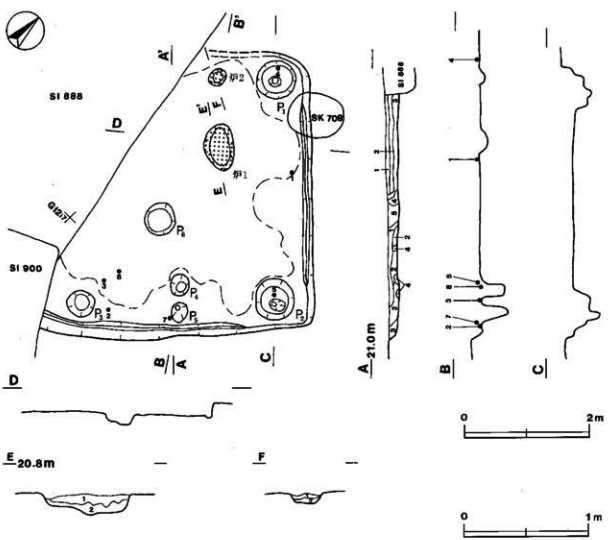
壁　壁高は14cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北東壁壁下と南東壁壁下を一部巡っている。上幅12～30cm，下幅4～8cm，深さ約4cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。

炉　2か所。炉1は北西壁の中央からやや中央部寄りに位置し，長径74cm，短径48cmの楕円形で，床面を約30cm掘りくぼめている地床炉である。炉2は北西壁際に位置し，径約16cmのほぼ円形で，床面を約16cmほど掘りくぼめている地床炉である。

炉1・2土層解説
1　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・粒子多量，褐土大ブロック・炭化粒子中量
2　にぶい赤褐色　ローム大ブロック・粒子多量



第353図　第903号住居跡実測図

ピット　6か所（P1～P6）。各コーナー際に位置するP1～P3は上端径38～68cm，下端径8～22cmの円形で，深さ27～48cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南西の壁際中央に位置するP4・P5は径30cm，36cmの円形で，深さ37cm，45cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。中央部に位置するP6は径54cmの円形で，深さ24cmである。性格は不明である。

覆土　5層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

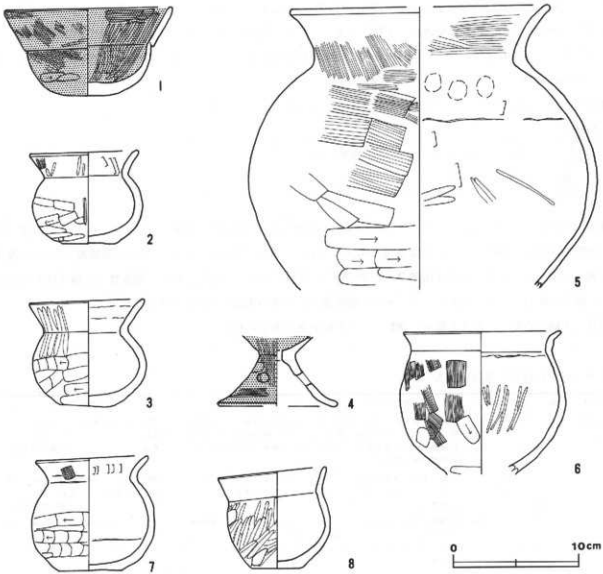
土層解説
1　褐　色　ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2　褐　色　ローム大ブロック中量，焼土小ブロック・炭化物・粘土小ブロック少量
3　暗褐色　ローム小ブロック中量
4　明褐色　ローム大ブロック多量
5　黒褐色　ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量

遺物　土師器片153点が出土している。第354図1の土師器坩は北東壁際の床面から正位で，2の土師器坩は南東壁際の床面から斜位で，3の土師器坩は南部の床面から横位で出土している。4の土師器器台は，P1覆土上層から出土している。5の土師器甕は，P2覆土上層から出土している。6の土師器甕は，覆土中から出土した破片が接合したものである。7・8の土師器甕は，南部の床面から斜位でそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して4世紀前葉と考えられる。

第903号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第354図 1	坩 土師器	A 13.5 B 7.1 C 3.2	口縁部一部欠損。平底。体部は内弱して立ち上がり，内面の体部と口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内弱気味に外傾する。	口縁部内・外面ハケ目調整後，ヘラ磨き。体部外面ハケ目調整。内面ヘラ磨き。内・外面赤彩。	砂粒・長石・赤色粒子 赤色 普通	P112298　95% P L100 北東壁際床面
2	坩 土師器	A 8.5 B 7.5 C 4.2	完形。平底。体部は内弱して立ち上がり，口縁部にいたる。口縁部は外傾する。	口縁部内面ヘラ削り後，横ナデ。外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P112299　100% P L100 南東壁際床面
3	坩 土師器	A 9.9 B 8.2 C 4.3	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は内弱して立ち上がり，内面の口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面ハケ目調整後，ヘラ磨き。体部外面下位ヘラ削り。上位ヘラ磨き。内面ナデ。口縁部内面輪積み痕。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	P112300　80% P L100 南部床面
4	器台 土師器	B（5.6） D［9.4］ E 4.1	脚部から器受部にかけての破片。器受部は内弱気味に立ち上がる。脚部はラッパ状に開く。上半に3穴。	器受部内・外面丁寧なヘラ磨き。脚部外面ヘラ磨き。内面ヘラナデ。器受内・外面，脚部外面赤彩。	砂粒・長石・石英 にぶい橙色 普通	P112301　10% P L100 P1覆土上層
5	甕 土師器	A［20.7］ B（22.8）	口縁部・体部一部欠損。底部欠損。体部は内弱して立ち上がり，中位に最大径をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面，体部内・外面ハケ目調整。	砂粒・長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P112302　70% P L99 P2覆土上層
6	甕 土師器	A 12.7 B（11.4）	体部一部欠損。体部は内弱して立ち上がり，中位に最大径をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ハケ目調整。内面ヘラ磨き。体部上位の輪積み痕。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	P112303　60% P L100 覆土中
7	甕 土師器	A 8.9 B 9.2 C 5.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内弱気味に立ち上がり，中位に最大径をもつ。口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ後，ハケ目調整。体部下位ヘラ削り。上位ヘラ削り後，ハケ目調整。内面ハケ目調整。体部内・外面口縁部輪積み痕。	砂粒・長石・石英 赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	P112304　95% P L100 南部床面
8	甕 土師器	A 8.6 B 8.2 C 4.1	体部一部欠損。平底。体部は内弱気味に立ち上がり，頸部で「く」の字状に屈曲し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面ハケ目調整。体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。内面ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい橙色 普通	P112305　80% P L100 南部床面



第354図　第903号住居跡出土遺物実測図

第904号住居跡（第355図）

位置　調査11区の東部，G12d0区。

重複関係　南部を第836号住居に，西部を第833号住居にそれぞれ掘り込まれている。

規模と平面形　長軸［4.40］m，短軸［4.20］mの方形と推定される。

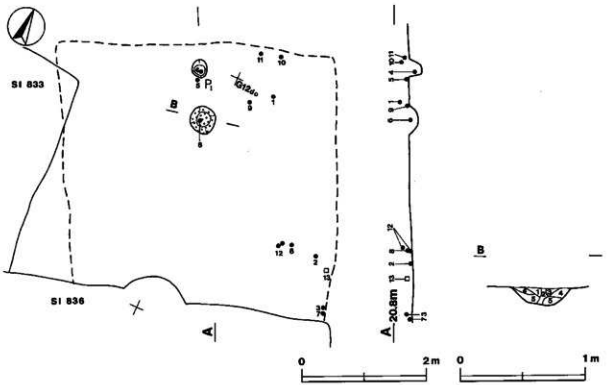
床　ほぼ平坦である。

炉　中央部やや北寄りに付設されている。径40cmの円形で，床面を約16cm掘りくぼめている地床炉である。

炉土層解説

1　赤　褐　色　焼土粒子多量，ローム粒子少量
2　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
3　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
4　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
5　褐　　色　ローム大ブロック多量，ローム粒子中量

ピット　北壁際中央に位置し，上端径30cm，下端径20cmの円形で，深さ20cmである。性格は不明であるが，覆土中層から土師器異形器台が横位で出土してる。



第355図　第904号住居跡実測図

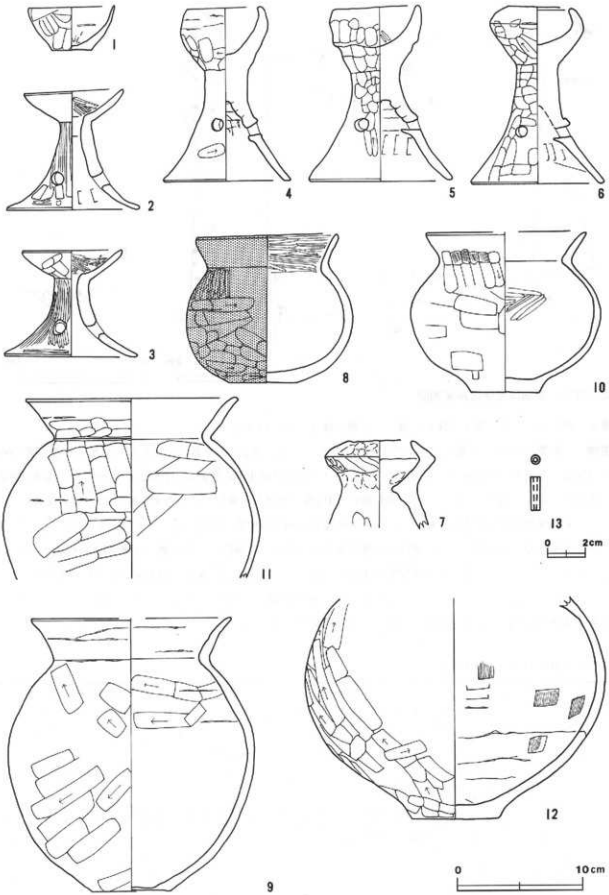
覆土　削平されており覆土は極めて薄く，土層は確認できなかった。

遺物　土師器片491点，石製品１点（管玉）が出土している。図示した土器はいずれも土師器である。第356図１の坏は，北東部の床面直上から出土している。２の器台は南東部の床面から斜位で，３の器台は南東部壁際の床面から逆位で出土している。４の異形器台はＰ1覆土中層から横位で，５の異形器台はＰ1際の床面から横位で，６の異形器台は炉内から横位で，７の異形器台は南東部壁際の床面からそれぞれ出土している。８の甕は南東部の床面から斜位で，９の甕は中央部北東寄りの床面から横位で，10の甕は北東壁際の床面直上から逆位で出土している。11の甕は北東部壁際の床面から出土している。12の甕は，南東部の床面及び床面直上から出土した破片が接合したものである。13の管玉は，南東部壁際の床面から出土したものである。

所見　本跡の時期は，出土土器から判断して４世紀前葉と考えられる。

第904号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第356図 1	坏 土師器	A 6.8 B 3.5 C 3.1	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にいたる。	口縁部内，外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	砂粒・長石 赤褐色 普通	P112306　95% P L 100 北東部床面直上
2	器台 土師器	A 7.8 B 9.5 D 10.6 E 7.0	器受部一部欠損。脚部はラッパ状に開き，中位に３孔を有する。器受部は内彎気味に立ち上がる。	器受部内・外面，脚部・裾部外面ヘラ磨き。裾部内面横ナデ。	砂粒・長石・赤色粒子 橙色 普通	P112307　95% P L 101 南東部床面
3	器台 土師器	A 7.7 B 8.4 D 10.4 E 5.1	器受部一部欠損。脚部はラッパ状に開き，中位に３孔を有する。器受部は内彎気味に立ち上がる。	器受部内・外面，脚部・裾部外面ヘラ磨き。裾部内面横ナデ。	砂粒雲母・長石・黒色粒子・赤色粒子 橙色 普通	P112308　50% P L 101 南東部壁際床面
4	異形器台 土師器	A 6.6 B 13.9 D 11.0 E 8.9	完形。脚部は直線的に「ハ」の字状に開き，中位に３孔を有する。器受部は外傾して立ち上がり，口縁部は大きく内彎する。	器受部内・外面ナデ。脚部外面ナデ。一部ヘラ削り。内面ヘラナデ。器受部外面指頭押圧。脚部内・坏部外面輪積み痕。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P112309　100% P L 101 P1覆土中層



第356図　第904号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第356図 5	異形器台 土師器	A 6.6 B 13.9 D 11.0 E 9.0	脚部一部欠損。脚部は直線的に「ハ」の字状に開き，中位に3孔を有する。器受部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はやや内傾する。	器受部内部ナデ。外面ナデ。一部ヘラ削り。脚部外面ナデ。内面ヘラナデ。器受部外面指頭押圧。脚部内面輪積み痕。	砂粒・長石・石英・赤色粒子 橙色 普通	P112310 90% P L101 P1 際床面
6	異形器台 土師器	A 4.9 B 14.1 D 10.6 E 9.3	脚部一部欠損。脚部は直線敵に「ハ」の字状に開き，中位に3孔を有する。器受部は厠の張った球形で，口縁端部は丸く納めている。	器受部内・外面ナデ。脚部外面ナデ。内面ヘラナデ。器受部外面輪積み痕。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P112311 70% P L101 炉内
7	異形器台 土師器	A 5.3 B (7.0)	脚部から口縁部にかけての破片。脚部は直線的に「ハ」の字状に開く。器受部は内彎気味に立ち上がり，内面が「く」の字状に屈曲し，口縁端部は丸く納めている。	器受部内・外面ナデ。外面一部ヘラ削り。脚部外面ナデ。一部ヘラ削り。器受部内・外面指頭押圧。	砂粒・長石・石英・赤色粒子 明褐色 普通	P112312 30% P L101 南東部壁際床面
8	壺 土師器	A 11.2 B 11.9 C 5.3	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，中位に最大径をもつ。頸部で「く」の字状に屈曲し，口縁部は外傾する。	口縁部・体部内面ヘラ磨き。体部内面一部ハケ目調整。口縁部外面ハケ目調整。体部外面ヘラナデ後，一部ヘラ磨き。体部下端に輪積み痕。外面赤彩。	砂粒・雲母・赤色粒子 明赤褐色 普通	P112313 95% P L100 南東部床面
9	壺 土師器	A [16.0] B 21.7 C 6.4	底部から口縁部にかけての破片。平底。底部突出気味。体部は内彎して立ち上がり，頸部で「く」の字状に屈曲し，口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ。口縁部内・外面，体部内面輪積み痕。	砂粒・長石・石英 鈍い赤褐色 普通	P112314 40% P L100 中央北東寄り床面
10	壺 土師器	A [12.6] B 12.7 C 5.4	底部から口縁部にかけての破片。平底。底部突出気味。体部は内彎して立ち上がり，頸部で「く」の字状に屈曲し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面ハケ目調整。体部外面ナデ。内面ヘラ磨き。底部木葉痕。	砂粒・長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P112315 30% P L100 北東部壁際床面
11	壺 土師器	A 17.0 B (14.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部で「く」の字状に屈曲し，口縁部はやや外反する。	体部外面中位ヘラナデ。下位ヘラ削り。内面ヘラナデ。口縁部・体部外面輪積み痕。	砂粒・長石・石英 赤色粒子 明赤褐色 普通	P112316 20% P L100 北東部壁際床面
12	壺 土師器	B (17.5) C 7.0	底部から体部にかけての破片。平底。底部突出気味。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面中位ヘラナデ。下位ヘラ削り。内面ヘラナデ。体部内面輪積み痕。	砂粒・雲母・石英・雁 赤色 普通	P112317 30% 南東部床面，南東部床面直上

図版番号	種別	計測値 径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第356図13	管玉	0.43	1.7	0.2	0.59	珪岩	南東部壁際床面	Q112016 P L105

第905号住居跡（第357図）

位置　調査11区の東部，G12g9区。

重複関係　西部を第841・844A号住居に，南部を第843号住居にそれぞれ掘り込まれている。

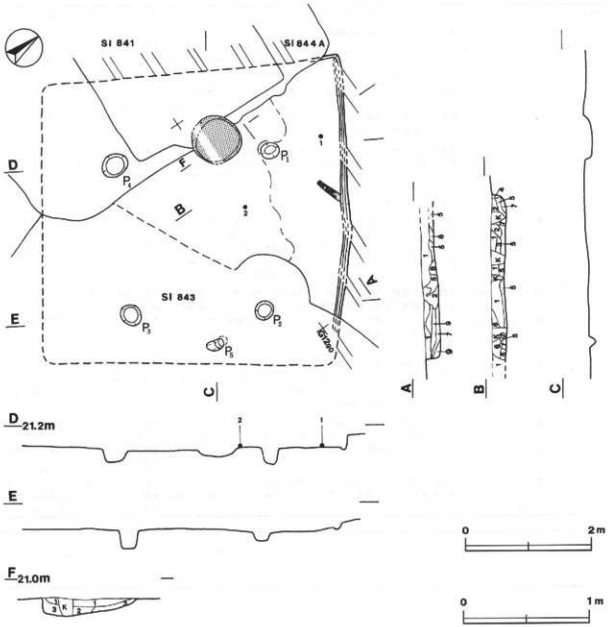
規模と平面形　長軸［4.95］m，短軸［4.65］mの方形と推定される。

壁　壁高は34cmで，外傾して立ち上がる。

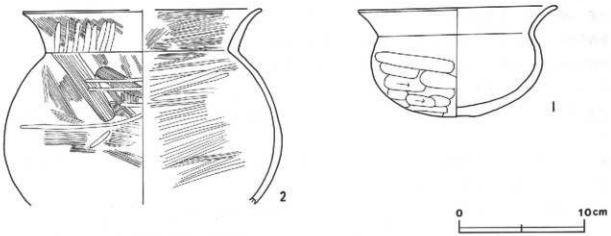
壁溝　北東部を巡っているのが確認された。上幅8～16cm，下幅2～6cm，深さ約4cmで，断面はU字形である。

床　トレンチャーによる攪乱を受けているが，ほぼ平坦であり，中央部が踏み固められている。北東壁際の床面から長さ18cm程の炭化材が1点横位で出土している。

炉　中央部からやや北西寄りに付設されている。中央から西部は第841号住居に掘り込まれている。推定径80cmの円形で，床面を28cmほど掘りくぼめている地床炉である。厚さ5cmの硬化した焼土が第1層で確認された。



第357図　第905号住居跡実測図



第358図　第905号住居跡出土遺物実測図

炉土層解説
1　明　褐　色　焼土大ブロック多量
2　にぶい赤褐色　焼土小ブロック中量，焼土粒子少量
3　にぶい褐色　ローム中ブロック多量

ピット　5か所（P1～P5）。各コーナー寄りに位置するP1～P4は，上端径28～38cm，下端径18～28cmの円形で，深さ17～29cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南東壁際中央に位置するP5は径16cmの円形で，深さ23cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　9層からなる。第5層に焼土粒子，第8層に炭化粒子が多量に含まれている。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム小ブロック・粒子多量
2　暗褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子多量，焼土小ブロック中量，ローム小ブロック少量
4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
5　赤褐色　焼土粒子多量，炭化材少量
6　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
7　褐　色　ローム大ブロック・粒子多量
8　暗赤褐色　炭化粒子多量，焼土粒子少量
9　暗褐色　ローム大ブロック・粒子中量，ローム小ブロック少量

遺物　土師器片48点が出土している。第358図1の土師器坩は，北東壁際の床面から出土している。2の土師器甕は，中央部の床面から出土している。

所見　本跡は床面から炭化材が出土しており，覆土にも焼土粒子・炭化粒子が多量含まれていることから焼失家屋と考えられる。時期は，出土土器から判断して4世紀前葉と考えられる。

第905号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第358図 1	坩 土師器	A 15.8 B 8.9 C 2.6	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は内弯して立ち上がる。頸部で「く」の字状に屈曲し，口縁部は外反する。	口縁部内弯・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り。上位ナデ。内面ハケ目調整。	砂粒・長石・石英 橙色 普通	P112318　90% PL101 北東部壁際床面
2	甕 土師器	A [18.8] B (15.6)	体部から口縁にかけての破片。体部は内弯して立ち上がり，中位に最大径をもつ。頸部で「く」の字状に屈曲し，口縁部は外反する。	口縁部内面・外面，体部外面ハケ目調整。内面ヘラ磨き。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P112319　30% PL101 中央部床面

第906号住居跡（第359図）

位置　調査11区の東部，G13i2区。

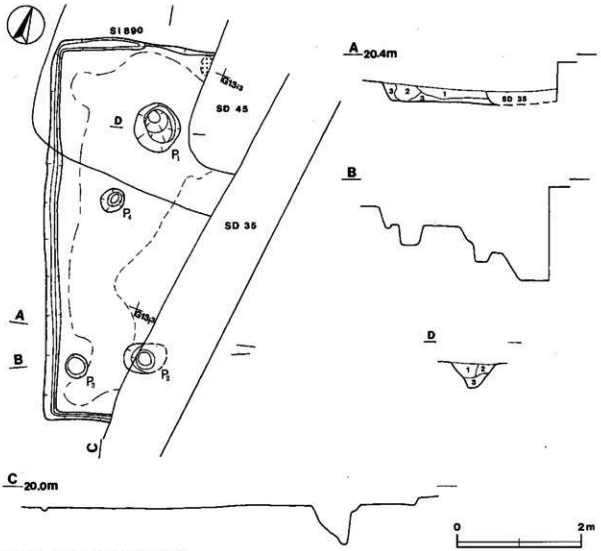
重複関係　北西部を第890号住居に，北東部を第45号溝に，さらに東部を第35号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　第890号住居と第35・45号溝に掘り込まれており，平面形は確認できなかった。規模は，南北6.08m，東西（2.60）mである。

壁　壁高は30cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　第35・45号溝と重複している部分以外は巡っているのが確認された。上幅10～26cm，下幅2～10cm，深さ約6cmで，断面はU字形である。

床　ほぼ平坦である。中央部が攪乱を受けているが，それ以外はほぼ踏み固められている。



第359図　第906号住居跡実測図

ピット　4か所（P1～P4）。各コーナー寄りに位置するP1・P2は上端径72cm，68cm，下端径20cmのほぼ円形で，深さ65cm，57cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南西コーナー際で確認されたP3や南西壁際の中央からやや中央部に位置するP4は，いずれも径36cmの円形で，深さはそれぞれ31cm，42cmである。性格は不明である。

P1土層解説
1　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　褐　色　ローム粒子中量
3　褐　色　ローム粒子多量，ローム大ブロック少量

覆土　3層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
3　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量

遺物　土師器片125点が出土している。細片のため図示できないが，坏片7点，高坏片2点が含まれている。

所見　本跡の時期は，7世紀前葉と考えられる第890号住居に掘り込まれていることや出土土器から判断して，6世紀後葉と考えられる。

茨城県教育財団文化財調査報告第166集

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ

熊の山遺跡
（上巻）

平成12（2000）年3月16日 印刷
平成12（2000）年3月21日 発行

発行　財団法人　茨城県教育財団
〒310－0911　水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL　029－225－6587

印刷　㈲平電子印刷所
〒970－8024　いわき市平北白土字西ノ内13
TEL　0246－23－9051